

下ノ坪遺跡Ⅱ

—農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う発掘調査報告書—

本文編

1998.3

高知県野市町教育委員会

下ノ坪遺跡Ⅱ

本文編



1998. 3

高知県野市町教育委員会

序

21世紀を目前に現代社会はめまぐるしく変化をしています。

太陽と水と緑の町野市町が、人口増加の一途をたどり発展し続いていることはよろこびしい限りです。

開発の発展に伴い発掘調査も行われてまいりました。農業農村活性化、農業構造改善事業上岡地区区画整備工事に伴う発掘調査の結果、下ノ坪において四仙駒獣八稜鏡やガラス小玉が出土し遺構でも官衙的な掘立柱建物跡等が発見され野市の歴史を解明するうえでも重要な資料が発見されました。

ここに下ノ坪遺跡Ⅱを野市町埋蔵文化財発掘調査報告書の第6集として発刊する運びとなりました。関係者各位に深甚なる敬意を申しあげ、この報告書が町民の郷土愛へのつながりとなり、町発展の大重要な糧となることを心から期待しております。

平成10年3月

野市町教育長 橋 田 速 生

例　　言

- 1 本書は、野市町教育委員会が平成6、7、8年度に実施した農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事に伴う下ノ坪遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 下ノ坪遺跡は、高知県香美郡野市町上岡字下ノ坪に所在する。
- 3 発掘調査は平成6年1月5日から3月15日、同6月7日から平成8年3月28日、同4月8日から7月16日まで実施した。
- 4 総調査面積は6,230m²であり、各年度、調査区ごとの面積は第Ⅲ章のとおりである。
- 5 調査体制
 - (1) 平成6、7年度
小松 大洋（野市町教育委員会社会教育課 社会教育主事）
池澤 俊幸（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員）
 - (2) 平成8年度
小松 大洋（野市町教育委員会社会教育課 社会教育主事）
出原 恵三（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査第3係長）
池澤 俊幸（ 同 調査員）
行藤たけし（ 同 非常勤職員）
- 6 本書の編集は出原が行い、執筆は以下のように分担した。
 - 第I・II章（小松）
 - 第III章（池澤）
 - 第IV章C・E区、F区（池澤）、H区(1)（池澤）、H区(2)弥生時代（出原）、
H区(3)古代（池澤）、J区（小松）
 - 第V章 1. 下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落（出原）
2. 南四国における弥生時代の鉄器について（小松）
3. 南四国における古代前期の土器様相
　　一下ノ坪遺跡の成果を中心として一（池澤）
4. 下ノ坪遺跡出土の八稜鏡、「縁軸单彩陶器」、古代掘立柱建物（池澤）
 - 第VI章 1. 高知県下ノ坪遺跡出土の金属製品、赤彩土器の化学的調査（成瀬）
2. 下ノ坪遺跡窓穴住居址出土の骨同定報告（パリノ・サーヴェイ（株））
- 7 本報告書を作成するにあたっては、青銅製品及び赤色塗彩土器の顔料について成瀬正和（宮内庁正倉院事務所保存課）の手を煩わせ、玉稿を頂いた。また、弥生土器について大久保徹也（香川県埋蔵文化財センター）、獸齒について松井章（奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター）、鉄器について村上恭通（愛媛大学法文学部）よりそれぞれ貴重なご教示を頂いた（敬称略、五十音順）。八稜鏡の比較については長岡京市教育委員会・大宰府市教育委員会の多大な配慮を得た。

- 8 平成7年度の調査においては松村信博（高知県埋蔵文化財センター主任調査員）、本報告書作成においては山本純代（同調査補助員）、久家隆芳（同調査員）、更谷大介（野市町教育委員会臨時職員）の助力を得た。
- 9 発掘現場作業員は下記の方々である。記録的な暑夏と二度の冬を通して、精力的に作業に従事された方々に対し、記して敬意を表す。
- 貞岡重道・佐野宣重・佐々木龍男・吉川徳子・吉川誠喜・大黒真之・町田恵子・森田彩子・
岩崎一歩・近江川和成・楠瀬正人・田代 勝・田島一徳・浜田吉宏・松木宏史・竹村保夫・
森本久美・村武 重・大和田延子・内田愛子・内田晴美・池宣 宏・小松一仁・石川 功・
岡内美行・筒井 正・松崎邦久
- 10 重機による表土剥ぎ、耕土運搬、埋め戻し、測量については共運工業の石川康人、石川武史、
小松和則、森岡和信、秋山純一氏の便宜・助力を得た。
- 11 遺物整理、報告書作成においては下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。
- 岩貞泰代・岩本須美子・大原喜子・尾崎富貴・小野山美香・川久保香・河村真美・高橋加奈・
田村美鈴・浜田雅代・東村知子・松木富子・松山真澄・森 緹子・矢野 雅・山中美代子・
山本由里・横飛美紀
- 12 検出遺構のナンバーは、平成8年度刊行の「下ノ坪遺跡I」からの通しナンバーである。但し、
ピットのナンバーは各調査区単位である。
- 13 出土遺物には年度毎に「94-29NS」「95-8NS」「96-8NS」と注記し、野市町教育委員会で保管
している。



H区全景（北より）

凡例

1 図版縮尺

遺構：竪穴住居（ST）1/60、土坑（SK）1/40、ピット（P）1/40、遺物出土状況1/20又は1/30。

遺物：弥生・古墳時代の土器1/4、古代の土器（煮炊具・貯蔵具を除く）1/3、土師器壺・カマド
・須恵器壺1/4又は1/3、鉄滓1/3。

以上を原則として適当な縮尺を使用し、各図版に記した。

2 図版トーン

遺構： 燥土多含



炭化物



朱の散布



砂礫層



石



遺物：被熱 又は
須恵器の暗色部



3 赤彩土師器、黒色土器、緑釉陶器は図版ではそれぞれ赤、黒、緑の略号を付した。

4 土色や遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖」によった。

5 堀立柱建物を構成するピットの個別番号は、側柱建物については北東隅より時計回りに番号を付した。縦柱建物については次のように記号を組み合わせて呼称した。

N ● 7 ● 8 ● 1

● ハ3 ● ハ2 ● ハ1

↑ ● 6 ● 2

● ロ3 ● ロ2 ● ロ1

● 5 ● 4 ● 3

● イ3 ● イ2 ● イ1

6 遺物計測位置の例



本文目次

第Ⅰ章 調査に至る経過	1
第Ⅱ章 遺跡周辺の地理・歴史的環境	2
1. 地理的環境	2
2. 歴史的環境	2
第Ⅲ章 調査の経過及び方法	5
1. 調査の経過	5
2. 調査の方法	6
第Ⅳ章 調査の成果	9
1. C・E区	9
(1) 調査区の概要と基本層準	9
(2) 自然流路 SR 2 と出土遺物	9
2. F区	18
(1) 調査区の概要と基本層準	18
(2) 弥生時代の検出遺構と遺物	18
(3) 古墳時代後期の検出遺構と遺物	25
(4) 古代の検出遺構と遺物	27
(5) 遺物集中	28
(6) 包含層出土遺物	28
3. H区	36
(1) 調査区の概要と基本層準	36
(2) 弥生時代の検出遺構と遺物	39
(3) 古代の検出遺構と遺物	64
4. J区	156
(1) 調査区の概要と基本層準	156
(2) 検出遺構と遺物	161
第Ⅴ章 考 察	200
1. 下ノ坪遺跡の弥生後期土器と集落	200
2. 南四国における弥生時代の鉄器について	209
3. 南四国における古代前期の土器様相 一下ノ坪遺跡の成果を中心として一	222
4. 下ノ坪遺跡出土の八稜鏡、「縁釉单彩陶器」、古代掘立柱建物	263
第Ⅵ章 自然科学分析	266
1. 高知県下ノ坪遺跡出土の金属製品、赤彩土器の化学的調査	266
2. 下ノ坪遺跡 竪穴住居址出土の骨同定報告	270

挿 図 目 次

- Fig. 1 調査風景
Fig. 2 下ノ坪遺跡の位置と周辺の遺跡
Fig. 3 下ノ坪遺跡発掘調査区
Fig. 4 C・E区基本層準及び出土遺物実測図
Fig. 5 SR 2 上層出土遺物実測図
Fig. 6 SR 2 下層出土遺物実測図
Fig. 7 SR 2 下層出土遺物実測図
Fig. 8 E区 SR 2 最下層出土遺物実測図
Fig. 9 F区検出遺構全体図
Fig. 10 F区検出遺構全体図
Fig. 11 F区基本層準
Fig. 12 ST 8 平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
Fig. 13 ST 8 出土遺物実測図
Fig. 14 SK 2 遺物出土状況、セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 15 落込み 1 出土遺物実測図
Fig. 16 SB 2、P 1・2・3、平面・セクション・エレベーション図及びSB 2、SD15・16、P 3 出土遺物実測図
Fig. 17 SD 10・11・12 出土遺物実測図
Fig. 18 集中 1・2 出土遺物実測図
Fig. 19 集中 2・3 出土遺物実測図
Fig. 20 F区 SR 2-5-7層、包含層出土遺物実測図
Fig. 21 H区検出遺構全体図(弥生)
Fig. 22 H区基本層準(H本区南壁)
Fig. 23 H区基本層準
Fig. 24 ST 9 平面・セクション及び出土遺物実測図
Fig. 25 ST 9 出土遺物実測図
Fig. 26 ST 10 平面・セクション及び出土遺物実測図
Fig. 27 ST 10 出土遺物実測図
Fig. 28 ST 12 床面遺物出土状況、同平面・セクション図及び出土遺物実測図
Fig. 29 ST 12 出土遺物実測図
Fig. 30 ST 13 河原石・遺物出土状況及び土器接合関係資料
Fig. 31 ST 13 平面及びセクション図
Fig. 32 ST 13 出土遺物実測図
Fig. 33 ST 13 出土遺物実測図

- Fig. 34 ST 13出土遺物実測図
- Fig. 35 SD 21・22、32・33平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 36 SD 31・SX 7平面・セクション・エレベーション図及びSX 7出土土器実測図
- Fig. 37 P 3・P 4遺物出土状況及びピット出土遺物実測図
- Fig. 38 壺棺1 平面・エレベーション図及び壺棺内出土土器実測図
- Fig. 39 壺棺2 平面・エレベーション図及び壺棺内出土土器実測図
- Fig. 40 H区検出遺構全体図（古代）
- Fig. 41 SB 8 遺構平面・セクション図
- Fig. 42 SB 9 遺構平面・セクション・エレベーション図
- Fig. 43 SB 9 出土遺物実測図
- Fig. 44 SB 10 遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 45 SB 11 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 46 SB 12出土遺物実測図
- Fig. 47 SB 13 遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 48 SB 14 遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 49 SB 15 遺構平面・セクション・エレベーション図
- Fig. 50 SB 15出土遺物実測図
- Fig. 51 SB 16 遺構平面・セクション・遺物出土状態図及び出土遺物実測図
- Fig. 52 SB 17 遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 53 SB 18 遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 54 SB 19 遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 55 SB 20 遺構平面・エレベーション図
- Fig. 56 SB 20出土遺物実測図
- Fig. 57 SB 20出土遺物実測図及び写真
- Fig. 58 SB 21 遺構平面・エレベーション図
- Fig. 59 SB 21出土遺物実測図
- Fig. 60 SB 22 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 61 SB 22出土遺物実測図
- Fig. 62 SA 4 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 63 SA 9・10・11出土遺物実測図
- Fig. 64 集石遺構1平面・エレベーション図
- Fig. 65 SK 16遺物出土状況・遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 66 SK 16出土遺物実測図
- Fig. 67 SK 18 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 68 SK 20 遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 69 SK 20出土遺物実測図

- Fig. 70 SK 21遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 71 SK 21出土遺物実測図
- Fig. 72 SK 22遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 73 SK 22出土遺物実測図
- Fig. 74 SK 22出土遺物実測図
- Fig. 75 SK 27遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 76 SK 28遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 77 SK 28出土遺物実測図
- Fig. 78 SK 29遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 79 SK 30遺物出土状況・セクション・エレベーション図
- Fig. 80 SK 30出土遺物実測図
- Fig. 81 SK 30出土遺物実測図
- Fig. 82 SK 30出土遺物実測図
- Fig. 83 SK 30出土遺物実測図
- Fig. 84 SK 31、SK 32遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 85 SK 33遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 86 SK 33出土遺物実測図
- Fig. 87 SK 34遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 88 SK 34出土遺物実測図
- Fig. 89 SK 34出土遺物実測図
- Fig. 90 SK 34出土遺物実測図
- Fig. 91 SD 26セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 92 SD 26出土遺物実測図
- Fig. 93 SD 40遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 94 SD 40出土遺物実測図
- Fig. 95 SX 2 遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 96 SX 2 出土遺物実測図
- Fig. 97 P 14、P 15遺構平面・エレベーション図
- Fig. 98 P 14、P 15出土遺物実測図
- Fig. 99 P 16、P 17遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 100 SF 1 出土遺物実測図
- Fig. 101 包含層出土遺物実測図
- Fig. 102 SB 22内出土遺物実測図
- Fig. 103 J区検出遺構全体図
- Fig. 104 J区北壁及び南壁基本層準
- Fig. 105 ST 11平面図及びセクション図

- Fig. 106 ST 11平面・エレベーション図及びガラス小玉・朱・炭・焼土出土状況図
- Fig. 107 ST 11出土遺物実測図
- Fig. 108 ST 11出土遺物実測図
- Fig. 109 SB 27平面及びエレベーション図
- Fig. 110 SK 35遺物出土状況平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 111 SK 36・37遺物出土状況平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 112 SK 38遺物出土状況平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 113 SK 39平面及びエレベーション図
- Fig. 114 SK 40・41平面及びエレベーション図
- Fig. 115 SK 42平面及びエレベーション図
- Fig. 116 SK 43平面及びエレベーション図
- Fig. 117 SD 48・SD 50平面・セクション及びエレベーション図
- Fig. 118 SD 49平面及びセクション図
- Fig. 119 SD 51遺物出土状況平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 120 SD 52平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 121 SD 53平面及びエレベーション図
- Fig. 122 SD 55遺物出土状況平面・セクション図
- Fig. 123 SD 54遺物出土状況平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 124 SD 55出土遺物実測図
- Fig. 125 SD 55出土遺物実測図
- Fig. 126 SD 55出土遺物実測図
- Fig. 127 SD 55出土遺物実測図
- Fig. 128 SD 55出土遺物実測図
- Fig. 129 SX 9平面及びエレベーション図
- Fig. 130 SX 10遺物出土状況平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図
- Fig. 131 SX 10出土遺物実測図
- Fig. 132 SX 11遺物出土状況平面・セクション図及び出土遺物実測図
- Fig. 133 SX 11出土遺物実測図
- Fig. 134 表土及び包含層出土遺物実測図
- Fig. 135 田村遺跡出土の摺入土器
- Fig. 136 「下ノ坪遺跡 I」報告書の摺入土器
- Fig. 137 鉄斧・鉈
- Fig. 138 鍤・鍤先・鉄鎌・摘鎌・刀子
- Fig. 139 鉄鎌
- Fig. 140 鉄鎌・鉄鎌・その他
- Fig. 141 器種図

Fig. 142 I - 7 期における対比例

Fig. 143 四国西南部における変遷試案図

Fig. 144 杯・皿の形状類型例

Fig. 145 回転台土師器の類型例

Fig. 146 莳光X線スペクトル図

Fig. 147 下ノ坪遺跡H区IV層出土佐波理容器実測図

第Ⅰ章 調査に至る経過

野市町下ノ坪遺跡は、「農業農村活性化農業構造改善事業上岡地区区画整理工事」に伴う緊急発掘調査として平成6年度から平成8年度にかけて発掘調査を行ったものである。

下ノ坪遺跡のある上岡地区は、稲作、ハウス園芸の盛んな地域であるが農道の整備が遅れており、大型機械の導入が困難であり、また一部では用排水路も老朽化しており生産性向上の大きな妨げとなっていた。そのような現状から、近代農業に即応した耕区の区画形態に改善するため、野市町と上岡地区土地改良区が農林水産省の補助を受け5.2haを整備することになった。

一方、当事業区域内には条里区画の遺構が現存しており、また付近からも弥生土器等の散布が見られること等から、埋蔵文化財が遺存するのは必至とみて野市町教育委員会と上岡地区土地改良区が高知県教育委員会の助言を得て協議し、耕作地となる部分については全て盛土工法を採用し、遺跡に影響を及ぼす水路部分と永久構造物となる道路部分を調査することにした。

発掘調査は野市町教育委員会が主体となり(財)高知県埋蔵文化財センターより調査員の派遣を受け平成7年1月より埋蔵文化財の記録保存を行うことを目的として実施した。

計画として、平成7年12月までを予定していたが出土する遺物の量、遺構が予想よりも多く農林水産省、土地改良区の方々のご理解を得て平成8年7月まで調査を延期し、実施することになった。また、調査の進展に伴い、重要遺物、遺構の検出が相つぎ本来調査区外であった耕作地部分の一部についても、調査区を拡張し、確認調査を行った。この確認調査のため拡張した調査区の遺構については、全て砂を入れ、保存するように努めた。

尚、調査区はA区からO区に分けて調査し、A・B・D・M・O区については、平成9年度に下ノ坪遺跡Ⅰとして報告書に出している。



Fig. 1 調査風景

第Ⅱ章 遺跡周辺の地理・歴史的環境

1. 地理的環境

下ノ坪遺跡のある野市町は、県中央部に広がる高知平野の東端に位置し県下三大河川のひとつ物部川の下流域に発達した扇状地上にあり、南北約6km、東西約4km、面積23.15km²、人口16,000人を越える町である。西は物部川をほぼ境として南国市、東は香我美町と隣接し、北は烏ヶ森山系により土佐山田町と分けられる。南は赤岡町、吉川村の2町村と境を接し南端部より約0.3km南で土佐湾にのぞむ。

南部には、県都高知市と県東部を結ぶ国道55号線が東西に走っており、高知市より車で約30分と交通の便もよく、県都のベッドタウンとして人口も年々増加しており近年発展し続けている。

主要産業としては、江戸時代、野中兼山により灌漑施設が整備され、かつては豊富な水を生かした米作の穀倉地帯であったが、現在は近郊型の園芸農業が盛んとなっている。

自然地理学的には北東部に開拓山系の山岳地と物部川左岸側に分布する、古期扇状地を呈する野市台地よりなっている。この開拓山系は、秋葉山系と烏ヶ森山系の2つからなり野市町の約3分の1強の面積をしめる。

秋葉山系は町の北東、香我美町の境にある開拓山（標高368.2m）より南西方向に高度を減じ、町のほぼ中心の三宝山（別名金剛山、標高213.9m）の南西方向で野市台地の下に沈む。その秋葉山系の北方に平行して烏ヶ森山系があり同じく、南西に向かって高度を減じて、物部川にその山脚を浸食されている。

その山地の下に広がる野市台地は古期扇状地性の氾濫源であり、現在の市街地をのせ、海拔高度約40~10mと北から南へ高さを減じている。また、台地の西端部分は5mほどの段丘崖となって沖積平地となっている。下ノ坪遺跡は、この沖積平地上にあり海拔12mを測る。

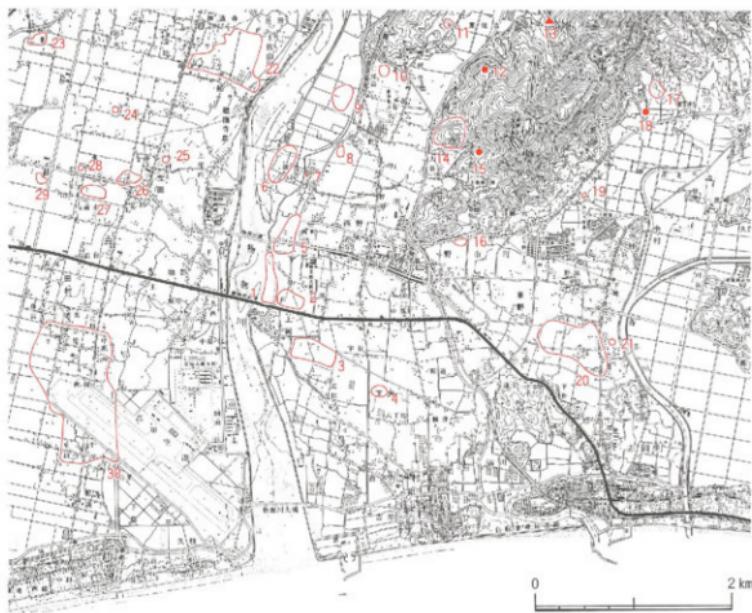
これらの台地は、秋葉山系の西端部の三宝山の山麓部でさえぎられた物部川の堆積物が南東側に向かって放出されたためできた扇状地性堆積物によって形成されたものである。

物部川が現在の流路を形成したのは、中近世以降のことであり、それ以前はいくつもの流路からなっていたが、中世になるとそれまで多数存在していた小流路の幾つかが堆積作用によりつまりき、大きな自然堤防が形成され現在の流路になったと考えられる。

この物部川はその昔から交通の手段として使われていたと考えられており、今回の調査でも興味深い結果となった。

2. 歴史的環境

下ノ坪遺跡のある野市町は、北部に山塊を背負い南部に平野部が開けている。西は一級河川物部川に隔てられ東は香宗川がほぼ町境と重なっている。物部川は野市町をはじめ、高知平野東部の平野を潤しているが、近世以前においては現在よりも西部を流れおり下流に大小の自然堤防を形成し、多くの縄文時代後期以降の遺跡が立地している。その中でも、田村遺跡は弥生時代における南四国最大の拠点集落として知られている。下ノ坪遺跡の南面約2kmの地点に位置している。



No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代	No	遺跡名	時代
1	下ノ坪遺跡	弥生～奈良	11	龜山窯跡	平安	21	宝鏡寺跡	中世
2	北地遺跡	弥生	12	溝渕山古墳	古墳	22	岩村遺跡群	弥生～中世
3	高田遺跡	平安	13	アゴデン白岩窯跡	平安	23	シロイ晶遺跡	古墳～中世
4	下井遺跡	平安・中世	14	大谷城跡	中	24	石神遺跡	弥生～平安
5	西野遺跡群	弥生・古墳・平安	15	大谷古墳	古墳	25	立田土居城跡	中世
6	深瀬瀧跡	縄文～近世	16	山下遺跡	平安・中世	26	寺ノ前遺跡	弥生～中世
7	深瀬城跡	中	17	本村遺跡	弥生	27	高添遺跡	弥生～平安
8	西上野遺跡	弥生	18	大崎山古墳	古墳	28	平杭遺跡	弥生・古墳
9	深瀬北遺跡	弥生～中世	19	中山田土居城跡	中世	29	カントワリ遺跡	縄文・古墳～平安
10	母代寺遺跡	平安・中世	20	東野土居遺跡	古墳～平安	30	田村遺跡群	縄文～近世

Fig. 2 下ノ坪遺跡の位置と周辺の遺跡

また、その北部の上流右岸の土佐山田町にはヒビノキ遺跡⁽¹⁾（弥生時代～古墳前期）、その対岸には林田遺跡⁽²⁾（弥生～室町）がある。東部を流れる香宗川流域にも、弥生時代初期の土器が発見されるとともに多量の木器が出土した香我美町の下分遠崎遺跡や十萬遺跡がある。

町内にも数多くの遺跡があり、最も古いものには深測遺跡の縄文晚期までさかのばる。弥生時代になると遺跡数が飛躍的に増大し町内全域に分布する。特に物部川流域は著しく、下ノ坪遺跡よりも近いものとしては東に北地遺跡が隣接しており、北に西野遺跡、深測遺跡、深洞北遺跡と広く分布している。また東部には先に述べた香我美町の下分遠崎遺跡と同一遺跡と考えられる曾我遺跡⁽³⁾が香宗川流域に広がっており、その北側開楽山地のふもとにはガラス製の勾玉も出土した弥生中期の高地性集落の性格を持つ本村遺跡がある。開楽山地には中期末の笹ヶ峰遺跡や、土器、貝殻、獸骨、魚骨などが出土した後期末の鬼ヶ岩屋洞窟遺跡もある。

古墳時代の遺跡も物部川、香宗川両流域に広がり集落が営まれていたことがうかがえる。古墳も開楽山地に数多くみられ、特に竹ノ内山（溝潤山）古墳は、当時の原形に最も近い状態で残存している横穴式石室の円墳で青銅環、直刀等が出土している。その他にも2次にわたる埋葬面が確認され金環、馬具等多量の貴重な副葬品が出土した大谷古墳をはじめ、小山谷古墳、大崎山古墳がある。また、町内北部の佐古地区にも日吉山古墳群や父養寺古墳等、そして今は消滅しているが上分古墳の存在により、地方豪族のいたことが推察される。

古代の遺跡としては、下ノ坪遺跡の北約1kmに深測遺跡がある。深測遺跡は先にも述べたように縄文時代からの複合遺跡であるが、古代の出土物は二彩陶器、縄軸陶器、墨書き土器、硯、鉛尾等が出土している。また深測遺跡は瓦窯跡の指摘もあり、円面鏡や風字鏡も発見され、官衙の性格を持つ遺跡であったと考えられる。また佐古地区の亀山にも窯跡があり、そこで作られた瓦は平安京大極殿、藤原氏の氏寺である法勝寺に使用されていたことがわかつており、もっぱら中央向けの官窯であったと思われる。その瓦の運輸を考えると下ノ坪遺跡とも深い関係があったと考えられる。このことは、当時の野市町が中央と深いつながりを持ち重要な地であったことを示している。

中世になると、中原秋家、秋道が地頭となり、香宗我部氏と名乗り勢力をふるった。しかし、関ヶ原合戦後山内氏入国によりその所領を失い、その後の一国一城制でその居城である香宗城は取り壊された。現在は八幡社と土塁の一部を残すのみである。その南東には菩提寺の宝鏡寺跡と歴代の墓と觀音堂がたっている。また、戦国時代の城では佐古地区に前ノ山城、また土佐山田町との境に鳥ヶ森城がある。

- (1) 岡本健児・廣田典夫「高知県ひびのき遺跡」 土佐山田町教育委員会 1997年
- (2) 宅間一之・山本哲也・森田尚宏「林田遺跡」 土佐山田町教育委員会 1985年
- (3) 高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」 香我美町教育委員会 1987年
高橋啓明・出原恵三「下分遠崎遺跡発掘調査概報」 香我美町教育委員会 1989年
- (4) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「十万遠跡発掘調査報告書」 香我美町教育委員会 1988年
- (5) 高橋啓明・出原恵三・吉原達生「深洞遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1989年
- (6) 高橋啓明・吉原達生「曾我遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1989年
- (7) 坂本憲昭「本村遺跡発掘調査報告書」 野市町教育委員会 1993年
- (8) 山本哲也「大谷古墳」 (財)高知県文化財団 1991年

第Ⅲ章 調査の経過及び方法

1. 調査の経過

調査は平成7年1月5日から実施し、道路と水路の施工予定部分を中心に $4 \times 4\text{ m}$ を基本とした試掘ピットを10ヶ所設定した。設定できたのは調査対象区（以下対象区）北半であったが、調査の結果その東半全域で良好な遺構と包含層が遺存し、時期も複合していることが判明した。これを受けて関係部局が検討した結果、耕地部分については遺構及び包含層に影響しない工法を採用して、本調査区を道路及び水路予定部分に限定すると共に、対象区中央部以南の調査を次年度に実施することとし、平成6年度にはA、B、D、E区の発掘調査を行なった。

平成7年度の調査は6月7日から開始し、C、F、G、H、J、K区の調査を実施した。6月25日にはそれまでの調査成果による第1回現地説明会を行い、続いてF区以南の調査を実施した。当時の耕作状況により調査区の設定には一定の制限があったが、調査を進めた結果、F区西端で古墳時代掘立柱建物や弥生時代堅穴住居、J区で弥生時代堅穴住居や多量の土器を伴う大溝を検出、H区では多量の遺物を含む包含層と、古代及び弥生時代の多数の遺構群を検出した。南部は対象区北部とは様相が異なり、遺構・包含層が対象区西端の物部川堤防直下まで遺存することが判明したため、協議の結果調査期間を延長し、L区以南は8年度に調査することとした。

続く平成8年度の調査は平成8年4月8日から実施し、M、O区では弥生時代を中心とした遺構群が検出され、当遺跡の全域に集落が展開することが確認された。またH区では、古代の大型掘立柱建物の一部が複数検出されていたため、構造物予定地外へも発掘区を拡張した結果、掘立柱建物群や八稜鏡を検出した。7月14日の第2回現地説明会は、地方紙に大きくとり上げられたことによって多数の見学者が参加して行なわれた。7月16日に機材を撤収し、発掘調査を終了した。

確認された遺跡全体の面積は約45,000m²、今次発掘調査対象面積は7,265m²で、うち6,230m²について発掘調査を実施した。

出土遺物の整理及び報告書の作成については、各調査区における遺物の出土量や時期的なまとまりを勘案して、A、B、D、M、O区を平成8年度に「下ノ坪遺跡I」として刊行した。平成9年度の本報告はC区、E区、F区、H区弥生時代、H区古代掘立柱建物・柵列・土坑、J区について行い、G、K、L、N区及びH区古代溝、性格不明遺構、包含層出土遺物の大半については次回に行うこととした。

各調査区の面積は下表の通りである。

表1 調査区面積表

調査区	A区	B区	C区	D区	E区	F区	G区	H区	J区
面積（単位m ² ）	102	175	112	250	175	290	194	2,931	552
調査区	K区	L区	M区	N区	O区				
面積（単位m ² ）	158	138	472.5	81	405				

2. 調査の方法

本遺跡の範囲は、物部川の堤防に沿って南北に細長い扇形を呈し、長軸は約550mを測る。Fig. 3で示したように調査区は、遺跡東測線をなす段丘斜面下端に沿って延びる南北の道路と、それに直交して延びる道路及び排水路の工事予定部分である。調査にあたっては便宜上東西方向の調査区と、それらによって区切られる南北の調査区に北より順にA～Oの調査区名を付した。

平成6年度はA～F区の範囲を調査対象とし、試掘ピットを設定すると共に順次本調査を行なった。平成7年度も同様に、F区以南について調査可能となった部分に随時試掘ピットを設定し、遺構・包含層の広がりを調べると共に本調査を実施した。平成8年度はH、L、M、N、O区の調査を行ない、H区では古代掘立柱建物群についてのみ調査区を拡張しての確認調査を合わせて実施した。

調査の手順としては、耕作土及び旧耕作土を重機を用いて除去した後、包含層掘削、遺構検出、遺構埋土掘削を手作業で進めた。遺物の取上げ、遺構の実測については、各調査区ごとに任意に設定した座標軸に基いて4m方眼をかけ、グリッドNo.を付して地点の記録及び実測を行なった。平面実測及び土層断面図については、20分の1を基本に適宜任意の縮尺を用いた。



現地説明会



Fig. 3 下ノ坪遺跡発掘調査区 ($S = \frac{1}{1000}$)

基準点座標	
X	Y
NS-1	61814.48, 17357.48
NS-2	61815.005, 17359.237
NS-3	61817.587, 17352.038
NS-4	61871.353, 17341.108
NS-5	61849.904, 17428.216
NS-6	61749.778, 17453.952
NS-7	61749.116, 17453.959
NS-8	61940.553, 17468.682
T-9 A	61927.341, 17415.739
T-9 B	61863.504, 17420.295
T-9 C	61739.694, 17425.415
T-9 D	61727.188, 17426.415
C-13	61916.008, 17419.705
D-13	61912.031, 17419.203
E-13	61908.064, 17418.699
F-13	61905.128, 17418.699
J-24A	61554.462, 17448.453
J-24B	61871.681, 17366.797
M-94	61794.271, 17447.197
M-21	61808.781, 17380.759
O-92	61733.493, 17381.589
O-93	61733.493, 17381.589
E-2	62131.510, 17413.919
B-7	62124.144, 17386.294
D-14	62080.014, 17420.446
D-15	62058.652, 17420.132
DTP-1	62059.151, 17414.719
DTP-2	62059.153, 17414.756
F-4	62002.055, 17442.488
F-5	62001.906, 17405.284

凡例

平成 6 年度

平成 7 年度

平成 8 年度

第IV章 調査の成果

1. C・E区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要

遺跡の東端、段丘斜面の下端に沿う幅2.5m前後、南北約110mの調査区である。D区との交差部を境にC区、E区と呼称するが、同じ様相を呈するので一括して扱う。遺構は検出されず、自然流路SR 2が存在する。SR 2の幅は調査区より広く、しかも現斜面の下端には沿っているとみられ、本区はSR 2の埋土を掘り進む形となった。SR 2の規模については、F区との交差部で幅が判明し(Fig. 9・11)、D区との交差部で西肩が検出されている(Fig. 4)。

② 基本層準

C区南端、D区との交差部のセクションを図示した。Ⅲ層は遺跡北半に普遍的に分布するものであり、SR 2-2層に酷似する。先述のように、当地点ではSR 2の西肩が確認できた。C区北端部のⅡ層からは1が出土している。

(2) 自然流路 SR 2 と出土遺物 (Fig. 4 ~ 9・11)

遺跡東側の段丘斜面下端に沿うように延びる。F区で確認した幅は6.5~9.2m、深さは75cm前後を測る。セクション図から判るように両肩部は比較的明瞭に立ち上がる。C区北端からF区南端までを全体的に見た場合、底面での明確な比高差は存在しない。遺跡内に普遍的にみられた古代の包含層を切っており、基本的な埋土は四層から成る。2層は砂礫層でC区南~E区北部では人頭大の石を含む。4層も砂礫層で流路幅の中央で層厚を増す。また流路方向でみた場合、C区北半とE区

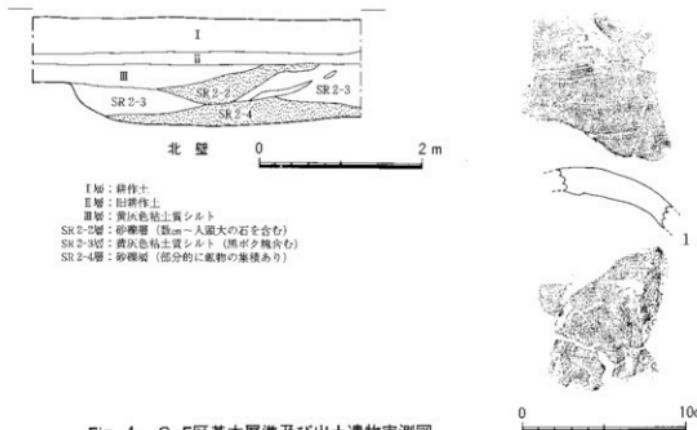


Fig. 4 C・E区基本層準及び出土遺物実測図

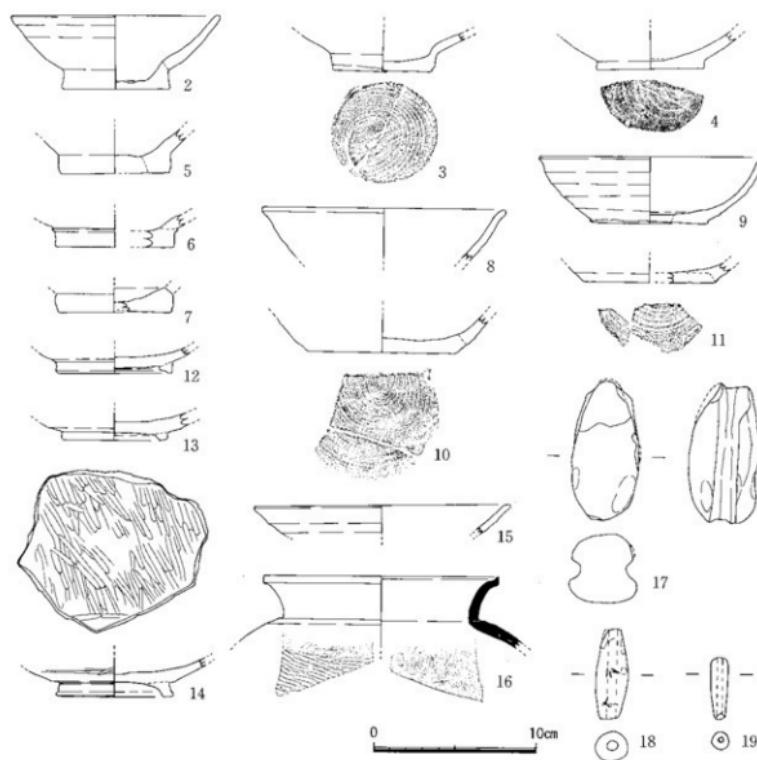


Fig. 5 SR 2 上層出土遺物実測図 (16は縮尺1/4)

で厚さを増していた。3層は弥生中期から古代に至る多量の遺物を包含する。遺物は、2層以上と3層以下で下限の時期に差がみられるため、前者を上層、後者を下層として図示する。平面的にみた上層部は、C区～E区北半では幅2.5m、深さ50cm前後でC区中央部以北では調査区外東側へそぞれ検出できなくなるが、E区南端では下層部を侵食し幅約7m、深さ65cmを測る。下層部は、底に複雑な段や窪みを持つ。C区南部のSR 2-2層とC区中央部のSR 2底よりウマの歯、南部のSR 2底よりウマとウシの歯が出土した。ウシの歯は左下顎の第3大臼歯で、3歳前後と見られる。なお、方向や出土遺物から考えて、本流路はA区SR 1^(註)と関連する可能性がある。

(註)「下ノ坪遺跡I」野市町教育委員会 1997年

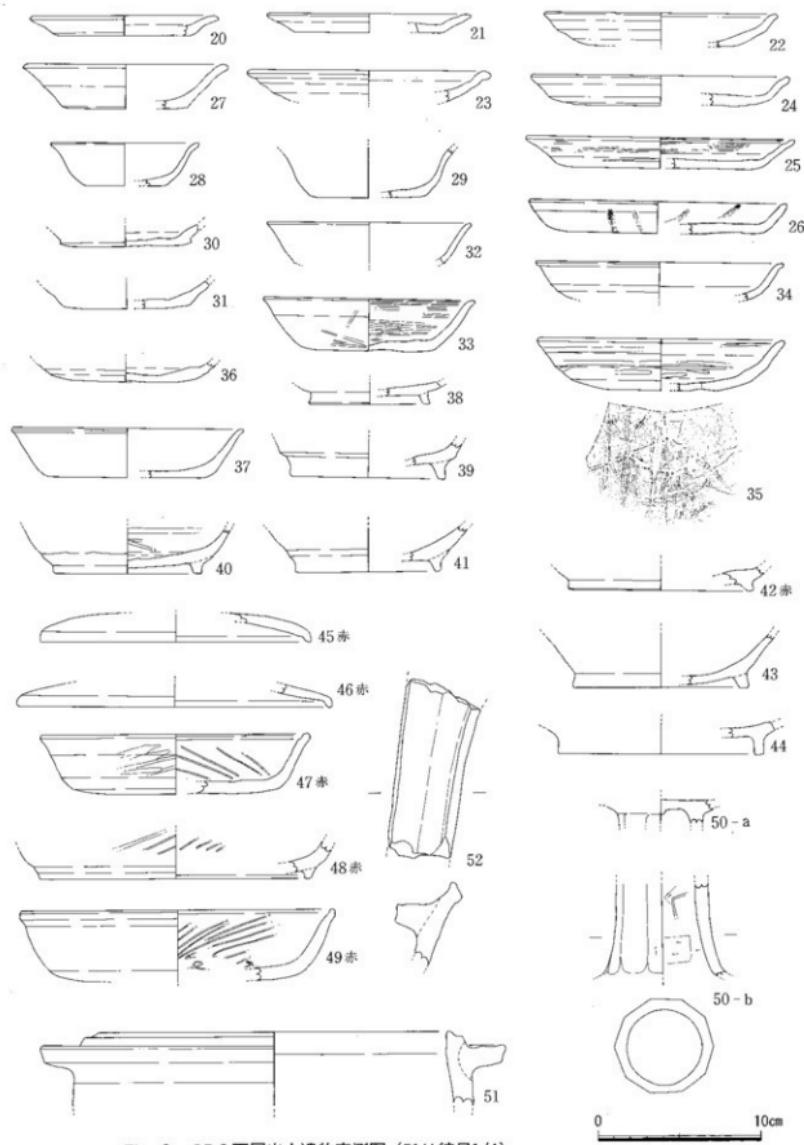


Fig. 6 SR 2 下層出土遺物実測図 (51は縮尺1/4)

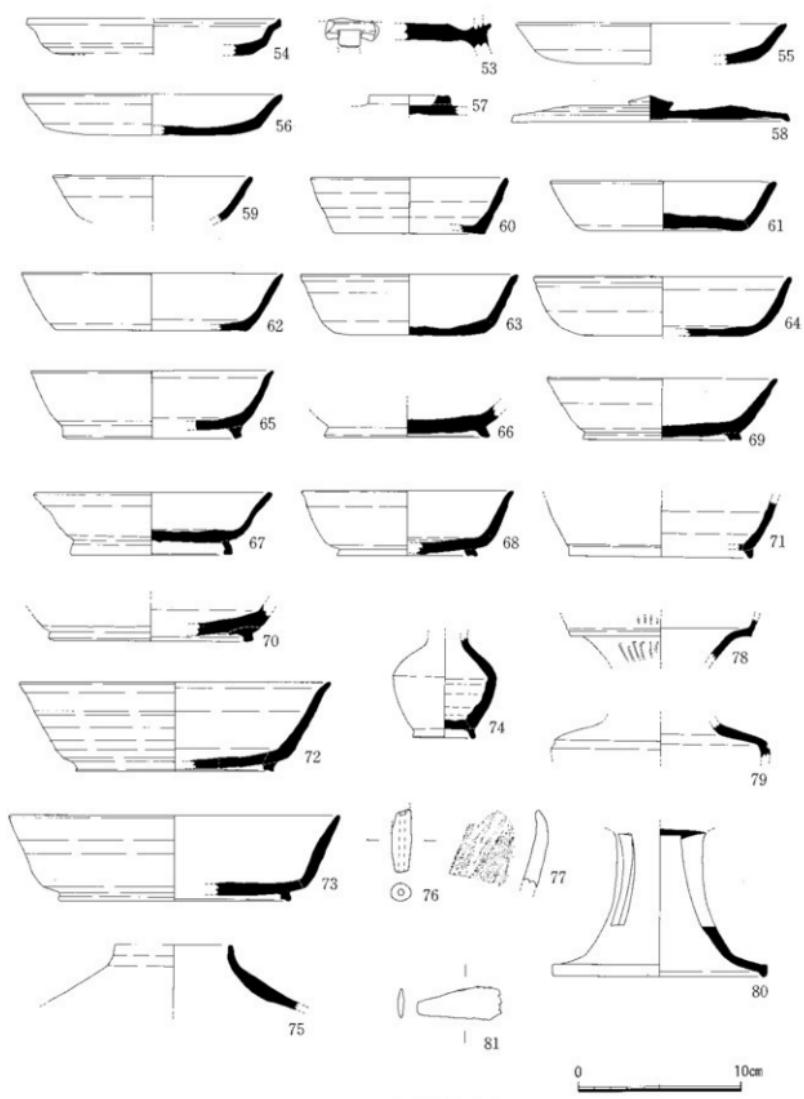


Fig. 7 SR 2 下層出土遺物実測図

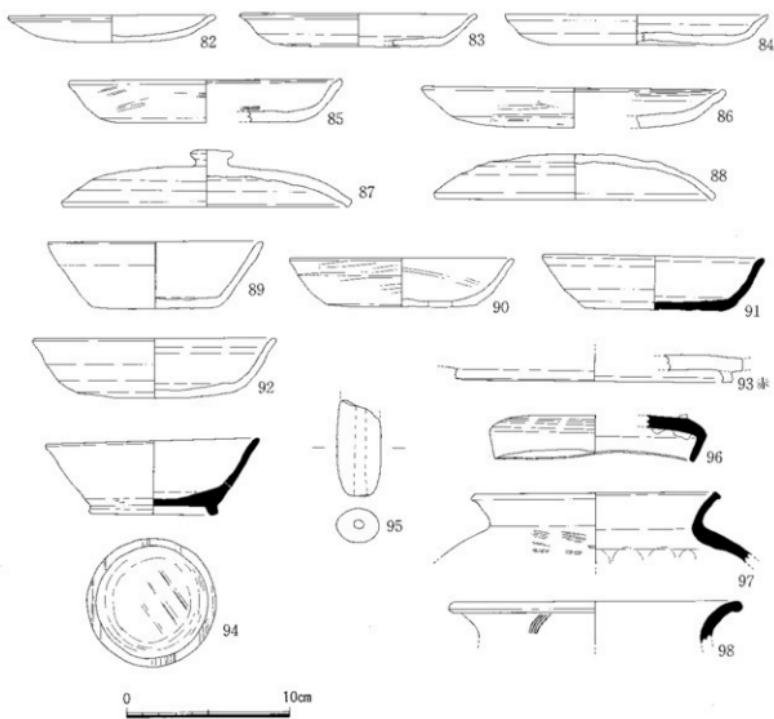


Fig. 8 E区 SR 2 最下層出土遺物実測図 (97・98は縮尺1/4)

出土遺物

先述したように、上層と下層に分けて示す。F区で検出した遺物についても、弥生土器集中地点およびSR 2-6層以下の出土遺物を除いてここに示す。また、E区北半の一定の範囲で最下層から出土した遺物については、最下層の項を設ける。

- ① SR 2 上層出土遺物 (Fig. 5)
- ② SR 2 下層出土遺物 (Fig. 6・7)

出土遺物の属する時期は、図が示すようにかなりの時期幅をもっている。これらの他、弥生・古墳時代の遺物が多量に含まれていた。

- ③ SR 2 最下層出土遺物 (Fig. 8)

E区北半部においてSR 2の底面ないし数cm上より出土した遺物の中に、比較的良く復元できる約20点の遺物が存在した。それらをここに示すが、明確な遺物集中として捉えたり、「下層」出土遺物全体との層位差を想定できるものではない。

遺物観察表（土器）

Fig. No.	神奈 番号	出土地点	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備 考
				口径	底高	側径	底径		
4	1	田耕作土	瓦					チャート細粒砂一小レキ（~4mm）含む。内面布痕、外 面ナメ状痕。	摩耗。
5	2		土器器 杯	12.5	4.6			5.5 底土構造。チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。横 2.5 YR 6/6。	
* 3			*					チャート、赤色風化礫の細粒砂と、火山ガラスを含む。 浅黄橙7.5 YR 8/6、円盤状高台。底部凹凸切、3mm前 後の横行圧痕を残す。未調査。他は全くノーラブ痕が見られる連 い圓転ナダ。	焼成良好。
* 4	SR 2 上層	*	*					チャート、少量の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを 含む。浅黄2.5 YR 8/4、円盤状高台。回転ナダ。	摩耗顯著。
* 5	*	*	*					チャート細粒砂。赤色風化礫の細粒一小縦、火山ガラ スを含む。浅黄橙30 YR 8/4、円盤状高台。底部先切、内底のみ一方弱の ナダ。	
* 6	*	*	*					チャート細粒砂を多く、少量の赤色風化礫の細粒砂を 含む。浅黄橙10 YR 8/4、円盤状高台。外底丸物。他 は全くノーラブ痕。	焼成良好。
* 7	*	*	*					チャート細粒砂を多く、外底丸物。他 は全くノーラブ痕。	摩耗顯著。
* 8	*	土器器 14.6						胎土構造。チャート細粒砂、火山ガラスを含む。浅黄 橙7.5 YR 8/6、回転ナダ。回転台右回り。	
* 9	*	土器器 燒	13.4	4.1				胎土構造。チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラ スを含む。浅黄橙7.5 YR 8/4、底部先切本調査。体部 外縁に内底に回転ナダ痕を残す。	焼成良好。
* 10	*	土器器 杯						チャート細粒砂。火山ガラス、少量の赤色風化礫の細 粒砂を含む。浅黄橙7.5 YR 8/4、外底先切未調査。他は 全くノーラブ痕。	焼成良好。
* 11	*	*	*					チャート、赤色風化礫の細粒砂、比較的多量の火山ガ ラスを含む。浅黄橙10 YR 8/4、円盤状高台の上から回 転ナダによって体部を接合し、外からも強い回転ナダで によって合部を強めえる。底土先切。	
* 12	*	土器器 底部						胎土構造。チャート細粒砂（~1mm）、赤色風化礫の 細粒砂一小縦（~2mm）を含む。灰2.5 YR 6/2。高台は 胎土強めで、外縁に回転ナダ、体部外縁に回転ナダ、内底 に回転ナダ強めするもの。内面平滑。内面や底色。	摩耗顯著。
* 13	*	*	*					チャート細粒砂、少量の赤色風化礫の細粒砂、火山ガラ スを含む。浅黄橙10 YR 8/4、底部先切不規則。高台は 胎土強めで、外縁に回転ナダ、体部外縁に回転ナダ、内底 に回転ナダ強めするもの。内面平滑。内面や底色。	
* 14	*	土器器 燒						胎土構造。火山ガラスを多量に含む。チャート、赤色風 化礫の細粒砂を含む。外縁下部は強めミガキ。高台は 胎土強めで、外縁に回転ナダ、内底に回転ナダ、内面や底色。 引出し強め。	
* 15	*	土器器 II	15.4					チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。 浅黄橙7.5 YR 8/6、回転ナダ。	
* 16	*	須恵器 裏	19.0					胎土構造。石灰、壳石の細粒砂、少量の赤色風化礫の細 粒砂を含む。	
6	20	SR 2 下層	土器器 小皿	10.8	1.2			胎土構造。赤色風化礫の細粒砂を、少量のチャート細粒 砂を含む。底土明。回転ナダ。	
* 21	*	土器器 皿	11.8	1.1				胎土構造。チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。横5 YR 7/6。全て回転ナダ。	
* 22	*	*	13.9	2.0				胎土構造。長石、石英の細粒砂、少量の赤色風化礫の細 粒砂を含む。	摩耗顯著。
* 23	*	*	14.2					胎土構造。少量のチャート細粒砂、赤色風化礫の細粒 砂、火山ガラスを含む。回転ナダ。	
* 24	*	土器器 皿A	15.4	1.8				チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラスを含む。 横5 YR 6/6。体部内外ミガキあり。外底ハラ切、他強め。	焼成良好。口縁端部内面に鋭い 一条の沈れ。見見あり。
* 25	*	*	16.2	1.9				胎土構造。チャート、赤色風化礫の細粒砂、火山ガラ スを含む。横7.5 YR 7/6。外底ハラ切後ナダ。その他 全て回転ナダ。体部内外面は強めミガキ。外底は 非常に粗い回転ミガキ。	
* 26	*	*	15.5	2.0				長石、石英、チャート細粒砂約（~1.6mm）を含む。横 7.5 YR 7/6。体部強め回転ナダ（これにより、内底周 縁が凹む）。回転台右回り。他は回転ナダ。底前ハラ切。	内外火拂。
* 27	*	土器器 杯	12.3	2.8				チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。横5 YR 7/6。	摩耗顯著。
* 28	*	*	9.0	2.7				5.0 胎土構造。チャート細粒砂、少量の赤色風化礫の微細 砂を含む。横5 YR 7/6。	摩耗顯著。
* 29	*	*						6.9 胎土構造。チャート細粒砂、少量の赤色風化礫の微細 砂を含む。横5 YR 7/6。	摩耗顯著。
* 30	*	*	*					8.0 胎土構造。チャート細粒砂、火山ガラスを含む。浅黄 橙10 YR 8/3。底部ハラ切。全て回転ナダ。	
* 31	*	*	*					7.6 胎土構造。火山ガラスを含む。浅黄橙10 YR 8/3。底部ハラ切。全て回転ナダ。	

Fig. No.	種類 番号	出土地点	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備 考
				口径	器高	銅径	底径		
6	32	SK 2 下層	土師器 杯	12.3				石英粒、チャート細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄灰 10 YR 8/4。圓軸ナヂ。	
*	33	*	*	12.8	3.2		8.0	チャート、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙 7.5 YR 7/6。	
*	34	*	土師器 皿	15.0				チャート、黒色粒の細粒砂を含む。橙 7.5 YR 7/6。体部外側と内面は圓軸ナヂ。外底不明。	焼成良好。
*	35	*	土師器	14.8	3.2		10.9	粘土精選。チャート、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙 7.5 YR 7/6。外底、ハラ型後ナヂ。中央部に巾 3.1cm の平行圧痕残す。	
*	36	*	土師器 底部				8.8	チャート、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙 7.5 YR 7/6。外底、ハラ型後ナヂ。中央部に巾 3.1cm の平行圧痕残す。内底中央に一方削りナヂ。盤全体で凹輪状。	
*	37	*	土師器 杯 A	13.9	3.0		10.0	粘土精選。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を若干含む。黄灰 7.5 YR 7/6。外底、ハラ型後ナヂ。中央部に巾 3.1cm の平行圧痕残す。	焼成良好。
*	38	*	土師器			7.2		傷めきれな粘土。少量のチャート細粒砂を含む。摩耗のため、調査不明。しかし全く丁寧で滑らか、薄手で仕上げられている。高台、圓軸ナヂ。	
*	39	*	*			9.2		きめ細かな粘土。チャート細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙 7.5 YR 7/6。	焼成良好。
*	40	*	*			9.0		きめ細かな粘土。チャート細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。黄灰 7.5 YR 8/6。内面巾 2.5~4 cm の連続ミガキ。高台は内から外へひき出す。	摩耗者。
*	41	*	*			8.8		チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙 5 YR 7/6。	摩耗者。
*	42	*	土師器 杯 B			11.2		粘土精選。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。浅黄灰 10 YR 8/3。今く連続ナヂ。	摩耗者。全面赤芯(外底まで)。
*	43	*	土師器			10.6		粘土精選。チャート細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙 7.5 YR 7/6。内面が強めで平滑。	
*	44	*	*			12.4		粘土精選。少量のチャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙 7.5 YR 7/6。全て圓軸ナヂ。	
*	45	*	土師器 皿	16.4	(1.8)			チャート粗粒砂を含む。明治第 2.5 YR 5/8。天井外周側(ケズリと見られる)。外側は摩耗。口縁部は連続ナヂ。天井部は平滑。	内外赤芯、I 群。
*	46	*	*	19.0				粘土精選。石英の細粒砂を含む。橙 2.5 YR 6/6。天井外周は平滑で、ミカニに見られる(単位不明)。	内外赤芯、I 群。
*	47	*	土師器 杯 A	16.2	3.6	12.4		橙 7.5 YR 7/6。内面放射状一段段。外側は四方削り。外底は断続タグリ。	内外赤芯、I 群。
*	48	*	土師器			16.4		粘土精選。石英の細粒砂を含む。高台と、体部の外側は連続ナヂ。内面は放射状放射。外側は四方削りミガキ。	内外赤芯。
*	49	*	土師器 杯 A	19.0		14.1		石英の粗粒砂、チャート、赤色風化礫の粗粒砂、火山ガラスを含む。橙 2.5 YR 6/6。外底は断続タグリ。内底は全周放射状放射。内底は強烈放射。	内外赤芯、I 群。
*	50 a	*	土師器 高杯					長石の粗粒砂、少量の石英細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙 2.5 YR 6/6。	焼成良好。搬入品。
*	50 b	*	*					少量のチャート細粒砂、長石粗粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。橙 2.5 YR 6/6。外側は下部から上の範囲がナフラによるクリア。内面は強烈放射。	同上。
*	51	*	土師器 羽釜			21.2		石英、チャートの小塊 (0.6~2 mm) 多く、少量の赤色風化礫の粗粒砂を含む。灰白 2.5 YR 7/3。内面墨ナヂ。鶴嘴型ナヂ。	摩耗者。側以下調査不明。
*	52	*	土師器 カマド					チャート粗粒砂を多量に含む。チャート細粒砂、火山ガラスを含む。灰白 2.5 YR 7/1。内面は自然地。内面ナヂ仕上。	E 群。内外とも一部塗け。全体に二被熱。
7	53	*	円筒観					灰白、内面は輪形ナヂ底。画面には工具の切り込みによつて五方形の溝と穴を開ける。内側は削たないものの、海老と陸部は鋸歯型に分かれる。底部に摩耗。底部は使用により平滑。	
*	54	*	須恵器 皿 A	15.2		12.0		長石の粗粒砂、チャート、黒色粒(赤色風化礫)の粗粒砂を含む。灰白 2.5 YR 7/1。	
*	55	*	*	16.4		12.7		チャート、赤色風化礫(須恵)の粗粒砂を含む。灰白 5 YR 7/1。外底ナヂ。	
*	56	*	*	15.7	2.5	13.0		チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。灰白 5 YR 7/1。外底ハラ型後ナヂ。内底は多方削りナヂ。	駆上、燒成やや不良。
*	57	*	須恵器 皿					灰白 2.5 YR 8/1。輪状溝み。外面に自然地。内面ナヂ仕上。	燒成堅密。一部火燐れあり。
*	58	*	須恵器 皿	16.8	1.6			チャート細粒砂、少量の黑色粒を含む。灰白 2.5 YR 7/1。外底全面回転タグリ。天井部内面多方削りナヂ。	一部火燐れあり。
*	59	*	須恵器 皿					駆上。輪状溝。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。灰 7.5 YR 6/1。	
*	60	*	須恵器 杯 A	11.8	3.4	9.0		駆上。輪状溝。赤色風化礫の粗粒砂、反石粒砂を含む。灰白 5 YR 7/1。外底泥混部、若干粘土は出し。	

Fig. No.	種類 番号	出土地点	器 種	法 量 (cm)			特 徴	備 考
				口径	容 量	周 長		
7	61	SK2 下層	須恵器 杯A	13.4	3.0	9.8	チャート細粒砂を含む。オリーブ灰5GY5/1。外底へ ナ埋入。内底無ナ。	
8	62	夕	◆	15.7	3.5	11.4	チャート細粒砂・小窓 (-2mm)、赤色風化礫の粗粒砂 を含む。灰白5Y5/2。	焼成不良。表面は摩耗顯著。
9	63	夕	◆	15.0	3.7	9.0	赤色風化礫、チャートの粗粒砂。火山ガラスを含む。 灰7.5Y4/4。外底へラ切後ナ。内底に回転ナジ痕残す。	摩耗あり。
10	64	夕	◆	15.4	3.6	10.1	地上・棒脚。長石粒 (-2.5mm) を含む。灰白2.5Y7/1。 内底無ナ。	
11	65	夕	須恵器 杯B	14.5	4.1	10.8	チャート細粒砂・小窓 (-2.5mm) を含む。灰白2.5Y8/1。 外底無ナ。	
12	66	夕	◆			10.0	チャート細粒砂・小窓 (最大7mm) を含む。灰色。外底 は高台貼付前で回転ケズリ。内底は多方向のナ。	焼成良好。
13	67	◆	須恵器 杯B	14.1	3.8	9.8	白石細粒砂・小窓 (-2.5mm) を含む。黒色を比較 的多く含む。質白10BY5/1。内底無ナ。外底無土様 跡。ヘラ切後ナジ痕を残す。他は全て回転ナ (回転台右回 り)。	
14	68	◆	◆	12.6	4.1	8.4	地上・棒脚。長石・石英細粒砂を含む。灰白2.5Y7/1。 外底へラ切後。高台は外から内へ丸着、回転ナ。	
15	69	◆	◆	13.9	3.8	9.4	長石・石英細粒砂・小角窓 (-2.5mm) を含む。内面灰 白2.5Y7/2。外底へニイ黄赤 10YR7/3。高台は外へひき 出る。	外側やや風化色。
16	70	◆	須恵器 底部			12.4	長石・赤色風化礫 (褐色) の粗粒砂を含む。灰色。 高台は粘土層を回転。アシナがら压出。	
17	71	◆	須恵器 杯B			11.1	地上・棒脚。長石・赤色風化礫の粗粒砂。火山ガラスを含 む。外底無ナ。外底はラ切後ナ。体部外側のみ、ナ ジ跡によつて回転ナジ痕が沿されている。	
18	72	◆	◆	18.7	5.5	11.8	長石・質白の粗粒砂・薄色灰 (赤色風化礫) を含む。 灰白。外底は多方向ナ。外底上部1.5cmの粘土層を残す。	外底のみがやや焼成不良。 高台は内へ向けてひき出る。
19	73	◆	◆	19.8	5.3	13.9	チャート・赤色風化礫の粗粒砂 (-2.5mm)、火山 ガラスを含む。オリーブ灰2.5GY5/1。外底・頭部・ズ ムリ (回転台右回り) 未開口。内底、多方向の擦度、弱い ナジ痕。他は全て回転ナ。	
20	74	◆	須恵器 小皿			6.2	地上・棒脚。灰石細粒砂・小角窓 (-4.5mm)、少部分の黒粒 細粒砂を含む。内面には強い回転ナジ痕を残す。黒褐色 の付着物。外底は弱いナ。自然崩落。	
21	75	◆	須恵器 短頸壺	7.1			長石・石英・赤色風化礫の粗粒砂を含む。灰色。	
22	76	◆	製陶上器				泥岩、チャートの小円窓 (-2mm) を含む。橙7.5Y8/6。 内底は青灰。	
23	77	◆	須恵器 はそう				地上・棒脚。砂利をほとんど含まない。褐灰10YR5/1。 外底のみ自然剥がれくらか心 (は継ぐに漏い部分あり)。 外底のローリー・頭部にタガ方向のヘラ切跡。	焼成良。
24	78	◆	須恵器 はそう				長石細粒砂・石英細粒砂・黑色風化礫粗粒砂を含む。灰N 6/0。	
25	79	◆	◆			13.2	チャート・細粒砂を含む。灰黄2.5Y7/2。3方1段造 成。	焼成不良で摩耗顯著。
26	80	◆	須恵器 高杯押			12.8	地上・棒脚。赤色風化礫の粗粒砂・火山ガラスを含む。明 青褐10YR7/6。体部回転ナ。他は不明。	
27	82	SR2 最下層	土師器 皿	12.5	1.6	7.6	地上・棒脚。赤色風化礫の粗粒砂・火山ガラスを含む。明 青褐10YR7/6。体部回転ナ。他は不明。	
28	83	◆	土師器 皿A	14.1	2.0	10.4	チャート・赤色風化礫の粗粒砂・火山ガラスを含む。 地上青褐7.5Y8/4。外底へラ切後。体部回転ナ。他は 不明。	
29	84	◆	◆	15.8	1.8	10.3	地上・棒脚。赤色風化礫の粗粒砂・火山ガラスを含む。 地上青褐7.5Y8/4。外底へラ切後丁度ナナナ。ローリー回転ナ。	
30	85	◆	◆	16.4	2.6	13.0	地上・棒脚。赤色風化礫の粗粒砂・火山ガラ スを含む。橙7.5Y8/6。外底へラ切後。体部回 転ナ。内底無ナ。	摩耗顯著。
31	86	◆	◆	18.1	2.4	14.7	橙7.5Y8/6。回転ナジ痕。体部内側に巾約3mm前後の 擦度1ギザ。内底無ナ。	
32	87	◆	土師器 蓋	17.0	3.6		地上・棒脚。チャート・細粒砂・赤色風化礫の粗粒砂を 含む。橙7.5Y8/6。外底無ナ。	
33	88	◆	◆	16.8	2.8		地上・棒脚。チャート・細粒砂・赤色風化礫の粗粒砂を 含む。橙7.5Y8/6。内底非常に平滑。	摩耗顯著。
34	89	◆	土師器 杯A	13.0	4.1	7.6	チャート・赤色風化礫の粗粒砂 (-2.5mm)、火 山ガラスを含む。橙7.5Y8/6。外底へラ切後ナ。体 部回転ナ (回転台右回り)。	内底不規。
35	90	◆	◆	13.5	3.0	9.0	地上・棒脚。チャート・赤色風化礫の粗粒砂・火山ガラス を含む。橙7.5Y8/6。体部回転ナ。内・外底 (外底 側) 1.5-2cmの弱い擦度1ギザ。	
36	91	◆	須恵器 杯A	13.0	3.3	8.1	長石細粒砂・チャート・赤色風化礫の粗粒砂を含む。 にぶい黄青10YR5/4。外底へラ切後ナ。内底中央に ヒトナ。	一部風化色。
37	92	◆	土師器 杯	14.6	3.7	9.7	地上・棒脚。チャート・赤色風化礫の粗粒砂を含む。に ぶい黄青10YR7/4。内底中央にヒトナ。外底へラ切底。	

Fig. No.	拂岡 番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
				口径	器高	側径	底径		
8	93	SR 2 最下層	土鉢器			16.6		チャート細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄橙10 YR7/3。外底が極めて平滑。他は小溝。	外底まで全面赤彩。I群。焼成良好。墨耗顕著。
*	94	*	須恵器 杯B	12.8	4.8		7.8	長石颗粒砂～小角津（~4mm）を含む。灰色。立上がり 外面に側溝。	焼成良。
*	96	*	須恵器 蓋	12.0	(2.8)			長石、石英の細粒砂を含む。灰白7.5Y7/1。天井内 面小溝。	全体が墨む。前面に厚い自然釉と、背後物。外側に沿着痕。
*	97	*	須恵器 蓋	19.4				長石、石英、黒色粒（赤色風化層）の細粒砂一小角津（~ 2.5mm）を含む。灰白5Y7/2。外側右下に平行タタキの 痕跡。肩部内面より指頭圧痕が規則的に並ぶ。	自然釉が上方より降着。
*	98	*	*	23.0				粘土構造。長石、黒色粒（赤色風化層）の細粒砂を含 む。オリーブ黄5Y6/3。	焼成良好。全体に自然釉（上面 が厚い）。

※ 底部「余切」と記したもののうち、幕張余切と見られるものはない。
※ その他の、128ページに準ずる。

遺物観察表（鉄器・土鍤）

Fig. No.	拂岡 番号	出土地点	器種	法量(cm)				特徴	備考
				全長	全幅	全厚	孔径 重量(g)		
7	81	SR 2 下層	鉄器	(5.1)	2.0	0.3	5.1	穴掘。	
5	17	SR 2 上層	有溝土鍤	8.6	4.0	4.2	131.1	筋土柄端。チャート、赤色風化層の細粒砂一小角 津、火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。指頭圧痕を残す。	全体に墨耗、欠損あり。
*	18	*	管状土鍤	5.5 直徑 2.0		0.6	15.3	チャート細粒砂、少量の赤色風化層の細粒砂、 火山ガラスを含む。橙7.5YR7/6。心棒底形、片 側に側溝。側面取扱。指頭圧痕を残す。焼成前の のキズが多く。	
*	19	*	*	3.7	1.1	0.3	3.5	粘土構造。少量のチャート細粒砂と小塊（~2mm）、 赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。にぶい 黄橙10YR7/3。心棒底形。	全体に墨耗。特に両端は欠損、 墨耗。
7	76	SR 2 下層	*	3.9	1.2	0.4	4.4	チャート細粒砂を含む。にぶい黄橙10YR7/4。 端部面取扱。端は欠損。	
8	95	SR 2 最下層	*	5.9 直徑 2.7		0.6	34.4	泥岩、チャート、赤色風化層の細粒砂一小塊（~ 2mm）、火山ガラスを含む。心棒底形。	全体に墨耗顕著。半分が暗色化。 一端欠損。

2. F区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要 (Fig. 9~11)

遺跡中央や北寄りに設定された東西方向の調査区で幅2.4~4m、延長62mを測る。東端は本調査に先立つ試掘区と一体となっている。東部で自然流路SR2が斜交するが、それより西側に向かっても流路による堆積がみられる等、他区とは様相を異にする。また調査区中央部から東半にかけて存在するⅩ層は、シルトの下層に小礫と古墳時代後期の遺物が地山にはりついたような状態で検出され、当該期に付近が流路化したことを示す。西半では地表面がやや高まっており、弥生~古墳時代後期の遺構が検出された。しかし、西端は表土直下から物部川による河川堆積がみられ、ST8やSB2は一部が破壊されている。なお、各包含層よりの出土遺物は抽出してFig. 20に示す。

② 基本層準 (Fig. 11)

I層：耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。

II層：旧耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。

III層：橙色を含む灰色粘土質シルト。少量の遺物を含む。他区のⅢ層と対応し、遺跡内に安定して堆積している。Ⅲ'層：Ⅲ層に礫を含む。

IV層：褐灰色粘土質シルトにMn粒を含む。古代を下限とする遺物を含む。IV'層：灰褐色粘土質シルトにMn粒を含む。

V層：黄灰色シルトにMn粒を含む。古代を下限とする遺物を含む。

VI層：灰褐色粘土質シルトにMn粒を多量に含む。古代を下限とする遺物を含む。他区のIV層に対応し、遺跡内に安定して堆積するものとみられる。

VII層：灰色を含む暗赤褐色粘土質シルト。弥生時代遺物を多く含む。

VIII層：Mn粒を多量に含む灰褐・黒・灰黄色が塊状に混ざる粘土質シルト。調査区中央西寄りでのみ確認できた。

IX層：灰褐色シルトに数mm大の礫を含む。調査区中央部から東にかけて確認できた。古墳時代後期を下限とする遺物を含む。

X層：砂と灰色粘土質シルト・地山土が混ざる。弥生土器片を含む。

XI層：1層-砂礫層。2層-灰・黒・黄色が塊状に混ざる粘土質シルト。数cm大の礫を含む。

3層-褐灰色粘土質シルトに黄色粘土質シルト・砂が塊状に混ざる。

XII層：灰色を含む赤褐色粘土質シルト。弥生土器片を多量に含む。

地山：にぶい黄褐色シルト質粘土。

(2) 弥生時代の検出遺構と遺物

① 積穴住居

ST8 (Fig. 12)

調査区西端に位置し、北西部を河川擾乱によって破壊されている。確認範囲が狭いため平面プランは明確でないが、中央ピットを中心にある円形住居と仮定した場合、直径は7.8mとなる。SB2

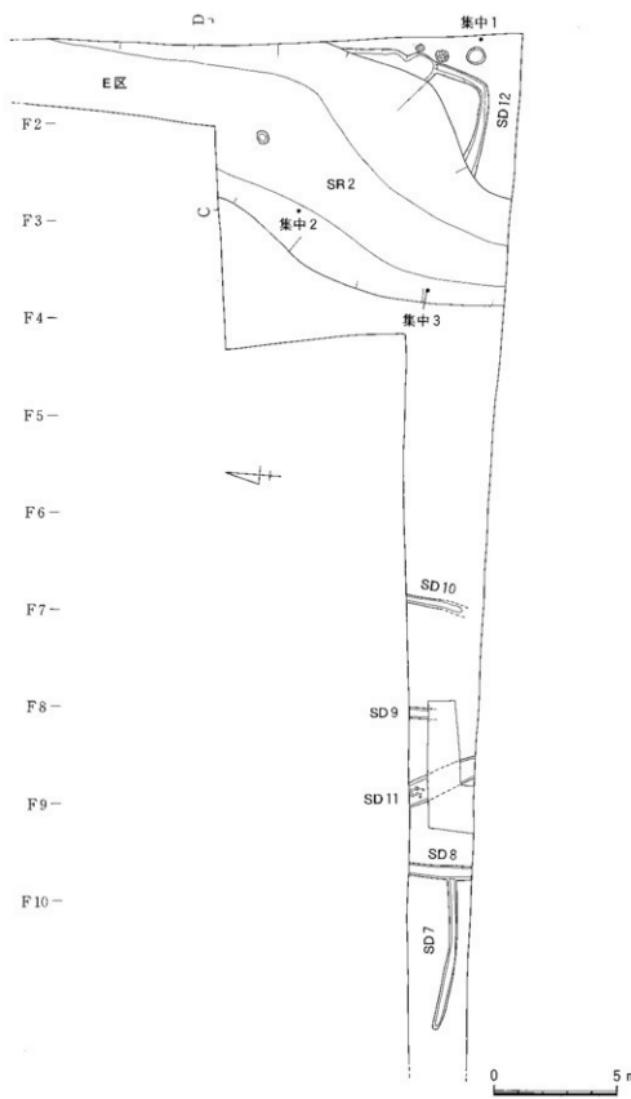


Fig. 9 F区検出遺構全体図（上層）

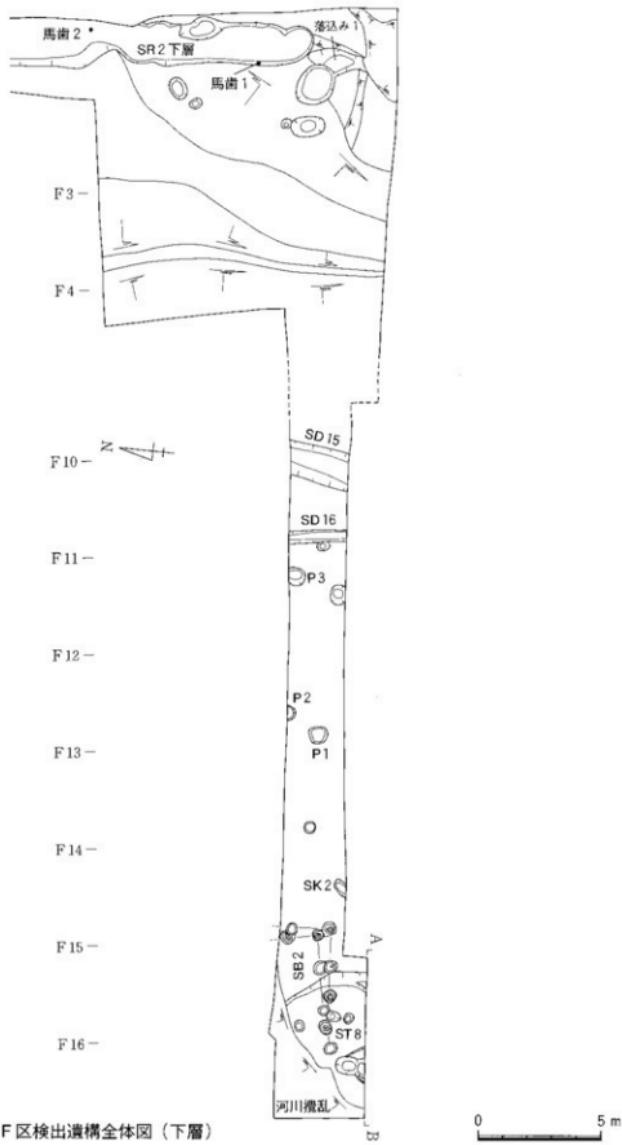


Fig. 10 F 区検出遺構全体図（下層）

0 5 m

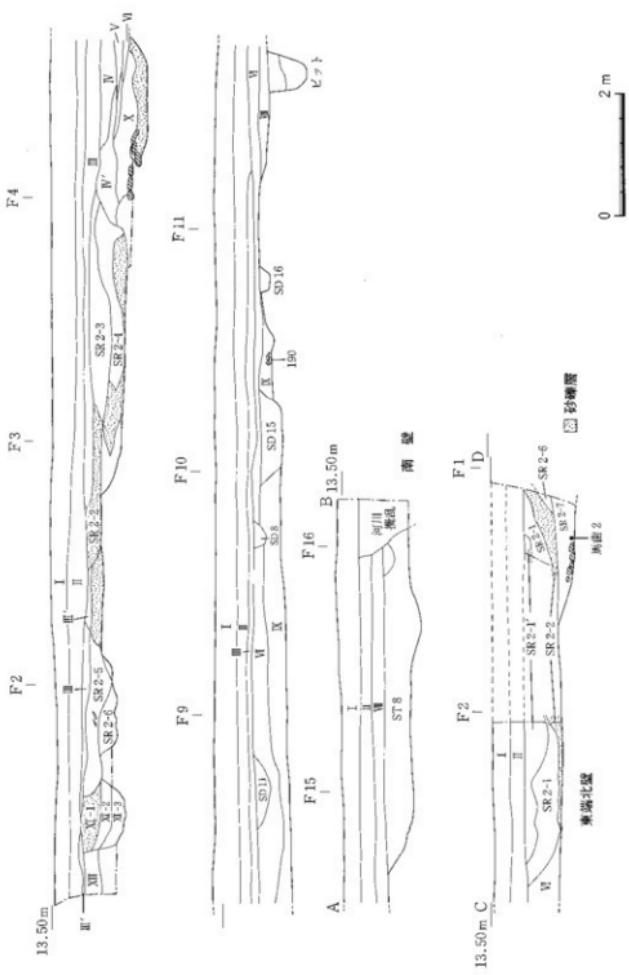


Fig. 11 F区基本圖掌

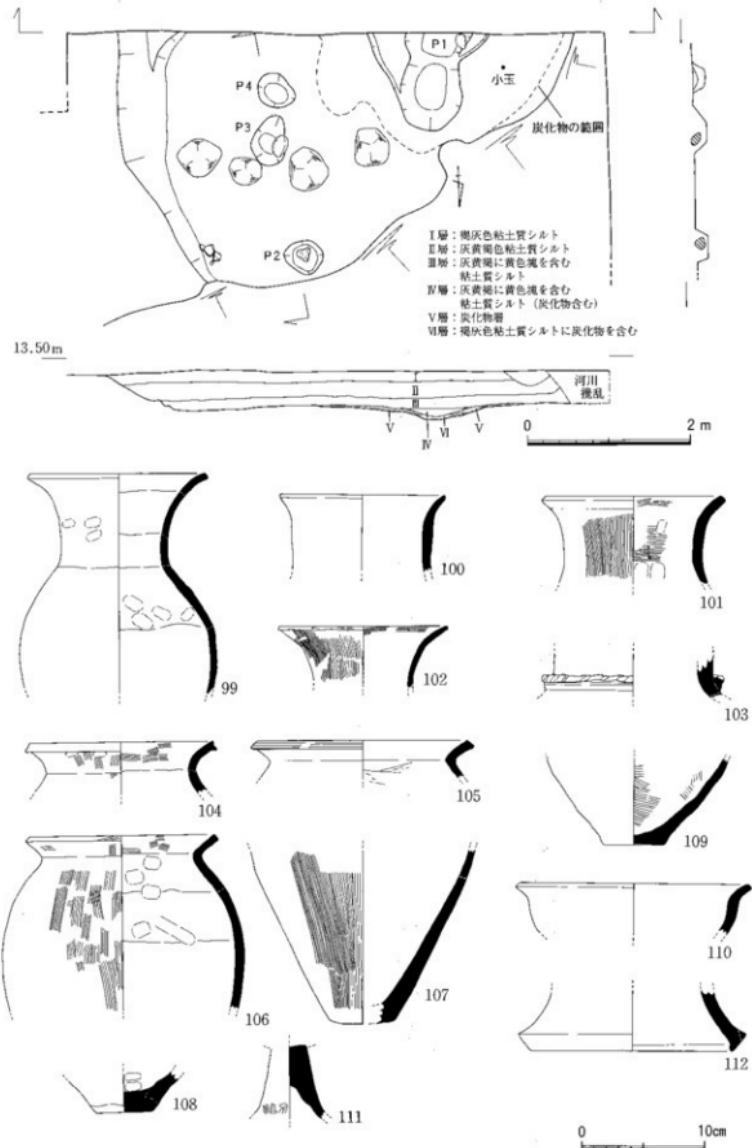


Fig. 12 ST 8 平面・セクション・エレベーション図
及び出土遺物実測図

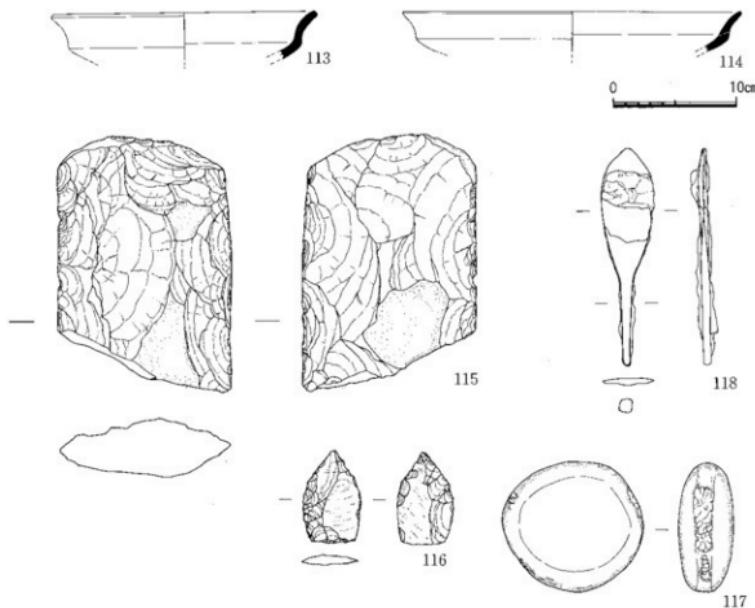


Fig. 13 ST 8 出土遺物実測図 (115・118は縮尺1/2、116は2/3、117は1/4)

に切られる。深さは40cm前後を測り、床面はほぼ平坦である。主たる埋土はI～III層であり、IV～V層は中央ピットの埋土である。P 1が中央ピットで、楕円形のピットが2つ繋がったような形状を呈す。断面は浅いU字型で、深さは16cmと20cmを測る。中央ピットを中心に直径3m余りの範囲で、厚さ5cmまでの炭と焼土の広がりが認められた。P 2、P 3には15～25cm大の川原石が入っていた。P 2からは壺底部(108)が出土している。

出土遺物は壺、壺、鉢、高杯、石鎌、打製石斧、叩き石、鐵鎌、ガラス小玉である。口縁部の点数で見ると壺49点、壺28点、鉢3点、高杯6点と壺が非常に多い。その他に底部50点、高杯脚部5点と多数の遺物が出土しているが、床面より出土した遺物で図示できたものは無く、殆どが埋土中からの出土で、I層上層から出土したものも多い。また細片が多く、比較的よく復元できる土器にはI層上層出土のものが多い。さらに殆どの土器には摩耗が見られる。各石器、鐵鎌、ガラス小玉は各1点の出土で、ガラス小玉が中央ピット西側の床面直上、他は全て埋土からの出土である。また、胎土に雲母を含み他地域からの搬入品と考えられる土器片が2点、埋土中より出土している。弥生後期II-1期に属する。

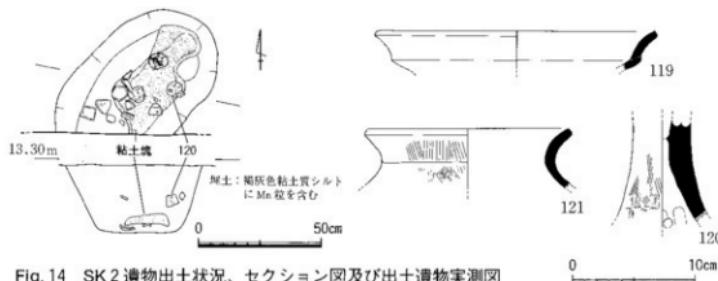


Fig. 14 SK 2 遺物出土状況、セクション図及び出土遺物実測図

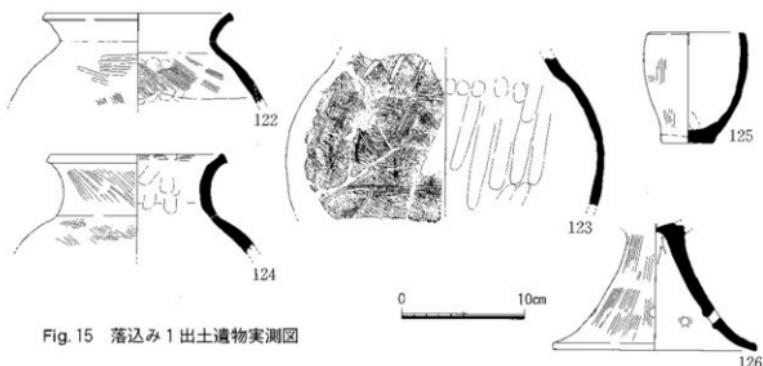


Fig. 15 落込み 1 出土遺物実測図

② 土坑

SK 2 (Fig. 14)

調査区西部の南壁際で検出され、一部は調査区外である。平面形は短軸47cm、長軸約80cmの楕円形を呈すと思われ、深さは57cm、横断面は逆台形である。遺物は甕口縁部4点、高杯口縁部1点、同脚部1点、底部4点である。土器片中には、内面にヘラ削りが認められるものが存在する。高杯脚部(120)は外面から2次的に被熱している。また、遺構下層には、厚さ4cm前後のぶい黄色粘土塊が認められた。弥生後期II期に属する。

③ その他

落込み 1 (Fig. 10・15)

調査区東端に存在した。SD 12、SR 2 に切られ、大きく破壊されており、SR 2 底にみられた窪みの一部である可能性も残るが、弥生土器のみが集中して出土しているので弥生時代の所産として本項で扱う。幅1.4m、深さ26cmを測り地山に掘り込まれている。埋土は褐色粘土質シルト単純一層である。北西側に長軸1.7m、深さ70cmを測り類似した埋土を持つ円形の落ち込みが接しているが、落ち込み1との切合の関係等性格は不明であった。

(3) 古墳時代後期の検出遺構と遺物

① 堀立柱建物

SB 2 (Fig. 16)

調査区西端で検出した東西棟で、北側は調査区外だが、北西部は物部川によって破壊されていた。西部はST 8に掘り込まれていた。方向をずらせて建替えを行ったとみられ、先行する方をSB 2-a、後にする方をSB 2-bとする。

SB 2-aは梁間1間(1.26m)、桁行3間(4.7m)分が確認でき、棟方向はN-84°-Eである。桁行の柱間寸法は、1.5-1.6mである。柱穴は円形を基調とし、直径36cm-65cm、深さ40-54cmを測る。柱径は十数cmみることができる。

SB 2-bは梁間1間(1.6m)、桁行3間(4.0m)分が確認でき、棟方向はN-88°-Wである。P 1、2、3でSB 2-aを切っている。桁行の柱間寸法は1.26-1.5mである。柱穴は円形を基調とし、直径45cm-62cm、深さは全て約42cmと揃っている。柱痕径は十数cmである。なお、SB 2-aのピットのセクションでは柱痕は確認されず、SB 2-bでは半截した全てのピットで柱痕が確認された。

出土遺物は、SB 2-a-P 5より127、SB 2-b-P 1より128が出土した。その他、須恵器壺、杯蓋、多数の弥生土器、胎土に角閃石を含む搬入の弥生土器の細片が出土している。

② 溝

SD 15 (Fig. 10・11)

調査区中央部で検出された南北方向(N-11°-E)の溝で、2.5mを確認したが調査区外へ延びる。幅1.5m、深さ36cmを測り、断面は逆台形を呈する。埋土は褐灰色粘土質シルト単純一層である。確認範囲内では傾斜方向は判断できない。遺物は須恵器壺や弥生土器片が出土している。古代の須恵器壺の小片が1点出土しているが、壺(131)の存在と遺物の磨耗状態等がSD 16に似ることから、壺1点は混入と考える。

SD 16 (Fig. 10・11)

調査区中央部で検出された南北方向(N-4°30'-W)の溝で、2.36mを確認したが調査区外へ延びる。幅50cm、深さ23cmを測り、断面は逆台形を呈する。埋土は灰褐色粘土質シルトに地山土をブロック状に含む単純一層である。北端底のレベルは南端より約2cm低い。遺物は129・130をはじめ須恵器壺や弥生土器片が出土しており、弥生土器と須恵器壺片には摩耗の著しいものがある。

③ ピット群 (Fig. 16)

調査区西半で6基のピットを検出した。このうちでセクションと出土遺物が良好な3基を抽出し、計測表を示す。出土遺物を図示し得たのはP 3のみで、他からは弥生土器又は土師器の細片のみが出土している。P 3からは須恵器壺片も出土している。なおこれらピット群はいずれもⅣ層除去後に検出され、埋土も互いに類似する。

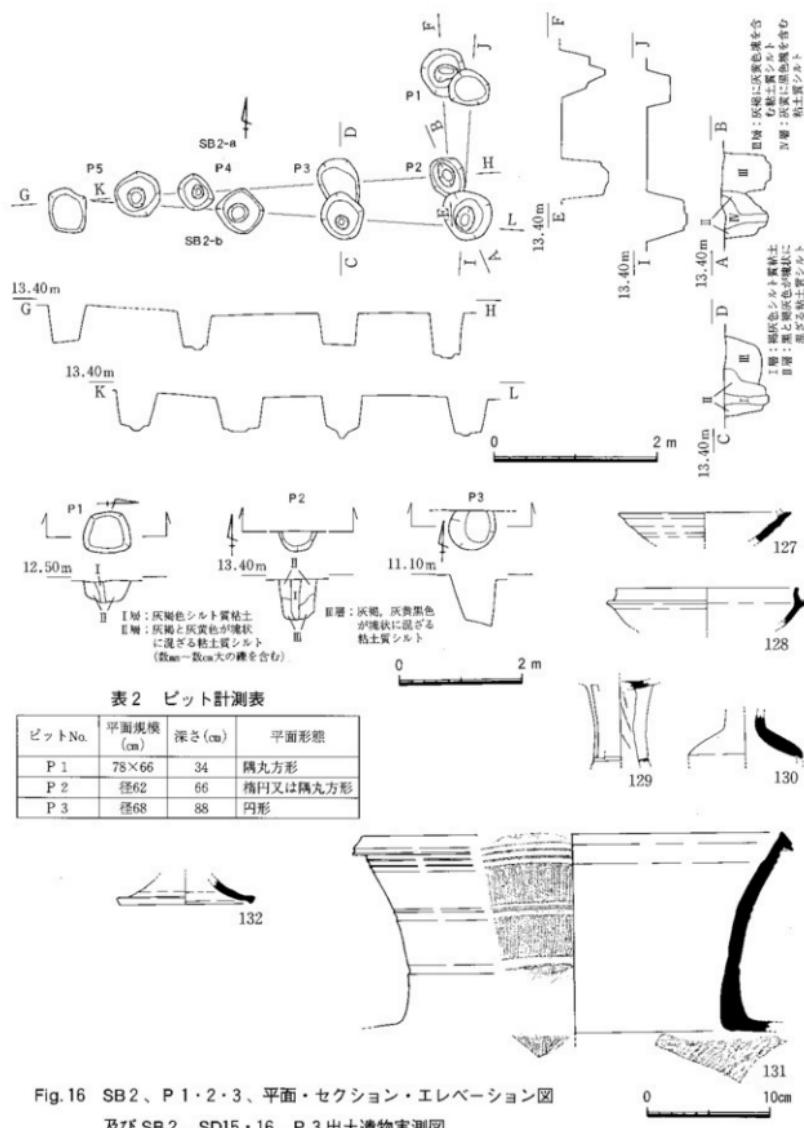


表2 ピット計測表

ピットNo.	平面規模 (cm)	深さ(cm)	平面形態
P 1	78×66	34	隅丸方形
P 2	径62	66	端円又は隅丸方形
P 3	径68	88	円形

Fig. 16 SB2、P 1・2・3、平面・セクション・エレベーション図

及び SB2、SD15・16、P 3 出土遺物実測図

(4) 古代の検出遺構と遺物

① 溝

SD 7～10 (Fig. 9・11)

検出された 6 条の古代に属する溝のうち、調査区中央部の VI 層上面で検出された SD 7～10 は、その規模、方向、埋土に共通性がみられる。これら 4 条の規模等は下表に示す。何れも断面形は舟底状を呈し、埋土は黄褐灰色粘土質シルト単純一層である。土師器、須恵器壺、杯口の破片が出土しているが、図示できるものは僅かである。土器片は摩耗の著しいものが多い。

表 3 SD 計測表

SD No.	方 向	幅 (cm)	深さ (cm)	確認延長 (m)
7	N-92 及び 95°-W	40	5	6.2
8	真北	60	20	2.1
9	真北	45	13	0.8
10	N-8°45°-E	40	14	2.4



Fig. 17 SD10・11・12出土遺物実測図

SD 11 (Fig. 9・11)

調査区中央部東寄りで検出され、方向は N-27°-W、幅 95cm、深さ 26cm、確認延長 3 m を測る。断面形は緩やかな舟底状を呈す。埋土は黄褐灰色粘土質シルト単純一層で、北半で 10 数 cm 大の石を含む。SD 7～10 と同じく VI 層上面で検出した。遺物は須恵器壺、高杯、土師器片が出土しているが図示したのは 135 のみであり、土師器片は摩耗が著しい。

SD 12 (Fig. 9・11)

調査区東端で検出した L 字型に屈曲する溝で、方向は N-16°-E 前後である。SR 2 に切られる。幅 35～60cm、深さ 17cm、確認延長 5.7m を測り、断面形は舟底状を呈す。埋土は黒色と赤褐灰色が混ざる粘土質シルトで、SR 2-6 層と区別困難であった。地山上面で検出した。遺物は 136 の他、若干の弥生土器片が出土しており、その中には高松平野からの搬入品が 1 点含まれている。

② 自然流路

SR 2 (Fig. 9・11・20)

C 区から本区、さらに南へ続いていると考えられる流路である。規模並びに 4 層以上の出土遺物

については、C・E区の項に記した。当区では基本層準にみられるごとく、4層よりさらに下層の部分が検出された。5層は灰色粘土質シルト。6層は赤褐色と黒褐色が塊状に混じり、数cm大の石を含む粘土質シルトで、南部で弥生土器片を多量に含む。7層は灰色に赤褐色を含む粘土質シルトに地山土をブロック状に含む。この5～7層に相当する部分は底に複雑な窪みや段を持ち、上層部とはやや方向を逸て当区外南方へ延びる。Fig. 20ではSR 2-5～7層出土遺物を示す。SR 2-5～7層からは弥生時代後期前葉、古墳時代後期、及び少量ながら古代の遺物が出土している。また2ヶ所よりウマの歯が出土しているが、馬歯1では1頭分が整然と揃って出土した。

(5) 遺物集中

① 弥生土器集中 (Fig. 9・18～19)

調査区南東隅及びSR 2底で弥生土器の集中が見られた。尚、当地点は先述したように試掘区であった為、遺構の有無について不明確な要素が多い。集中の土器は摩耗度等の状態も比較的良好であることが検出時より看取できた。集中1は調査区南東隅部の地山上面で検出され、高松平野からの搬入品を含む。SR 2底で検出された集中2は、その後の取り上げ過程において一定量の遺物が深さ約40cmにわたって重なった状態で出土した。つまり取り上げ時には深さ約40cm、幅約1.7m前後を掘り込まねばならなかった。また出土遺物には、残存度や摩耗度において比較的良好なものが多く含まれる。これらのことから、検出できなかったが、落込み或いは何らかの遺構であった可能性もある。これら集中出土遺物は、何れも弥生後期に属する。

(6) 包含層出土遺物 (Fig. 20)

各包含層より多量の遺物が出土しており、抽出して示す。

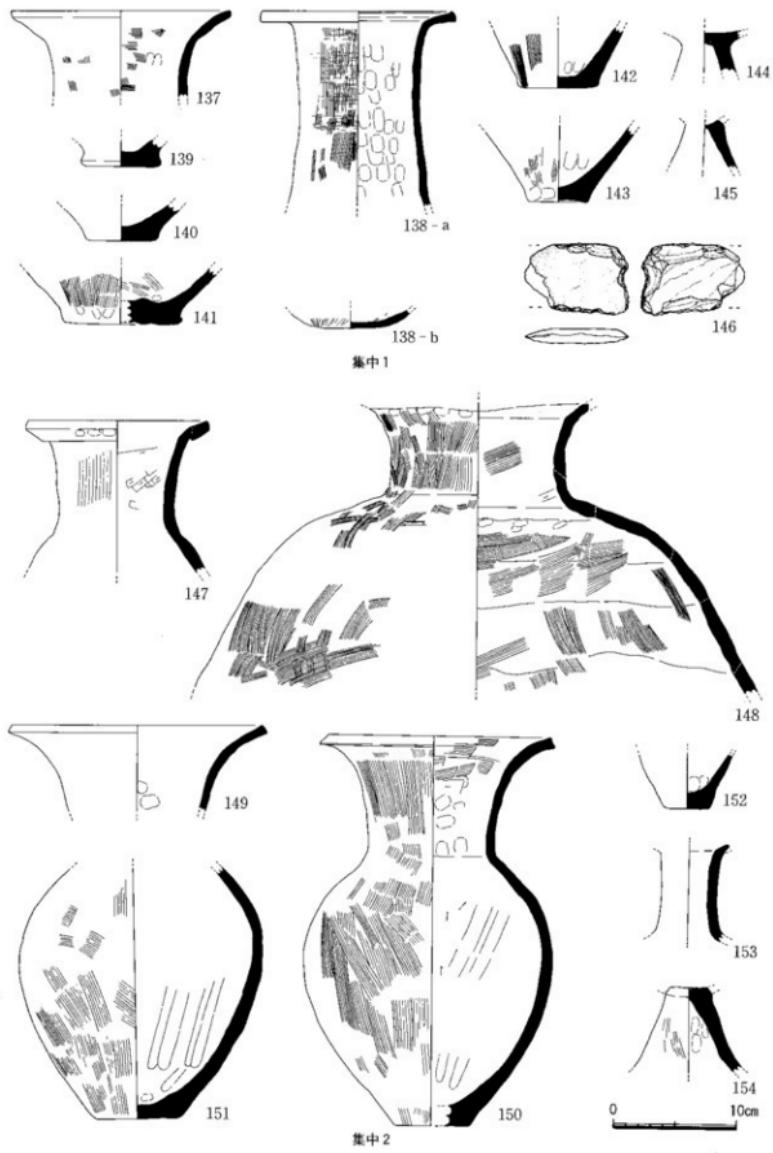


Fig. 18 集中1・2出土遺物実測図 (146は縮尺1/3)

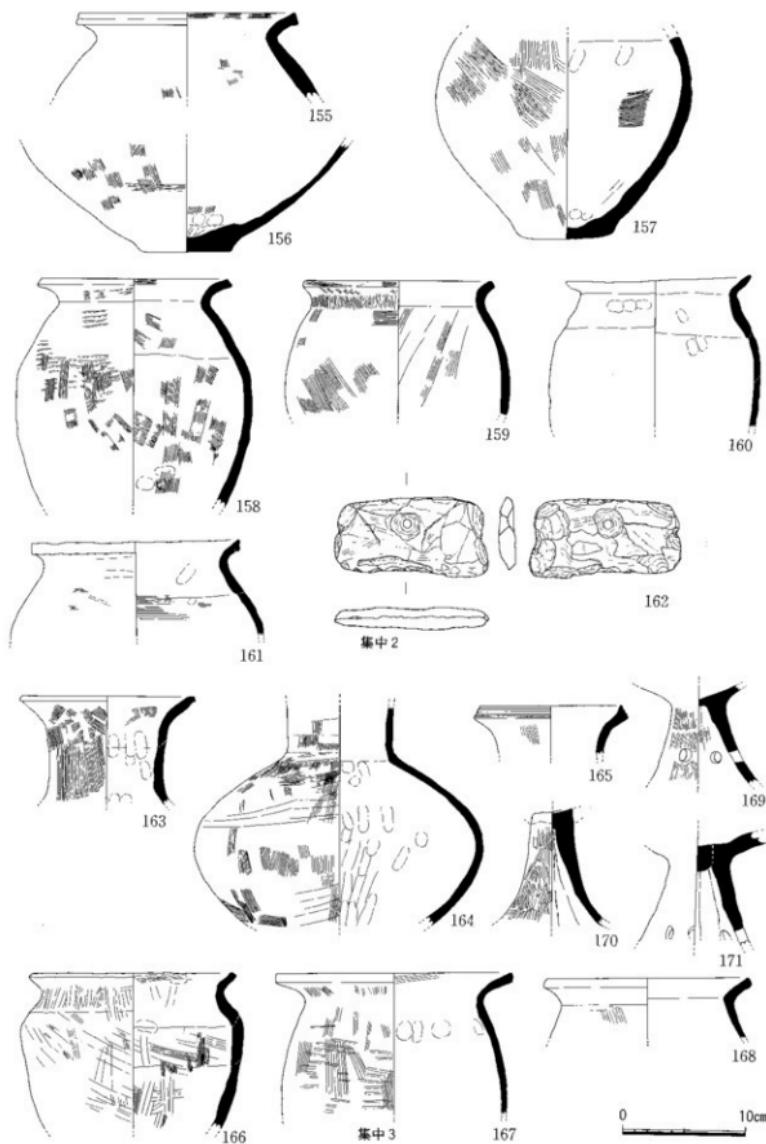


Fig. 19 集中2・3出土遺物実測図 (162は縮尺1/3)

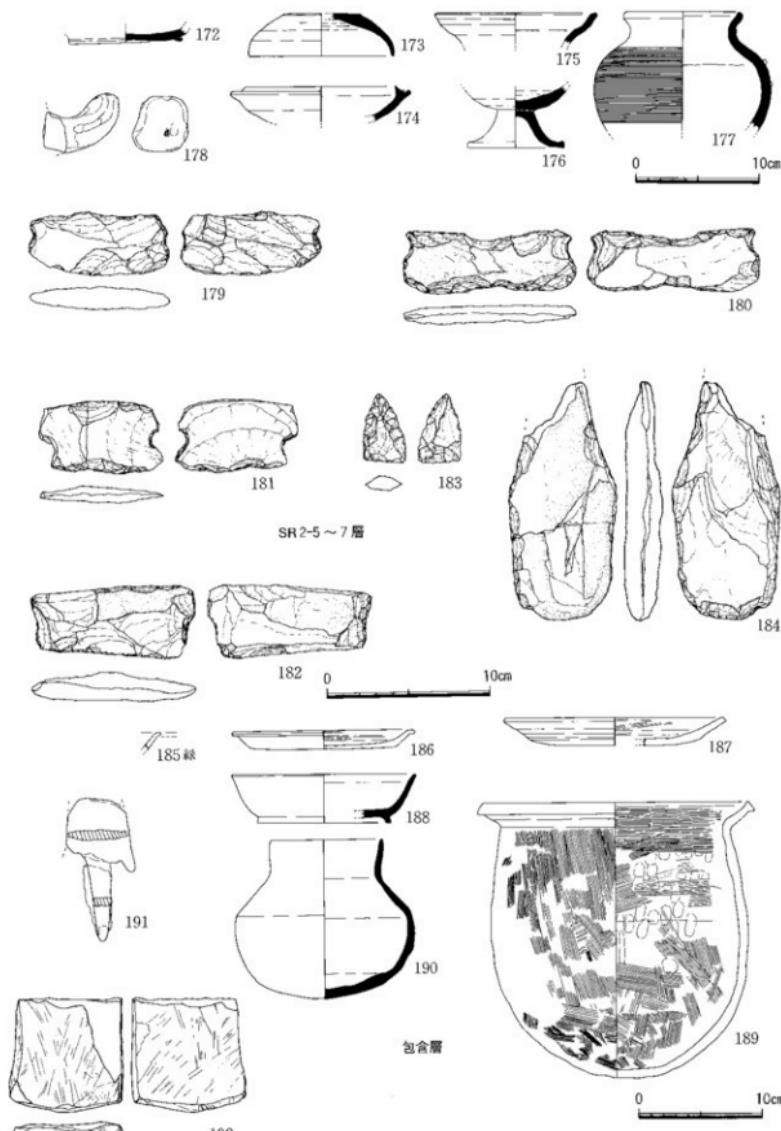


Fig. 20 F 区 SR 2-5 ~ 7 層、包含層出土遺物実測図

(縮尺は土器1/4、179~182・184・192は1/3、183・191は1/2)

遺物觀察表（土器）

Fig. No.	標 名 番 号	出 土 地 点	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備 考
				口径	底高	腹径	底径		
12	99	ST 8	弥生土器 壺	14.2		16.0		チャート粗粒砂、長石細粒砂、赤色風化礫を含む。徑 7.5 YR 7/6。全面摩耗、腹部頗る困難。外縁ハケの可能 性。	下腹部に焼けのような痕あり。
*	100	*	*	13.3				チャート、赤色風化礫の細粒砂・小塊、火山ガラスを含 む。徑 7.5 YR 7/6。口縁外間にわずかに種ナメが残るの み。	摩耗頗者。
*	101	*	*	14.0				チャート、赤色風化礫の細粒砂・小塊、火山ガラスを含 む。徑 7.5 YR 7/6。全面摩耗、ハケ後、頗るナメ。内面は 押圧後、横ハケ。	
*	102	*	*	13.6				チャート、泥岩、赤色風化礫の細粒砂 (- 3 mm)、火 山ガラスを含む。徑 7.5 YR 7/6。口縁端はハケ仕上げ。 口縁内側横ハケ。外縁頗ハケ。	
*	103	*	*					多量のチャート、砂岩、泥岩の小塊 (2 mm 大)、チャート、 砂岩、泥岩、赤色風化礫を含む。徑 7.5 YR 6/6。	内外とも摩耗。
*	104	*	弥生土器 甕	14.8				多量のチャート小塊、長石細粒砂、微量の赤色風化礫を 含む。徑 7.5 YR 6/6。口縁端部をつまみ出で強く横ハケ。	焼成良好。
*	105	*	*	17.2				多量の泥岩、泥岩の細粒砂 (- 1.5 mm)、赤色風化礫の細 粒砂 (- 1.5 mm) を含む。赤色風化礫 5 YR 5/6。内面、頭形 下までアズリ。	焼成良好。擦入品。
*	106	*	*	15.0		19.5		チャート粗粒砂、長石細粒砂、頭部の赤色風化礫を含む。 泥岩等 2.5 YR 5/6。内面に壓痕あり、ケズリの可能性あり り、外縁は局部以外は全て灰け。	
*	107	*	弥生土器			5.2		チャート、泥岩の小塊、チャート細粒砂、長石細粒砂、 火山ガラスを含む。赤褐色 2.5 YR 4/6。微弱な気孔を多く もつ。	焼成良好。
*	108	ST 8 P1	*			4.6		チャート細粒砂・小塊、長石細粒砂を含む。にぶい橙 2.5 YR 4/4。内外に擦痕有。接合部に内面より押圧。外 縁は接合部、赤色。	摩耗頗者。
*	109	ST 8 埴土層 全体		(14.6)	7.1	5.0		多量のチャート小塊、長石細粒砂、赤色風化礫を含む。 にぶい黄褐色 10 YR 7/3。内面相手ハケ。	外面表面の摩耗頗者。
*	110	ST 8	*	18.3				チャート、砂岩、泥岩の細粒砂・小塊、赤色風化礫の細 粒砂。火山ガラスを含む。徑 7.5 YR 7/6。	摩耗頗者。
*	111	*	弥生土器 高杯			5.9		チャート粗粒砂を含む。灰白 5 YR 8/2。分割形成。一部 にミガキが残る。	器表の摩耗頗者。
*	112	*	*	16.0				多量のチャート粗粒砂、赤色風化礫、長石の細粒砂少量 を含む。徑 7.5 YR 7/6。	全面摩耗頗者。
13	113	*	弥生土器 高杯	21.2				チャート小角壺・繩紋陶、砂岩小円錐、赤色風化礫の細 粒砂を含む。徑 7.5 YR 7/6。	摩耗により、調整困難。
*	114	*	*	27.7				チャート、泥岩、砂岩の細粒砂 (- 2.5 mm)、赤色 風化礫の細粒砂 (- 1 mm)、長石細粒砂を含む。にぶ い黄褐色 10 YR 5/4。	内外とも摩耗頗者。
14	119	SK 2	*	22.4				チャート角壺、赤色風化礫の細粒砂、長石細粒砂、火 山ガラスを含む。にぶい赤褐色 10 YR 5/4。内面と、口縁部 外側に横ナメ。口縁接合部は、前面で非常に明確。	
*	120	*	*					チャート細粒砂・小塊、火山ガラス、少量の赤色風化礫 の細粒砂を含む。灰白 10 YR 8/2。	外縁から 2 次的に摩耗。外面の 2/3 は摩耗頗者。
*	121	*	弥生土器 甕			16.3		チャート、砂岩の小円錐、チャート、赤色風化礫の細 粒砂、長石の細粒砂、火山ガラスを含む。徑 5 YR 7/6。	内面は摩耗頗者。口縁外側採 用。
15	122	落込み 1	甕			14.0		チャート小塊 (- 3.5 mm)、少しの赤色風化礫の細粒砂、 火山ガラスを含む。にぶい黄褐色。腹部外側にいハケを有す。 頭部内側に剥離斑。口縁内面に横ハ ケ。	
*	123	*	*			25.7		チャート、砂岩の小塊 (- 5 mm)、少しの赤色風化礫の 細粒砂、火山ガラスを含む。にぶい黄褐色。肩部、粗い タマゴを捉ハケを有す。内面、接合部に指摩頭底残る。 粗い方向ハケ。	
*	124	*	甕			15.0		チャート、砂岩の小塊 (- 3.5 mm)、赤色風化礫の細粒砂 を含む。にぶい黄褐色。肩部、粗いタマゴを捉ハケを有す。 内面、接合部に指摩頭底残る。	
*	125	*	弥生土器 盆	7.0	9.0	8.5	4.2	チャート、砂岩の小塊 (- 4 mm)、火山ガ ラスを含む。にぶい黄褐色 10 YR 7/4。頭部下に崩壊状 剥離部位に (ハケ集まりによる) 裂状文様のハケ目。内面 底辺のナメ。	外面摩耗。
*	126	*	弥生土器 高杯				16.4	チャート、砂岩の小塊 (- 3 mm)、赤色風化礫の細粒砂、 火山ガラスを含む。徑 5 YR 7/6。分割形成。外面腹側 ハケとミガキ。内面上部側にシボリ目。	内面摩耗。
16	127	SB 2-a P5	重唇 杯身	12.7				長石、黒色粒の細粒砂を含む。灰白色。受盤浦を上方へ 折り返すように凹面ナメ。	受盤径 14.0 cm。
*	128	SB 2-b P1	*	14.6				長石、黒色粒の細粒砂を含む。灰白色。受盤浦を上方へ 折り返すように凹面ナメ。	燒成堅緻。
*	129	SD 16	薄唇 高杯					長石、赤色風化礫 (黑斑) の細粒砂・小塊 (- 1.2 mm) を含む。灰白 5 YR 8/1。	燒成不良。摩耗頗者。
*	130	*	傾倒 甕						

Fig. No.	博団 番号	出土地点	器種	法量 (cm)				等級	備考
				口径	高さ	柄幅	底径		
16	131	SD 15	須恵器 大甕	34.0				汎N%	外縁削ナダ後、タチ方向の傳播文を施す。口縁部から縦内面に横筋板ナダ。縦部内面のみ、2段の通造ナダ。体部内面、同心円当乳突を残す。
*	132	P 5	須恵器 高杯			10.7		長石、黒色粒の繊維状を含む。灰白5Y7/1。	
17	133	SD 10	土師器 甕	13.9				チャート・細粒砂、火山ガラスを含む。櫻7.5YR7/6。圓輪ナダと見られる。	
*	134	*	土師器 甕	17.4	1.6	12.8		極めて精選された軟質の駄馬。赤色風化層の繊維状、チャート・細粒砂を含む。櫻5YR6/6。	素朴器。
*	135	SD 11	須恵器 甕			11.6		良石粗粒砂、チャート、黒粒細粒砂を含む。灰白5Y7/1。外縁削ナダ。底平直。底部に火焔形。	器表は素朴器。
*	136	SD 12	須恵器 高杯					チャート微細粒砂、黒粒細粒砂を含む。灰7.5Y5/1。杯蓋中央は一定方向のナダ。底は全て圓輪ナダ。	
18	137	集中 1	弥生土器 甕	17.6				チャート・角型（-7mm）、火山ガラスを含む。にぶい櫻7.5YR7/4。頬溝外縁、腹位のハケをナデ消す。内面模様は斜方向のハケ痕を残す。	
*	138 a	*	弥生土器 甕	15.4				多量の角閃石、チャート・小角型（-3mm）、赤色風化層の繊維状、少量の透明白母を含む。にぶい黄櫻10YR6/3。塑型、外底に東なハケ消すハケハケと弱いナダ、内面指輪、口縁削ナダ。器底亀裂は斜方向。	収入品。
*	138 b	*	*			6.4		含有物は同上。堆積10YR3/3。内面ケズリ。体部下方外周、斜方軸ヘラミガキ。	同上。成良好。
*	139	*	弥生土器 底部			6.4		チャート、砂岩の小窪（-3.5mm）、火山ガラスを含む。浅黄櫻10YR8/4。	
*	140	*	弥生土器 甕			5.7		チャート、砂岩、赤色風化層の小窪（-4.5mm）を含む。浅黄櫻7.5YR6/6。外縁ナダ。	摩耗。底外に黒斑。
*	141	*	*			9.0		チャート、赤色風化層の小窪（-7mm）。多量の火山ガラスを含む。にぶい櫻7.5YR7/4。外縁削ハケをナデ消す。内面は前方向の粗いハケ目。底底削痕を残す。	
*	142	*	弥生土器 底部			6.4		チャート、赤色風化層の小窪（-3mm）を多く含む。にぶい櫻7.5YR7/4。外縁ハケ。内面指輪痕を残す。	
*	143	*	弥生土器 甕			4.7		チャート・小窪（-5mm）、火山ガラスを含む。にぶい櫻7.5YR7/4。外縁ハケ消す。内面は上方へのナダ。外延に織錦庄跡。	
*	144	*	弥生土器 高杯					チャート、砂岩の細粒砂一小角型（-2.8mm）、火山ガラスを含む。浅黄櫻10YR8/4。杯部内面ミガキ。	摩耗あり。
*	145	*	*					チャート、砂岩の細粒砂一小窪（-3mm）、火山ガラスを含む。黄櫻7.5YR7/6。分割成。	摩耗あり。
*	147	集中 2	弥生土器 甕	14.4				チャート、砂岩、赤色風化層の小窪（-4mm）、火山ガラスを含む。黄櫻7.5YR7/6。口縁外側指輪痕を残す。頭部外周にハケ消す。頭部内面斜方軸ナダ。	全面摩耗。
*	148	*	*					チャート、砂岩の小窪（-4mm）、多量の火山ガラスを含む。にぶい櫻7.5YR6/6。口縫部は接合部より欠損。外縁は頭部・腰位の、体部は多方向のハケ。内面はハケ。接合部に推進圧痕。	頭部外周に大きな黒斑と赤斑。
*	149	*	*	20.2				チャート、砂岩の小窪（-3mm）、赤色風化層の繊維状を含む。浅黄櫻7.5YR8/6。	全面摩耗頭。
*	150	*	*	18.1	31.8	20.3	6.0	チャート、砂岩の小窪（-3.5mm）、火山ガラスを含む。櫻5Y7/6。外縁ハケ。内面：体部上方に横り抜きナダ。頭部は指輪痕・頭・横ケズリ→ナダ、口縫は横ミケ→横ナダ。	外面抜け。一部剥離。
*	151	*	*			19.7	6.8	多量のチャート、砂岩の小窪（-5mm）、火山ガラスを含む。櫻5Y7/6。外縁ハケ。	内外とも摩耗。外面抜け。
*	152	*	弥生土器 底部			3.6		チャート、砂岩の小窪（-4mm）、火山ガラスを含む。櫻5Y8/6。内底に指輪痕。	全面摩耗。
*	153	*	弥生土器 高杯					チャート・小窪（-3.5mm）、多量の火山ガラスを含む。櫻5Y7/6。5Y8/6。	摩耗頭。
*	154	*	*					チャートの小窪（-3.5mm）、多量の火山ガラスを含む。櫻5Y7/6。分割成。外面上にハケ消す。	
19	155	*	弥生土器 甕	17.3				チャート、砂岩の小窪（-5mm）、火山ガラスを含む。にぶい櫻7.5YR7/3。口縫外側は横ナダ。内面指輪ハケ。上胸内外ハケ目をナデ消す。	
*	156	*	*			7.2		チャート、砂岩の小窪（-4.5mm）、火山ガラスを含む。黄櫻10YR8/6。外側に弱いハケを残す。内底は摩耗。	内外ともに摩耗。
*	157	*	*			20.7	7.5	チャート小窪（-4.5mm）、火山ガラスを含む。にぶい櫻7.5/6。外縁ハケ上げ。内面接合部に推進圧痕残す。	まだが、外面抜け。
*	158	*	弥生土器 甕	15.0	19.0			チャート、砂岩の小窪（-4mm）、火山ガラスを含む。櫻5Y7/5。口縫までミカキ。外縁、稚イタクヒテ細かく縦ハケ。内底は横ミカキハケ。	外面抜け。
*	159	*	*	19.0		18.1		チャート、砂岩の小窪（-6mm）を含む。灰黄櫻10YR6/2。内外とも横又は新方向のナダ。外縫接合頭痕。	外面抜け。
*	160	*	*	14.7		16.7		チャート、砂岩の小窪（-6mm）を含む。灰黄櫻10YR6/2。内外とも横又は新方向のナダ。外縫接合頭痕。	L1縫外面 2次被熱赤変。頭部中位以下摩耗・剥離。

Fig. No.	標 名 番 号	出 土 地 点	器 種	法 量 (cm)			特 徴	備 考
				口 径	春 高	調 修		
19	161	集中2	弥生土器 甕	16.8			チャート、呂呂の小縁(~4mm)、赤色風化層の粗粒砂を含む。径5.7YR7/6、口部錐形ナダ。上部部外側面は斜方向へケテナガす。上部部内面は横へケテ痕残す。	
*	163	集中3	弥生土器 甕	13.8			チャート、赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。にいし縁5.7YR7/4。外腹ハケ。内面、口縁部ハケ残す。内面底部ナダ。	
*	164	*	*		23.2		チャート小舟縁(~4mm)、赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。にいし縁5.7YR6/4。外腹ハケ後、横方向のハケナシ現。内面丁寧なナダ。	
*	165	*	*	11.4			チャート、砂呂、赤色風化層の小縁(~3mm)、火山ガラスを含む。径5.7YR7/6。外腹ハケ残す。	摩耗痕。
*	166	*	弥生土器 甕	16.0		17.8	チャート小縁(~2mm)、赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。赤黒色。脚部外側面はコアテ。脚部内面は横方向のハケナシ現。腰部外側底辺のナダ痕消す。口縁部は焼ナナ子認認。	焼成不良。
*	167	*	*	15.0		18.1	チャート小縁(~2mm)、赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。にいし縁5.7YR6/4。	摩耗。外面僅け。
*	168	*	*	16.3			多量のチャート、砂呂、赤色風化層の小縁(~4mm)、火山ガラスを含む。径5.7YR6/4。	摩耗。口縁外側僅。
*	169	*	弥生土器 高杯				多量のチャート、砂呂、赤色風化層の小縁(~6mm)、少量の赤色風化層の粗粒砂を含む。径5.7YR6/4。一休成型。3孔。外腹ハケ無。内面シボ目。	摩耗あり。
*	170	*	*				チャート、砂呂の小縁(~3mm)、赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。径5.7YR6/6。分割成型。外腹ハラミガキ。内面接合部とシボ目。	
*	171	*	弥生土器 高杯				チャート、砂呂の小縁(~4mm)、少量の赤色風化層の粗粒砂を含む。径5.7YR6/6。2孔ずつが並ぶ。5孔。内面丁接合後ヒシリ目。	全面摩耗。
20	172	SR 2 5 - 7層	須恵器 朴B		8.9		チャートの小縁(~2.5mm)を含む。灰白10Y7/1。内底中央に一定凹凸ナダ。	
*	173	*	須恵器 甕	11.8	3.5		チャート小縁(~4mm)を含む。灰白5Y7/1。天井外周部軋ケズリ後、底部をナダ。	
*	174	*	須恵器 杯口身	12.1			長石の粗粒砂を含む。灰5Y6/1。内底多方向ナダ。	受け盤径14.6mm
*	175	*	須恵器 はそう	12.9			チャートの粗粒砂を含む。灰白7.5Y7/1。	焼成不良、摩耗跡。
*	176	*	須恵器 高杯		7.8		杯部と脚部で発育。筋部が異なる。杯部は長石の小縁(~6mm)、脚部は長石の粗粒砂を含む。灰白2.5Y7/1。杯部前面回転ケリ。	
*	177	*	須恵器 甕	9.0	14.3		長石の小縁(~2.5mm)を含む。灰5Y6/1。回転カキ目。	外周面研削。
*	178	*	土師器 把手				チャートの小縁(~3.5mm)、赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。径7.5YR7/6。外面は指觸圧痕、難かいハケ現。	外表面僅け。
*	185	包含層	縄執陶器				粘土選別。石英、長石の粗粒砂を含む。灰白5Y8/2。内面に薄緑色の物。	
*	186	*	土師器 皿A	14.4	1.7	12.0	長石、赤色風化層の粗粒砂を含む。焼黄褐7.5YR8/6。口部部は外へ向けて吹き飛ばせる。体側回転ナダ。内面溝通シガキ。外底ナダ。	1群。外面下部僅け、赤室、剥離。内面上半に黑色の付着物。
*	187	*	*	17.6	2.3	13.8	赤色風化層の粗粒砂、火山ガラスを含む。浅黄褐7.5YR8/6。外腹ナダ。性は回転ナダ。内面は輪広の連続シガキ。	
*	188	*	須恵器 朴B	14.8	4.0	10.8	長石の粗粒砂、火山ガラスを含む。灰白色。内底多方向ナダ。性は全て回転ナダ。	
*	189	*	土師器 甕	21.6	22.5	20.9	チャート、泥質、赤色風化層の小縁(~4mm)、火山ガラスを含む。径5.7YR7/6。外腹タクナ後、上半腹ハケ。下部多方向ハケ。内面指觸圧痕残す。上半横ハケ。下半多方向ハケ。	
*	190	*	須恵器 甕	8.9	13.0	14.5	チャート小縁(~5mm)、黒色粒を含む。灰白10Y8/1。	焼成不良、摩耗跡。

遺物観察表（石器・土器）

Fig. No.	拂因 番号	出土地点	器種	法量(cm)				材質	特徴
				全長	全幅	全厚	重量(g)		
13	115	ST 8	打製石斧	(10.5)	7.1	2.4	207.4	頁岩	中央部で折損。両側縁から両面とも加工。
*	116	*	石鎌	2.8	1.7	0.3	1.9	サヌカイト	平基式無頭石鎌。両側縁に櫛状。
*	117	*	叩石	10.6	11.3	4.3	750.0	砂岩	一側面に敲打痕。
*	118	*	鉄鎌	9.0	2.1	0.5	13.2	鉄	複葉型で側部を持たない。一部鎌が厚いところあり。
18	145	集中1	石包丁	(6.3)	4.4	0.9	28.0	粘板岩	被磨認む。欠損。表面に自然面残す。端部抉入。
19	162	集中2	*	9.5	4.9	1.2	72.5	頁岩	部分的に磨き認む。両側から穿孔。端部抉入。
20	179	SR2 5~7層	*	8.5	3.9	1.4	50.6	頁岩	両長側縁に加工痕残り、ともに摩滅あり。
*	180	*	*	10.4	3.8	1.1	50.9	頁岩	表面に自然面残す。側縁から刃部を作出、両端抉入。両長側縁に2次的加工の可能性あり。
*	181	*	*	7.5	4.5	1.0	33.9	サヌカイト	刃部と抉りに加工痕、両端抉入。刃部を形成しない長側縁は折断か。
*	182	*	石包丁か	9.9	4.5	1.8	820.0	頁岩	表面に自然面残す。
*	183	*	石鎌	2.9	1.8	0.6	2.9	サヌカイト	平基式無頭石鎌。側縁に櫛状あり。厚みあり。片面に自然面を僅かに残す。一方の正面に主削面面が残る。
*	184	*	打製石斧	14.6	6.5	2.2	230.8	頁岩	基部欠損。片面に自然面を残す。敲打により側縁に刃部作出。側縁も敲打により平行に作出。基部は細く加工。
*	191	包含層	鉄鎌	5.8	2.9	0.5	5.8	鉄	欠損。刃部を有す。
*	192	*	砥石	(7.0)	6.9	2.8	(223.6)	砂岩	欠損。4面を使用。若干の擦痕。

※ 括弧等はC・E区に準ずる。

3. H区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要 (Fig. 40)

遺跡中央部に位置する東西方向の調査区である。本来、水路設置に伴うトレンチ状の調査区であるが、検出例としては本県最大級の掘立柱建物の一部が検出されたため、関係機関と協議の上調査区を一部拡張し、掘立柱建物群の検出を行った。以下では全体を調査区と称し、必要に応じ、本来の調査区をH本区、拡張部を拡張区、そのうち日本区北側の拡張区を北拡張区、南側の拡張区を南拡張区と呼ぶ。H本区では弥生時代及び古代の全遺構を精査したが、拡張区では掘立柱建物群の平面的規模を確認することを目的としたため、原則的に弥生時代に属する遺構の全てと古代に属する遺構の一定部分が未検出であり、検出した掘立柱建物も多くは柱痕の確定に留め、完掘していない。H本区は幅4.2m前後、延長109m、南拡張区は東西47m×南北30m、北拡張区は東西62m×南北12mを測る。

弥生時代の住居には偏在が見られないが、古代においては特に調査区中央部からやや東よりもかけて、各種遺構が高密度で、重複して存在する。この区域では包含層出土遺物も濃密であった。次項でも述べるように古代の包含層は整地層の可能性がある。V層はH本区8グリッドで浅い落ち込み状に南北のラインが検出され、以東7グリッドまで存在した。さらに、南拡張区でも東へ落ち込む南北ラインが掘立柱建物と平行して検出されており、連続するものと思われ、建物群が形成される以前に整地されたものと考えられる。この南拡張区の落ち込み上層からは、鉄滓、製塙土器、土鍤、土師器、須恵器が出土した。なお、H本区では下記のごとくV層上面での遺構検出は困難で、除去した後にプランを決定した。

調査区の西端に位置する遺構群は、川原石と土による現堤防の直下で検出されたものであり、以西は物部川の現氾濫原となっていることから、本来遺跡はさらに西方へ展開していたことが確認できた。

② 基本層準 (Fig. 22・23)

IV-1～Ⅶ層は弥生時代から古代までの遺物を包含し、IV-1、2層は普遍的に堆積していると考えられる。特にIV-1層は包含遺物が多く、コンテナケース50箱相当に及んだ。V、VI、VII層は偏在する。各包含層は比較的薄く土色も似通っていたため、特にH本区での遺構検出は全包含層除去後になったものが多い。また、各層が必ずしも整然と堆積している証左はない。しかし土層断面でこれら層準と遺構との切合い関係が看取できた例や、検出時に水準差があった場合に、これらを各遺構の先後関係についての判断材料の一つとし得た。なお、IV-1～VII層は遺構との切合い関係や土質、遺物から考えて、整地層の可能性がある。

H区の地山レベルはA、D区と比較して50～60cm程度低く、H区内では東部～中央部に比して西部が30cm前後低い。地山は東部で10 YR 4/4褐色～6/6明黄褐色粘土質シルト、西部で10 YR 5/6黄褐色シルト質粘土であるが、6グリッドのST 9やSK 20の直下では数cm～10数cm大の礫面が存在する。また、18～21グリッド付近の地山は砂や10数cm大までの礫からなる堅固な層であり、深さ1mのサブトレンチ以下に続いていた。

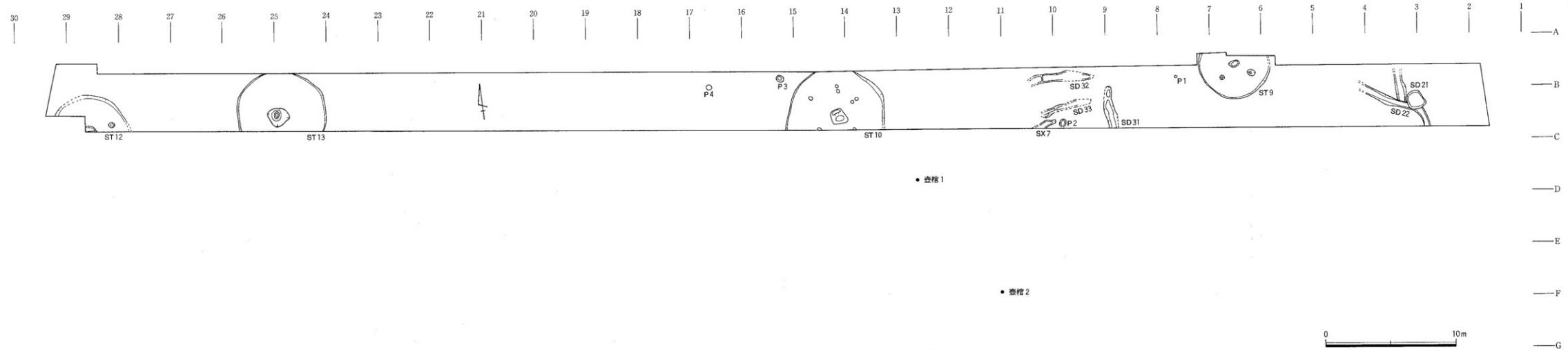


Fig. 21 H区検出遺構全体図(弥生)

- I層：耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。
- II層：旧耕作土。下層に黄色シルト質粘土層を伴う。
- III層：10 YR 4/3にぶい黄褐色粘土質シルト。下層に10 YR 4/6褐色シルト質粘土層を伴う。西部と北拡張区北壁で確認できるが、中央部には存在しない。
- IV-1層：10 YR 3/3暗褐色粘土質シルトにMn粒を含む。IV-2層よりMn粒が大きく、最も多量の遺物を包含する。IV-2層に比して締りの弱い部分あり。
- IV-2層：10 YR 3/2黒褐色粘土質シルトにMn微細粒を含む。
- V層：10 YR 5/3にぶい黄褐色粘土質シルトに地山土塊を含む。7~8グリッドで確認でき、南北に広がりを持つと見られる。
- VI層：10 YR 4/4褐色粘土質シルトにMn粒を含む。中央部に存在した。
- VII層：10 YR 3/2黒褐色（やや暗め）粘土質シルトに比較的大粒のMn粒を含む。西部に存在した。

(2) 幼生時代の検出遺構と遺物

① 壺穴住居

ST 9 (Fig. 24・25)

調査区の東部にある。直径5.4mの円形プランを有する壺穴住居であるが、半分近くが調査区外に出ている。深さは45cm前後を測るが、中央部分は5~9cm深く皿状の落込みを呈しており、中央ピットに向かって緩やかに傾斜している。中央ピット（P 1）は、70cm×50cmの隅丸長方形をなし深さは7cm前後と浅い。床面には中央ピットの他に2個の柱穴が掘られている。P 2は、直径40cm、深さ45cmを測り径10cm前後の柱痕跡が確認できた。検査面直下には拳大の河原石が柱痕跡を囲むように配されている。P 3は、長軸60cm、深さ23cmの椭円形のピットで、東側の肩部に人頭大の河原石が置かれている。埋土はI層：褐色砂質土層、II層：暗褐色砂質土層で、III層：褐色粘土層は高床部と低床部の間に部分的に堆積している。そしてIII層に一部重なるように中央ピットと低床部に炭化物層の堆積が認められる。

遺物は床面から壺（1・3）、甕（5）、鉢（6・7）、高杯（8・9）、器台（11）、土器底部（12・13・16~18）が、埋土I層から磨石（19）、II層より壺（2）が出土している。図示し得なかつたものも含めてST 9出土の土器組成を口縁部の点数で示すと、壺7点、甕7点、鉢2点、高杯1点である。この他高杯脚部2点、器台脚部1点が出土している。これらの中で壺と甕の口縁部に凹線を有するものは各々3点見られ、凹線紋の比率は42.9%である。後期Ⅰ期の壺穴住居である。

ST 10 (Fig. 26・27)

調査区の中央部にある。直径7.5mを測る円形の大型住居である。北側の一部と南側の半分近くが調査区外に出ている。また東部の一部が搅乱を受けており、古代の遺構にも随所で切られている。セクションと床面の柱穴のあり方から明らかに2時期にわたっていることが判るが、面的に両者を掘り分けることができなかった。拡張によるものか切り合い関係による重複であるのかは判断が難しいが、中央ピットを共有していることや柱穴の位置関係からして拡張の可能性が高いものと考えられる。埋土は図示したようにI層~XII層に分かれるが、I・II・III層が拡張後の新しい住居の埋

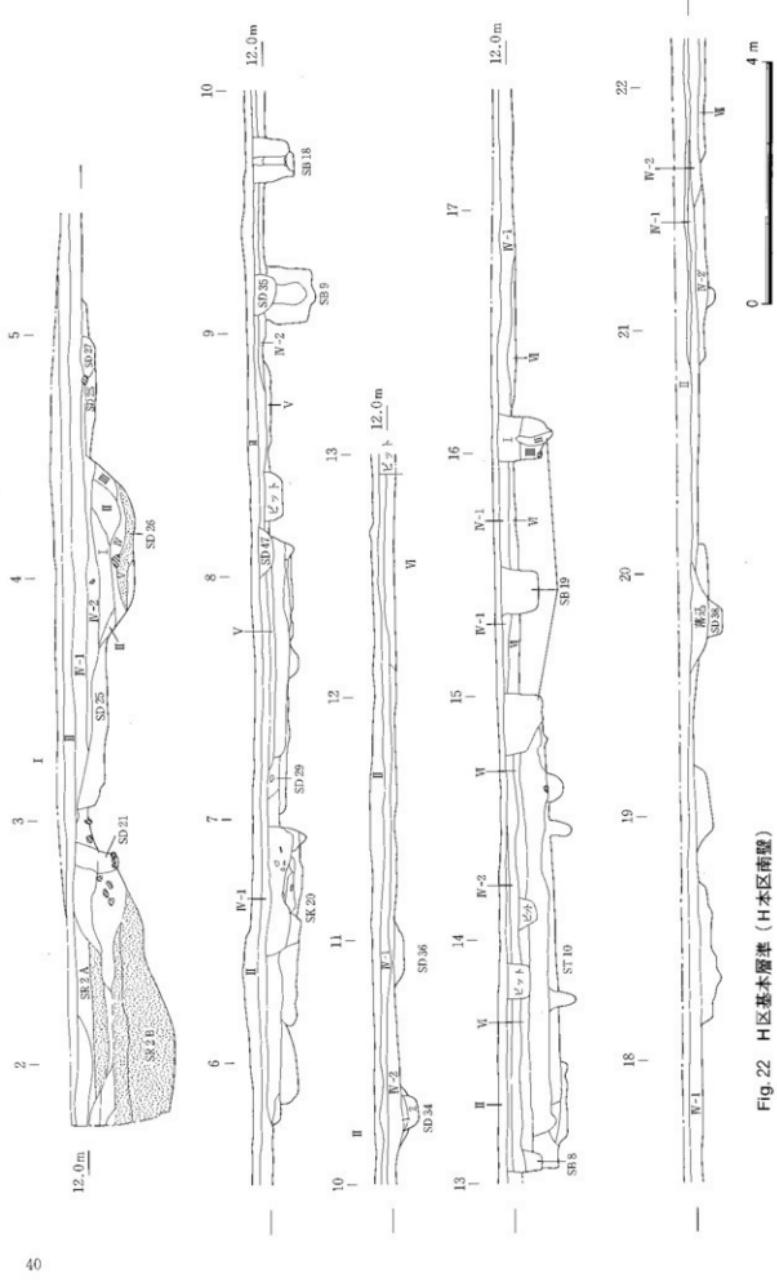


Fig. 22 H区基本層準(H区本区南壁)

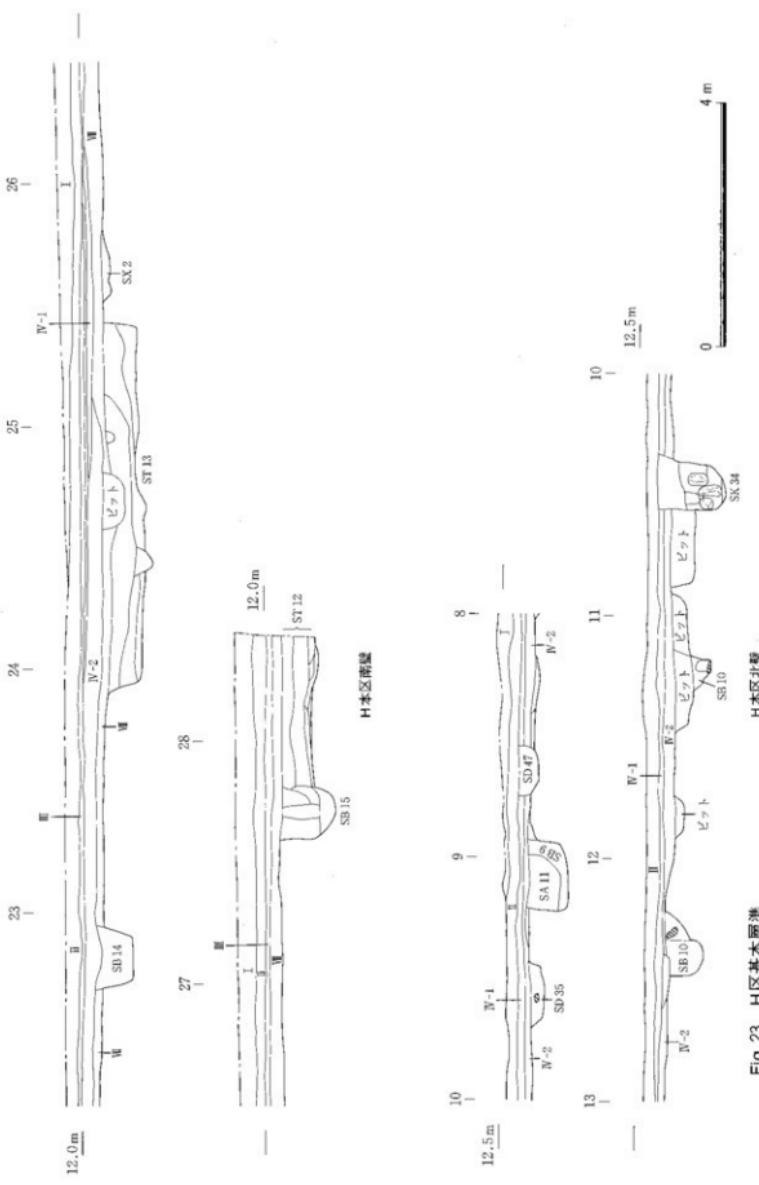


Fig. 23 H区基本層準

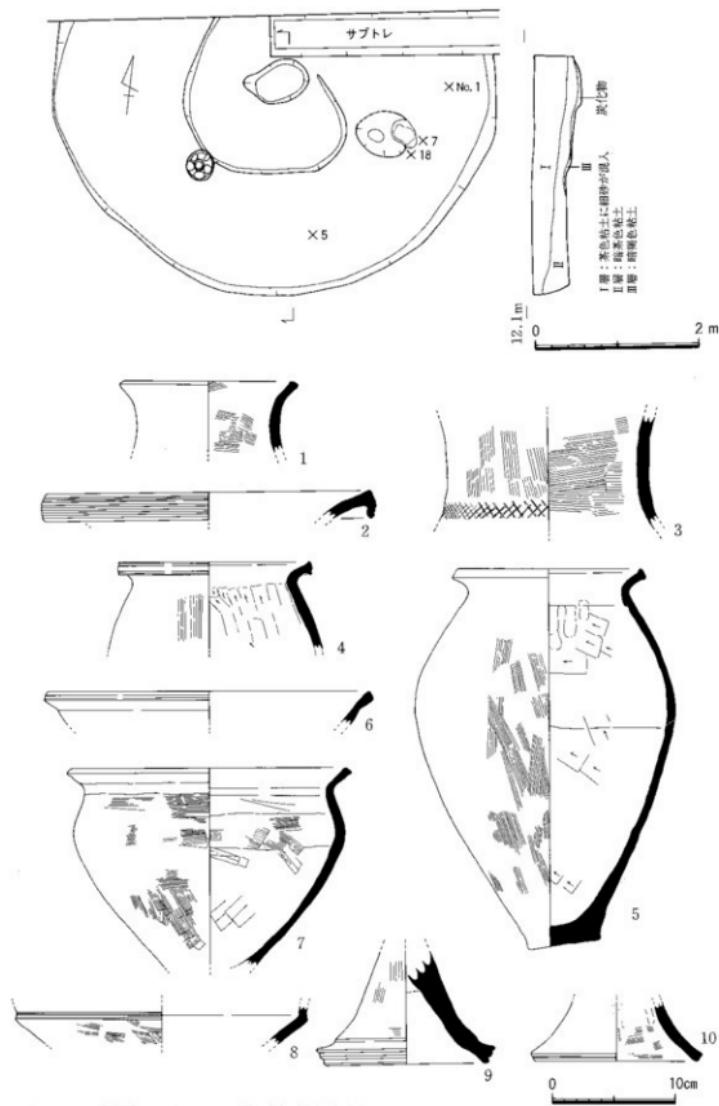


Fig. 24 ST 9 平面・セクション及び出土遺物実測図

壺 (1~3)、甕 (4・5)、鉢 (6・7)、高杯 (8~10)

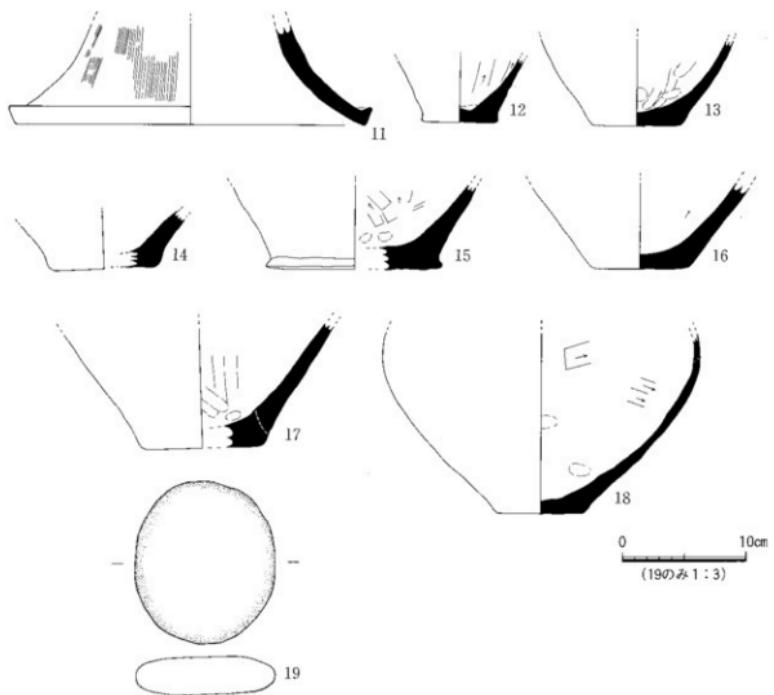


Fig. 25 ST 9 出土遺物実測図

器台 (11)、壺底部 (13・15・17・18)、甕底部 (12・14・16)

土、Ⅶ・Ⅷ・Ⅹ層などが古い段階の埋土に該当しよう。しかしⅦ層以下は自然堆積によるものではなく拡張に際して意識的に埋められた埋土ということになる。

新住居の床までの深さは33cm前後、旧住居はそれよりさらに20cmほど深く掘られている。規模は新住居の方（直径7.5m）が一廻り大きく造られている。中央ピット（P 1）は、底辺が1.1m、上底が0.9m、高さ1.2mの台形状のプランを呈し深さ20cmを測る。新住居の東壁には最大幅15cm、深さ7cmの壁溝が設けられている。柱穴は新旧合わせて9個が検出された。径20~30cmの円形または梢円形のプランを有し、深さは20~45cmを測る。P 3・10は旧住居、P 2・5・7は新住居に対応するものであるが、他のピットは何れに所属するのか明らかにできない。柱穴間距離は、P 2-P 10が1.8m、P 9-P 2が2.0m、P 9-P 3が1.4m、P 3-P 5が2.0mである。

遺物は、埋土及び床面から多量の土器、石器、鉄器片、ガラス小玉が出土している。口縁部の点数で土器組成を見ると、壺42点、甕74点、高杯10点、鉢6点である。これらの土器は、新旧何れの

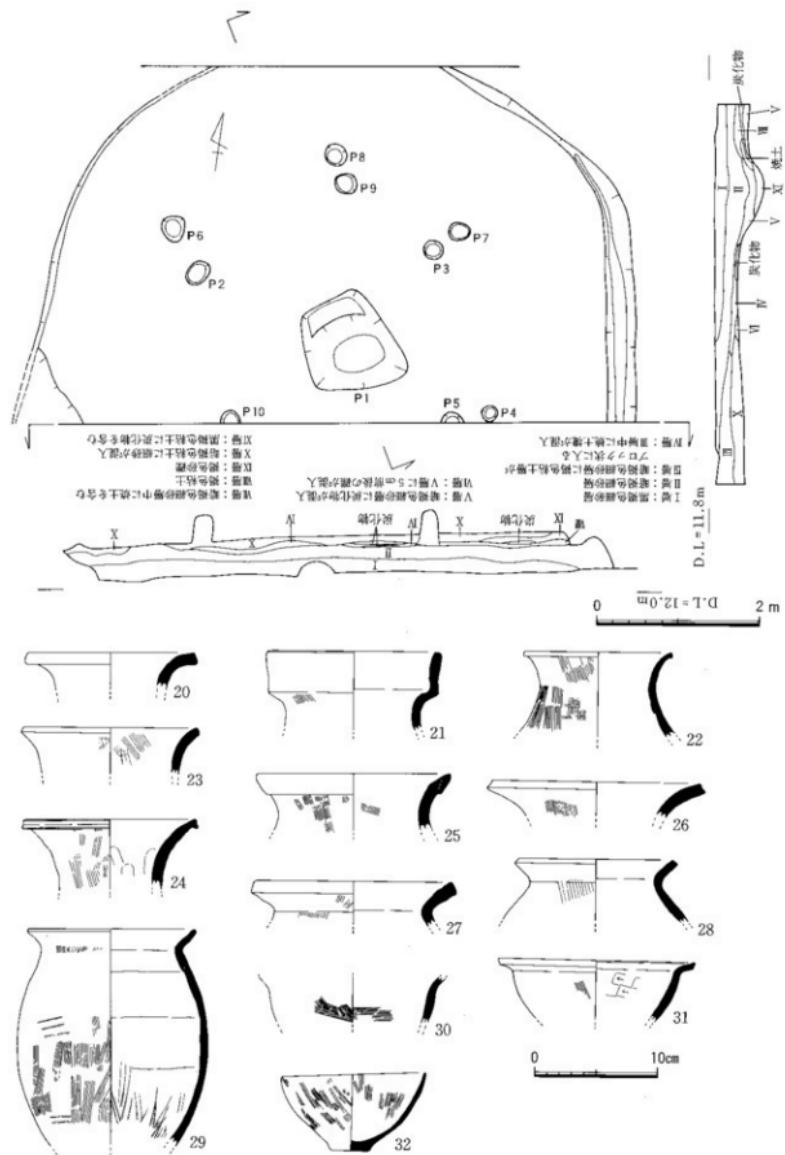


Fig. 26 ST 10平面・セクション及び出土遺物実測図（壺：20～26、甕：27～29、鉢：30～32）

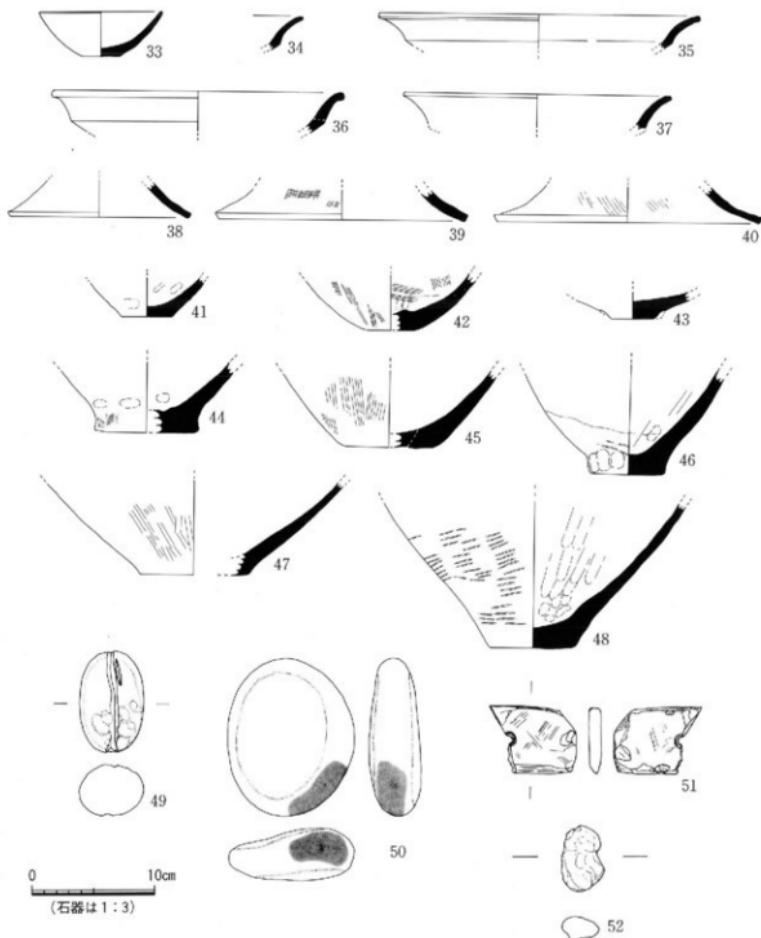


Fig. 27 ST 10出土遺物実測図

(鉢：33、高杯脚部：28～40、底部：41～48、

石包丁：51、石錘：49、磨石：50、鉄片：52)

(50のスクリーントーンは朱付着を示す)

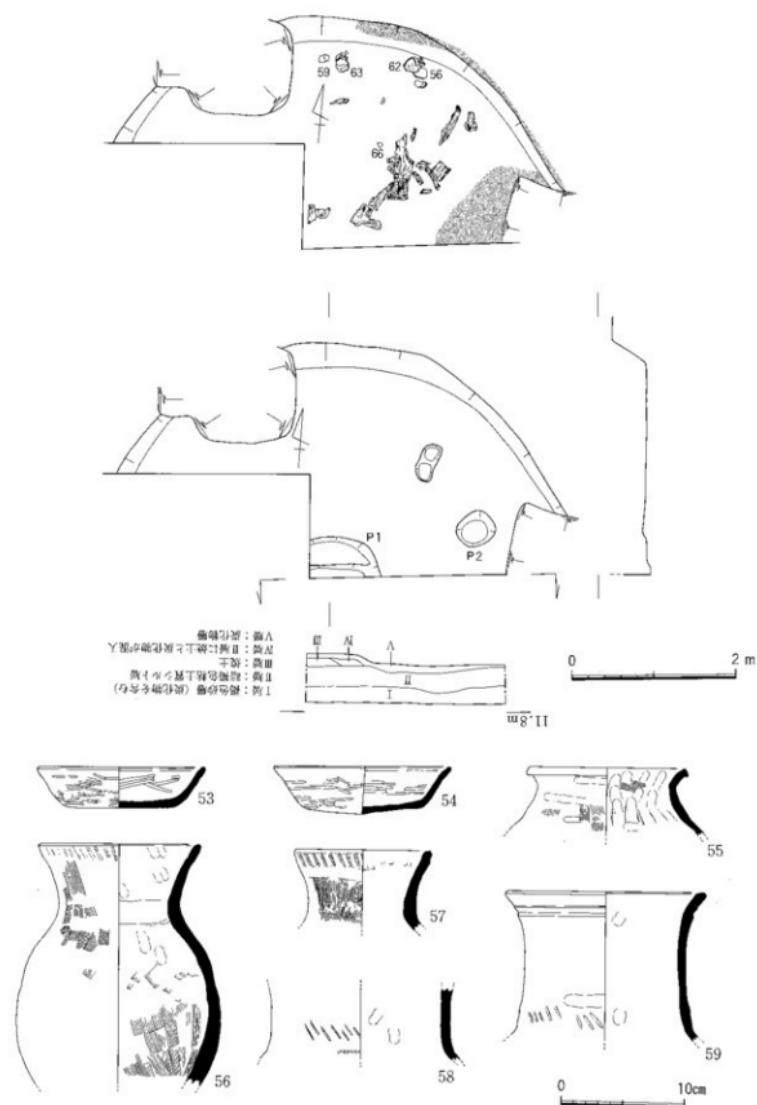


Fig. 28 ST 12床面遺物出土状況、同平面・セクション図及び出土遺物実測図

弥生土器（壺：56～59、甕：55）、土師器杯（53・54）

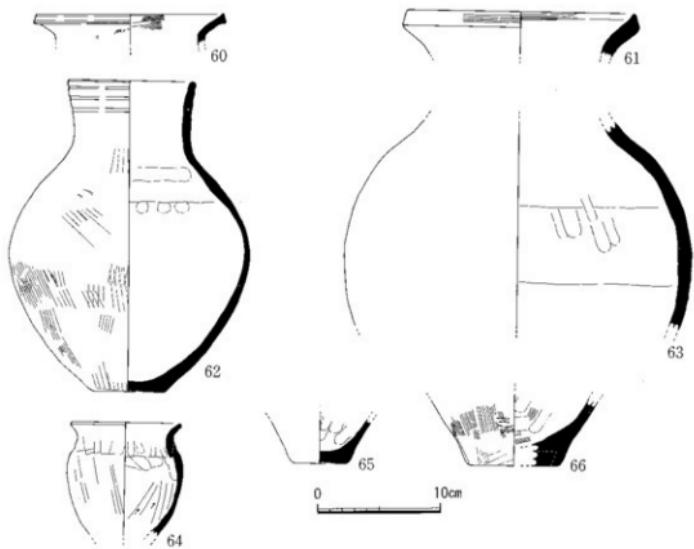


Fig. 29 ST 12出土遺物実測図（壺：60～63、甕：64、底部：65・66）

住居に属するのかについて岐別することが難しいが、出土状況から見てその大半は新住居に伴うものである。壺底部（41・46）、甕底部（48）、鉢（32・33）、石錐（49）は、新住居の床面近くの壁際から、他の多くの土器は新住居の埋土中から出土している。鉄片（52）は検出面直下から、石包丁（51）と朱付着螺（50）は旧住居埋土中から、ガラス小玉は旧住居床面から1点出土している。中央ピットからは多くの土器片が出土しているが図示できるものはない。P 6からは50 gの粘土塊が出土している。土器の中で凹線紋を施すものは見られない。新住居は後期II-3期に属する。

ST 12 (Fig. 28・29)

調査区の西端に位置する焼失住居である。南側も半分以上が調査区外に出ており、更に古代の柱穴に大きく切られている。直径6m前後の円形住居で、深さは40cmを測り、壁溝は認められない。中央ピット（P 1）の全體形を明らかにすることはできないが、長軸1m以上の隅丸長方形を呈するもので、段状に掘り込まれている。柱穴P 2は、長軸50cmの梢円形を呈し深さ20cmを測る。埋土はI層：炭化物を含んだ褐色砂層、II層：暗褐色粘土質シルト層、III層：焼土、IV層：II層に焼土と炭化物が混入、V層：炭化物層である。東側の床面と壁には焼土が広がり、床面のほぼ全面には炭化物が厚く堆積している。また床面には炭化した板状の建築材がみられ、床面の壁際から壺を主体とした土器が出土している。出土土器の組成を口縁部で見ると壺5点、甕3点で、壺のうち3点には凹線紋が施されている。この他古代の土師器杯（53・54）が埋土中より出土している。後期I期に属する。

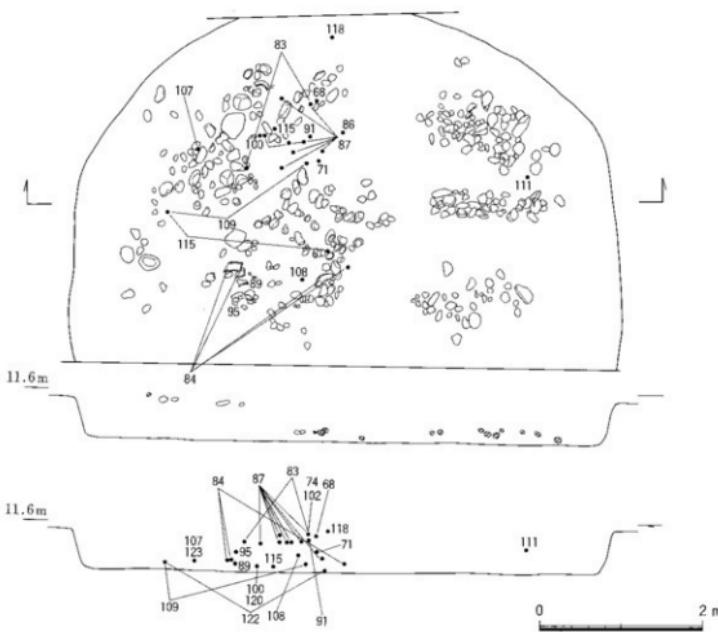


Fig. 30 ST 13河原石・遺物出土状況及び土器接合関係資料

ST 13 (Fig. 30~34)

ST 12の東10mにある。南半分と北の一部が調査区外に出ている。直径7m前後の円形プランを有し深さは50cmを測る。中央ピット（P 1）は長軸1.8mの不整形プランを有し段状に掘り込まれ深さ50cmを測る。中央ピット内及びその周辺には焼土の広がりが見られる。柱穴は2個（P 2・3）を確認した共に直径30cm前後を測る円形で、深さはP 2が30cm、P 3が40cmを測る。両者の間隔は2mである。埋土は図示したようにX層を主体とするが、東側ではかなり細かく分層することができる。そして埋土中には多量の河原石が認められ、しかもこれらの河原石はいくつかのグループに分けることができることから、偶然の混入ではなく意識的な行為によるものと見なければならない。住居の廃棄に際して行われた行為である可能性が高い。

遺物は土器を中心大量に出土しているが、床面出土のものは壺底部（122）と石包丁（123・124）のみで、他は埋土・礫間から出土している。これらの土器も河原石群のグループの中で接合関係にある傾向が認められることから、住居の廃棄に際して川原石と同様に扱われた可能性が高い。口縁部の点数で土器組成を見ると、壺が33点、甕が32点、鉢が7点、高杯が2点で高杯の脚部は8点出土している。これらの中で凹線紋を有するものは壺で13点（39.4%）、甕で12点（37.5%）、鉢で2

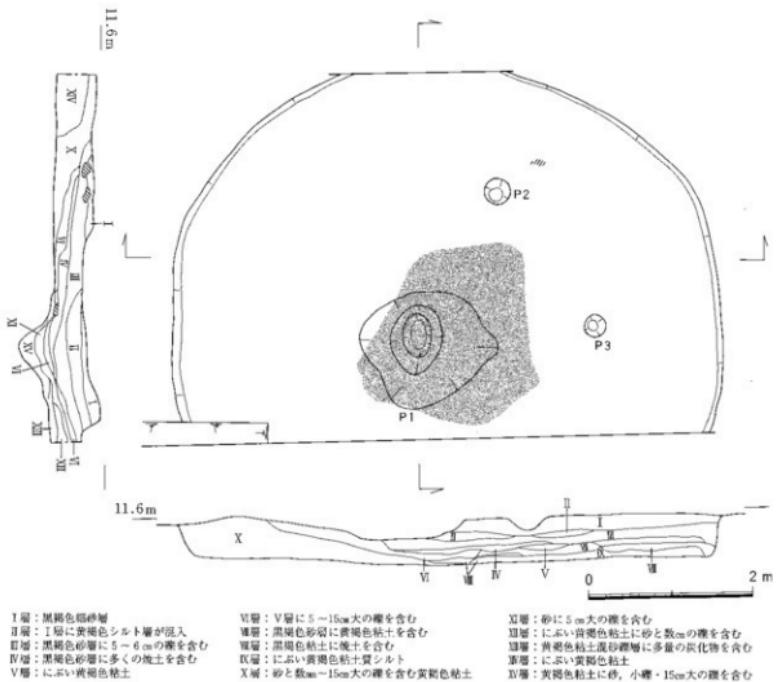


Fig. 31 ST 13平面及びセクション図

点(28.5%)、高杯1点(50%)であり、平均38.9%の土器口縁部に凹線紋が施されている。ST 13は後期Ⅰ期に属する。

② 溝

SD 21 (Fig. 35)

調査区の東端に位置し、SD 22と切り合っているが先後関係は不明である。確認延長2m、幅70~80cm、深さ35cm前後を測る。埋土は暗褐色の砂・シルト層である。埋土中より弥生土器の細片が出土している。

SD 22 (Fig. 35)

西を古代の溝に切られている。確認延長5.7m、幅45~60cm、深さ20~45cm前後を測る。埋土はSD 21と同様で、埋土中より弥生土器片(127・128・132)が出土している。

SD 31 (Fig. 36)

調査区の中央部に位置する南北に延びる溝である。確認延長3m、幅80cm、深さは30cm前後を測

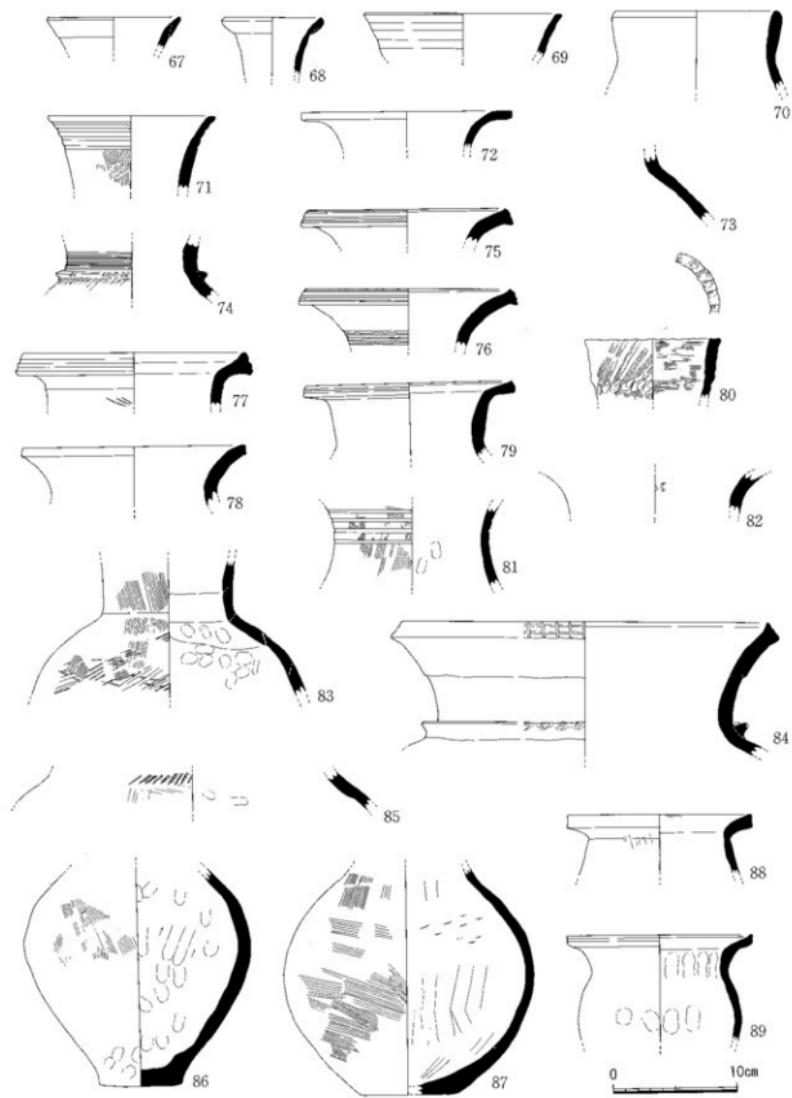


Fig. 32 ST 13出土遺物実測図（壺：67～87、甕：89）

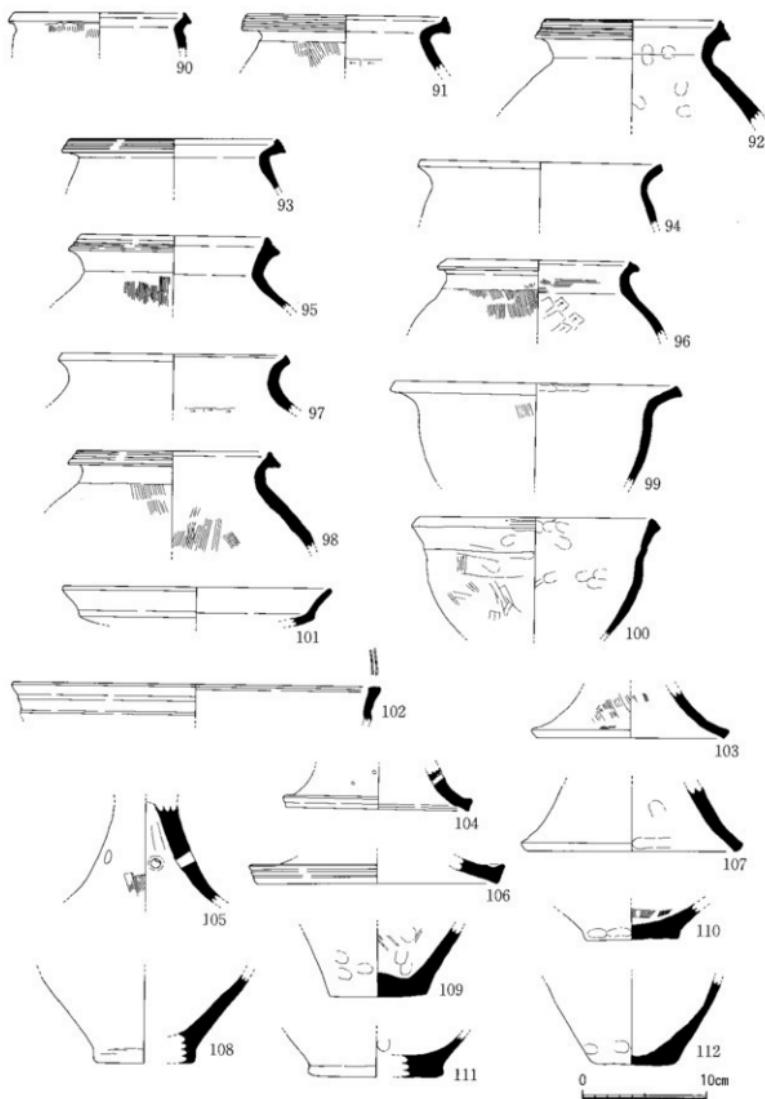


Fig. 33 ST 13出土遺物実測図（甕：90～98、鉢：99・100、高杯杯部：101・102、
高杯脚部：103～107、底部：108～112）

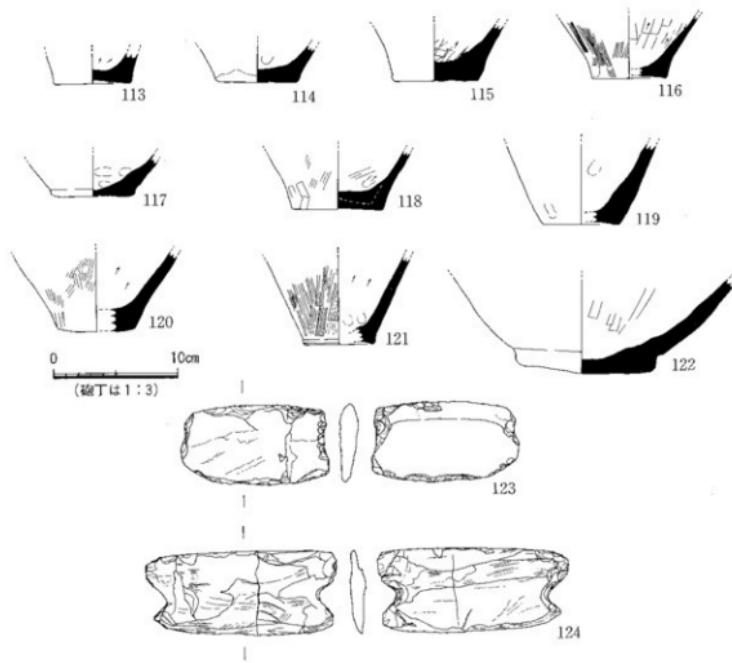


Fig. 34 ST 13出土遺物実測図（底部：113～122、石包丁：123・124）

り断面は台形状をなす。埋土はⅠ層：灰黄褐色粘土層、Ⅱ層：炭化物を含んだ黒褐色粘土層、Ⅲ層：灰黄～黄褐色粘土層、Ⅳ層：黒褐色粘土層で、Ⅰ層の下層から図示したように弥生後期土器の細片が多量に出土しているが図示できるものはない。

SD 32 (Fig. 35)

調査区の中央部に位置する東西に延びる溝である。確認延長4.6m、幅60cm前後、深さ15～20cm前後を測る。埋土は暗褐色粘土に粗粒砂が混ざっている。随所で古代の遺構に切られている。遺物は埋土中より弥生後期の甕（129）、同壺（130）が出土し、古代の須恵器杯（133）、同土錐（125・126）が混入している。

SD 33 (Fig. 35)

調査区の中央部に位置する東西に延びる溝である。確認延長4.8m、幅45～60cm、深さ15cm前後を測る。東よりの床面より粘土塊が出土している。排土はSD 32と同様で、埋土中より石包丁（135）と弥生後期土器細片が出土し、古代の須恵器鉢（131）・杯（133）・蓋（134）が混入で出土している。

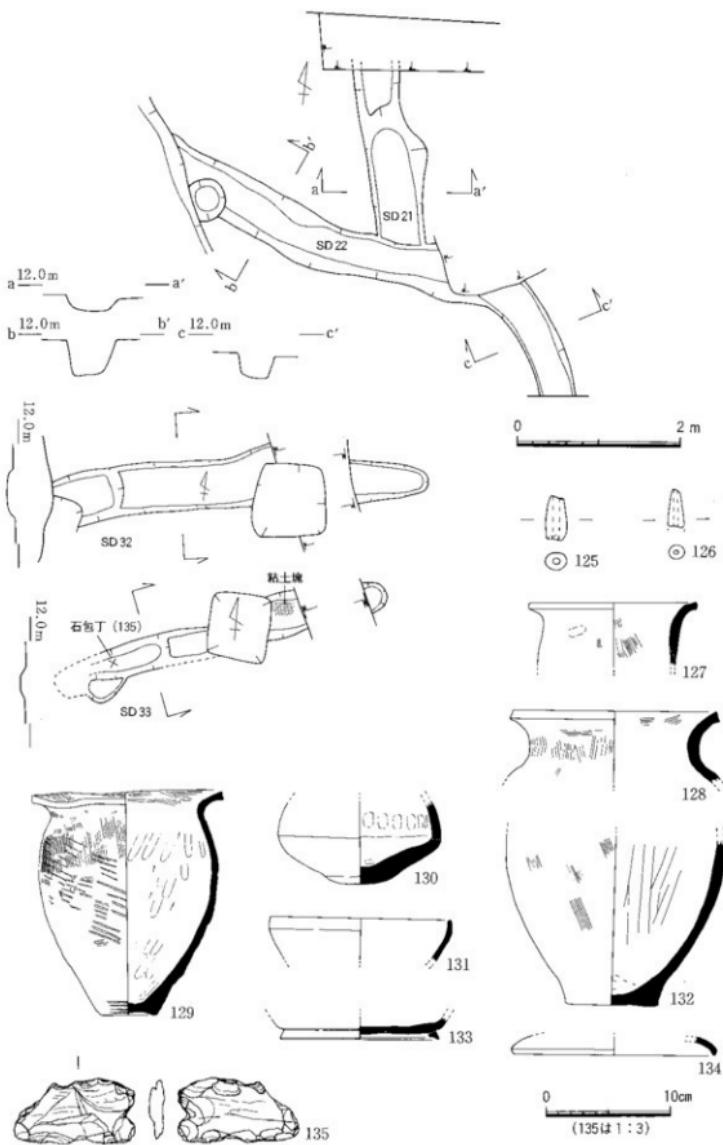


Fig. 35 SD 21・22・32・33平面・エレベーション図及び出土遺物実測図
 SD 22: 127・128・132
 SD 32: 125・126・129・130・133
 SD 33: 131・134・135

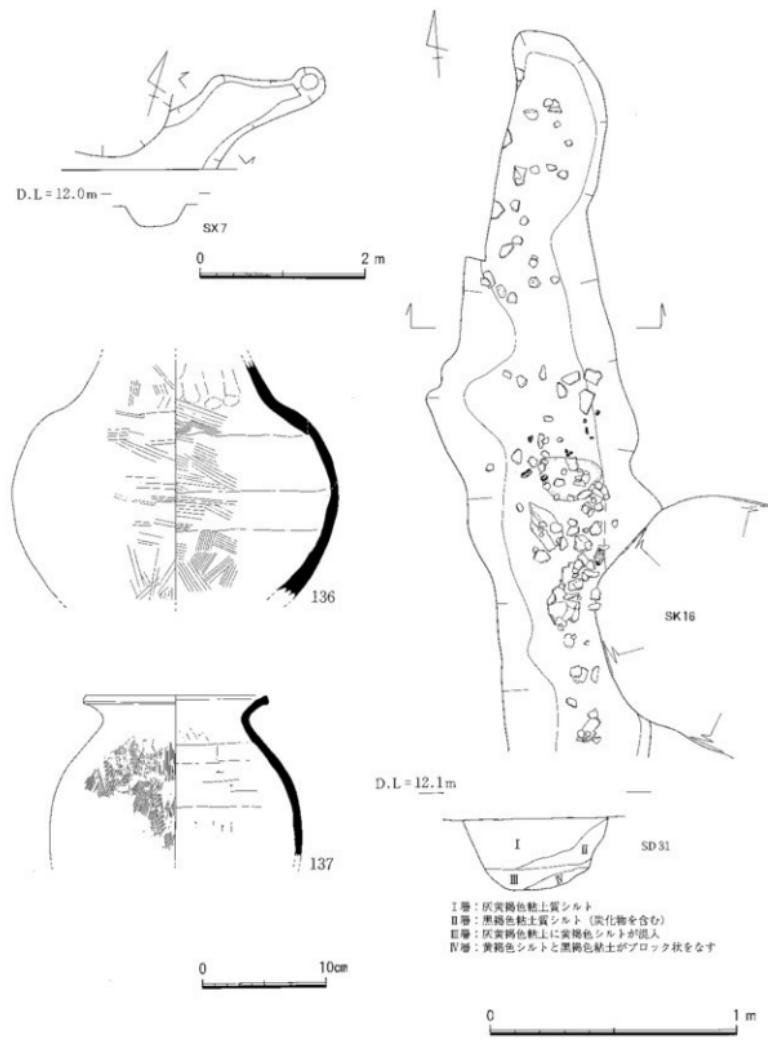


Fig. 36 SD 31・SX 7 平面・セクション・エレベーション図及びSX 7 出土土器実測図

③ ピット (Fig. 37)

P 1

SX 9 の西にある。長軸25cmの楕円形のピットで深さ30cmを測る。埋土は黒褐色粘土で埋土中より弥生後期の高杯脚 (139) が出土している。

P 2

SX 7 の東隣にある。長軸60cmを測る楕円形のピットである。埋土は黒褐色粘土で埋土中より多量の弥生後期土器片が出土しているが、図示し得たのは壺 (140・141) である。同一個体の可能性がある。

P 3

ST 10 の西隣にある。長軸1m、短軸34cmの楕円形のプランを有し、断面は二段に掘り込まれており深さは35~50cmを測る。壁の一部がオーバーハンプしている。埋土はⅠ層：黒褐色粘土質シルト、Ⅱ層：黒褐色粘土質シルトに1cm前後の小礫を含む。Ⅲ層：褐色粘土である。Ⅲ層中より完形の小型壺が出土している。

P 4

長軸40cm、短軸35cmの楕円形プランを呈し深さ63cmを測る。検出面直下で完形の鉢 (144) を検出した。埋土下層では長さ25cmを測る河原石が立石状に立っている。立石状の河原石や鉢はピットを埋め戻す際に意識的に置かれたものと考えることができる。

④ 壺棺墓

拡張区で2基の壺棺墓を検出した。共に掘り形を確認することはできなかった。壺棺1 (Fig. 38) は高さ40cm以上、最大径42cmの壺 (148) を27°の角度で横たえている。底部の穿孔は見られない。北側に壺口縁部 (146) が覆い被さるようにして検出された。蓋として使われたものと思われる。壺棺内からは、壺 (145・147) が出土している。

壺棺2 (Fig. 39) は高さ60cm以上、最大径42cmの壺 (152) を30°の角度で横たえている。底部の穿孔は見られない。北側に壺底部 (149) が覆い被さるようにして検出された。蓋として使われたものと思われる。壺棺内からは、蓋に使われた壺の口縁部と考えられる (150) が、棺外からは壺棺の口縁部 (151) が出土した。壺棺1・2ともに後期I期に属する。

⑤ 性格不明土坑 (Fig. 36)

SX 7

SD 33 の南にある。確認延長2.4m、深さ30cm前後を測る不整形の土坑である。溝の可能性もあるがここでは性格不明土坑として扱った。埋土は暗褐色の粘土質シルト層で埋土中より弥生後期の壺 (136) と壺 (137) が出土している。

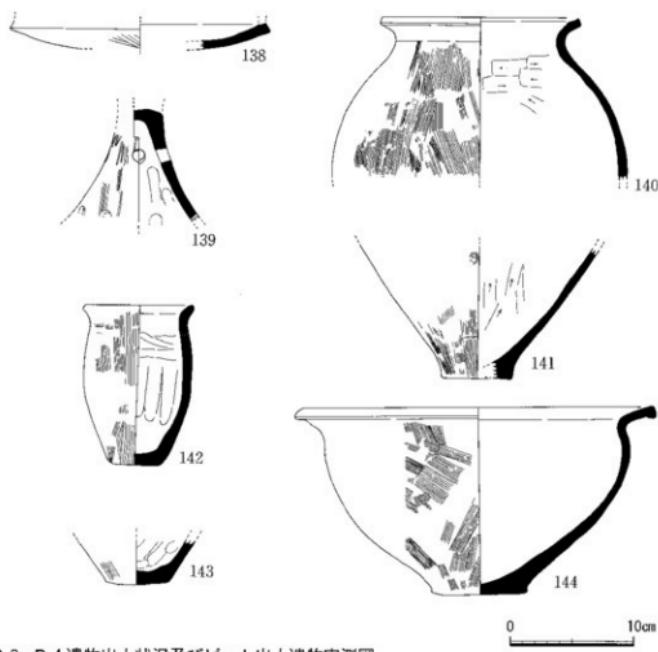
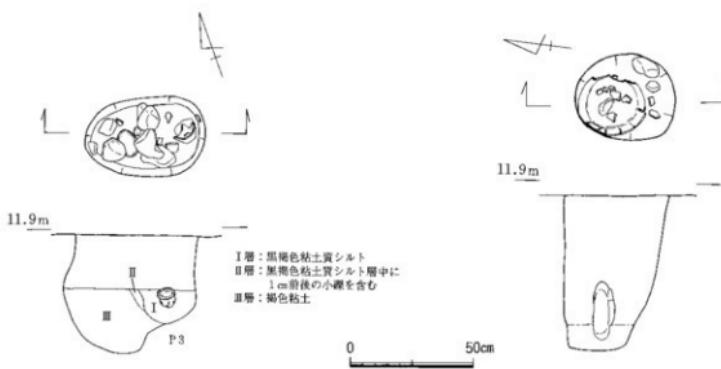


Fig. 37 P 3・P 4 遺物出土状況及びピット出土遺物実測図

P 1 : 139、P 2 : 140・141、P 3 : 138・142・143、P 4 : 144

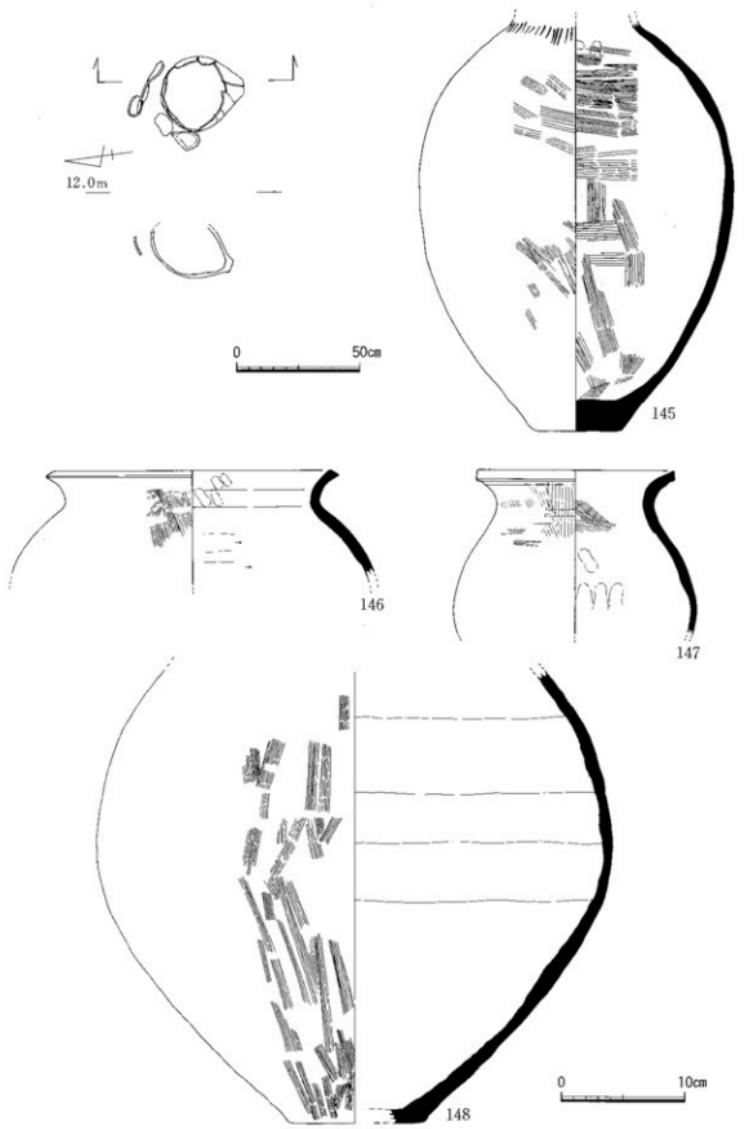


Fig. 38 壺棺 1 (148) 平面・エレベーション図及び壺棺内出土土器実測図

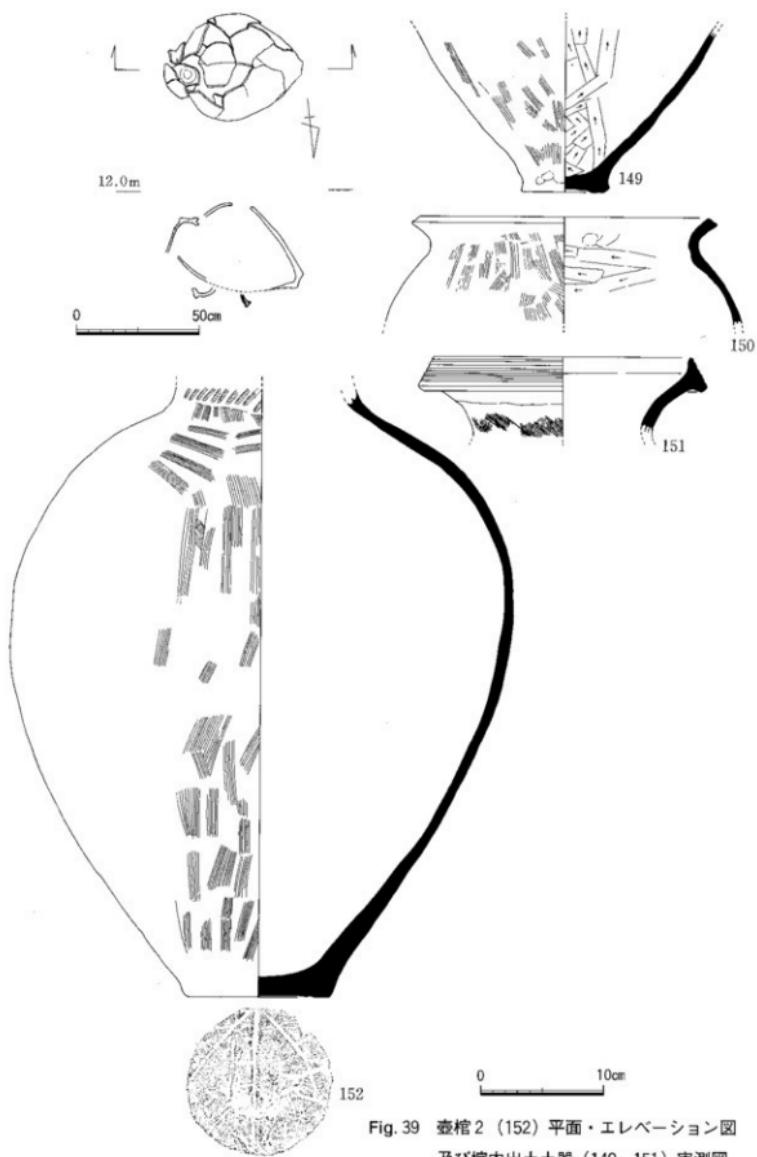


Fig. 39 壱棺 2 (152) 平面・エレベーション図
及び棺内出土土器 (149~151) 実測図

遺物観察表（土器）

Fig. No.	拂圖 番号	出土地点	器種	法量 (cm)				考
				口径	器高	脚径	底径	
24	1	ST 9	壺	13.6	(5.8)			石英・チャート・その他の粗粒を含む。褐色。外面部面削離がはげしい。内面部コハケ調整。
+	2	*		26.0	(2.3)			チャートの粗粒を含む。にぶい黄褐色。口唇を下垂させ洗練化した四瓣文を有する。口縁内面磨擦波状。
+	3	*	壺		(9.3)			チャートの粗粒を多く含む。灰白色。外面部タケハケ調整、内面部コハケ調整。頭部下端にハケ原体による格子状痕を残す。
+	4	*	壺	15.6	(7.1)			チャートの小塊・粗粒砂を多く含む。茶色。口唇外面にやや退化した四瓣文を有する。脚部外型やや本目目の粗いタケハケ調整、脚部内面削離部下端までヘラカズリを施す。
+	5	*	壺	15.0	30.9	5.6		チャートの小塊・粗粒砂を多く含む。黄褐色。口縁部内外コハケ調整。脚部外側タケハケ調整、内面ハラカズリ。
+	6	*	鉢	26.0	(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。口唇部に洗練化した2条の四瓣文を有する。内外部摩耗が激しい。口縁部は藍銅色に外反する。
+	7	*	鉢	22.2	(16.2)	22.0		チャートの小塊・粗粒砂を多く含む。褐色。内面部曲部より上はハケ調整、屈曲部より下はナダ調整。下地はヘラカズリ。
+	8	*	高杯					チャートの粗粒砂を多く含む。灰褐色。内外面部表が荒れる。
+	9	*	高杯		(14.2)		13.0	チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄褐色。厚いつくり。
+	10	*	高杯		(4.9)		13.0	チャート・泥岩の小塊・粗粒砂を含む。にぶい褐色。内面部コハケ調整。底部に洗練化した四瓣文を有する。
25	11	*	高杯		(8.2)		28.0	チャートの小塊・粗粒砂を含む。浅黄褐色。内面部ナダ調整、外面部タケハケ調整。
+	12	*	壺		(5.3)	6.1		チャートの粗粒砂を含む。浅黄褐色。内面ヘラカズリ。被熱変形。焼ける。
+	13	*	壺		(7.1)	7.0		チャートの小塊・粗粒砂を含む。褐色。内面部調整不明。
+	14	*	壺		(4.4)	8.0		チャート・頁岩の小塊・粗粒砂を多く含む。にぶい青褐色。
+	15	*	壺		(6.8)	14.2		チャートの小塊を含む。浅黄褐色。内面ヘラカズリ。
+	16	*	壺		(7.0)	8.0		チャートの小塊・粗粒砂を多く含む。褐色。内外部調整不明。
+	17	*	壺		(4.9)	9.6		チャートの小塊・粗粒砂を含む。浅黄褐色。タチ方向のヘラカズリ・ナダ調整。
+	18	*	壺		(14.7)	7.0		チャート・赤色風化層の粗粒砂を多く含む。赤褐色。内面ヘラカズリ、外面部ナダ調整。
+	19	*	磨石	全長 10.0	全幅 8.5	厚さ 2.8	重さ 306g	
26	20	ST 10	壺	13.4	(3.0)			チャート・石英の粗粒砂を含む。浅黄褐色。外面部ハミガキ調整。
+	21	*	壺	14.2	(6.5)			チャート・赤色粒の粗粒砂・須恵母を含む。にぶい黄褐色。口唇部下面を成す。内面部ナダ、外面部タケハケ調整。
+	22	*	壺	12.0	(6.9)			チャートの粗粒砂・赤色風化層を含む。浅黄褐色。外面部司引き後、タケハケ調整。
+	23	*	壺	14.0	(3.8)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。内外部ハケ調整。
+	24	*	壺	13.8	(5.8)			チャートの小塊・粗粒砂を含む。灰色。外面部タケハケ調整。口唇部下端を彫み、ヨコナダ調整。
+	25	*	壺	15.7	(4.6)			チャートの小塊を多く含む。褐色。除口縁。口縁部外面部ヨコナダ調整、底部外面部タケハケ調整。内面ヨコナダ調整。
+	26	*	壺	16.8	(2.8)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。内面ヨコハケ調整。
+	27	*	壺	16.0	(3.6)			チャートの粗粒砂を含む。灰白色。脚部外表面に引き目が残る。外面部タケハケ調整。内面下半は大連の粗い原体によるタケハケ調整。上半はナダ削す。内面に粘土膏混合灰を附着し留めている。
+	28	*	壺	12.4	5.0			チャートの粗粒砂を多く含む。黄褐色。脚部外面部タケハケ調整。内面調整不明。
+	29	*	壺	13.5	(17.7)			瓦石の粗粒・チャートの粗粒を含む。黑色。口縁部内外面部ヨコナダ調整。口唇部強くヨコカズリを施し、上方に彫み上げ気味。脚部外面部タケハケ調整。内面ヘラカズリ。
+	30	*	鉢		(3.7)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面部木目の細かいタケハケ調整、ヘラミガキ調整。内面木目との接合部ナダ削す。
+	31	*	鉢	16.0	4.9			瓦石の粗粒・チャートの粗粒を含む。黑色。口縁部内外面部ヨコナダ調整。口唇部強くヨコカズリを施し、上方に彫み上げ気味。脚部外面部タケハケ調整。内面ヘラカズリ。
+	32	*	鉢	11.6	6.2	3.0		チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面部木目のが細かいタケハケ調整、ヘラミガキ調整。内面木目との接合部ナダ削す。
27	33	*	鉢	10.0	3.7	3.0		チャートの粗粒砂・赤色風化層を含む。浅黄褐色。内面ヨコナダ削す。

Fig. No.	標 名 番 号	出 土 地 点	器 種	法 量 (mm)				特 徴	備 考
				口径	腹高	肩径	底径		
27	34	ST 10	高杯		(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黄褐色。内外面器表の剥離がはげしい。	
*	35	*	高杯	26.0	(2.7)			チャートの砂粒を多く含む。浅黄褐色。内外面ヨコナゲ調整。	
*	36	*	高杯	23.6	(3.2)			石英の細粒砂を含む。浅黄褐色。端部は強く外反する。内面ハラミガキ調整。	
*	37	*	高杯	21.6	(2.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。灰黄褐色。内外面調整不明。	
*	38	*	壺	14.4	(3.0)			チャート、赤色風化礫の粗粒砂、金雲母を含む。にぶい褐色。内外面摩耗。	
*	39	*	高杯		(2.5)		20.0	チャートの砂粒を含む。にぶい黄褐色。口縁部内外面ヨコナゲ調整。外面部ナガハケ調整。口唇部ヨコナゲ調整。	
*	40	*	壺	21.4	(3.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。内外面木目の細いハケ調整。端部は強いヨコナゲで上縁をわざわざに削り出す。	
*	41	*	底部		(3.15)		4.2	チャートの小繩を含む。褐色を多く含む。にぶい黄褐色。内面ヨコナガハケ。外面部タブレート調整。	
*	42	*	壺		(4.7)		4.2	チャートの小繩、粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内外面調整不良。	外面黒斑あり。
*	43	*	壺		(1.17)		3.5	チャートの小繩、粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内外面調整不良。	底部外面黒斑あり。
*	44	*	壺		(5.9)		8.4	チャートの小繩、粗粒砂を含む。にぶい赤褐色。内面ナゲ、外面部タブレート調整。	
*	45	*	壺		(6.4)		8.0	チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい褐色。内面ナゲ調整。外面部タブレート調整。	
*	46	*	底部		(8.9)		6.3	チャートの小繩、粗粒砂を多く含む。褐色。外面部ナゲ調整。外面にヒビ剥離状の亀裂が入る。	
*	47	*	底部		(7.7)		8.6	チャートの粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面部ハケ調整。	
*	48	*	底部		(12.0)		7.0	石英の粗粒砂を多く含み、チャートの粗粒砂を少含む。浅黄褐色。内面ナゲ調整。外面部印、ナゲ調整。底部内面に指圧痕が残る。	底部外面に黒斑あり。
*	49	*	石錐	全長 6.1	全幅 3.9	厚さ 3.1	100 g	中央部半幅3 mm、深さ1 mmのV字溝がめぐる。	砂岩
*	50	*	磨石	全長 9.6	全幅 7.7	厚さ 3.2	324 g	一端に朱が付着。	砂岩
*	51	*	石包丁	全長	全幅	厚さ		直線刃片刃、孔径9 mm。	手斤岩
*	52	*	鉄製品			0.8	5.5 g		
28	53	ST 12	杯	13.5	3.8		9.0	石英、チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。口縁部内面に剥離が見られる。内面ナゲ等によるナガハケ調整。	
*	54	*	杯	13.6	3.9		9.5	精選された粒状、褐色。内外面ハラミガキ調整。底部外面ヘラツリ痕あり。	
*	55	*	壺	12.6	(5.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。口唇部は強いヨコナゲにより面を削り、わずかに下垂する。外面部ナゲ調整。内面部粗粒砂によるナゲ調整。底部内面指圧痕が残る。上縁部内面に絞り目あり。	
*	56	*	壺	13.0		(19.7)		チャートの小繩、粗粒砂を多く含む。黄色。口縁部外面にハラツリ痕による粗粒砂の堆积があり。外面部半幅・内面下半タブレート調整。	
*	57	*	壺	10.9	(6.1)			チャートの粗粒砂、赤色風化礫の細粒粗砂を多く含む。内面に列文があり。外面部タブレート調整、内面ナゲ調整。	
*	58	*	壺		(5.9)			チャートの粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。頭部下端に列文があり。外面部タブレート調整、内面ナゲ調整。	
*	59	*	壺	16.0	(12.2)			チャートの粗粒砂、赤色風化礫を含む。にぶい黄褐色。口縁部に2条の列文があり。頭部に列文があり。	
29	60	*	壺	15.2	(2.5)			チャートの粗粒砂を含む。にぶい褐色。口縁部内外面横位のハケ調整。	外面部基ける。
*	61	*	壺	18.4	(3.5)			チャートの小繩、粗粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。口縁部をすかに削り上げる。口縁部内面・口唇部ヨコナゲ調整。	
*	62	*	壺	10.4	25.3	19.7	5.7	チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。褐色。頭部外側に3箇所の弱い凹凸痕があり。内外面表面の変色がひどい。頭部外側下部にナタ方向を基調とするハケ調整。	
*	63	*	壺		(16.9)			チャートの小繩、粗粒砂を多く含む。褐色。内外面ナゲ調整。	
*	64	*	壺	8.9	(9.2)			チャートの小繩、粗粒砂を多く含む。灰黑色。内面ヘラケスリ・ナゲ調整。外面部タブレート調整。	外面部基ける。
*	65	*	壺		(3.8)		4.3		
*	66	*	壺		(5.5)		7.2	チャートの小繩、粗粒砂を含む。にぶい黄褐色。外面部引き抜き、タブレート調整。底部外側付近ナゲ調整。底部外面ヘラケスリ。内面ナゲ調整、ナゲ調整。	

Fig. No.	拂図 番号	出土地点	器種	法量 (cm)				特徴	備考
				口径	器高	胴径	底径		
32	67	ST 13	壺	10.6	(2.6)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。	
*	68	*	壺	7.7	(4.8)			長石の粗粒砂、チャートの粗粒砂を含む。明黄褐色。調整不明。	
*	69	*	有段口縁壺	15.9	(4.95)			チャート・赤色風化繊の粗粒砂を多く含む。浅黄色。口縁部外側に弱い凹線文が4条ある。内外面調整不明。	
*	70	*	壺	13.0	(6.5)			チャートの小穂・粗粒砂を多く含む。褐色。内外面の器表の荒れが激しい。	
*	71	*	壺	13.4	(6.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。浅黃褐色。口縫部外側に4条の凹線文が並ぶ。頭部外側タケハケ調整、内面ヨコナゴテ調整。	
*	72	*	壺	17.0	(3.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。黃褐色。内外面ナガテ調整。	
*	73	*	壺		(5.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐灰色。外面有輪状文をへら書きする。	
*	74	*	壺		(4.7)			チャートの粗粒砂を含む。において、褐色。器底下端に断面三角形状突部を貼付する。実需部前面に刻目を施し、その下に列文字を施す。裏番の上には横擦直線文を派らせる。	
*	75	*	壺	6.0	(2.85)			チャートの小穂・粗粒砂を多く含む。褐色。口縫を上下に拡張し、口唇部に比較的細化した凹線文を2条並らせる。口縫部内面ヨコナゴテ調整。	
*	76	*	壺	16.4	(4.7)			チャートの粗粒砂を多く含む。において、褐色。口縫を上下に拡張し、口唇部に3条の凹線文を派らせる。頭部に横擦直線文を施す。	
*	77	*	壺	17.9	(4.3)			チャートの粗粒砂を多く含む。において、褐色。口縫部に強いヨコナゴテを施し、水平に強い屈曲させる。口縫部を上下に拡張し、口唇部にしつかした凹線文を2条並らせる。口縫部外側に列文字を施す。	
*	78	*	壺	18.0	(4.9)			チャートの小穂・粗粒砂・赤色風化繊の粗粒砂を多く含む。淡灰色。	
*	79	*	壺	16.6	(6.1)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。口縫部に強い凹線文が並らせる。	
*	80	*	壺	10.8	(5.0)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。幅広い口縫上面にハケ原体による圧痕を施す。外面に幅の広い列文字、内面ヨコハケ調整。	
*	81	*	壺		(6.6)			チャートの粗粒砂を含む。褐色。頭部に4条のヘラ横尻線文を派らせる。外延タケハケ調整。	
*	82	*	壺		(3.3)			チャートの粗粒砂を多く含む。において、褐色。外面に蝶形の列文字を施す。	
*	83	*	壺		(11.3)			チャートの粗粒砂を多く含む。淡黄色。頭部外側タケハケ調整。頭部外側に貼り後、タケハケ調整。頭部内面接頭圧痕が隠蔽に残る。内面・新規に粘土接合痕が認められる。	
*	84	*	壺	29.5	(10.8)			チャートの粗粒砂を多く含む。淡黄色。口縫部を上方に拡張し、口唇部に新的圧痕を施す。口縫部外側に4cmの粘土帶を貼付する。頭部に断面三角形の刻目突部を貼付する。	
*	85	*	壺		(3.2)			チャートの粗粒砂を可視化。において、褐色。上腹部に列文字を施す。	
*	86	*	壺		(17.8)	6.7		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外面ハケ調整。内面被熱赤変、焼ける。	
*	87	*	壺		(18.5)	8.0		チャートの粗粒砂を多く含む。褐色。外面ハケ調整。内面上面に圧痕が隠蔽に残る。	
*	88	*	壺	14.8	(5.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。において、褐色。口縫部内面ヨコナゴテ調整。	口縫部外側黒く焼ける。
*	89	*	壺	15.0	(8.8)			チャートの小穂・粗粒砂を多く含む。灰黄褐色。口縫部は強いヨコナゴテで凹み、通常は上方に巻き上げる。頭部・側面内面指脂圧痕が顕著に残る。外延ヨコナゴテ調整。	外側激しく焼ける。
33	90	*	壺	13.5	(3.1)			チャートの粗粒砂を含む。において、褐色。口縫部を上下に拡張し、ヨコナゴテ調整。	外側被熱する。
*	91	*	壺	16.0	(4.4)			チャートの粗粒砂を多く含む。淡黄色。口縫部を上方に拡張し、3条の弱い凹線文を派らせる。口縫部外側ヨコナゴテ調整。体部内面ヘラカツリ。体部外側タケハケ調整。	口縫部外側被熱する。
*	92	*	壺	14.2	(8.4)			チャートの小穂・粗粒砂を多く含む。において、褐色。口縫部を上下に拡張し、ヨコナゴテ調整。	外側被熱する。
*	93	*	壺	16.7	(4.1)			チャートの粗粒砂を多く含む。において、褐色。口縫部を上下に拡張し、弱い凹線文を3条派らせる。	外側被熱する。
*	94	*	壺	19.4	(5.0)			チャートの粗粒砂を多く含む。において、褐色。口縫部を上方に拡張し、ヨコナゴテを施す。口縫部下端は下垂させる。内面は頭部設下より下はヘラカツリ。	外側被熱する。
*	95	*	壺	15.0	(5.8)			長石・雲母・角閃石を含む。において、褐色。口縫部を上方に拡張し、ヨコナゴテを施す。口縫部下端は下垂させる。	外側被熱する。
*	96	*	壺	14.8	(6.1)			長石・雲母・角閃石を含む。において、褐色。口縫部を上方に拡張し、ヨコナゴテを施す。口縫部下端は下垂させる。内面は頭部設下より下はヘラカツリ。	搬入品。

Fig. No.	標番 番号	出土地点	器種	法量 (cm)			特徴	備考	
				口径	器高	底径			
33	97	ST 13	甕	18.0	(4.5)		チャートの小窪・粗粒砂を多く含む。にい黄橙色。口縁部を上方へ引き上げ、ヨコナデ調節を施す。内面は底部直下までハラケözを施す。外面部ハケ調整。	外面部ける。	
*	98	*	甕	15.5	(8.0)		チャートの小窪・粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。口縫部を上方へ引き上げ、ヨコナデ調節を施す。外面部ハケ調整。		
*	99	*	鉢	22.8	(8.2)		チャートの粗粒砂を多く含む。にい黄橙色。口縫部には丁寧に挖りを行ひ角張る。内外面の器長と傾斜が激しく調整難点不確。		
*	100	*	鉢	18.7	(9.6)		チャートの小窪・粗粒砂を多く含む。浅黄橙色。内面指傾圧痕が顕著に残る。外面部ハケ・ナダ調整。	外面部ける。	
*	101	*	高杯	21.6	(3.1)		チャート・赤色風化層を含む。橙色。内外面ヨコナダ調整。		
*	102	*	高杯	30.0	(2.8)		チャートの粗粒砂を含む。橙色。口縫部を内側にわずかに肥厚させる。口縫部に弱い凹線文が2条ある。		
*	103	*	高杯		(3.9)	15.2	チャートの小窪・粗粒砂を含む。にい黄橙色。外面部タケ調整・弱い外輪を強くヨコナダする。		
*	104	*	器台		(3.0)	15.0	チャート・結晶片岩の粗粒砂を多く含む。橙色。径5mmの円孔を2つまで認められる。		
*	105	*	高杯		(8.1)		チャートの粗粒砂を含む。灰白色。外面部ハケ調整。径1cmの円孔あり。		
*	106	*	高杯		(2.05)	19.4	チャートの粗粒砂・雲母を含む。橙色。粗粒部に強いヨコナダを施す。脚縫面に2条の弱い凹線文を巡らせる。内面ナダ調整。		
*	107	*	高杯		(5.3)	16.5	チャートの粗粒砂・雲母を含む。橙色。内外面調整不明。		
*	108	*	壺		(7.2)	7.5	チャートの粗粒砂を多く含む。灰白色。内外面調整不明。		
*	109	*	底部		(5.7)	7.8	チャートの小窪・粗粒砂を多く含む。にい黄橙色。	外面部熱赤変。	
*	110	*	底部		(2.8)	7.5	チャートの小窪・粗粒砂を含む。にい黄橙色。	外面部ける。	
*	111	*	壺		(3.4)	11.0	チャートの小窪・粗粒砂を含む。にい黄橙色。内外面ナダ調整。		
*	112	*	壺		(7.0)	6.5	風化層・石英・長石・雲母を含む。にい赤褐色。	難入土器。	
34	113	*	甕		(2.5)	6.5	チャートの粗粒砂を含む。橙色。内面ハラケöz。上底・底部外縁付近黒斑あり。		
*	114	*	甕		(3.1)	6.6	チャートの小窪・粗粒砂を含む。にい黄橙色。外面部ナダ調整。	底部外縁一下断面に大きな黒斑あり。	
*	115	*	甕		(4.6)	6.7	チャートの小窪・粗粒砂を含む。にい黄橙色。外面器表の剥離が激しい。内面ハラケöz・ナダ調整。		
*	116	*	甕		(5.05)	6.0	チャート・赤色風化層の粗粒砂を含む。にい黄橙色。内面ハラケöz・外面部タケ調整。上底。	外面部ける。	
*	117	*	壺		(3.5)	6.8	チャート・結晶片岩の小窪を含む。灰白色。内外面の器表の剥離が激しい。		
*	118	*	甕		(4.85)	7.3	チャートの粗粒砂を多く含む。にい黄橙色。内面ヘラケöz。	外面部ける。	
*	119	*	底部		(6.5)	6.2	チャートの粗粒砂を含む。にい黄橙色。内面ナダ・外面部ハケ調整。		
*	120	*	底部		(6.45)	6.2	長石・石英・チャートの粗・粗粒砂を含む。橙色。内面ヘラケöz・外面部タケハケ調整。	被熱赤変。外面部ける。	
*	121	*	甕		(7.1)	4.5	チャートの粗粒砂を多く含む。橙色。内面ハラケöz・ナダ調整。外面部ヨコナダ調整。上底。	内面底部付近黒斑あり。	
*	122	*	壺		(7.7)	11.3	チャートの小窪・粗粒砂を多く含む。にい黄橙色。		
*	123	*	石包丁	全長 9.0	全幅 4.9	厚さ 1.1	63.6g	両側縫に弱い折り。	千枚岩
*	124	*	石包丁	全長 10.6	全幅 5.2	厚さ 0.9	89.9g	両側縫にしつかりした折り、片刃。	千枚岩
35	125	SD 32	土瓶	全長 3.7	全幅 1.75	厚さ 0.5	7.5g	赤色風化層の粗粒砂を含む。にい黄橙色。	
*	126	*	土瓶	全長 (2.2)	全幅 (1.3)	厚さ (0.4)	(3.3)g	チャート・その他の粗粒砂を含む。にい黄橙色。	
*	127	SD 22	甕	13.3	(5.2)		チャートの小窪を多く含む。にい黄橙色。内外面タハケ調整。断面ハラケ縫合痕に見える。	外面部ける。	
*	128	*	甕	16.35	(5.8)		チャートの小窪を多く含む。にい黄橙色。脚部外縁タケöz調整。口縫部内外面ヨコナダ調整。	外面部ける。	
*	129	SD 32	甕	15.4	18.0	4.7	チャートの小窪を多く含む。にい黄橙色。内面ハラケöz・ナダ調整。		
*	130	*	壺		(6.7)	2.4	チャート・赤色粗粒砂を含む。浅黄橙色。内面指傾圧痕が顯著に残る。外面部調整不明。	被熱赤変。	

Fig. No.	拂岡 番号	出土地点	器種	法量 (cm)				特徴	備考
				口徑	器高	縁径	底径		
35	121	SD 33	須恵器	14.6	(3.5)			精選された胎土。灰白色。内外面ヨコナガ調整。	
*	122	SD 22	甕		(13.7)		7.5	チャートの粗粒砂が多く含む。淡黄褐色。内面ナデ、外面タハケ調整。下地に叩き。底部内面に粗粒痕あり。	
*	123	SD 32	須恵器		(1.85)		12.8	精選された胎土。灰色。丁寧な作り。しかしとした八字状の臺がつく。高台部が吸収状を成す。内外面ヨコナガ調整。底部外周タハク切り後、ヘラケズリ・ナガ調整。	
*	124	SD 33	須恵器	16.0	(1.55)			精選された胎土。灰色。口縁端部は丁寧な裏取り。内面ヨコナガ調整。	
*	125	*	石気丁	全長 —	全高 4.0	厚さ 0.9	重さ —	打製、輪維に押り。	真岩
36	126	SX 7	壺		(19.6)			チャートの小窓・粗粒砂を多く含む。にぶい褐色。胴部外表面下半タハケ、上半ヨコナガ調整。頸部外表面を基調とするハケ調整。胴部内面横方向沟を基調とするハケ調整。内面に軽く接合部を明瞭にとめる。	外表面下半に大きな黒斑あり。
*	127	*	甕	14.7	(13.6)	20.5		チャート・その他の粗・細粒砂を多く含む。にぶい褐色。口縁部内面ヨコナガ調整。胴部外表面タハケ調整。上部はハラケ・ナガ調整。底部外表面下半段に向かうヘラケズリ、上横方向のヘラケズリ。	外表面剥ける。
37	128	P 3	高杯		(2.2)			チャートの粗・細粒砂を含む。淡黄色。杯部の立ち上がり熱より形成。外周ヨコナガ調整。	
*	129	*	高杯		(9.3)			チャートの粗・細粒砂を含む。褐色。内面ナガ調整。外面部タハケ調整。底部外表面ヘラミガ調整。肩上部と下部に4箇所の凹窓を持つ。	
*	140	P 2	甕	16.0	(13.3)	24.0		チャート・その他の粗・細粒砂を含む。にぶい褐色。口縁部内面ヨコナガ調整。ナガ調整。口唇部を削りする。底部外表面ハケ調整。胴部内面上位は横方向のヘラケズリ、中位はヘラミガ・ナガ調整か。	外表面剥ける。
*	141	P 4	鉢	28.8	15.2		7.7	チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい褐色。口縁部内面ヨコナガ調整。口唇部を削りする。口唇部外表面ヨコナガ調整。	上部と下脚部に対照的な位置に黒斑あり。底形。
*	142	P 3	甕	8.8	13.1		4.2	チャートの粗・細粒砂を含む。淡黄色。口縁部内面ヨコナガ調整。全体外表面タハケ調整。内面ナガ調整。	口縁部と底部付近に黒斑あり。底形。
*	143	*	底部		(3.7)		5.1	チャートの粗・細粒砂とシャモットを含む。にぶい黄褐色。内面指頭部によるナガ調整。外表面タハケ調整。	
*	144	P 2	鉢		(10.9)		5.5	チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。内面ヘラケズリ。外周ヨコナガ調整。底部外表面ヘラミガ調整。	内面、底部以外の内面剥ける。
38	145	壺植 1 内			(33.5)		6.9	チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。口縁部内面ヨコナガ調整。底部外表面を基調とするハケ調整。	脚部の上部と下半の対照的位置に大きな黒斑あり。
*	146	*	甕	22.5	(9.3)			チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。口縁部内面ヨコナガ調整。底部外表面を基調とするハケ調整。	
*	147	*	壺	16.0	(14.5)	19.8		チャートの粗・細粒砂を含む。にぶい黄褐色。口縁部をわずかに上方に抉り上げ。横方向にナガ。胴部・口縁部内面ヨコナガ調整。底部内面ヨコナガ調整。口縁部外表面ヨコナガ調整。外周は脚部・上脚部は腹方向、中位は横方向を基調とするハケ調整。	
*	148	壺植 1	壺		(37.1)	42.0	11.3	チャートの粗・細粒砂を含む。にぶい黄褐色。上底底。内面粗いタハケズリ。外表面タハケ調整。	
39	149	壺植 2 内	甕		(13.5)		6.4	チャートの粗・細粒砂を含む。にぶい黄褐色。内面ヨコナガ調整。底部外表面を基調とするハケ調整。	
*	150	*	甕	23.5	(8.8)			チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。口縁部を上下に拡張し、5条の沈陥化した凹線をあらせる。脚部にハラム形による列点文を施す。頸部外表面ヨコナガ調整。内面剥離感が強い。	
*	151	*	壺	20.9	(6.6)			チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。口縁部を溝み出し、横方向に強くナガ。内面脚部底まで横方向のヘラケズリ。外表面タハケ調整。	
*	152	壺植 2			(49.7)		11.4	チャートの粗・細粒砂を多く含む。にぶい黄褐色。頭部下部にハケ原体による列点文を施す。脚部外表面タハケ調整。	上部脚と下脚部に大きな黒斑あり。

(3) 古代の検出遺構と遺物

Ⅲ章に述べた如く、今次は掘立柱建物、土坑、ピットを中心に報告し、その他は一部を抽出した。以下の記述のうち、建物の規模に関する比較的な表現は、今次調査成果の中での相対的なものである。尚、主な遺構の計測値、出土遺物については後掲の表にまとめた。

① 掘立柱建物

SB 8 (Fig. 41)

調査区中央部で検出した円

形ピットからなる 2×2 間の南北棟の縦柱建物で、遺物から時期を決定することは困難だが、ここで扱う。南側は南拡張区に属す。切合い関係は ST 10 を西側で切り、複数の方形ピットに切られる。方形ピットを持つ建物群とは棟方向に明らかな相違がある。出土した弥生土器片は内面へ削り、外側ハケ調整が認められるが、細片のため図示していない。

SB 9 (Fig. 42・43)

中央部東で検出した 3×7 間の南北棟で、H本区に該当したのは南部の一部のみである。IV-2層下に存在する。SA 11、SK 33・34をはじめ、本遺構と切合い関係を確認できる古代の遺構のうちでは、最も先行する。全体規模は SB 20 と並んで本遺跡検出建物中最大で、柱穴規模も大型である。側柱の掘方側線及び柱痕から復元する柱筋は良く揃っている。完掘した P 6、P 12、P 13 の掘方埋土は何れも互層をなす。埋土の各土層は、褐灰色粘土質シルトと地山土（灰黄褐色～ぶい黄褐色シルト）がブロック状に混ざることを基調としてその混合状態が少しずつ異なる。P 12、P 13 では柱痕下層に粘土が認められる。P 2 に掘り込まれている SA 11 の境界部より、赤彩土器部（417～423）が出土している。P 12 は断面で切合いがあるが、平面プランが連続しているため同時に扱う。S 1 は砂岩の川原石が打割されており、長さ 21cm を測る。全面内部まで著しく被熱・赤変しており、本来の自然面では全面に敲打によると見られる摩滅が認められる。また、表面は熱のため脆弱化し、部分的に剥離している。

SB 10 (Fig. 44)

調査区中央部で 3×4 間分を検出した南北棟であるが、北拡張区に属する北端側は確定することができなかった。検出面が IV-2 層下であること、他遺構が切り合うことが原因と考えられる。南側は南拡張区に属する。SD 40 と SB 20 の底北端の柱穴に切られる。完掘したピットの全てで礎盤として用いた石を確認した。P 12' は SB 9～P 12 に準じてここで扱うが、他遺構の可能性がある。P 12' からは黒色土器杯口縁部（181）が出土した。

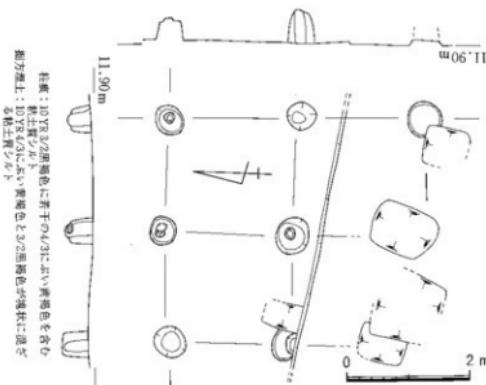


Fig. 41 SB 8 遺構平面・セクション図



Fig. 40 H区検出遺構全体図（古代）

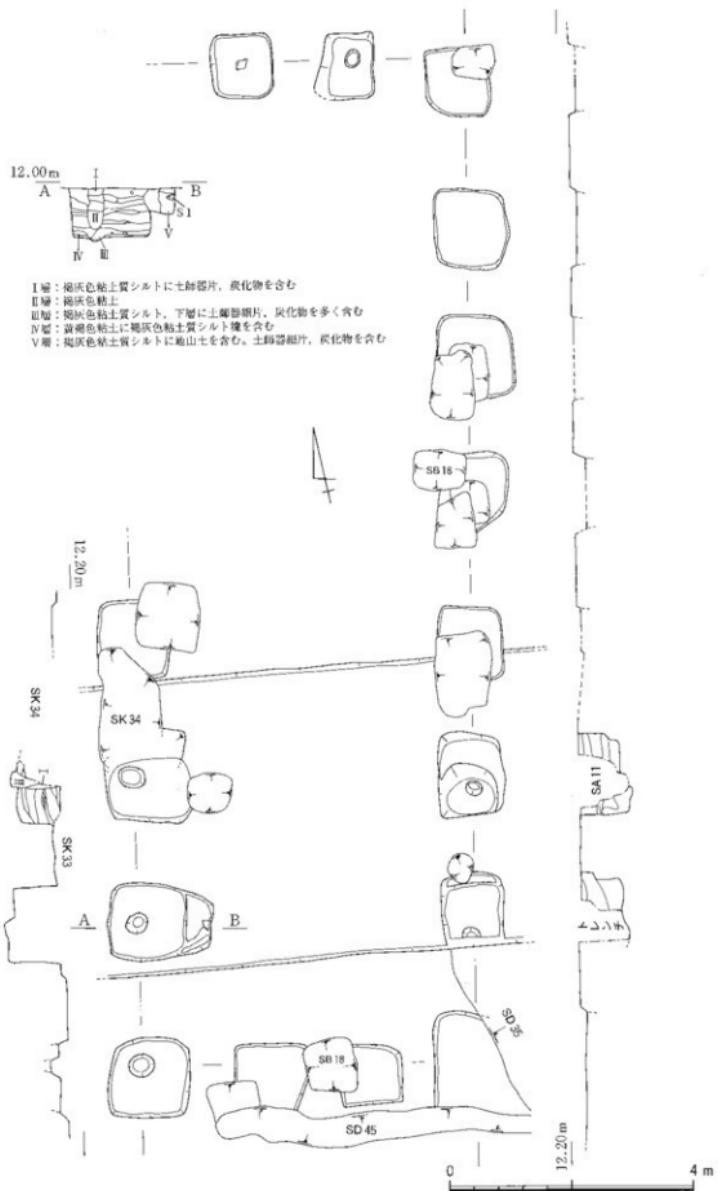


Fig. 42 SB 9 遺構平面・セクション・エレベーション図

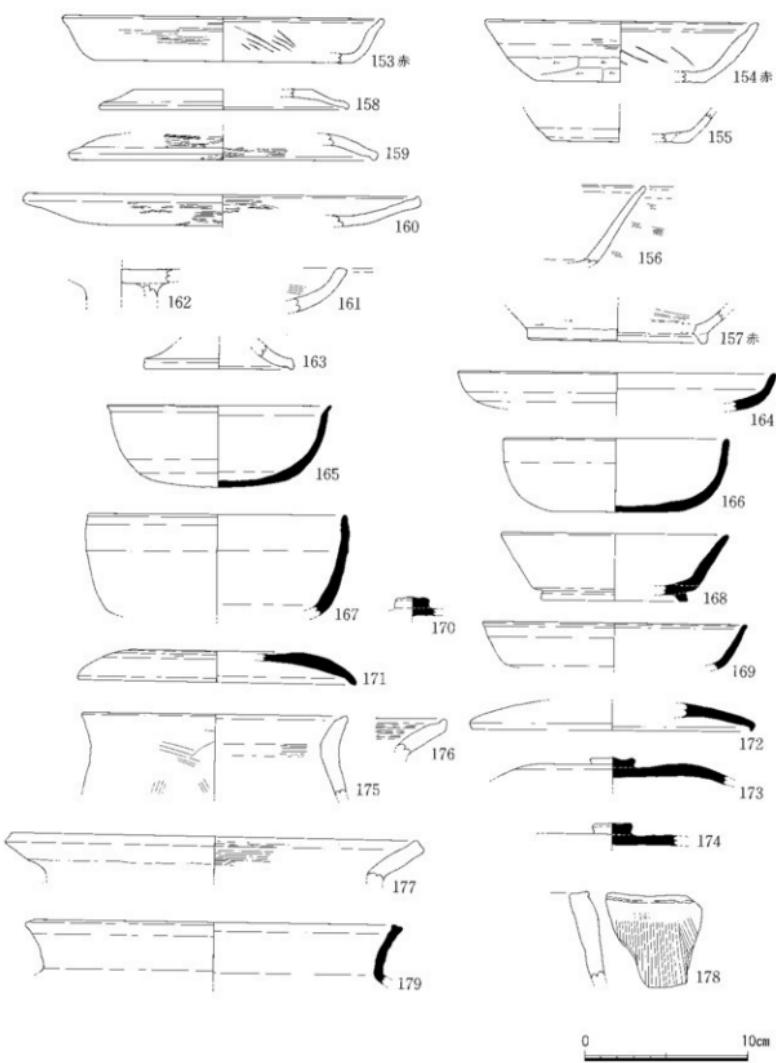


Fig. 43 SB 9 出土遺物実測図 (179は縮尺1/4)

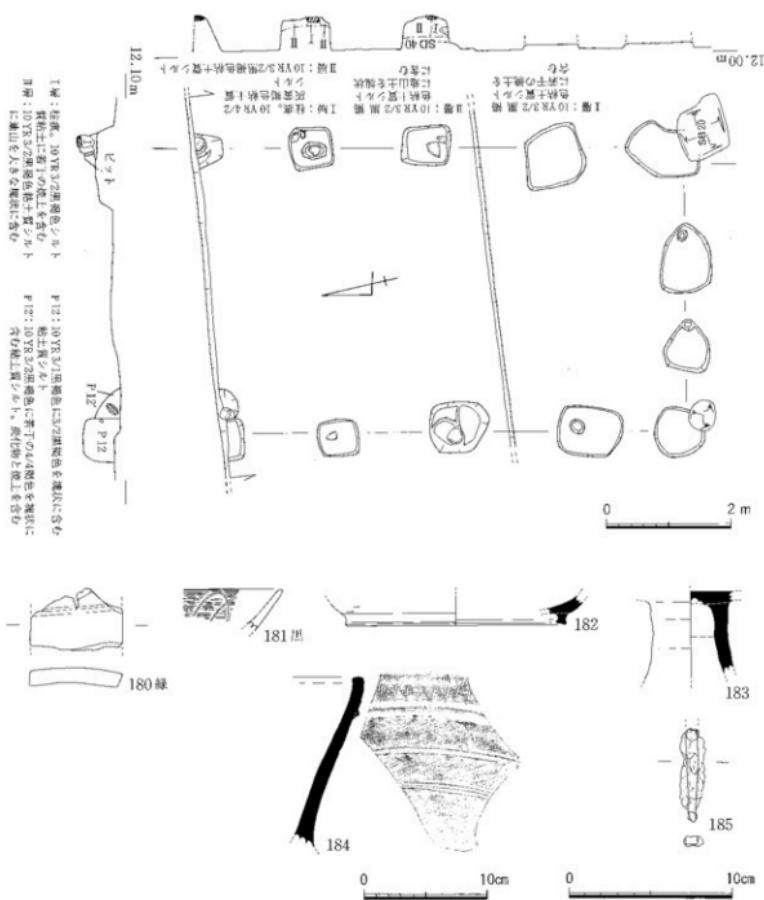


Fig. 44 SB 10遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図 (184は縮尺1/4)

SB 11 (Fig. 45)

2×3間の東西棟で、南拡張区に位置するため、埋土は僅かしか掘削していない。SB 19やSK 30に切られる。大型の柱穴を含み、柱間距離も広い。4つの柱穴で柱痕を検出することができた。

SB 12 (Fig. 40・46)

2×4間の東西棟で、北拡張区に位置するため30cm弱程度を掘削したのみである。梁間が2間であり他の3間の建物よりも柱間距離が長いが、SB 22との比較ではほぼ全ての数値において下回る。

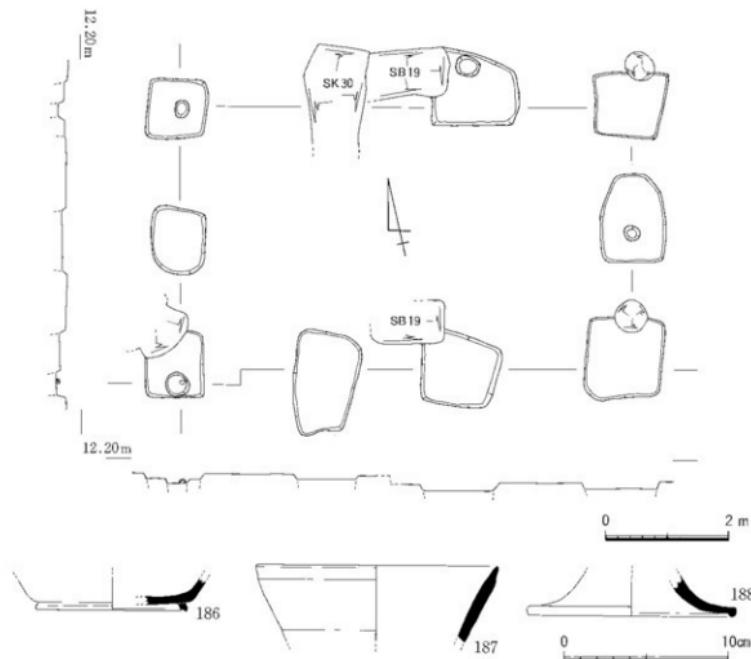


Fig. 45 SB 11造構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

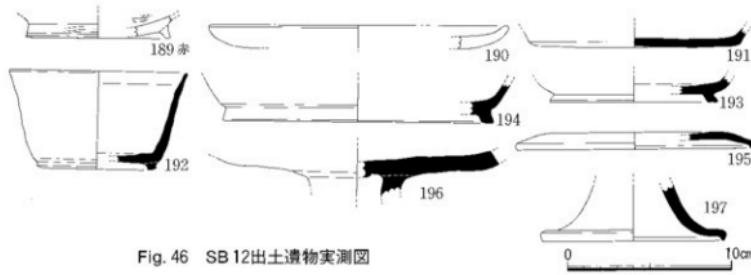


Fig. 46 SB 12出土遺物実測図

SB 13 (Fig. 47)

中央部西で検出した3×6間の南北棟で、南側が亘本区に属し、北西部は調査区外である。基本層準IV-2層下の造構であり、SD 38を切っている。柱間距離が長く、多くの柱穴で柱痕を確認できた。周辺の地山は基本層準の項で述べた通り、堅固な砂礫層となっており、本造構はそれに掘り込まれている。

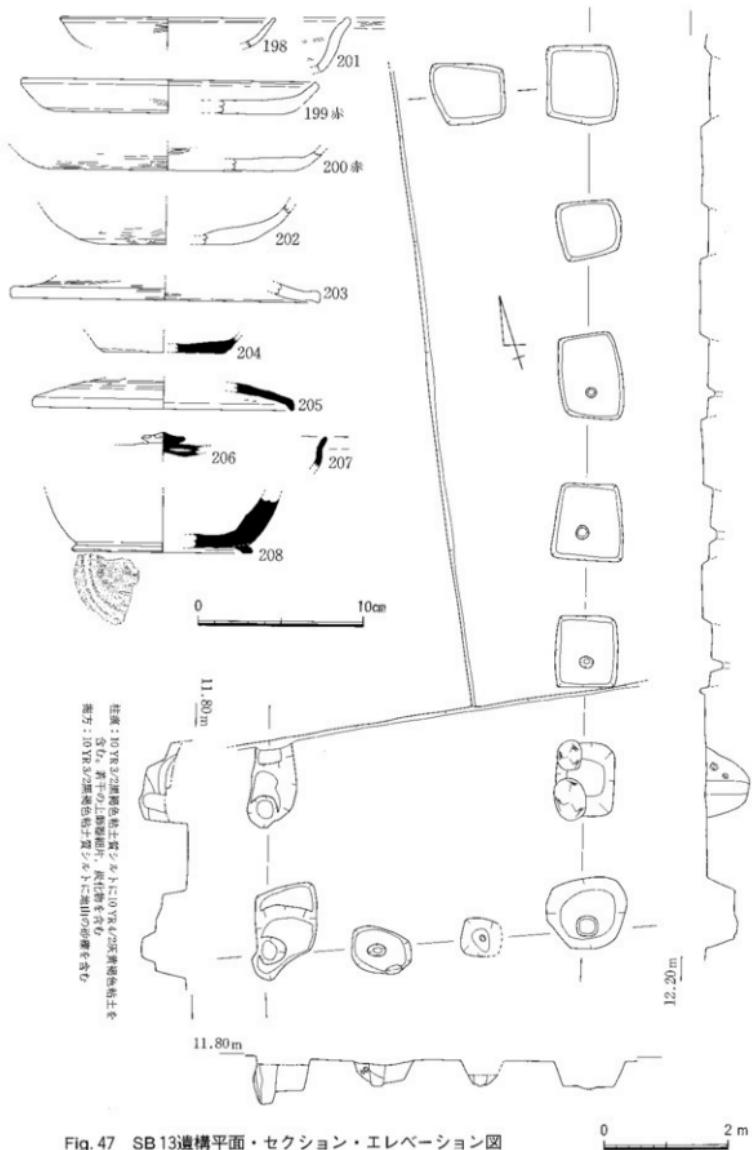


Fig. 47 SB 13遺構平面・セクション・エレベーション図
及び出土遺物実測図

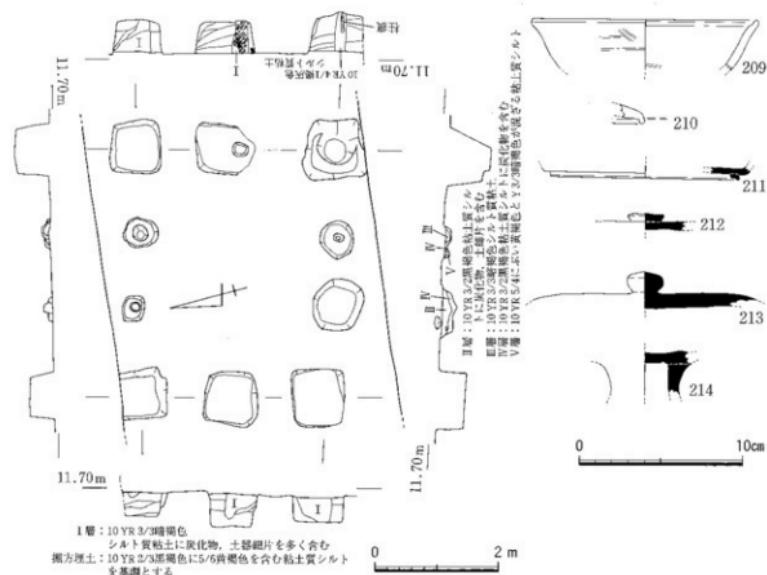


Fig. 48 SB 14造構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

SB 14 (Fig. 48)

H本区西部で3×2間分を検出した南北棟で、基本層準IV-2層下に存在し、V層に掘り込まれていた。P 4、P 5、P 9、P 10は他の柱穴と相違が大きく、妻柱に相当するか否かは不明である。今次検出の他の建物と比較して、柱間距離が短い。P 1、P 6、P 7で柱を抜き取ったことを示す土層が観察され、P 2の柱痕部からは拳大の川原石が多数出土した。また、P 3には柱根の一部が残っていた。

SB 15 (Fig. 49)

調査区西端で桁行6間分を検出した南北棟で、両妻側は不明である。北部がH本区に属する。基本層準V層下に存在し、西側柱はSB 16に切られる。P 2、P 9では検出面で20~30cm前後の川原石の集中が見られた。S 1は長さ30cmを測る砂岩の川原石で、両端と両面、特に検出時に裏側であった面に敲打痕がある。P 3掘方上層より出土の(219)は残存率が高い。

SB 16 (Fig. 51)

大部分が調査区外であり、全容については不明であるが、総柱の掘立柱建物として扱う。H本区西端で1×2間分を検出したが、当調査区の概要で述べたとおり、当該部は現堤防直下であり、西側は物部川によって破壊されている。Pイ2、Pイ3、P口2、P口3でSB 15を切っていること

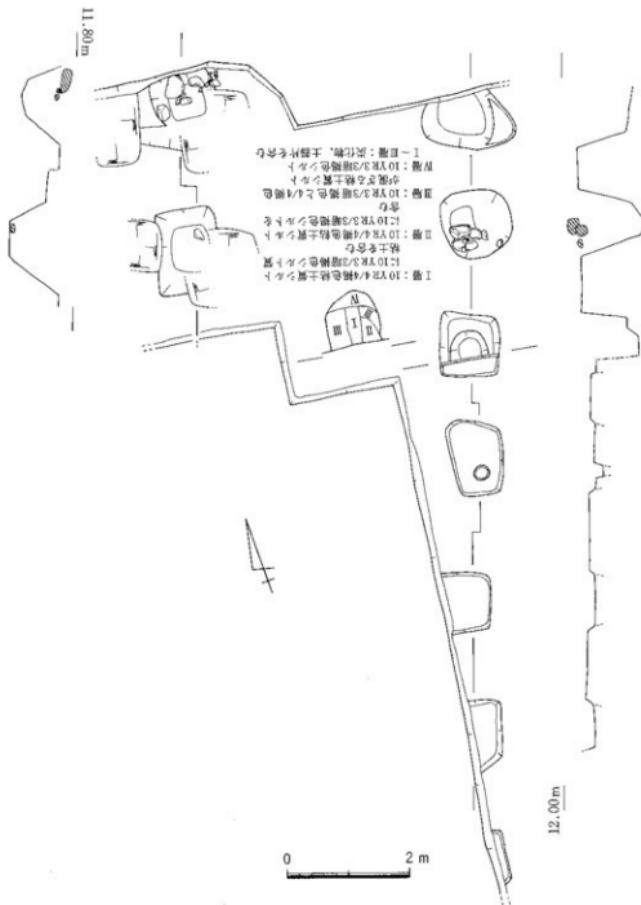


Fig. 49 SB 15遺構平面・セクション・エレベーション図

を断面で確認したが、P口2、P口3では平面的な切合いの確定が遅れた。P口1は南壁セクションでのみ確認した。他の建物と比較して柱間距離が短い。4つの柱穴で柱痕が確認され、P口2底からは扁平な石が出土した。P口3では検出時から平面で柱痕が検出でき、その中ほどの深さで柱痕部分に落ち込んだような状態で、重ねられた4個の完形の土師器杯（248～251）が出土した。なお、この様な状態は、SB 15東側のSF1と類似する。

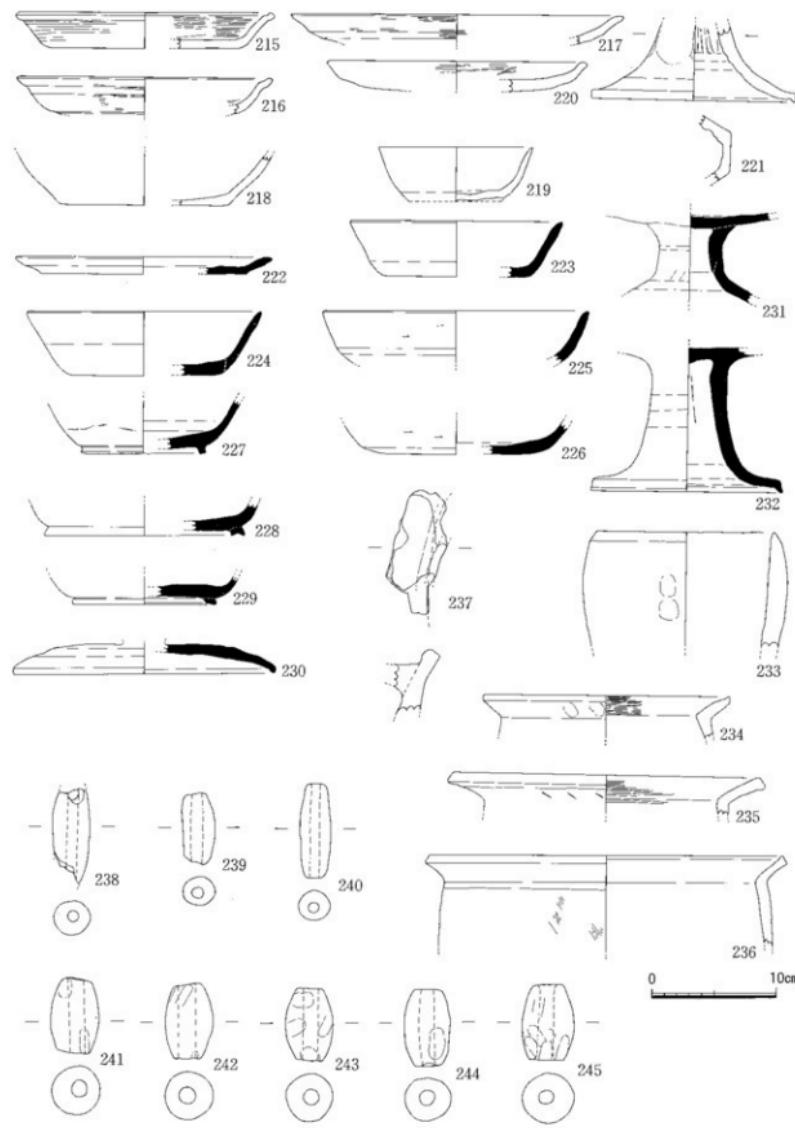


Fig. 50 SB 15出土遺物実測図 (234~236は縮尺1/4)

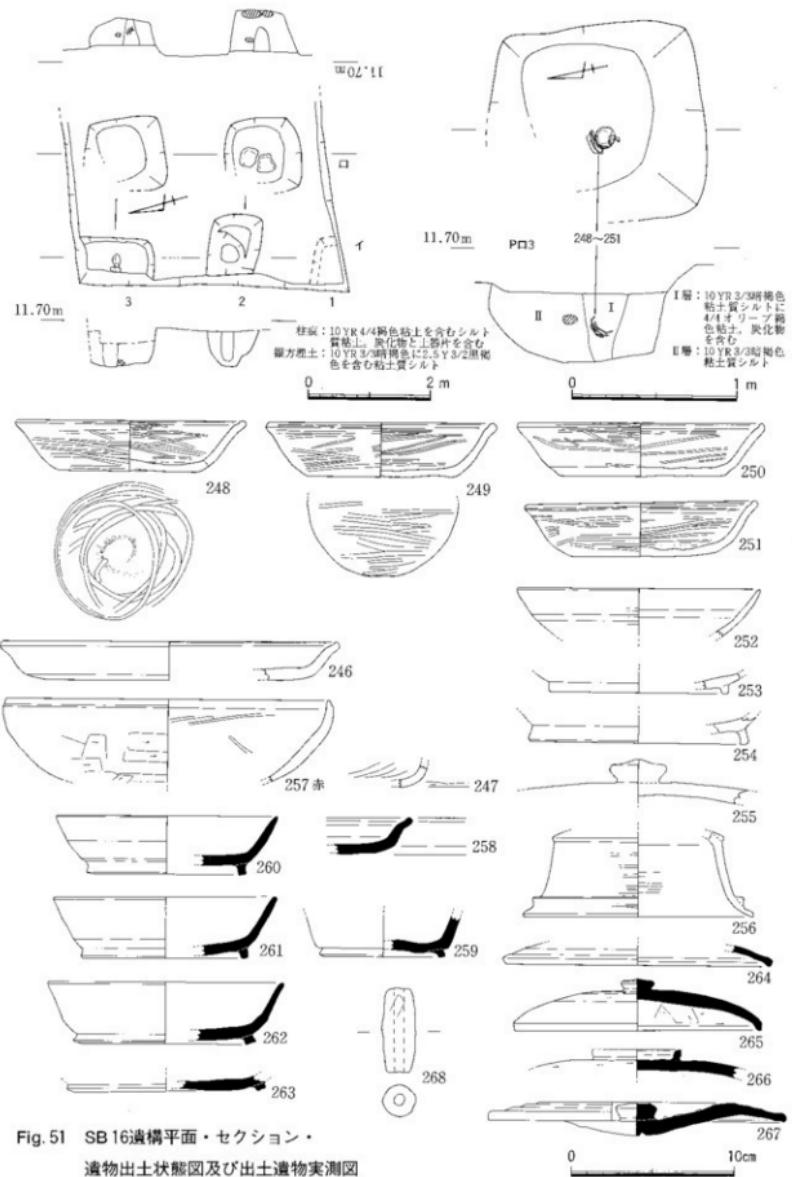


Fig. 51 SB 16遺構平面・セクション。
遺物出土状態図及び出土遺物実測図

SB 17 (Fig. 52)

東部で検出した3×3間の縦柱の南北棟で、南端柱列のみがH本区に属する。SD 26、SD 27、SD 28を切る。総じて柱間距離が短い方を梁間とした。柱穴規模は他の建物と比較するとやや小さい。ほとんどの柱穴で柱痕が確認でき、柱痕部付近に礫が検出されるものもあった。Pイ1では底面に敷かれたように川原石が検出された。

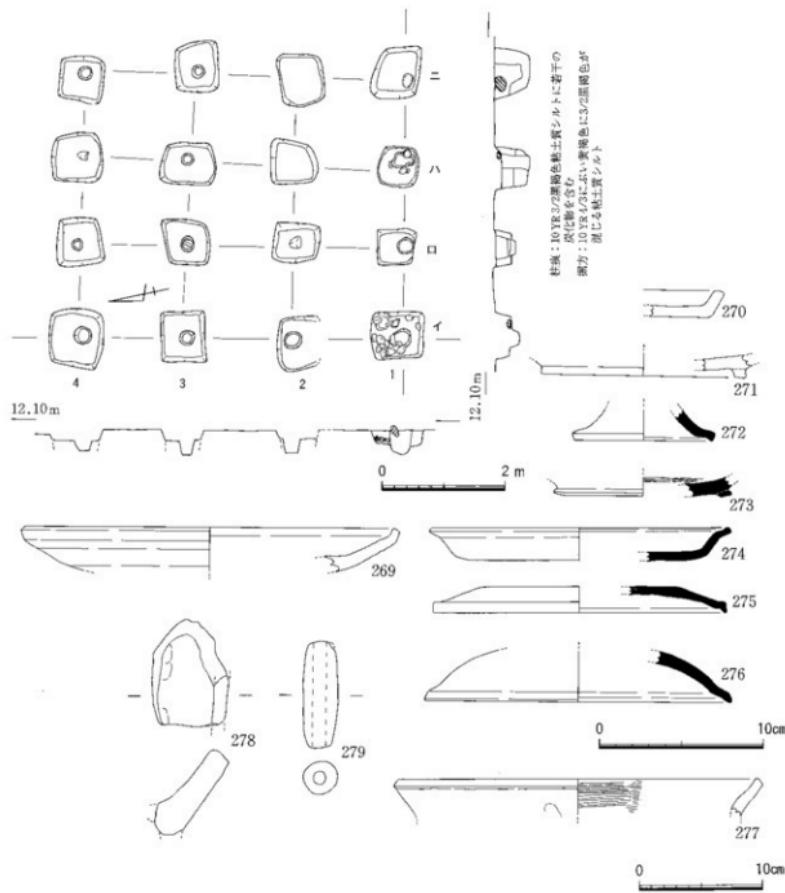


Fig. 52 SB 17遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図 (277は縮尺1/4)

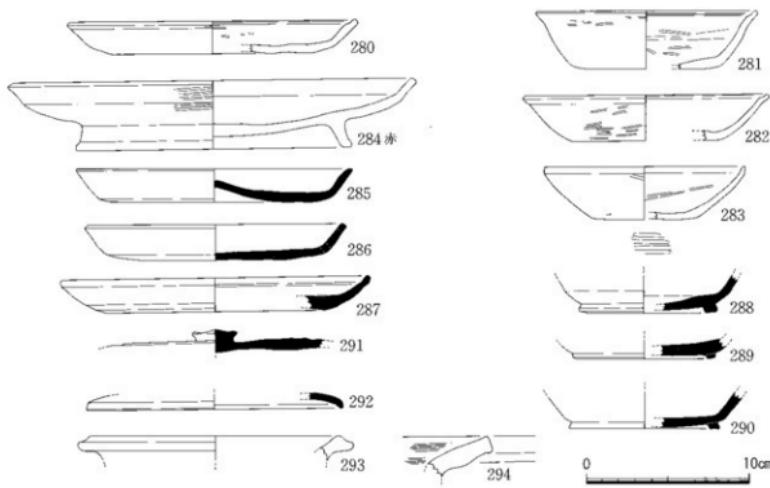
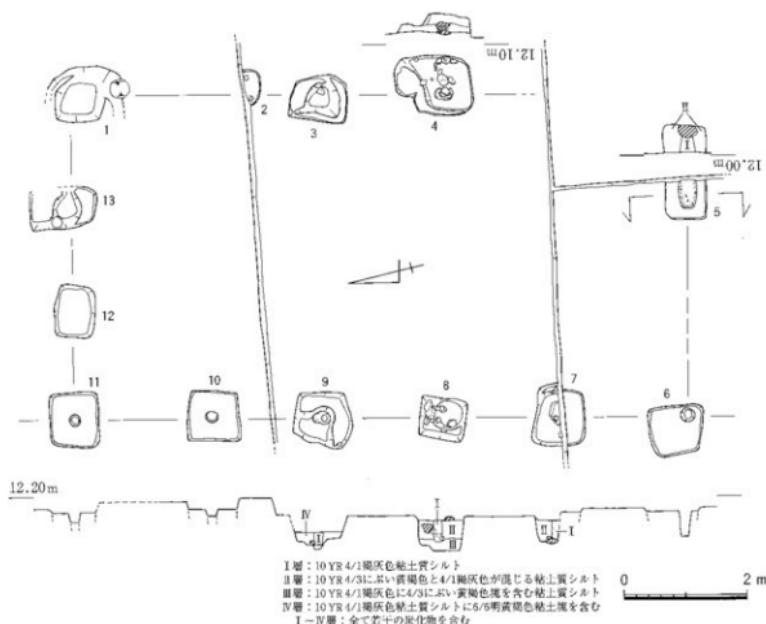


Fig. 53 SB 18造構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

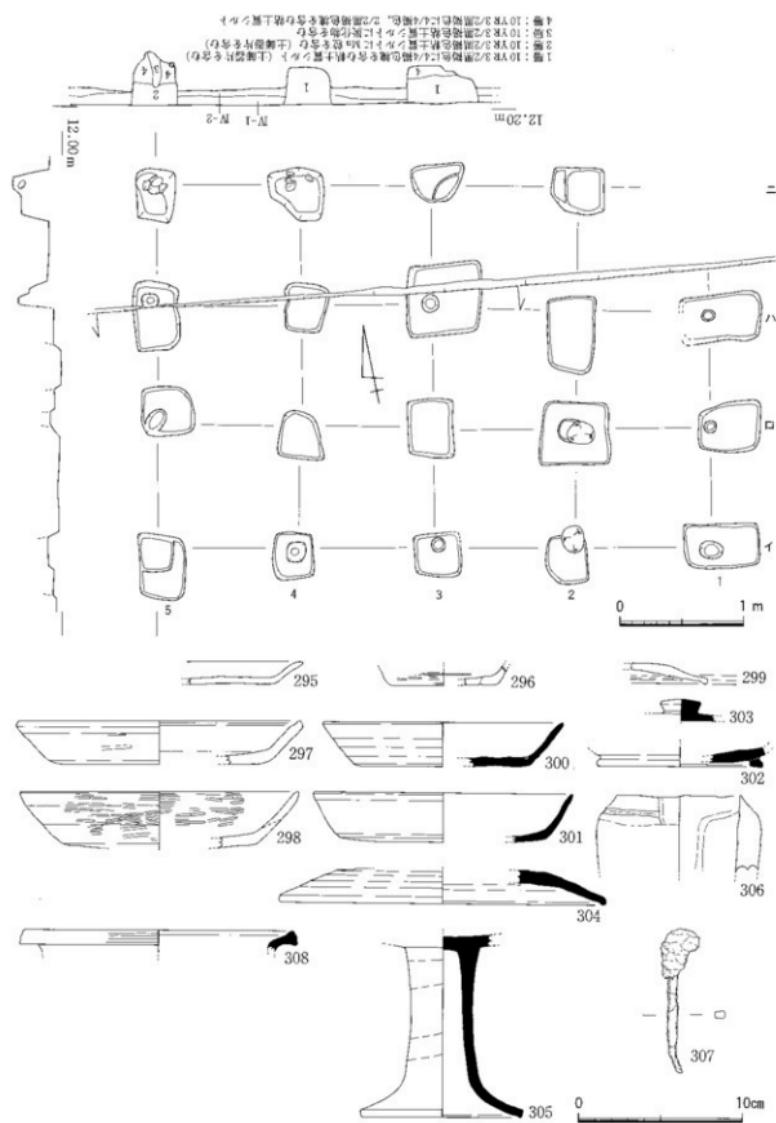


Fig. 54 SB 19造構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

SB 18 (Fig. 53)

中央部東寄りで検出した 3×5 間の南北棟で、建物中央部が H 本区にかかる。SB 9、SX 5、SD 35、SK 22、及び基本層準 IV-1 層を切る。P 1 は SK 22 と同時に掘削してしまったため平面プランが確定できない。P 5 ~ P 11 で柱痕が良く確認できた。礎盤として用いられた石が P 5、P 7 より出土、P 8 では $10\sim32$ cm の石が柱痕を取り巻いて螺旋状に存在した。P 7、P 9 からは鉄滓各 1 個が、P 4 からは付近に存在しない板状の粘板岩が出土した。

SB 19 (Fig. 54)

中央部で検出した 3×4 間の総柱の東西棟で、北側のみが H 本区に属する。基本層準 IV-1 層及び SB 11 を切る。柱穴規模は他の建物と比較するとやや小さいものがある。梁間の柱間距離は桁行のそれより $20\sim40$ cm 短い。P H 5 をはじめ、約半数の柱穴で柱痕を確認した。

SB 20 (Fig. 55・56・57)

中央部東の南拡張区で検出した 3×7 間の南北棟である。西側に同じ 7 間のやや小振りの柱列が沿う。身舎の柱穴埋土は近辺の柱穴埋土と共通性がありほぼ暗褐色粘土質シルトであるが、この西側に沿う柱列の埋土には土師器片や焼土粒が比較的多く含まれていた。しかし、身舎と長さ・間数ともに一致すること、柱痕位置も身舎側と良く対応することからこの柱列を SB 20 の庇と考える。埋土の相違については様々に考えられようが、SB 20 は未確認の遺構を多数切っていること、身舎の西側柱穴列の検出は東側に較べ困難であったことも考慮される。

本遺構は南拡張区に位置するため、検出・確認に留めた。検出面は断面で確認していないが、北端部において SB 9 南端部との検出水準面の若干の比高差があり、SB 9 より後出し、基本層準 IV-1 又は IV-2 層上より掘り込まれたものと考えられる。また、SB 10、SD 36、SD 37 を切っている。身舎の全体規模は SB 9 と並んで今次検出建物中最大で、柱穴規模も大型であり、柱痕から推測する柱径は大きく、柱筋は良く揃っている。桁行のうち、中央の P 14 と P 15 間が 2.9 m と大きく開いている。身舎と庇の柱間は $2.8\sim3.1$ m である。なお、身舎内南端に SK 29 が位置する。

八稜鏡は P 2 の中央部やや南東寄りの遺構検出面より出土した。腹面を上、残存する外縁部を外側（東側）に向けた状態であった。鏡周辺の遺構埋土は影響を受けて灰オリーブ色に変色していた。その他、P 12、P 23 からは、比較的の残存率の高い遺物が出土している。

SB 21 (Fig. 58・59)

南拡張区西部で検出した南北棟で、全体図でわかるように北側がやや複雑な状態であったが、 2×5 間の総柱建物として扱い、北側のやや小型のピット群を SA 9 とする。拡張区に位置するので、完掘していない。今次検出の建物の中で柱間距離はほぼ最大、柱穴規模も最大級で、柱径も揃って大きい。梁間と桁行で柱間距離の差が認められず、掘方でみれば中央の柱列がややふれている。本遺構周辺は基本層準の頂で述べた通り、堅固な砂礫層が地山面となっている。

遺物は Pロ 3 柱痕付近と Pイ 4 より比較的の残存率の高い土器が、また、Pイ 2 柱痕部より有溝土鍤が複数出土している。

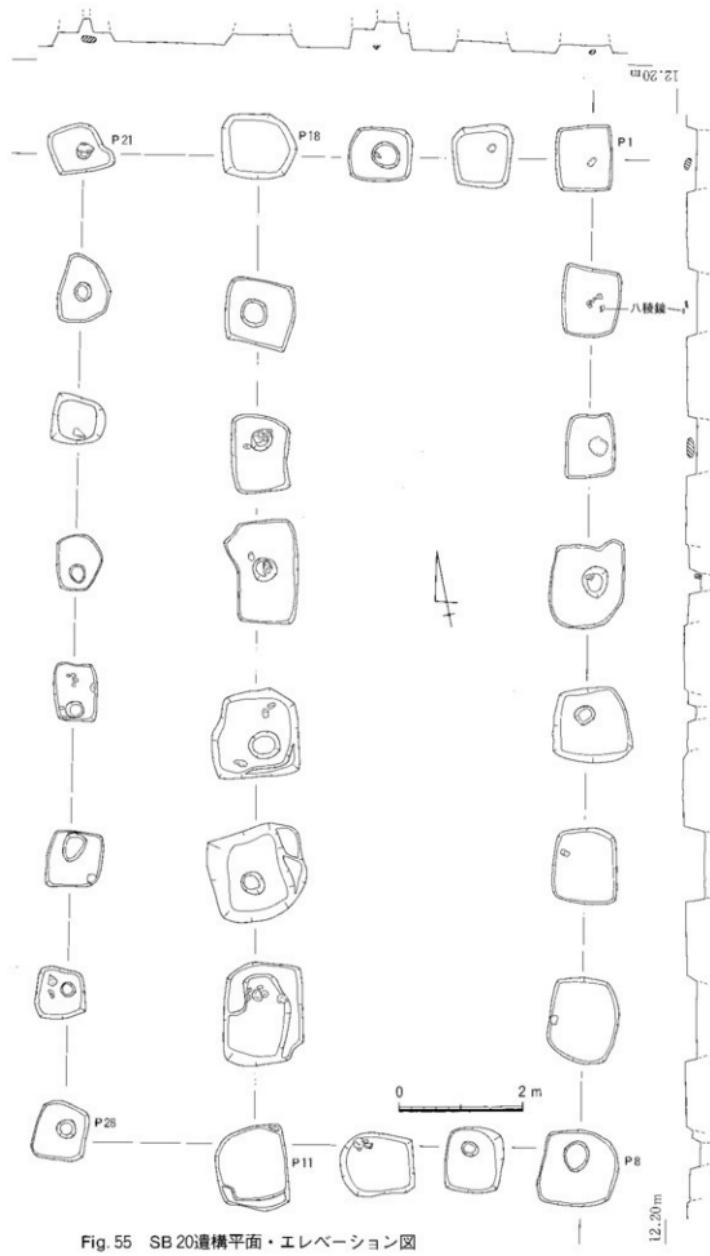


Fig. 55 SB 20造構平面・エレベーション図

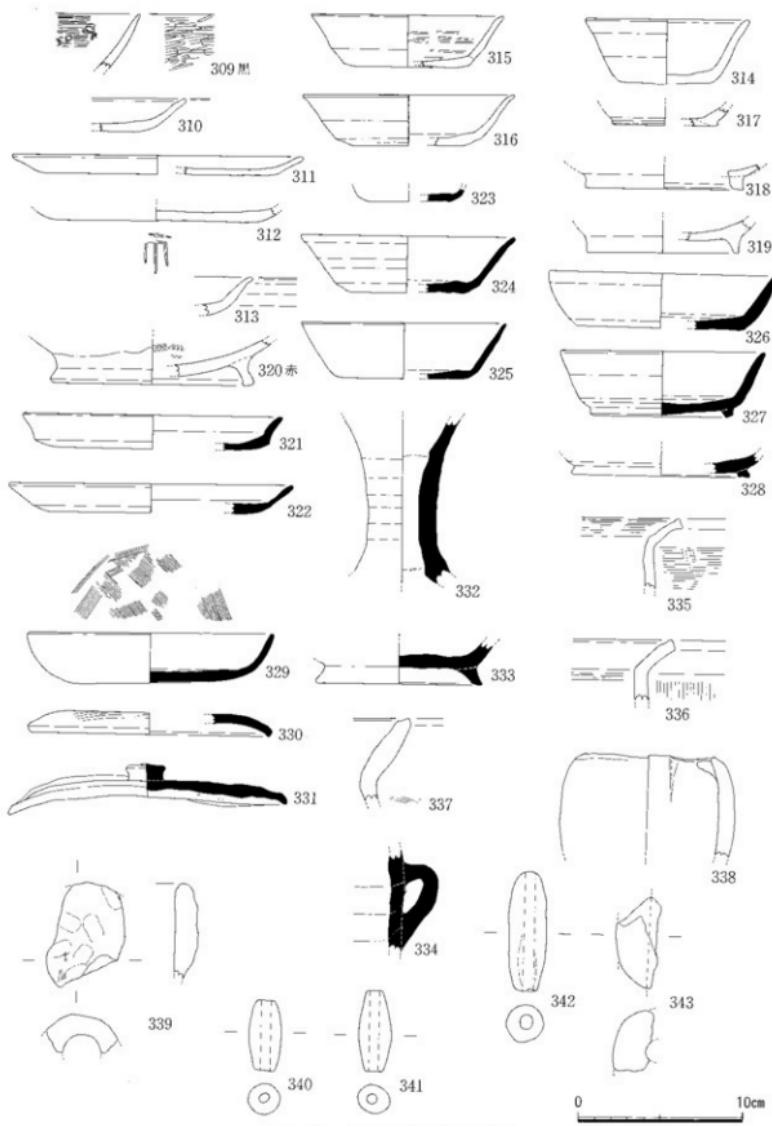


Fig. 56 SB 20出土遺物実測図

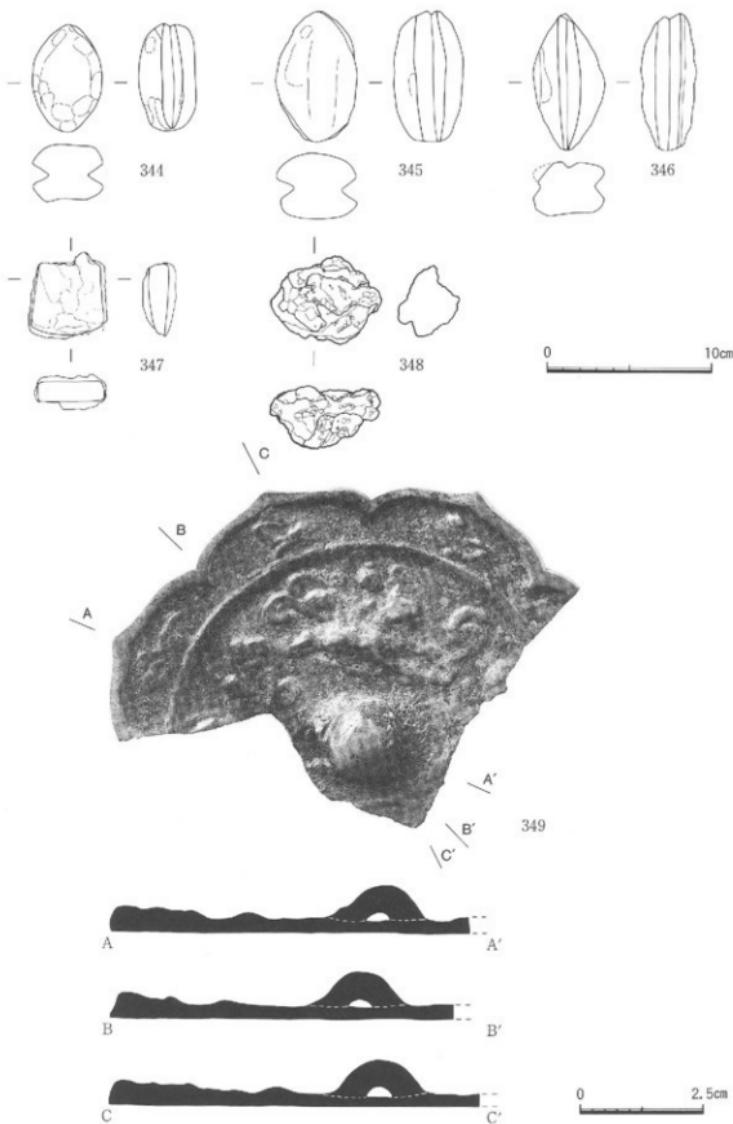


Fig. 57 SB 20出土遺物実測図及び写真 (349は実寸)

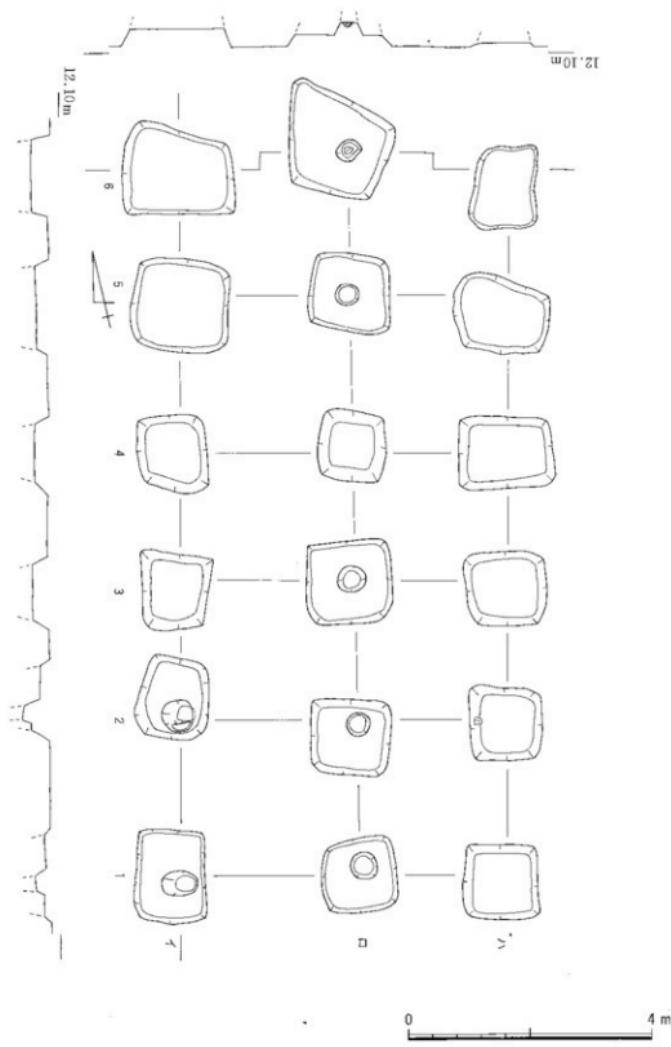


Fig. 58 SB 21造構平面・エレベーション図

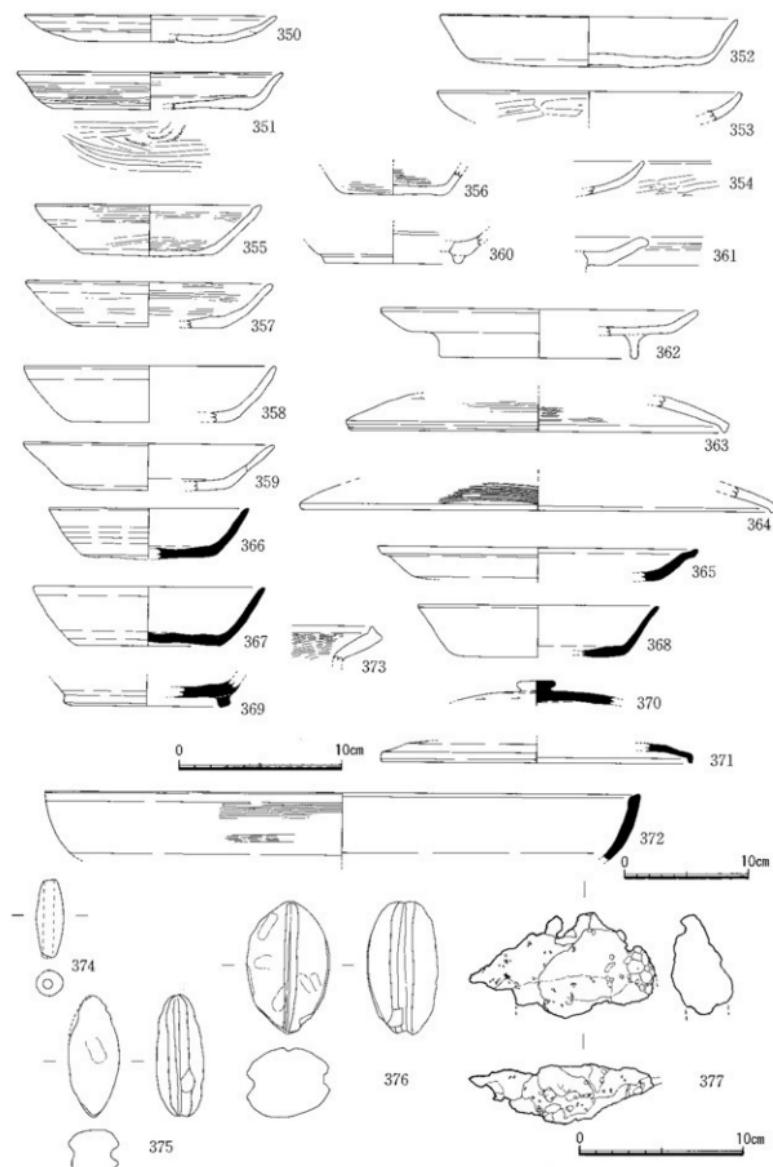


Fig. 59 SB 21出土遺物実測図(372は縮尺1/4)

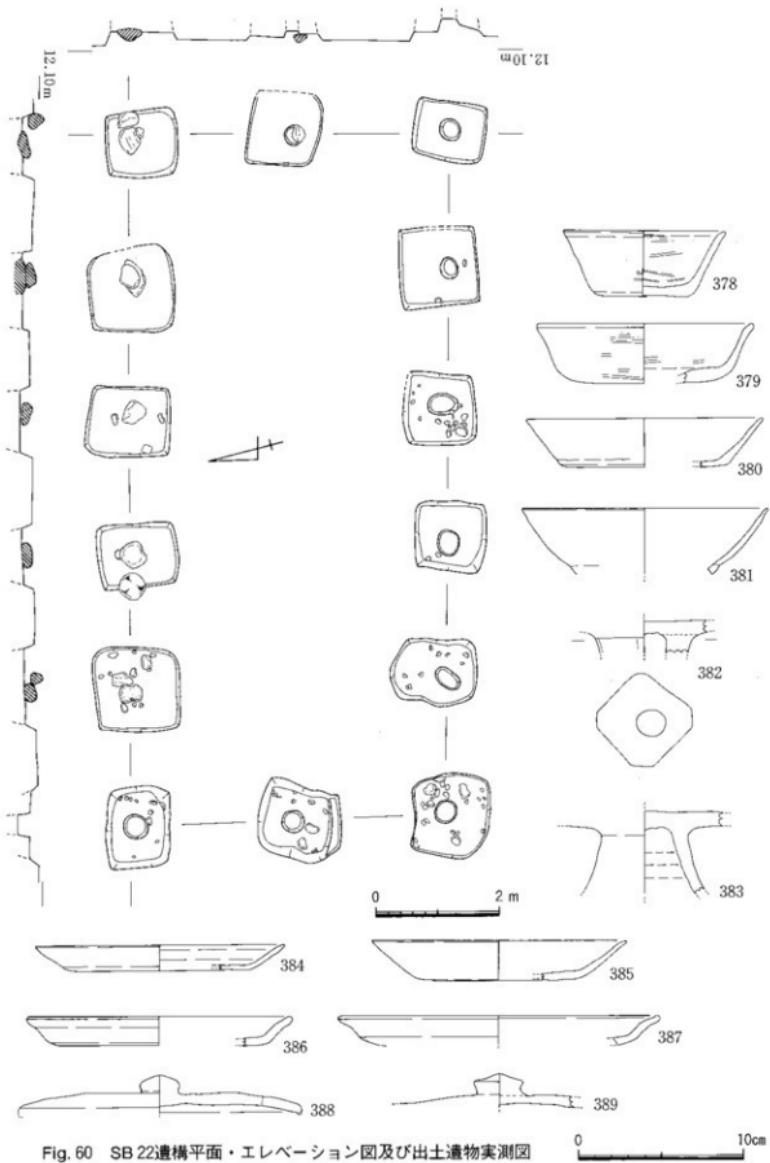


Fig. 60 SB 22遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

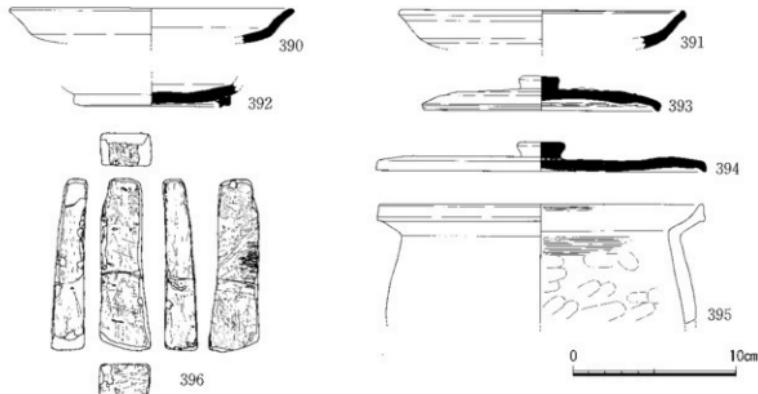


Fig. 61 SB 22出土遺物実測図

SB 22 (Fig. 60・61)

中央部北拡張区で検出した 2×5 間の東西棟で、旧耕作土下の基本層準IV-1層上面より掘り込まれる。拡張区に位置するため検出・確認に留めた。東端で大型のピットを切り、P 5、P 12でピットに切られる。柱穴規模は大型で、平面形と規模が揃っている。梁間は2間で柱間距離が広い。埋土は暗褐色に褐色塊を含む粘土質シルトを主とし、西端部では褐灰色を呈し、礫を含むものが多い。北側のP 11～P 2では柱痕に相当する位置の上面で30～60cm大の石を検出した。P 9は柱痕部を掘削できたこともあるてか、完形を含む一定量の遺物が出土している。尚、南側中央部で、2基の須恵器大甕（1029・1030）が遺構とはほぼ同時に検出された。

② 構造

SA 4 (Fig. 62)

SB 22の南西に沿うが、柱掘方はSB 22に比してやや小振りで、形状も異なる。北拡張区に位置するため確認に留めた。北端から順にP 1～P 7の番号を付した。褐灰色粘土質シルトの埋土中に数～20cm前後の礫を含むが、P 6とP 7間に位置するピットP 14、P 15ではそのような礫を含まないという差異が認められる。P 4から比較的多くの遺物が出土した。

SA 9 (Fig. 63)

SB 21北側に位置するクランク状の構造として報告する。拡張区であるため確認に留めた。北端から順にP 1～P 6の番号を付した。

SA 10 (Fig. 63)

H本区東端で3間分を検出した。円形の柱穴からなり、方形柱穴を持つ遺構群とは明らかに方向が異なる。各柱穴に北からP 1～P 4の番号を付した。P 1はSD 26埋土に掘り込まれる。P 2より半完形の土師器杯（413）が正立して出土した。

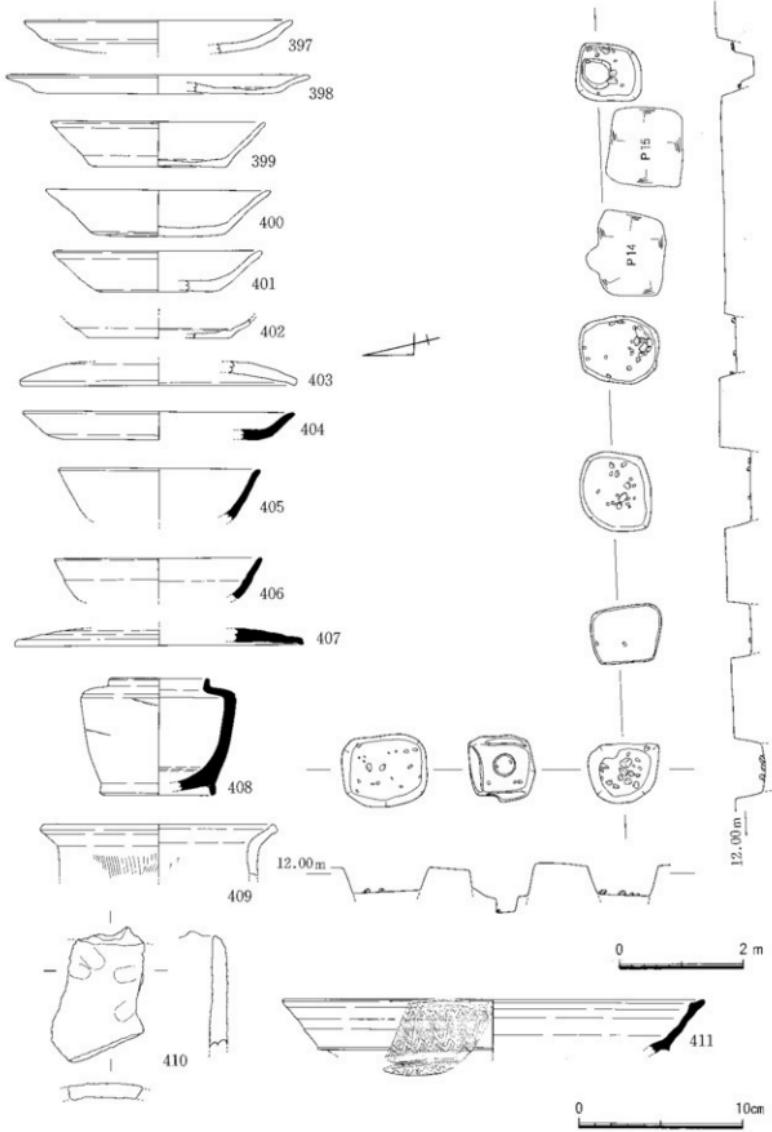


Fig. 62 SA 4 遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図 (411は縮尺1/4)

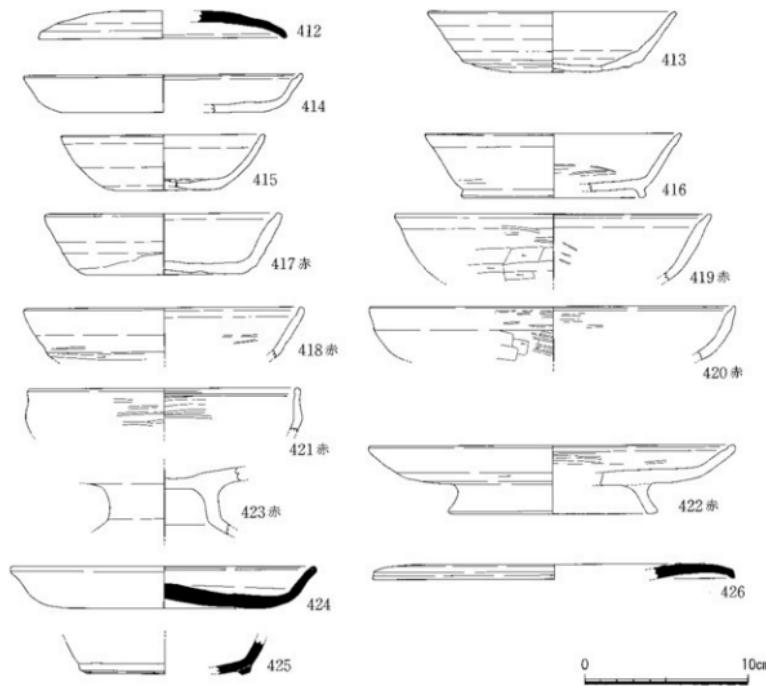


Fig. 63 SA 9・10・11出土遺物実測図

SA 11 (Fig. 63)

多くはSB 9に掘り込まれておらず、H本区北壁セクションではIV-2層下に存在する。P 2では柱痕部下層で20cm大の礫を検出、P 7では底に被熱・打割された18cm大の礫が、P 5では4個の20cm大の礫と、板状の結板岩が焼土塊と共に認められ、石のなかには被熱赤変しているものもあった。

③ 集石遺構1 (Fig. 64)

南拡張区南部で4~30cmの礫からなる7つの集石部を確認したが、検出したのみで精査していない。その為不明要素が多いものの、形状や並び方からみて何らかの建物跡と仮定して図示・計測した。集石5は径約60cmの整った円形で、断面は浅い擂鉢状を呈す。集石1~3で隅丸方形の掘方が検出されたことや、SB 14・SB 16での柱痕部に礫を配した例から考えると、掘立柱建物であった可能性もある。遺物は集石6からの製塙土器をはじめ細片が出土しているが、図示できるものは無い。

④ 土坑

以下に報告する土坑については、拡張区に存在するものも性格を把握するために完掘した。

SK 16 (Fig. 65・66)

H本区東部で検出した1.02×1.24mの円形の土坑で、南側で切れる不明瞭な段部を持つ。V層除

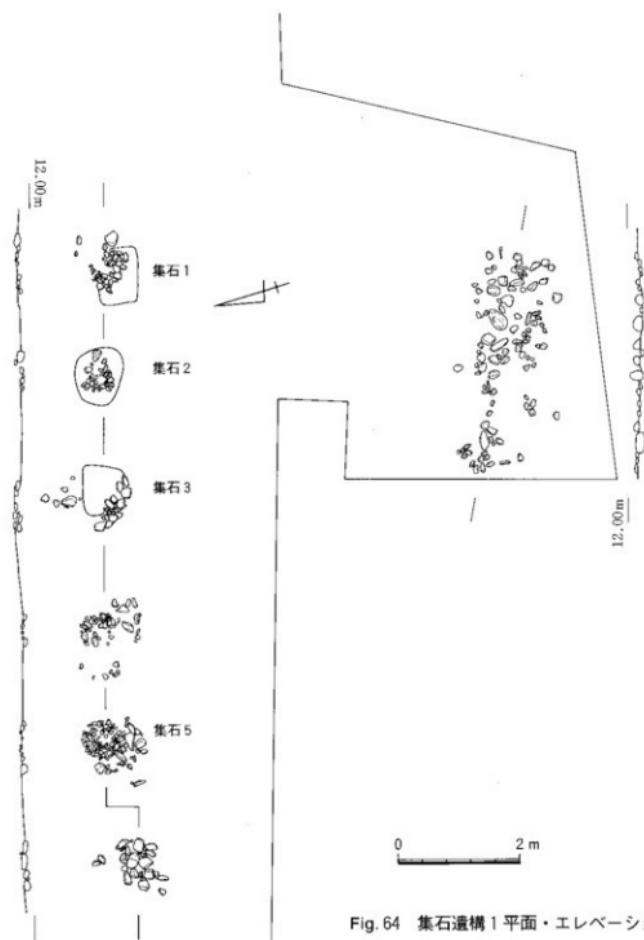


Fig. 64 集石遺構1平面・エレベーション図

去後に検出したが、各基本層準との切合い関係は明確にし得なかった。底部に粘土塊を含み締りのあるⅡ層が存在し、Ⅱ層除去後の底はピット状になる。いずれの面にも被熱痕は確認できず、明確な焼土も含まれないが、埋土Ⅰ層より土器とともに出土した大小の石の中には、被熱、打削されたものが含まれていた。(443)は長さ40cm、重さ35kgを測り、被熱赤変している片面の側縁付近が敲打されている。この被熱面を下にⅡ層直上より出土した。中央南東寄りの須恵器壺片下のⅠ層下層からは、鰐羽口片1片(441)が出土した。

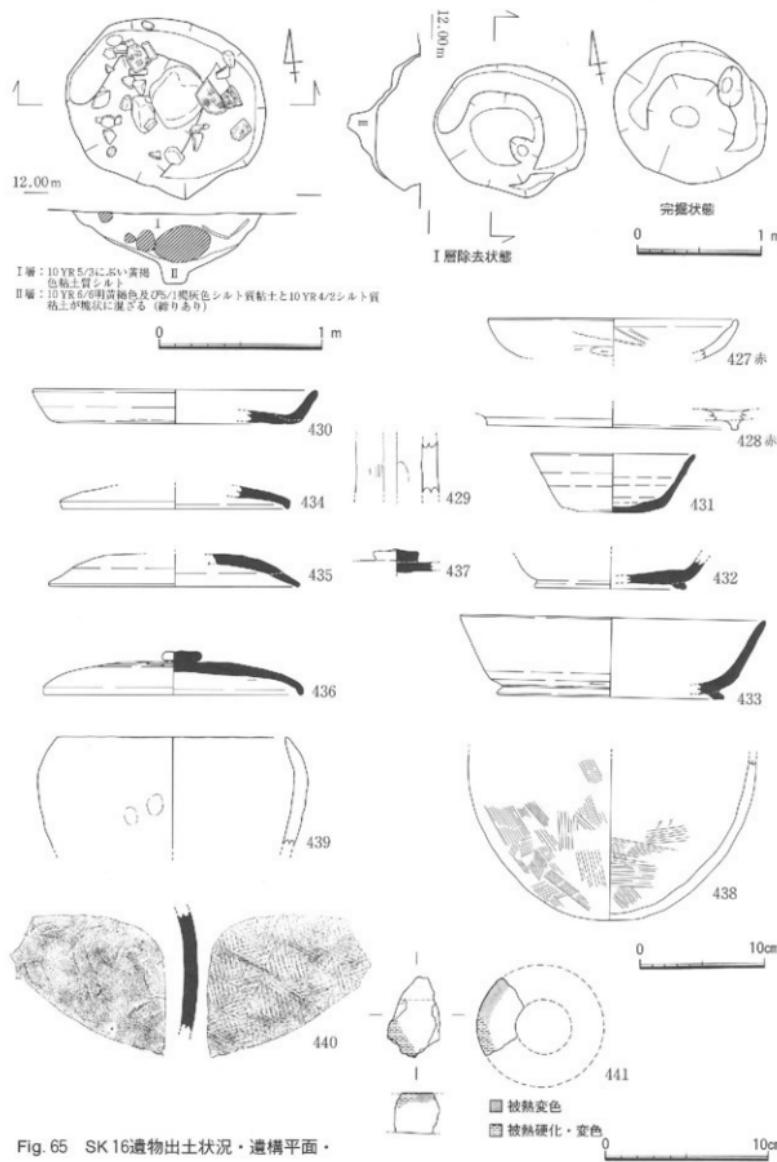


Fig. 65 SK 16遺物出土状況・遺構平面・
セクション図及び出土遺物実測図 (438は縮尺1/4)

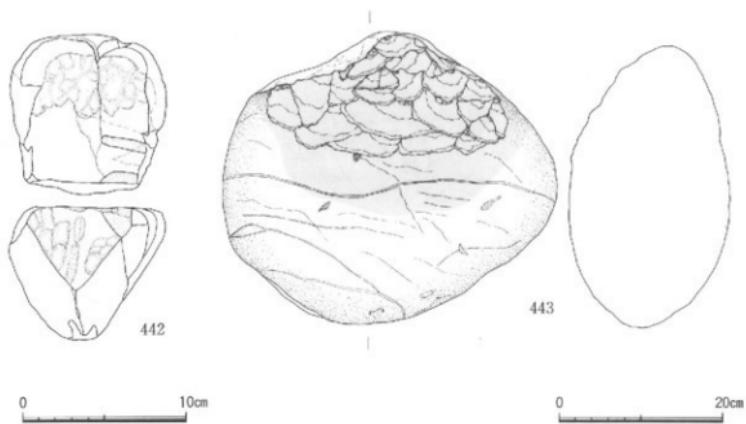


Fig. 66 SK 16出土遺物実測図

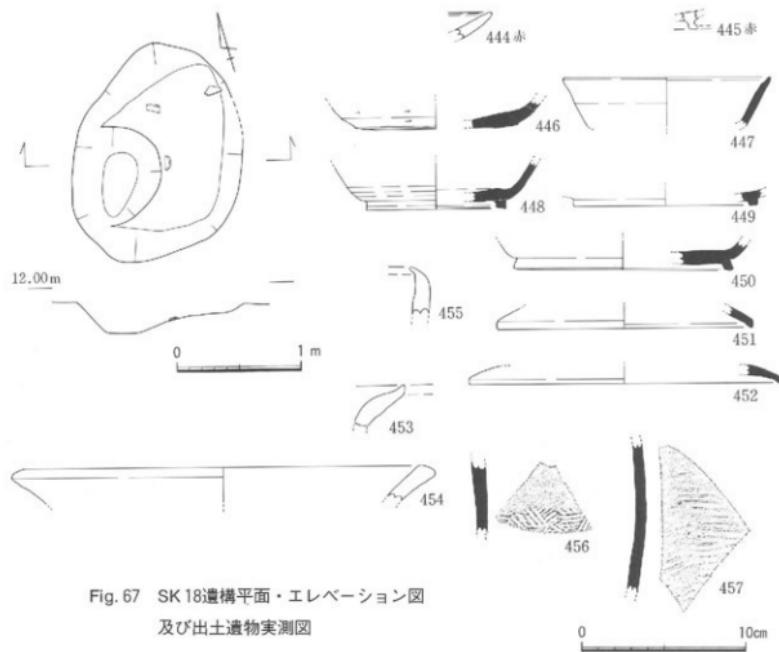


Fig. 67 SK 18遺構平面・エレベーション図

及び出土遺物実測図

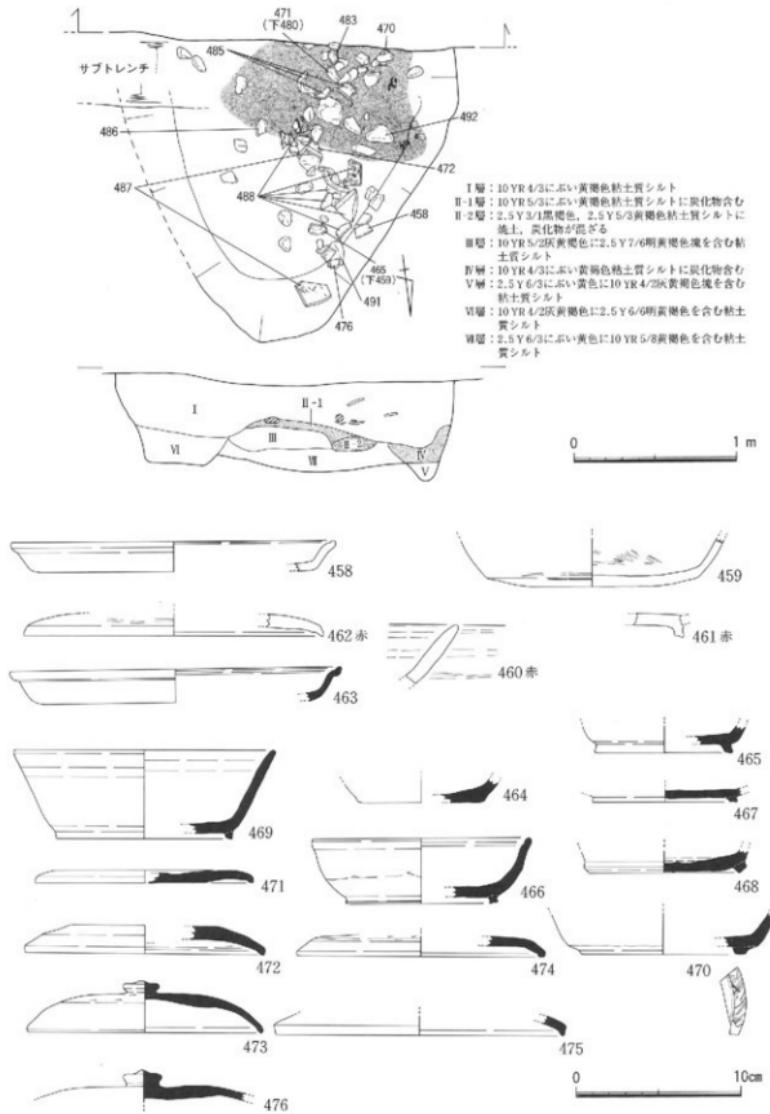


Fig. 68 SK 20遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図

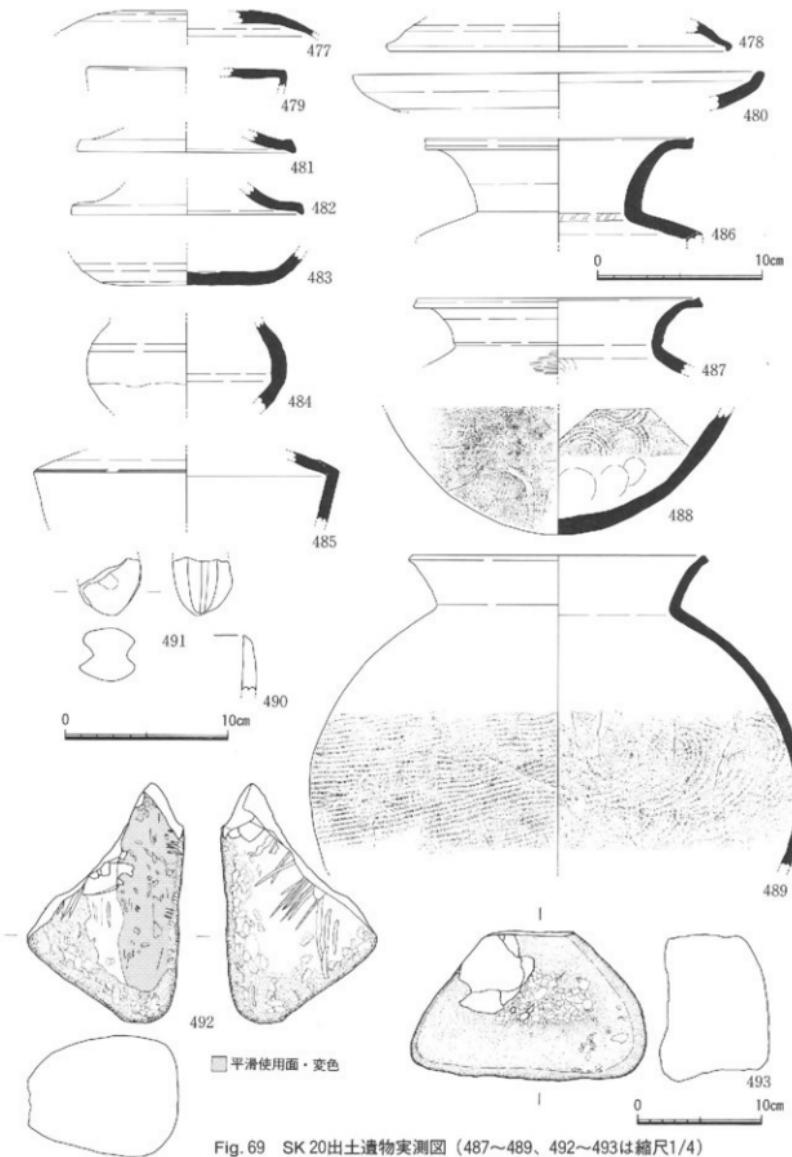


Fig. 69 SK 20出土遺物実測図 (487~489, 492~493は縮尺1/4)

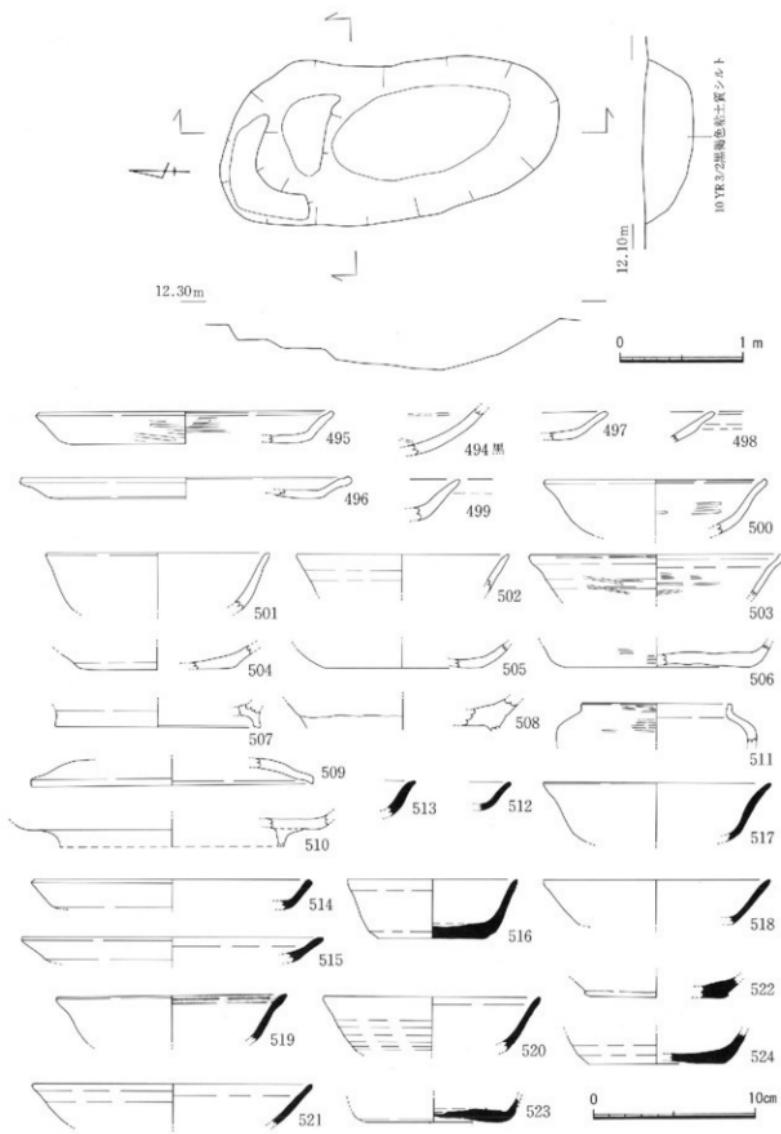


Fig. 70 SK 21遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

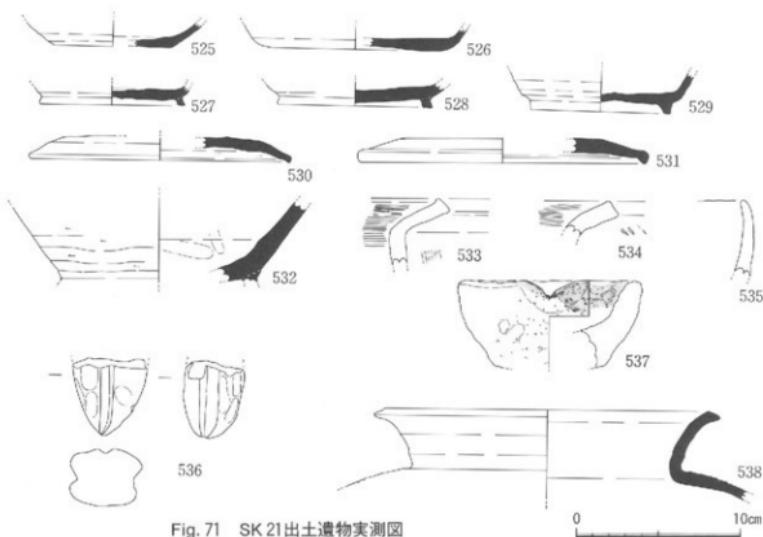


Fig. 71 SK 21出土遺物実測図

SK 18 (Fig. 67)

H本区東部で検出した1.82×1.36mの楕円形の土坑で、SD 29、SD 30に切られる。基本層準との関係は確認できなかったが、検出は近隣の遺構より遅れ、V層下の遺構であったと思われる。鰐羽口先片1片も出土した。

SK 20 (Fig. 68・69)

H本区東部南壁際で一部を検出した。検出部分は2.08×1.86mで、楕円形の一部のような形状を呈する。南壁側西寄りに炭化物と焼土層の広がりがあり、遺物のほとんどはその上から出土した。大小の石には被熱したり、打割されたものがあり、砥石も含まれる。鰐羽口先小片も1片出土した。断面では東西両側が落ち込むが、平面で確認することができなかった。また、全埋土を除去すると数cm～數十cmの川原石が一面に広がっていた。この様な状態は本遺構周辺で特異なものであるが、礫面は遺構外へ続き、ST 9直下ではやや似た様相も見られたので、基盤層の局所的な状態の一つと考えられる。

SK 21 (Fig. 70・71)

北拡張区東部で検出した1.38×2.83mの楕円形の土坑で、主軸方向は大型建物群とは異なる。西側で方形ピットを切っていると思われる。北側に浅い段を有し、横断面は平らな舟底形を呈する。被熱痕等は見られなかった。

SK 22 (Fig. 72・73・74)

北拡張区東部で検出した遺構で、SB 18に切られる。また、南部でもう1基の方形大型ピットと

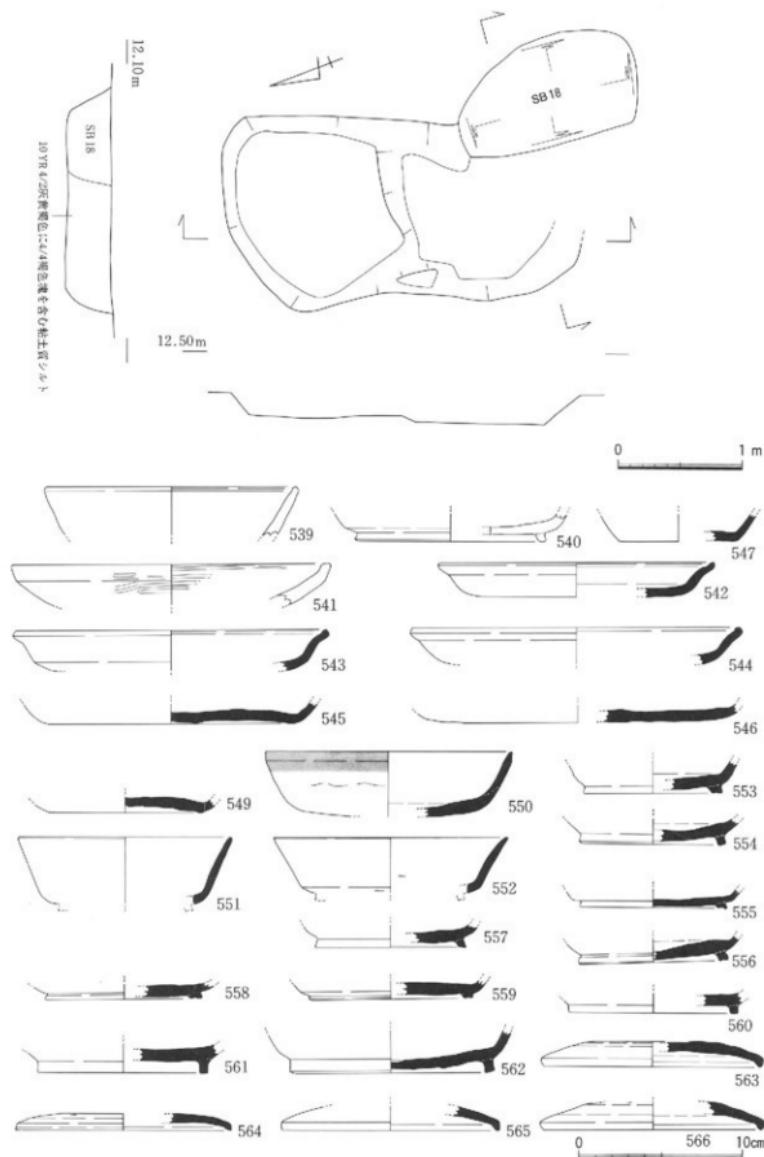


Fig. 72 SK 22遺構平面・セクション・エレベーション図及び出土遺物実測図

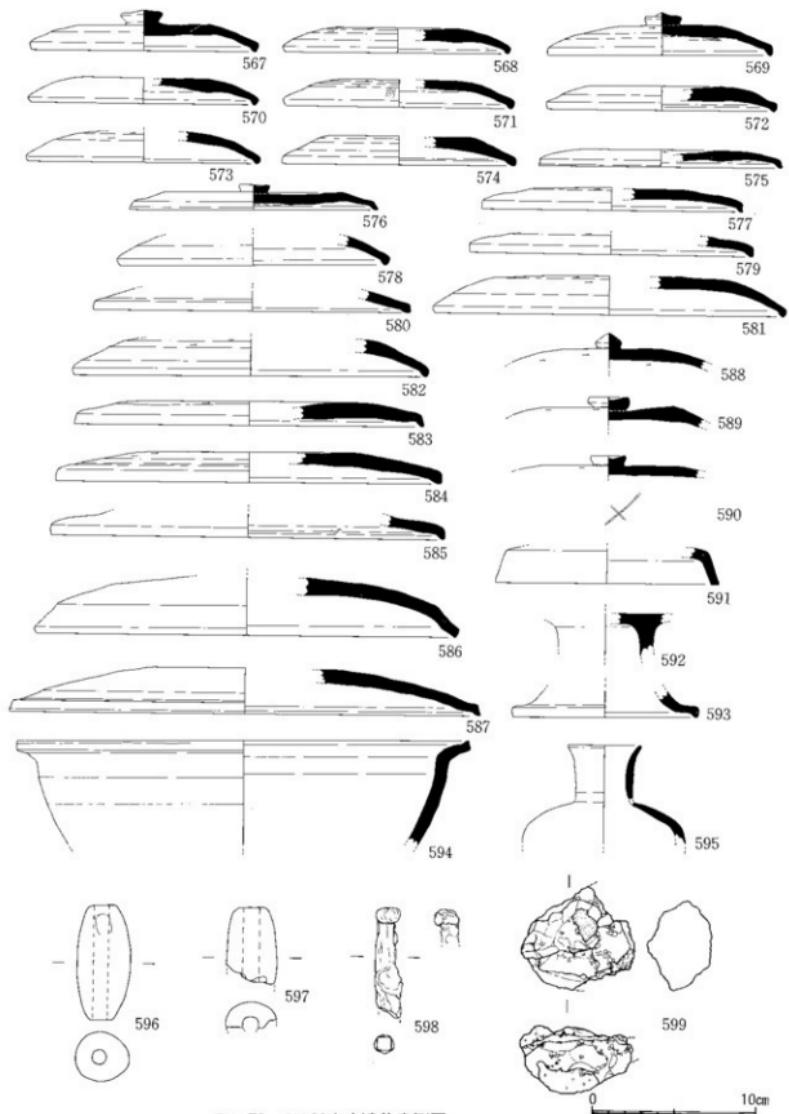


Fig. 73 SK 22出土遺物実測図

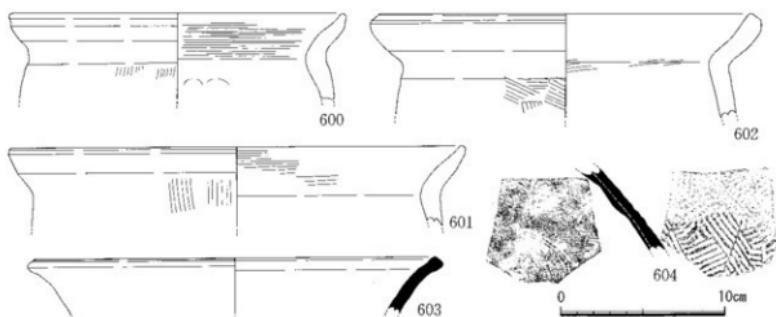


Fig. 74 SK 22出土遺物実測図

切合いを持つものと考えたが、これについては遺構掘削後に判断したものである。このように全容については不明確な要素が残るが、 $1.6 \times 2.9\text{m}$ の長方形の土坑として扱う。主軸方向は大型建物群と同様である。

SK 27 (Fig. 75)

北拡張区東部で検出し、 $0.96 \times 2.1\text{m}$ を測る。形状より2遺構が切り合っている可能性もあるが、下層出土の遺物は少なく、また上層と下層で接合した遺物がある。上層に土師器片が多かった。撒入の黒色土器A類杯の破片が出土している。

SK 28 (Fig. 76・77)

北拡張区北壁際で全容は不明であるが、楕円又は隅丸方形の一部のような $2.06 \times 0.6\text{m}$ 分を検出した。基本層準IV-1、IV-2層を切る。下半には製塙土器を主とする土器が詰まり、上層の特に下半には焼土塊を多く含む。しかし、床面の被熱や出土供膳具の二次被熱は確認できない。出土遺物では製塙土器の総重量が 8.75kg に達すること、土師器供膳具と須恵器貯藏具本体が確認できないことが特異である。

SK 29 (Fig. 78)

南拡張区、SB 20内の南端で検出し、 $1.48 \times 2.46\text{m}$ の長方形を呈する。深さは浅く、床面は平坦である。床面中央南西寄りに炭化物層が検出され、隣接して半完形の須恵器壺蓋(672)が出土した。炭化物層からは骨片も検出されている。撒入の黒色土器A類杯口縁部(665)が出土している。

SK 30 (Fig. 79・80・81・82・83)

中央部の南拡張区で検出され、 $0.93 \times 3.40\text{m}$ の長方形を呈す。SB 11の柱穴を破壊していると見られる。両端の段部を除くと $0.79 \times 2.93\text{m}$ となり、遺物は主にこの中の埋土中より出土した。完形を含む残存率の高い土器が面的に出土しており、一括廃棄性の高さが窺える。出土した大小の砂岩やチャートの川原石には、被熱や打割されたものがある。なお、本遺構出土遺物においては細片の比率が比較的であるが明らかに少なく、遺物実測図には原則的に残存度の良好な一括性の高い遺物を掲げた。

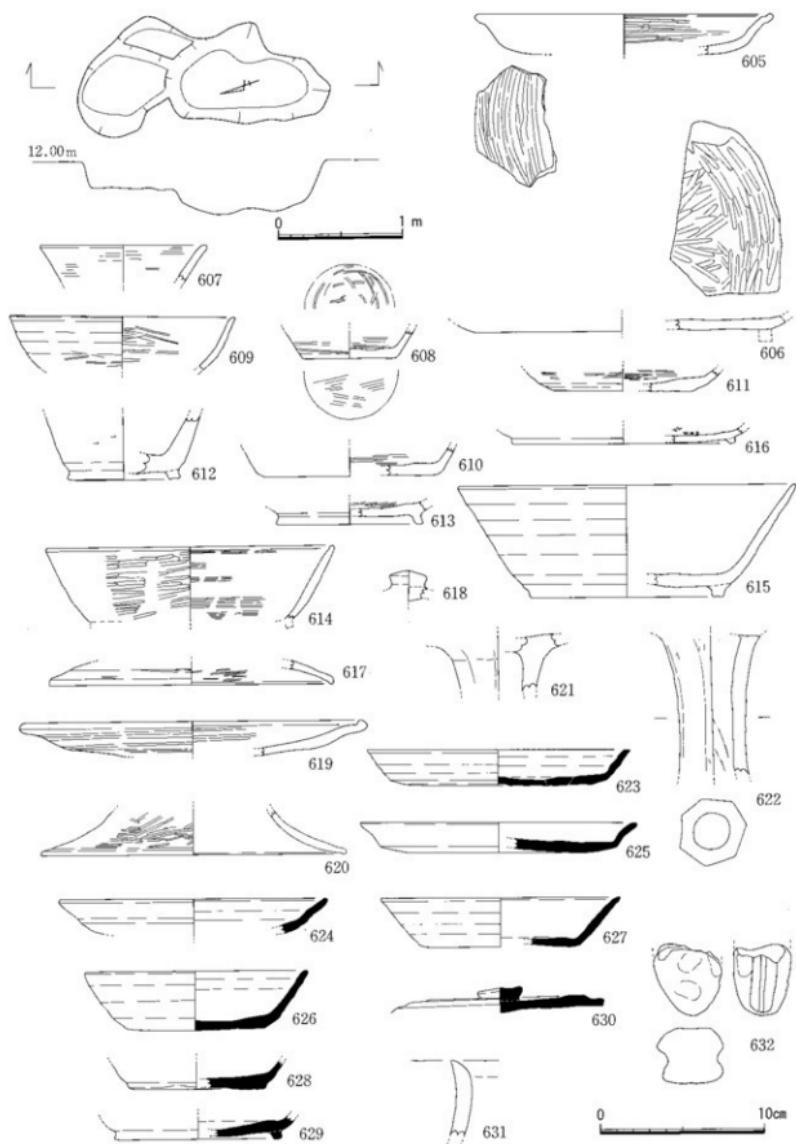


Fig. 75 SK 27遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

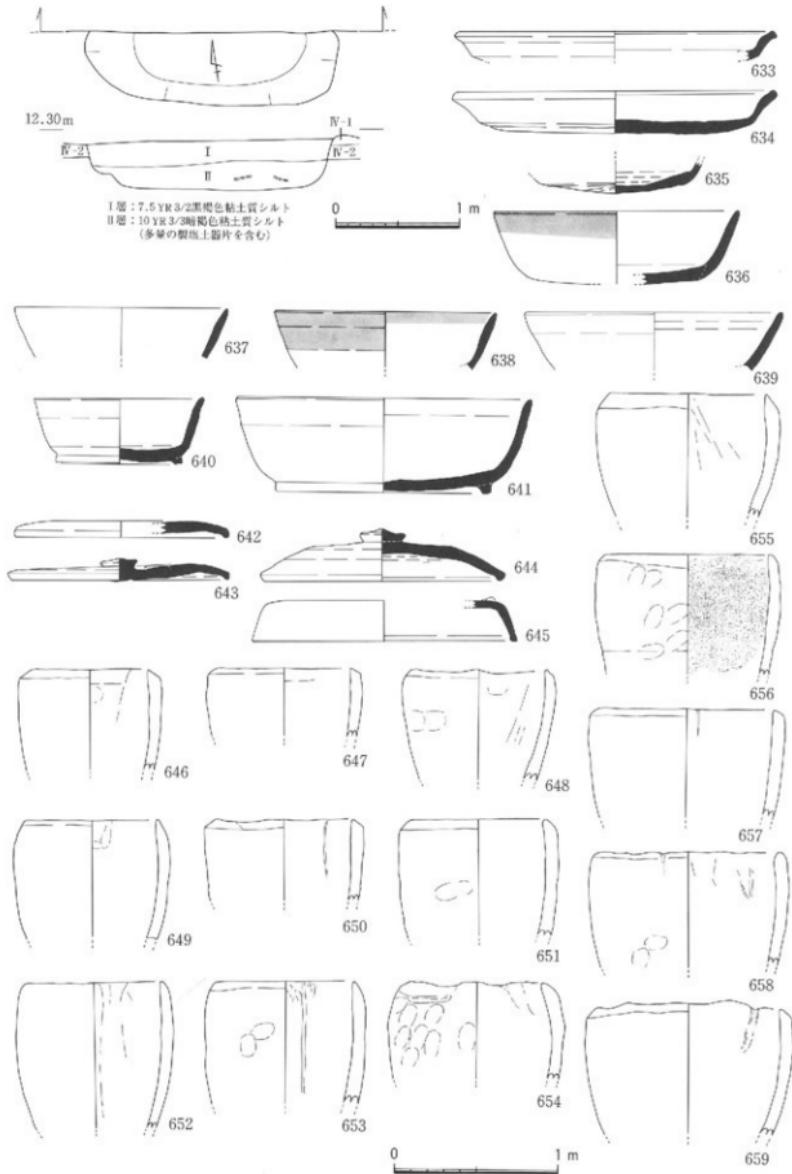


Fig. 76 SK 28邊橋平面・セクション図及び出土遺物実測図

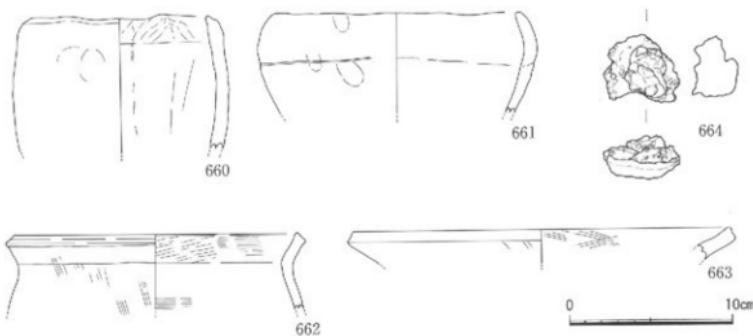


Fig. 77 SK 28出土遺物実測図

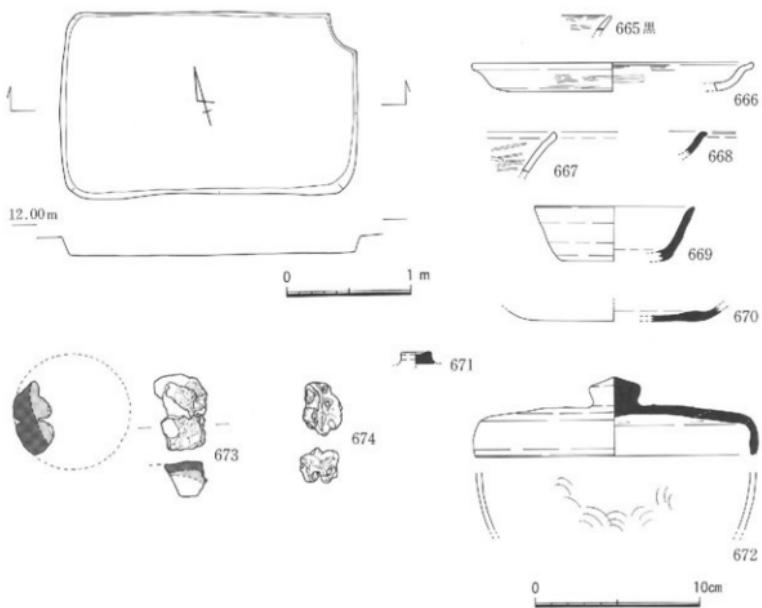
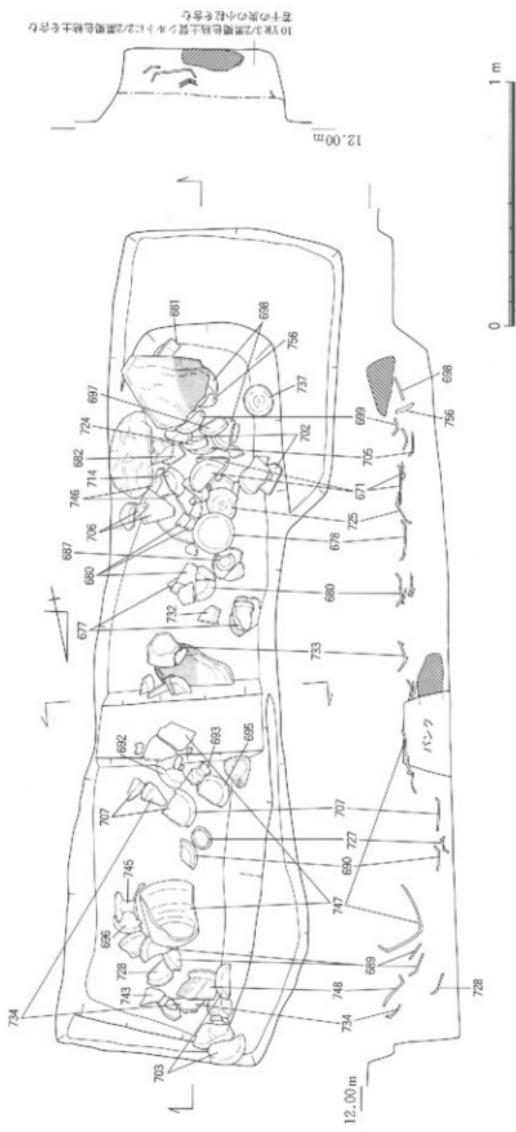


Fig. 78 SK 29造構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

Fig. 79 SK 30遺物出土状況・セクション・エレベーション図



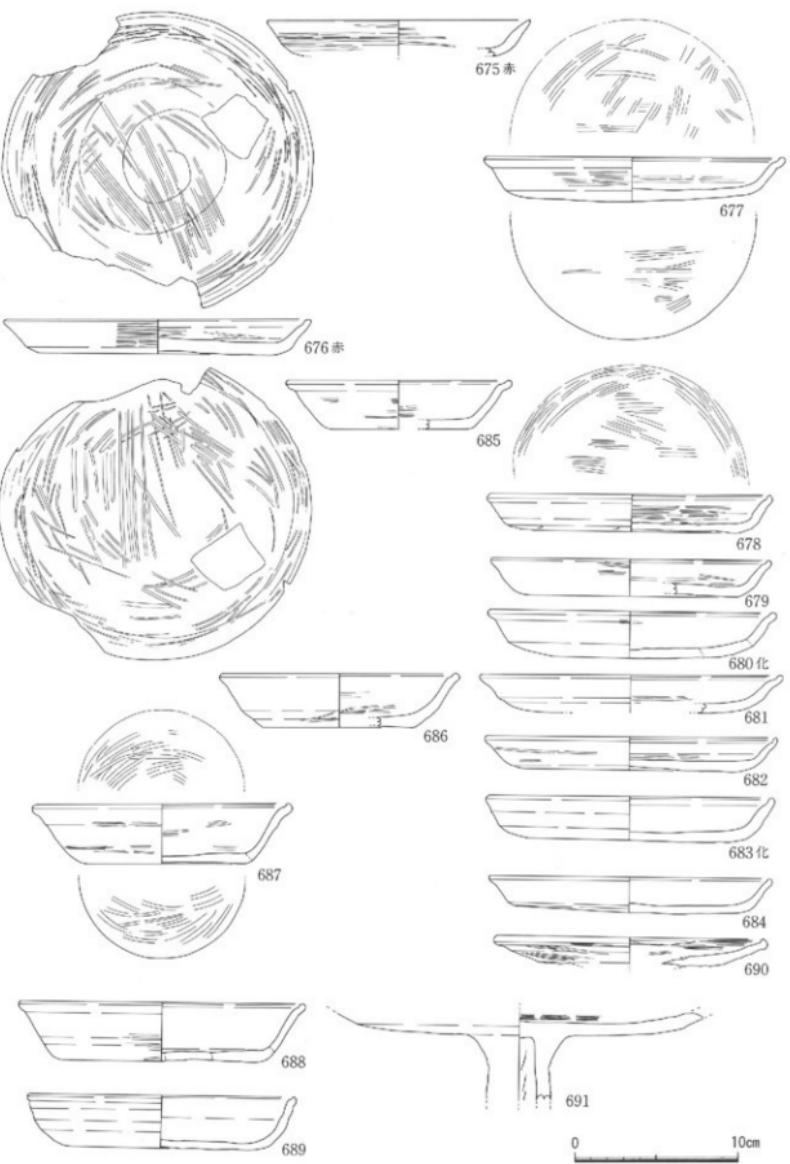


Fig. 80 SK 30出土遺物実測図

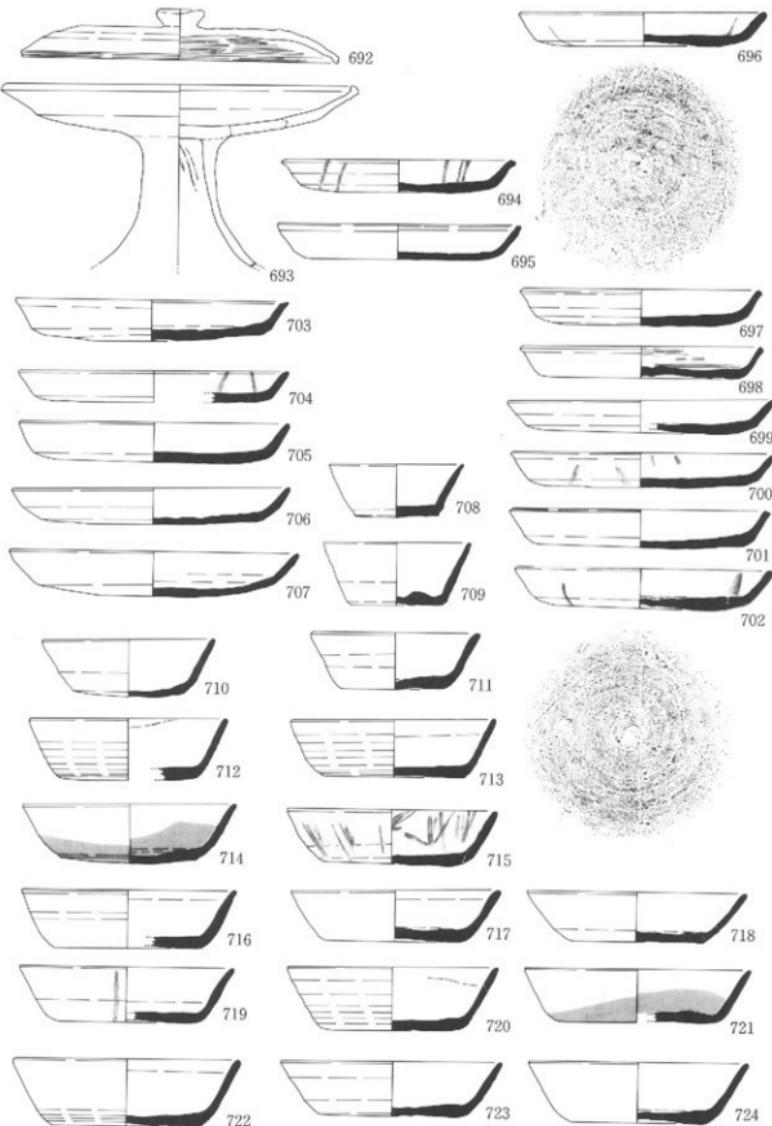


Fig. 81 SK 30出土遺物実測図

0 10cm

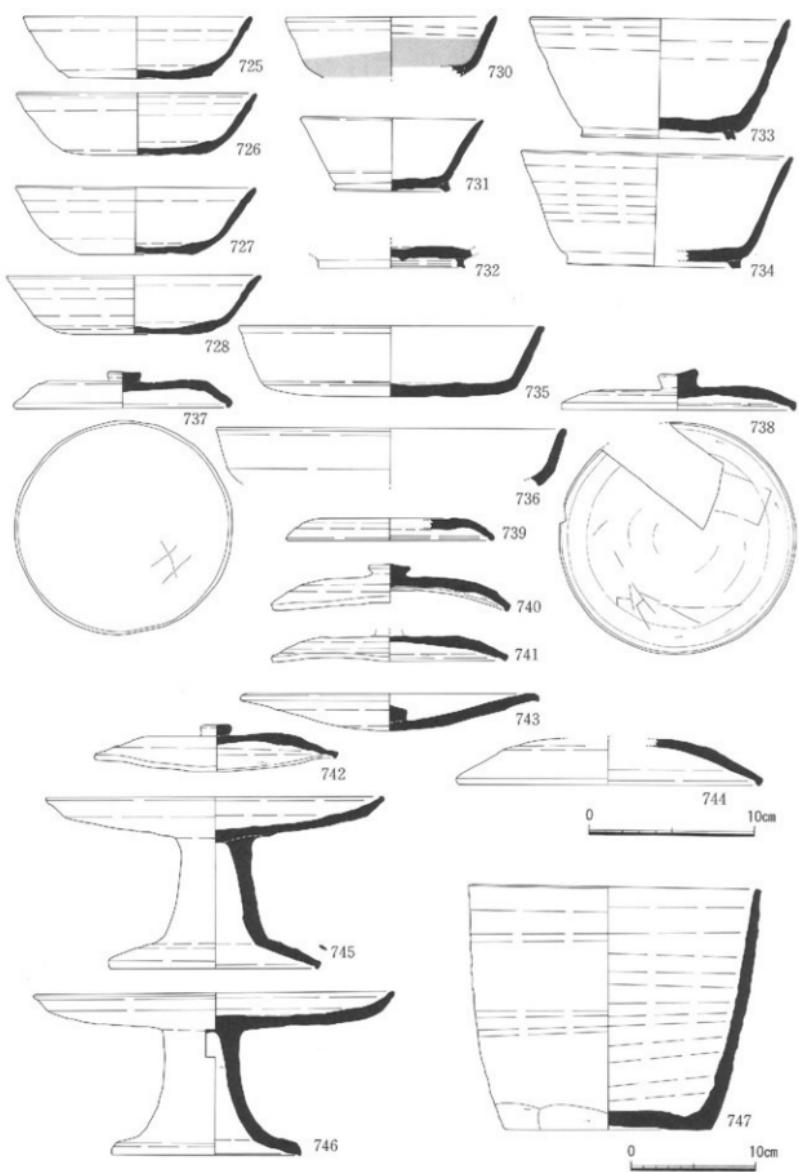


Fig. 82 SK 30出土遺物実測図(747は縮尺1/4)

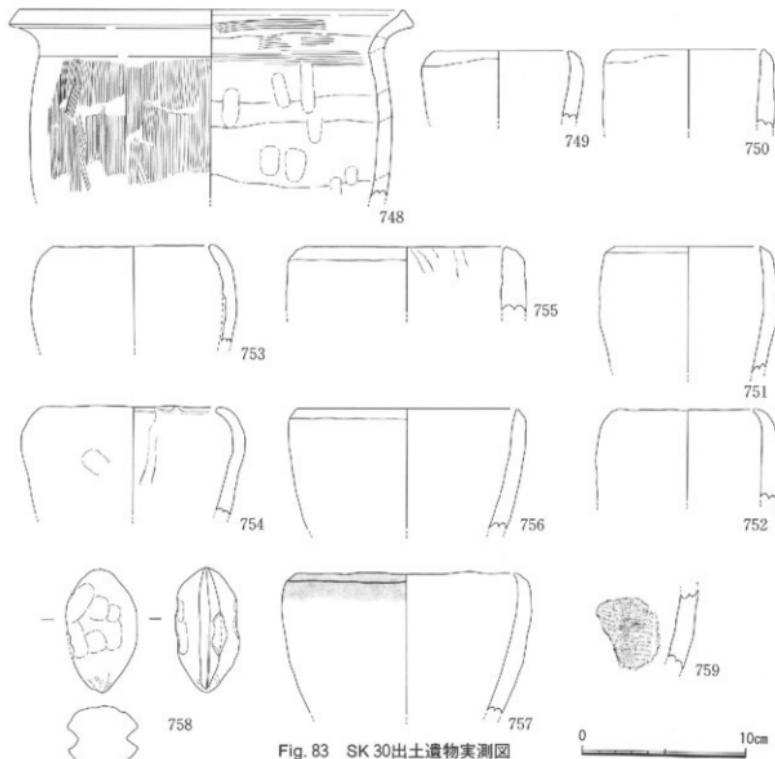


Fig. 83 SK 30出土遺物実測図

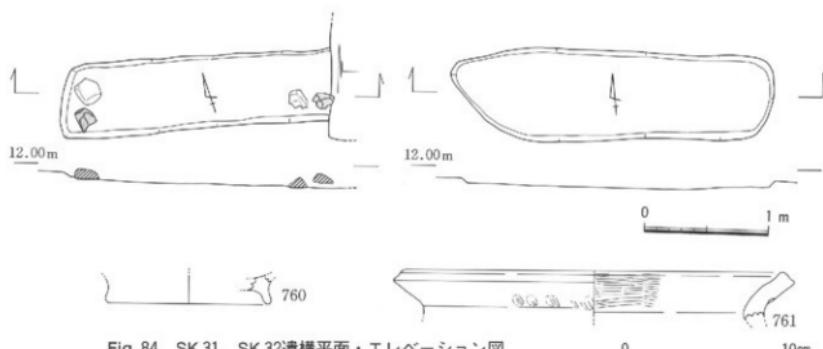


Fig. 84 SK 31、SK 32構造平面・エレベーション図

及び出土遺物実測図

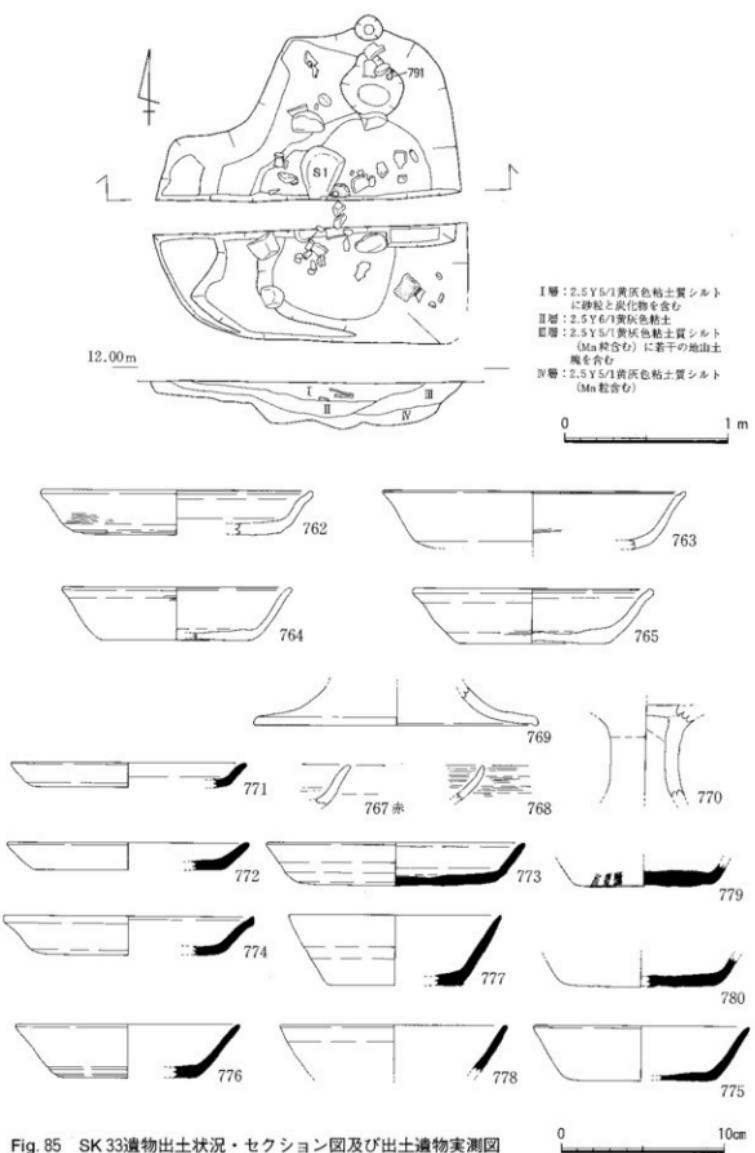


Fig. 85 SK 33遺物出土状況・セクション図及び出土遺物実測図

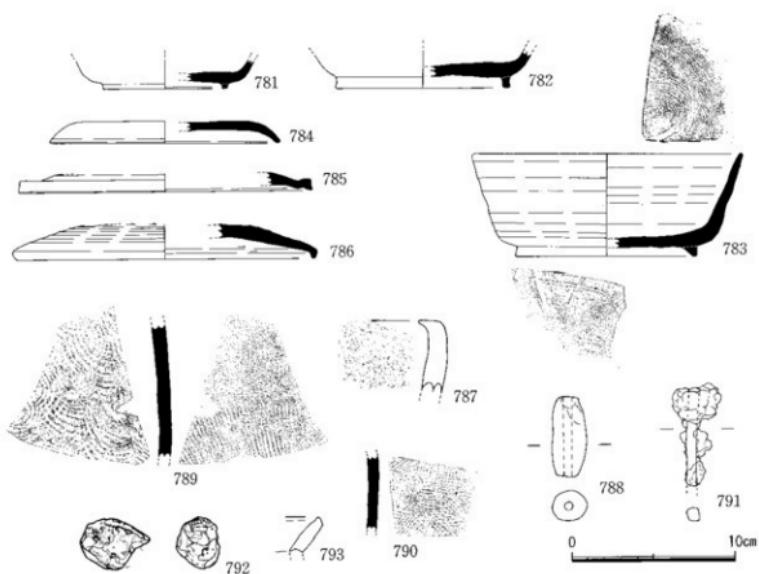


Fig. 86 SK 33出土遺物実測図 (789・790・793は縮尺1/4)

SK 31、SK 32 (Fig. 84)

南拡張区中央、SB 19南側で検出し、埋土は7.5 YR 4/2粘土質シルトである。両遺構とも同じ埋土で互いの延長上にあり、溝の底部である可能性もあるが、土坑として扱う。SK 31は東部を搅乱によって破壊されており、長さ2.22mを検出した。出土した石には被熱赤変・打削されたものがある。両土坑の方位は大型建物群に同調しているが、上記の埋土はSB 19などとはやや異なる。

SK 33 (Fig. 85・86)

H本区中央東寄りで検出した1.90×1.90mを測る遺構である。検出時に埋土が他の遺構と異なり、SK 34と同様、早期に比較的容易に検出できた。またSB 9をはじめ重複する遺構を全て切ることから、基本層準IV-1層を切っていた可能性が高い。本遺構の埋土色は2.5 Y5/1付近を示し、当調査区の遺構埋土としては例外的である。出土遺物には土器の他、3点の小鉄製品と小型の鉄滓、打削されたものを含む川原石等がある。S 1は砂岩で平坦な下面が被熱している。

SK 34 (87・88・89・90)

H本区中央東寄りで検出した1.02×2.32mを測る遺構で、北拡張区に属する北端部はH本区側調査終了後に調査、完掘したが、段を持つ構造となった。近隣の遺構とはやや埋土が異なり、検出が比較的容易であった点はSK 33に似るが、その埋土は同じではない。SB 9をはじめ重複する全ての遺構を切り、H本区北壁断面でIV-1層を切っていることが確認できる。上層で砾群を挟んで南側

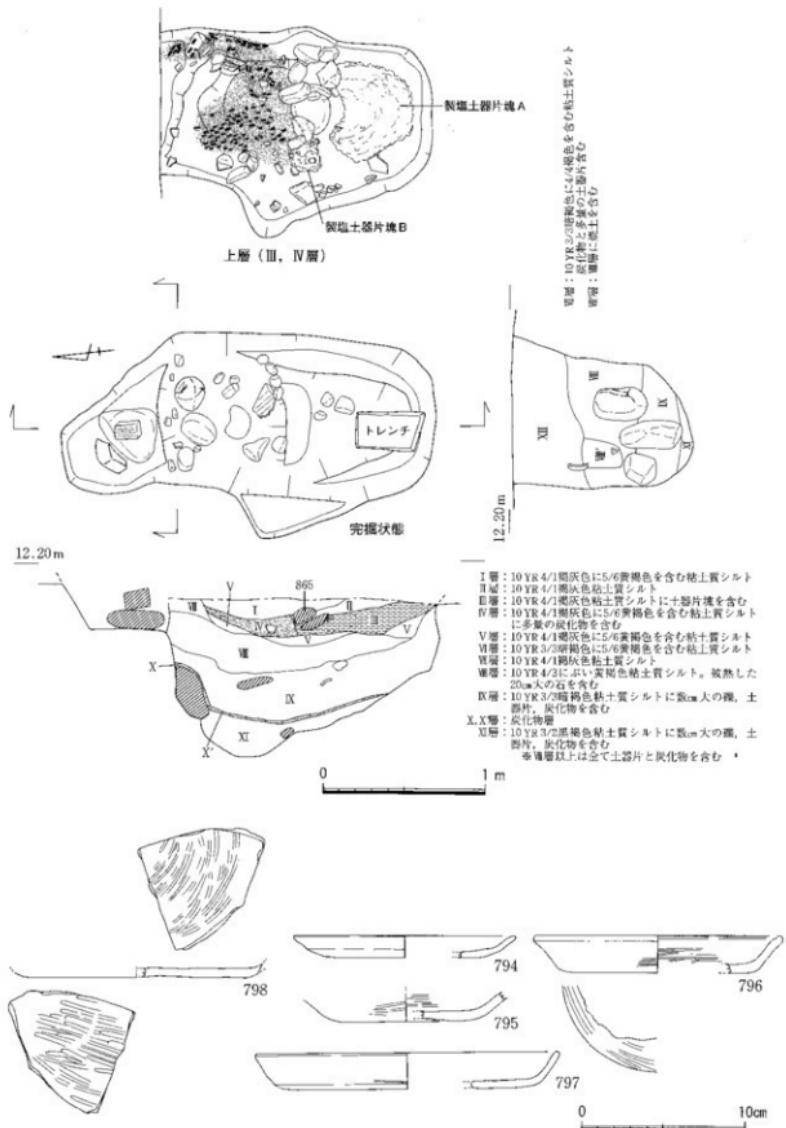


Fig. 87 SK 34遺構平面・セクション図及び出土遺物実測図

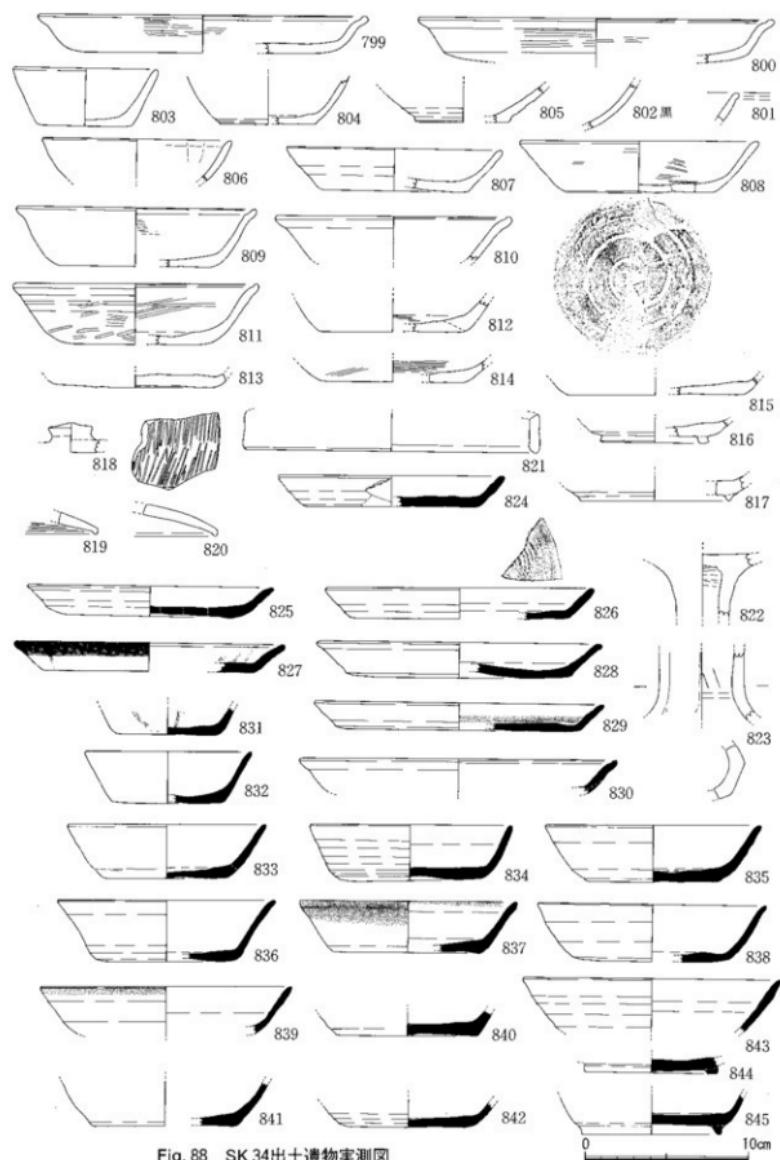


Fig. 88 SK 34出土遺物実測図

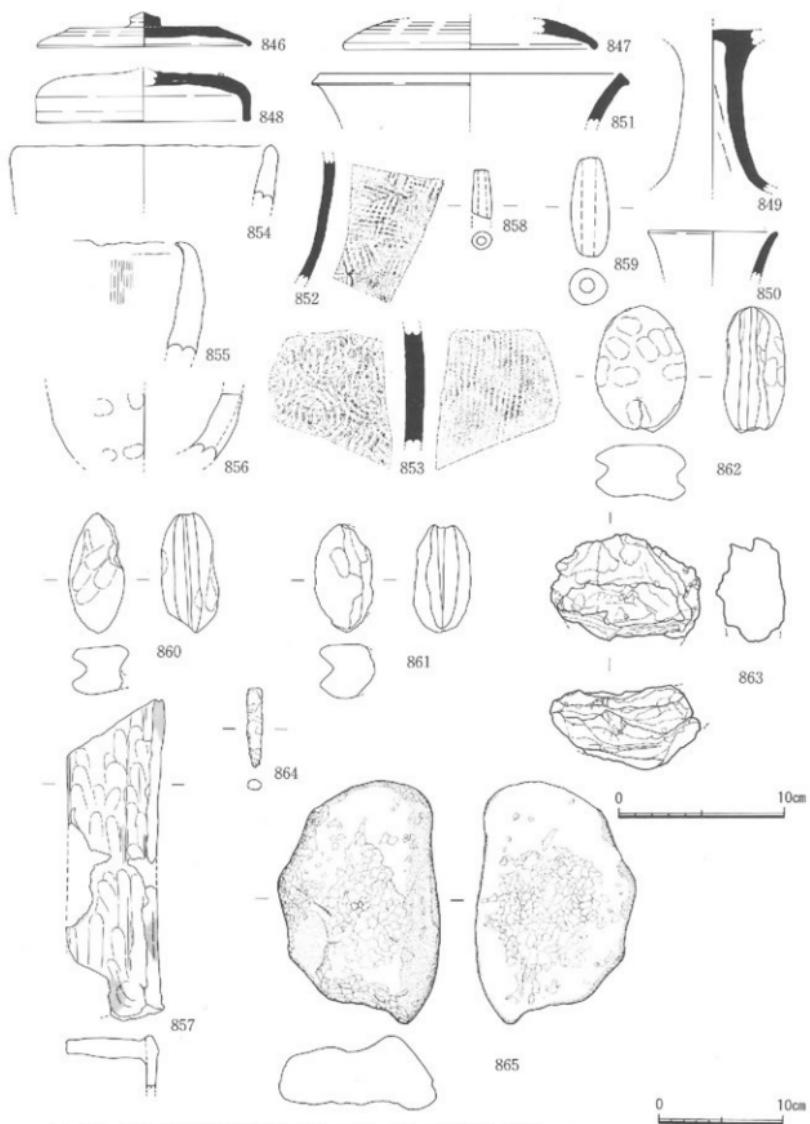


Fig. 89 SK 34出土遺物実測図 (852・853・857・865は縮尺1/4)

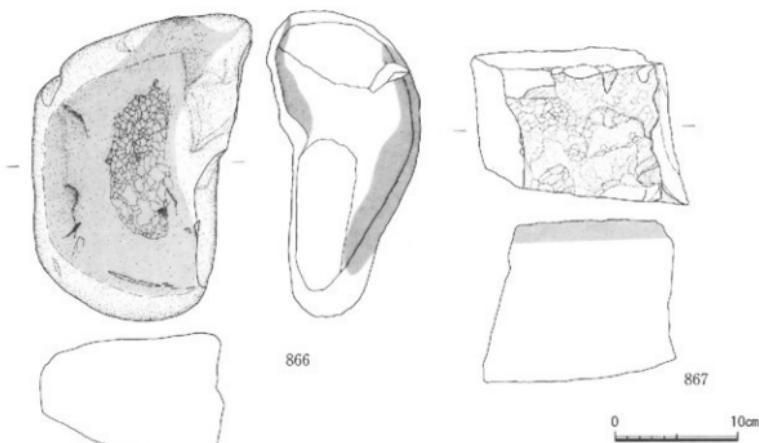


Fig. 90 SK 34出土遺物実測図

に製塙土器片塊、北側に炭化物が検出され、セクションでは各々Ⅲ層、Ⅳ層に相当する。層位別の出土製塙土器量はⅠ層72g、Ⅱ層32g、Ⅲ層5,123g（A群3,603g、B群70g、その他1,450g）、Ⅳ層10g（1片）、V層360g、VI層32g、VII層38g（3片）、IX層250g、X層23g（2片）、XI層840g、層位不明だが上層1,710g、下層1,000g、計9,490gである。VII層以下は埋土層も厚く、一部被熱した大きな川原石が壁面に位置する。X・X'層の炭層は、薄いが全面に広がる。鉄滓は863の他に小片がそれぞれ製塙土器片塊A群、X層、下層より少量出土している。またXI層より若干の小木片が出土している。

⑤ 溝

SD 26 (Fig. 91・92)

東部で検出した南北方向の溝跡で、北拡張区の検出分を合わせ長さ12mを確認した。方位N-20°-W、幅2.75~3.14m、深さ76cmを測る。基本層準IV-2層下にあり、SB 17、SA 10、SX 3に切られる。以下は完掘したH本区内の記述であるが、Ⅱ、Ⅲ層がシルト、Ⅳ層が粘土質シルトに砂利、20cm大の礫を含み、V層が砂礫層である。南壁と北壁ではほぼ同様の堆積が観察された。遺物はIV層の上層より出土したものが多いが、897、898はIV層とI、II層のものが接合している。基本層準IV-2層は本遺構上でやや落ち込み、南部では加熱、打削された石や、若干の炭を含む。また、遺構北部のⅢ層底には西側から落ち込んだように約15~25cmの石があり、そのうちの約10個は加熱、打削されていた。出土遺物において特徴的なこととしては、製塙土器、土鍤がほぼ認められないこと、土師器供膳具が僅少であることが挙げられる。製塙土器は摩耗した細片が5点のみ出土しているが、遺構規模に対する出土量の少なさは本調査区において特異である。また、南部のIV層上層より数十片の馬歯片が出土している。崩壊しているが、最長で7.4cmのエナメル高を測る。

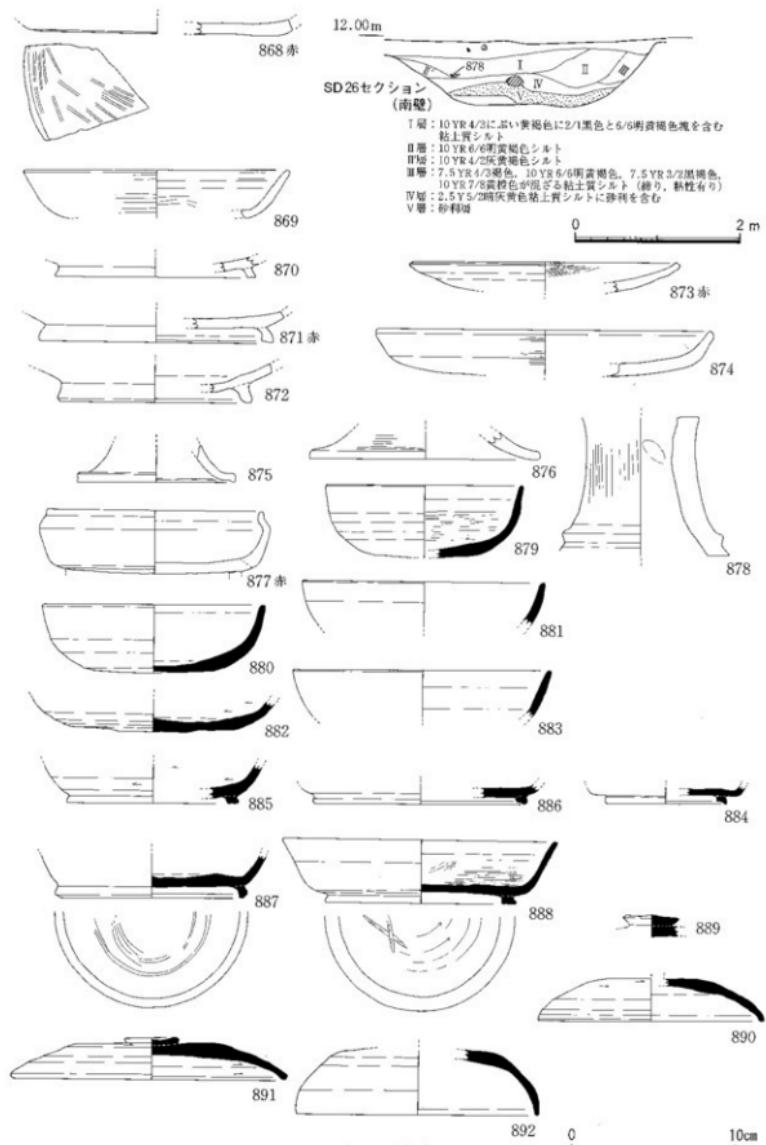


Fig. 91 SD 26セクション図及び出土遺物実測図

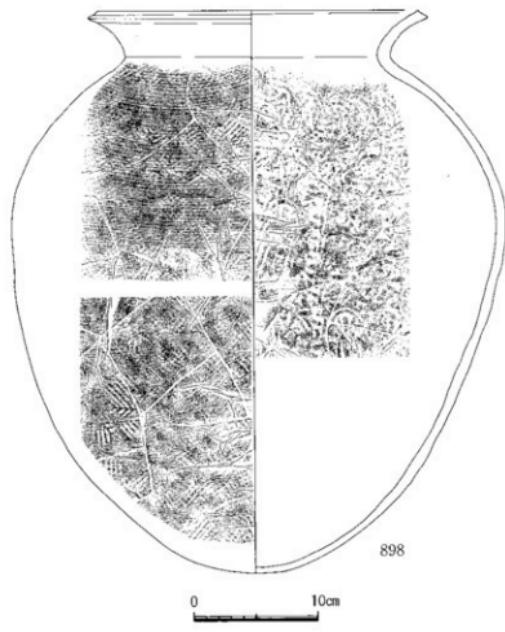
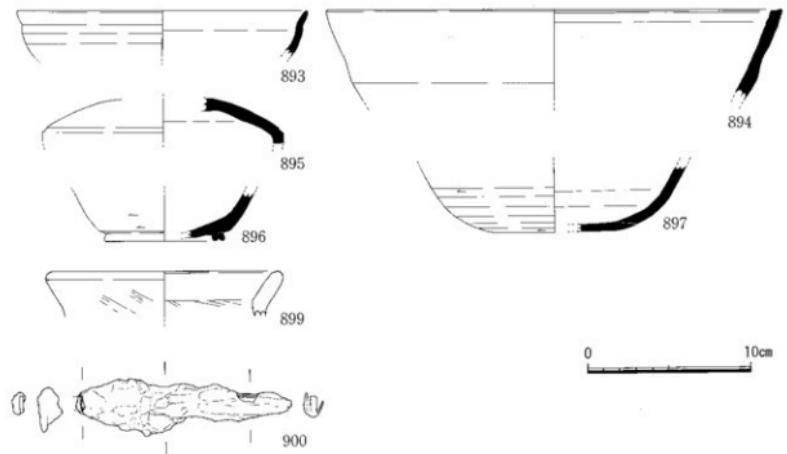


Fig. 92 SD 26出土遺物実測図 (898は縮尺1/4)

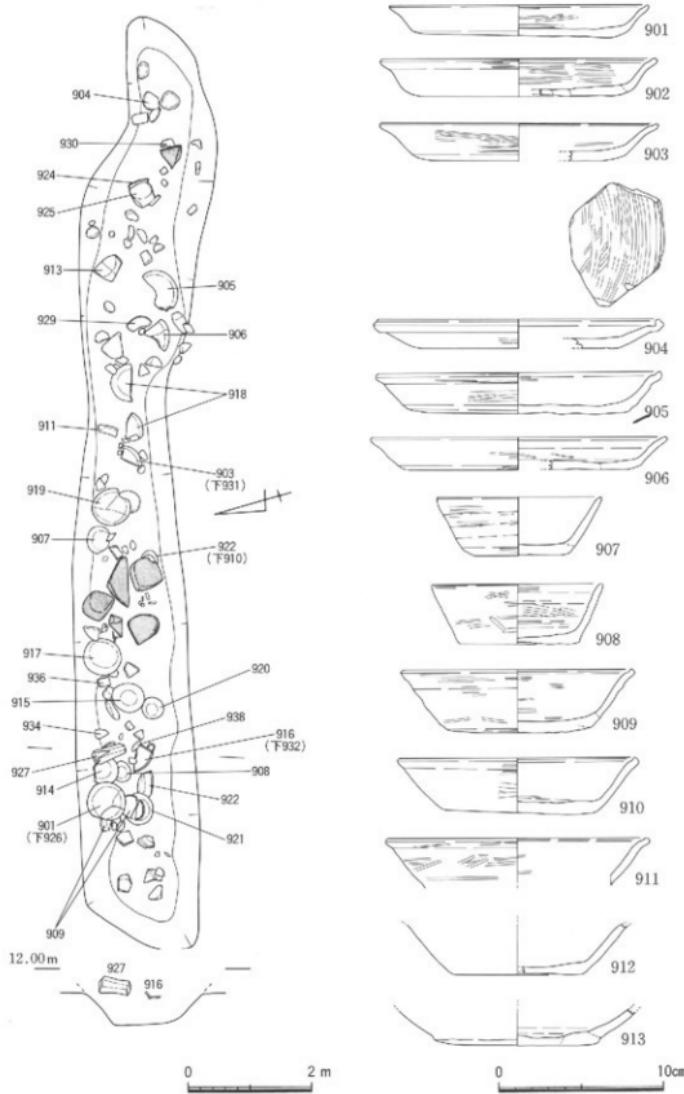


Fig. 93 SD 40遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図

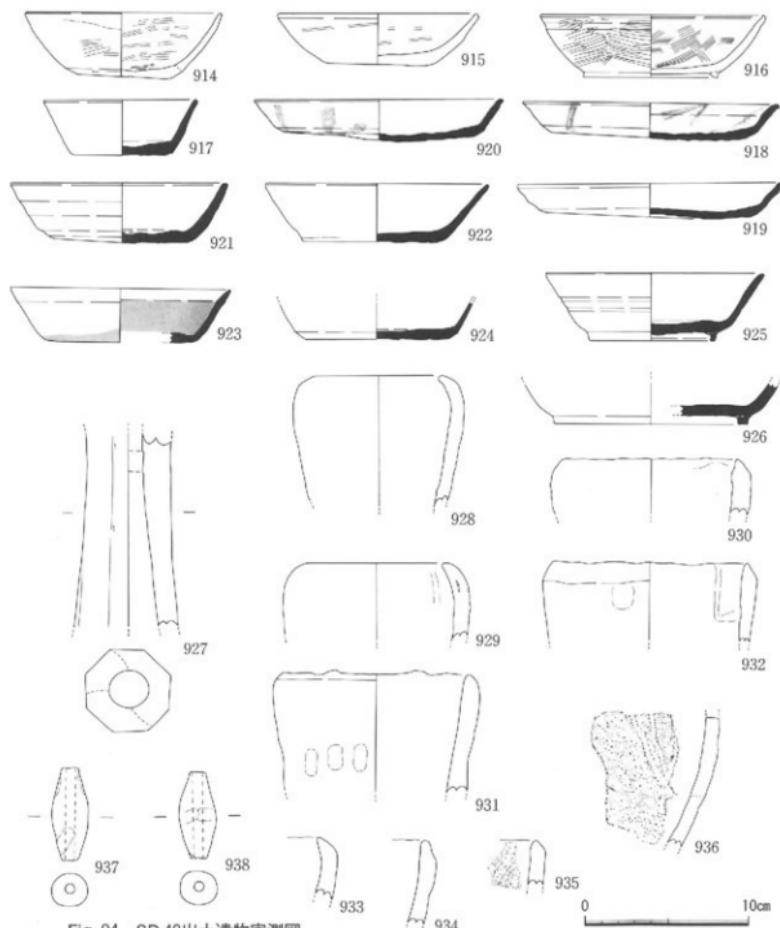


Fig. 94 SD 40出土遺物実測図

SD 40 (Fig. 93・94)

H本区中央部で検出した東西方向の溝で幅0.49m、長さ3.88m、深さ16cmを測る。方向はN-73°-Wで大型建物群と同調しており、埋土は10 YR 3/3暗褐色粘土質シルトである。プラン確定が地山面付近であったのはH本区の他の遺構と同じであるが、その時点で遺構内の遺物の一部が検出されており、IV-1又はIV-2層上面より掘り込まれていた可能性が十分考えられる。また、SB 10を切る。一見して判るが、残存率の高い遺物が多い。911・916・927は搬入品である。出土した川原石には被熱したり、打削されているものがあった。

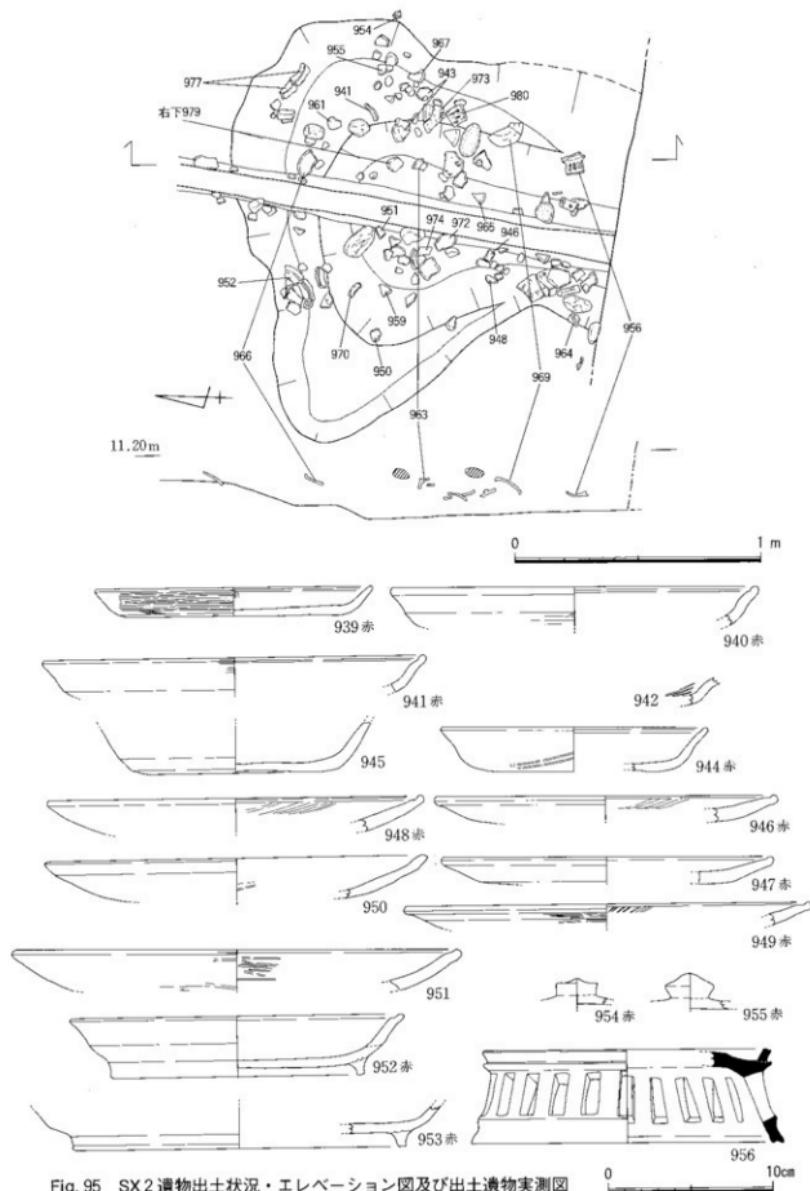


Fig. 95 SX 2 遺物出土状況・エレベーション図及び出土遺物実測図

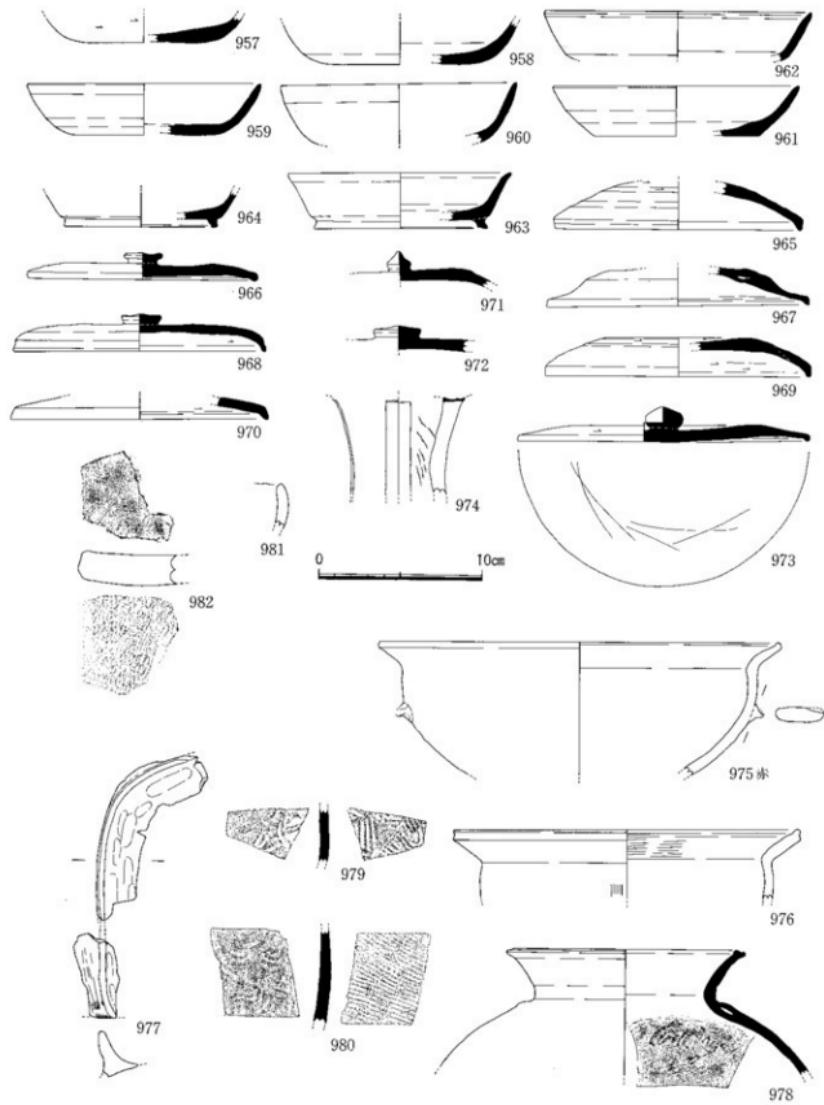


Fig. 96 SX2 出土遺物実測図 (975~980は縮尺1/4)

⑥ 性格不明遺構

SX 2 (Fig. 95・96)

西部で検出した幅1.73mの不整形な遺構で、南部は調査区外である。VI層下に存在することが南壁で確認できる。残存度の比較的良好なものを含む遺物及び川原石が、床面より数cm～十数cm上方を中心に出土した。川原石は5～15cmを測り、出土位置は総じて土器より上方にあるとみられる。

⑦ ピット

P 14、15 (Fig. 97・98)

北拡張区のSA 4のP 6とP 7間で検出した方形のピットでP 14は $1.34 \times 1.08\text{m}$ 、P 15は $1.28 \times 1.20\text{m}$ を測り、各々深さ40cm、50cmまで掘削した。規模、形態、埋土、出土遺物について類似性が強いと考え、まとめて扱う。埋土は灰褐色粘土質シルトに炭化物・土師器細片を含むもので、疊を含まない点でSA 4等と異なる。出土した土師器杯、皿には残存度の良好なものがある。それに比して、少量出土している須恵器供膳具は1003・1004を含めて全て細片で、磨耗もみられる。

P 16 (Fig. 99)

北拡張区のSB 22-P 12の西辺を切る径41cmの円形のピットで、深さ40cmを測る。埋土は褐灰色粘土質シルトである。土師器杯(1017)が出土した。

P 17 (Fig. 99)

北拡張区のSA 4-P 7検出時にその北辺を切る状態で検出した。径約43cmの円形を呈するが完掘していない。埋土は褐灰色粘土質シルトである。検出時に直上より黑色土器A類杯口縁部(1018)が出土した。

⑧ 遺物集中

SF 1 (Fig. 100)

SB 15東側より3点の土師器杯が重なって出土した。様相はSB 16柱根部と類似する。しかし、付近を精査したにも関わらず遺構は検出できなかった。

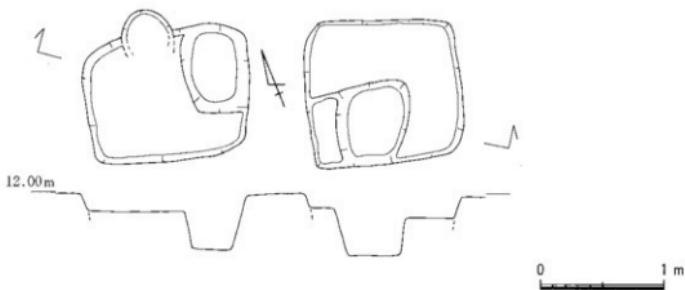


Fig. 97 P 14、P 15遺構平面・エレベーション図

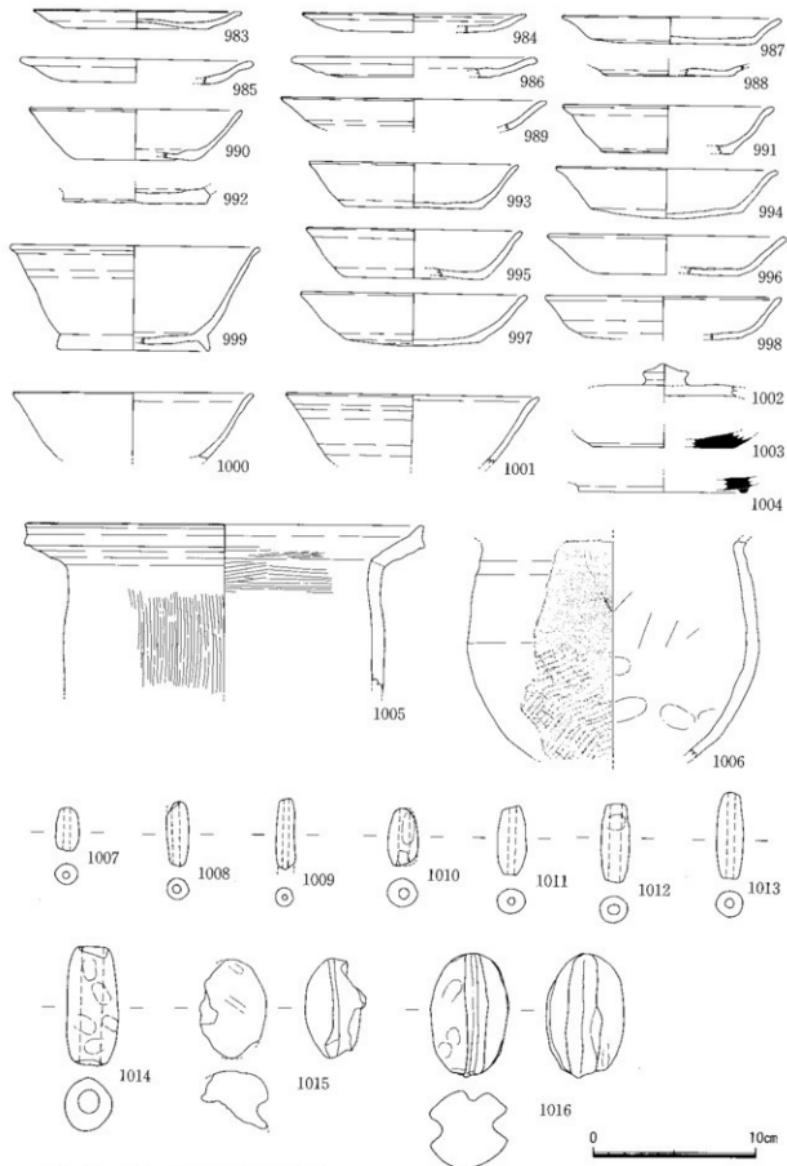


Fig. 98 P14、P15出土遺物実測図

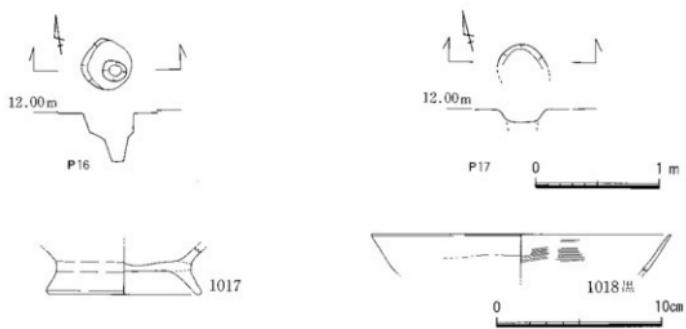


Fig. 99 P16、P17遺構平面・エレベーション図及び出土遺物実測図

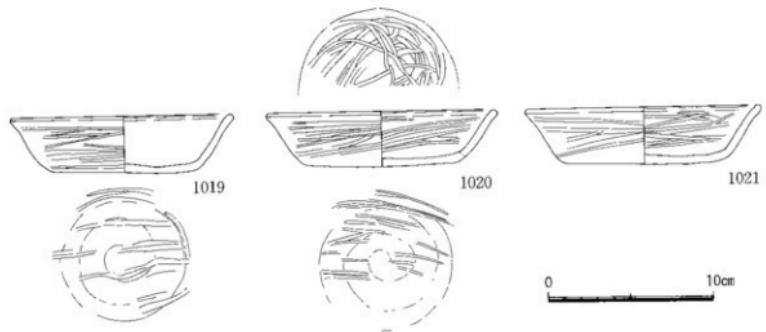


Fig. 100 SF1 出土遺物実測図

⑨ 包含層出土遺物 (Fig. 101)

各包含層より多量に出土している遺物から、抽出した一部を示す。

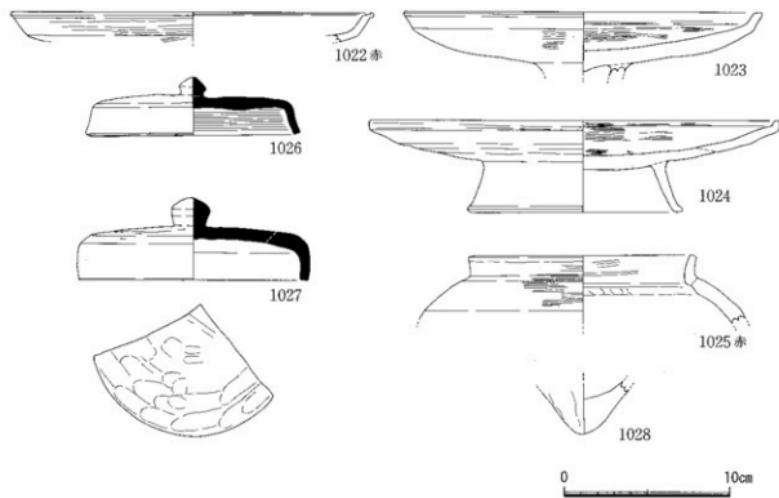
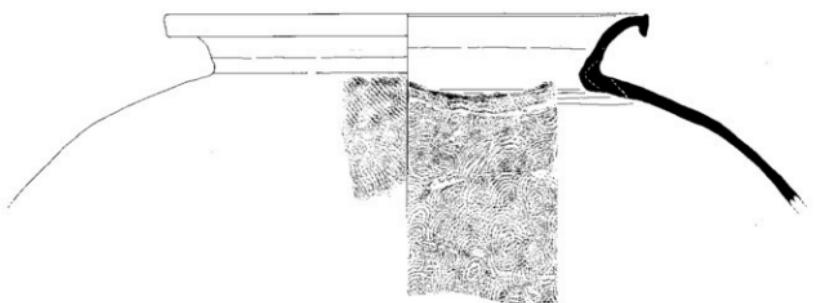
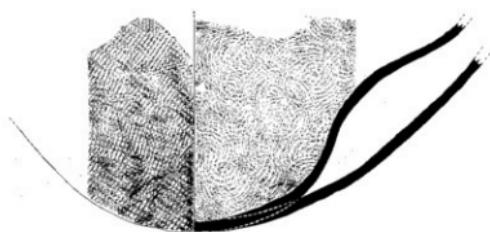


Fig. 101 包含層出土遺物実測図



1029



1030

0 20cm

Fig. 102 SB 22内出土遺物実測図

表4 古代建物規模一覽表

遺構名	規 模		方向	柱間距離(m)		柱 穴(cm)			
	形態	縦間×横行(m)		縦間	横行	平面形	規模	柱底径	深さ
SB 8	[●]	4.2×4.7	N-4°-W	1.8	2.1	円形	48-60	18-21	36-54
SB 9	[●]	6.6×17.5	N-12°-E	1.8	2.4	方形	100-160	25-29	84-88
SB 10	[●]	5.4×8.2	N-14°-E	1.47	1.95	方～不整方形	66-120	21-24	54-60
SB 11	[●]	5.4×8.5	N-78°-W	2.25	2.25 -2.7	方形	96-174	30-39	(12-24)
SB 12	[●]	5.6×10.2	N-75°-W	2.0-2.4	2.4	方形	80-120	24	(27)
SB 13	[●]	6.1×14.8	N-17°-E	1.8	2.2-2.6	方形	48-152	24-28	40-80
SB 14	[●]	5.1×(4.1)	N-15°-E	1.2-1.5	1	方形・ 円形	42-96	15-21	15-66
SB 15	[●]	4.6× (12.15)	N-18°-E	—	2.03	方形・ 隅丸方形	111-135	24	60-105
SB 16	[●]	(2.7×4.4)	N-75°-E	1.7	1.95 -2.1	方形	126-135	21-30	60-75
SB 17	[●]	5.3×6.1	N-12°-E	1.3-1.5	1.65 -1.8	方形	60-99	24-36	39-60
SB 18	[●]	6.2×10.7	N-12°-E	1.8	1.86- 2.25	方形	75-123	21	21-60
SB 19	[●]	7.1×10.2	N-77°-W	2	2.2-2.4	方形	80-124	20-24	60-88
SB 20	[●]	6.6×18	N-13°-E	1.6-2.0	1.8-2.9	方形	108-172	24-44	(12-48)
SB 21	[●]	6.9×13.8	N-13°-E	2.8-2.9	2.4-2.8	方形	112-188	40	(8-32)
SB 22	[●]	6.3×12.4	N-76°-W	2.6	2.2	方形	120-140	24-40	(16-36)
SA 4	[●]	5.2×11.4	N-75°-W	SN-2	EW- 1.2-1.4	方形	110-136	32-48	42-50
SA 9	[●]	4.9×5.9	N-82°-W	SN-2.2	EW- 1.8	方形	88-104	26	30
SA 10	[●]	5.0	N-45°-W	—	1.3-2.0	円形	18-32	20-30	12-30
SA 11	[●]	5.0×12.3	N-10°-E	EW- 2.2	SN- 2.2-2.4	方形	80-110	16-18	60
集石 遺構 1	[●]	10.3	N-75°-W	—	EW- 1.8-2.2	隅丸方形	96	—	—

表5 古代土坑等一覧表

遺構名	平面形態	規 模			方 向	埋土の特徴
		幅(m)	長さ(m)	深さ(cm)		
SK 16	円 形	1.02	1.2	62	—	粘土を含む張り床
SK 18	椭 圆 形	1.36	1.8	26	N-32°-E	—
SK 20	不 明	2.08	1.9	66	—	焼土、炭層
SK 21	不 整 椭 圆 形	1.38	2.8	42	N-7°-W	10 YR 3/2 粘土質シルト
SK 22	隅 丸 長 方 形	1.60	2.90	24	N-21°-E	10 YR 4/2に4/4塊を含む粘土質シルト
SK 27	不 整 椭 圆 形	0.96	2.10	45	N-17°-E	—
SK 28	椭 圆 形 か	(0.60)	2.06	42	N-79°-W	焼土、製壇土器塊
SK 29	隅 丸 長 方 形	2.46	1.5	14	N-77°-W	床面の一部に炭層
SK 30	長 方 形	0.93	3.40	74	N-11°-E	粘土と若干の炭粒含む
SK 31	溝 状	0.60	2.2	4	N-73°-W	7.5 YR 4/2 粘土質シルト
SK 32	溝 状	0.78	2.6	8	N-85°-W	7.5 YR 4/2 粘土質シルト
SK 33	不 整 方 形	1.90	1.90	28	N-0°-W	2.5Y5/1 粘土質シルト
SK 34	不 整 隅 丸 方 形	1.02	2.3	108	N-84°-W	炭層、製壇土器片塊
SX 2	—	1.7	(1.6)	17	—	10 YR 2/3 黒褐色粘土質シルトに若干の炭を含む

表 6 古代遺構出土遺物一覧表

遺構名	供 砥 具										厨 房 具										衛 生 具											
	土 壁 器 (底、壁)					馬 骨 土 壁 器 (牛形土壁器)					研 悅 器					研 悅 器 土 壁					衛 生 器					衛 生 器 土 壁						
	皿	杯	鉢	平 A	平 B	盞	轍杆	盞	平柄	盞	手	研 A	研 B	研 C	重	研	研	研	研	研	研	研	研	研	研	研	研	研	研			
SB.8												6	22	2	6	3	10	2	1	2	7	1000										
SB.9	7	15	1	2	1	6	2	1	4	1	1	1	1	2	1	1						80										
SB.10	1		1		2																											
SB.11																																
SB.12	4		1	1	1																											
SB.13	2																															
SB.14	1	3		1	2	1	2	1																								
SB.15	7	8	15	4	3	1						1		2	18	7	9	13	2	1	6	3	300	8								
SB.16*	1	5		4	2	1							1	3		5	3							700	1							
SB.17	2		1	1										2	1	1	1	5	1	1	1	4	110	1								
SB.18	5	12	2	6	2	1	6	1					6	6	30	3	7		1	4	4	1050	1	蜿山滑2								
SB.19	7	10	1	18	1	6							5	29	11	4	11	1	1	1	1	4250	1	1	3175	1	瓦2、調味瓶兼土器					
SB.20	10	16		35	7	6	3	1				2	3	17	16	6	19	3	2	4	12	3650	6	5	鶴丸滑1							
SB.21	10	11	19	3	1	9	1					1	1	11	7	2	5						2	1250	10	15	鶴丸滑1					
SB.22	4	10		18	1	7	3						3	9	7	4	13	1	1	1	2	500										
SA.4	6	7		3									4	3			7															
SA.9																		1														
SA.10																																
SA.11	2	1	2	4	2								4	2		7	21		2	3	500	1										
SK.16	1	1		1	4	2		1	1				2	7	4	5	3						780		泥口片1							
SK.18	1	1		1	3	1	1	1					6	3	5	11	1	1	2	200		泥口先片1		泥口先片1								
SK.20	2	4	1	3	4	2	1	3	1			2	3	4	6	13	4	1	4	240	1											

造橋名	供給品										輸入品					販売品			
	重	杯	輪	土器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器	漆器							
SK 21	14	15	7	1	9	1					1	15	25	24	4	23	2	2	5
SK 22	4	7	2	8	6	2					15	50	25	17	100	7	2	5	8
SK 27	6	19	16	4	10	5					1	5	12	8	1	5			1800
SK 28											6	12	2	5	11		2	8750	
SK 29	2	1			2						1	3	1		1		1	142	
SK 30	18	16	7		3	3	4	1			21	44	21	4	11	5	1	2	1550
SK 31			1																64
SK 32																			190
SK 33	6	9	3			1	2		1			7	13	6	4	4	2	1	1750
SK 34	13	19	19	5	8	2					1	17	26	17	2	15	3	1	2
SD 26	4	1	3	2	2	3	1					16	5	10	29	1	3	4	36
SD 40	11	10	2	8	1		2	2				3	13	5	2	1			2500
SK 2	13	3		2		1	3	4	12	3	4		11	9	2	2	12	1	3
P 14	11	42		25	1		2						1			1	2	2	51
P 15	6	25		13	1		1						1			1	2	2	13

※1. 原則として口縁部等でカントした。

2. (漆器) (漆器土師器) は我自作のウケント数である。使って(漆器土師器) は土壁部の漆器を数に算入して数えている。

3. 鋼鉄土器は此項裏面に示す。

4. SD 40 では原則的に実測面に示すとのできた頭物数を示した。

5. 他の器の搬入についての枚数は行っていない。

H区・古代遺物観察表凡例

摩耗：△は摩耗があることを、×は摩耗が顕著で、器表の観察も著しく困難なことを示す。

手法的特徴：「内外」は内外面を示す。調整等の不明箇所により、「全面」と表現できない場合等にも使用した。「外底」は底部外面。

須恵器供膳具の回転ナデ痕や、処理されたヘラ切り痕は原則として省略した。特に触れたものは痕跡が顕著であったり、ナデなどによる処理が弱いことが看取できたものである。土師器については、これらの痕跡は観察できる限りにおいて記載した。

須恵器蓋等の内面について、「平ら」は丁寧な調整で平坦に仕上げられていることを、「平滑」はさらに滑らかな面に仕上げられていることを示す。

含有鉱物

粒度：「細」は細粒の意で、概ね0.4mm未満である。

種類：チ=チャート、英=石英、長=長石、赤=赤色風化疎、黒=黒色粒、ガ=火山ガラス、砂=砂岩、泥=泥岩、雲=雲母（金雲=金雲母、白雲=白雲母、黒雲=黒雲母）、閃=角閃石。円=ローリングを受けた粒、角=ローリングを受けていない粒。砂岩・泥岩粒については記載がない場合は「円」、その他の砂粒について記載のない場合は「角」とする。またこれらの種類は、含有量の多い順に並べた。最も多く含まれる粒の粒度は、概ね「普遍」欄に示されていることになる。

焼成：空欄は平均的な焼成度にあることを示す。

残存率：復元全周に対する残存率を、可能な限り口径について示した。底部や天井部径によるものはその旨補足している。また「完」は完形、「準完」はほぼ完形と考えてよいもの、「半完」はそれにやや及ばないものを示す。

「製塩」土器：今次はこの名称で報告する。内面の最大径を、口径欄に記した。

※その他、第V章の3に従う。

遺物観察表（土器）

種類	出土地点	傳因番号	器種	法量(cm) 口径 身高 底径	断面	手泣の特徴	表面 色調	胎土			備考	焼成 温度			
								含有鉱物		種類					
								量	鉄 量	普通 最大					
土器	SB9	P10	153	灰A	19.6	2.7	16.5	△	内外面彩、内圓輪文、外縁ミガキ。体部連續ナダ。外周断続ケズリ。	2.5YR5/6 明褐色	やや 並	細 0.5	英子赤 I	素地2.5YR8/2	1/11
	*	154	杯A	16.4	3.7	10.2	△	全周素面。内側放射繪文。口部回転ナダ。外周下半断続ケズリ。外底平行直溝。	2.5YR5/8 明赤褐色	康	多 細	0.5 英子赤 I	素地10YR8/2	1/15	
	*	P8V下層	155	杯A			8.4	△		7.5YR7/4 L.灰・橙	やや 多	細 1.0	子赤		底 1/4
	*	P8下層	156	杯				△	内外赤彩。外面ミガキ。その他の不滑。	5YR7/6橙	密 康	0.5 0.5	赤子		底 断片
	*	P7上層	157	杯B			11.0	△	内外赤彩。内面ミガキ。外周断続。	2.5YR5/6 橙	やや 粗	0.5 2.0	英子赤 I	素地10YR8/2	底 1/9
	*	P7柱脚	158	蓋	15.1			△	裏面不明。	5YR7/6橙	正	細 1.5	赤子		底 1/9
	*	P10	159	蓋	18.2			△	内外赤彩。内面ミガキ。	5YR6/6橙	正 やや 多	細 0.5	英子赤 I	やや 1/15	底 1/9
	*	P1	160	窓杯	23.6			△	内外断続ミガキ。	5YR6/6橙	密 正	細 細	子赤	素地7.5YR7/6 やや 硬	1/12
	*	P8 IV層	161				△	内面ミガキ。	5YR6/6橙	並	0.5 4.0	子赤			
	*	P8下層	162	高杯B				△	調整不明。	5YR6/6橙	密 少	1.0 1.5	チホ泥 II		底 1/4
酒器	*	P5上層 P5下層	163	高杯			9.0		追縫ナダ。	2.5Y7/8橙	並 並	粗 1.0	長子赤		底 1/4 硬
	*	P8	164	皿	19.2				外底回転ケズリ(回転台付回り)。	5Y7/2灰白	並 並	細 1.0	子		1/10
	*	P2上層	165	杯C II	13.5	5.0	X			5Y7/2灰白	やや 粗	0.5 1.2	チ黒泥		底 1/8 強
	*	P10	166	杯C II	13.5	4.5	8.2		内・外底ナダ仕上。	2.5Y8/2 灰白	密 並	細 1.0	英長瀬		1/4
	*	P9	167	杯C I	15.4					2.5Y8/2 灰白	正 多	0.5 1.0	英子 I	やや 硬	1/10
	*	P9 III層	168	杯B III	13.6	4.1	8.8		高台接合部外面擦痕。	2.5Y7/2 灰黄	正 やや 多	0.5 1.0	英長瀬 I	底 1/7	
	*	P2	169	杯	15.8		X			2.5Y7/2 灰黄	粗 やや 多	0.5 5.5	子黒		1/7 弱
	*	P2上層	170	皿						5Y5/1灰	密 正	細 2.0	子		硬
	*	P3	171	皿	17.0	2.0		△	天井外縁の3/4に回転ケズリ。	5Y5/1灰白	粗 多	0.5 1.0	英長 T		底 1/9
	*	P7上層	172	皿	16.9					5Y5/1灰白	密 少	0.5 2.0	チ黒		1/6
器物	*	P9 X層	173	蓋					外周調整不明。	2.5Y7/1 灰白	正 多	1.0 2.0	英長	外周自然削。硬	
	*	P9柱脚	174	蓋					調整不明。	16/灰	正 多	0.5 0.5	子		程
	*	P9 V. 四層	175	裏	16.0			△	口縁内面厚く変色。	5Y5/6 明褐色	粗 多	0.5 3.5	英長子		硬 1/10
	*	P9 I層	176	裏					口縁内面ハケ。	2.5Y8/4 灰白	やや 粗	2.0 3.0	子(丙) 砂子 I		断片
	*	P9柱脚	177	裏	24.6				口縁内面ハケ。	2.5Y8/5/6 明褐色	やや 粗	1.0 4.0	子赤 II		硬
酒器	*	P9柱脚	178	カマド					外周ハケ。内面ナダ。	2.5Y8/4 C.灰白	正 多	0.5 0.5	子 II		硬
	*	P3下層	179	裏	29.2			△	口縁端部は強い横ナダにより内面に抵抗。	5Y7/1灰白	正 やや 粗	細 英長尾	I	やや 程	
	*	SB10	P12	火壼				△	外縁1周には2周の弱い凹線。内面連続ナダ。	2.5Y8/2 灰白	密 少	1.0 1.0	英長赤	内面スケグ。煮入品。執	
須恵器	*	P12	181	杯					内外・強度な横筋のミガキ。内面暗丸。	10YR5/6 灰白	正 並	細 1.0	四全赤	投入品。奉器	口縫 断片
	*	P9上層	182	杯B II			13.2		体縫下半回転ケズリ。	NS7/1灰	密 正	細 0.5	長黒		1/8 弱
	*	P12 I層	183	高杯						10YR5/4 灰白	正 並	細 2.0	長黒		軟
	*	P6	184	裏					LII縁外周、擦接波状文・横状原体による圧痕文。	5Y5/1灰	密 やや 少	細 1.0	長		硬
須恵器	SB11	P4上層	185	杯B II			9.0		外底回転ケズリ。	7.5Y7/1 灰白	正 並	細 1.0	子黒		底 1/12
	*	P5上層	187				14.6		△	N7/灰白	並 並	細 1.0	子黒	やや 執	
	*	P5上層	188	高杯			12.2	△		5Y8/2灰白	粗 多	細 1.0	英子 I	軟	

種類	出土地点	桝号	器種	法量(cm)			磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土				備考	焼成	保存率						
										含有物												
				口径	脚高	底径				量	粒度	青銅	最大									
土器部	SB12	F2上層	189	杯B		8.6		全面赤彩。ミガキ。	SYR6/6種 密 やや少 細	少	1.0	1.0	赤チ		底 1/4							
	*	P9	190		17.8		△	詳細不明。	7.SYR7/6 粗 やや少 細	少	0.5	1.0	チ赤		やや 歌 1/10							
	*	P8	191			12.7	△		SYR6/1灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤		やや 歌 1/4							
	*	P7	192	杯B	10.6	6.9	7.2		N7/0灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤		1/4 強 底 1/10							
	*	P8	193	杯B		10.0			N7/0灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ黒									
	*	P9	194			16.2		内底ナゲ。	7.SYR6/1 灰白 密 やや少 細	密	0.5	1.0	灰白		底 1/6							
	*	P9	195	蓋	14.0			天井、外腹回転ナゲ 内底ナゲ。	SYR6/0灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤		1/4 強							
	*	P2上層	196	高杯			△		2.SYR8/2 灰白 粗 やや多 細	多	1.0	2.0	黄長		歌							
	*	P8	197	高杯		10.8			7.SYR6/2 灰白 粗 やや少 細	少	0.5	1.0	黄黒		1/4 強							
		P10	198	皿A	12.8			内外ミガキ。	SYR6/6種 密 やや粗 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ		歌 底 1/12							
器部	*	P11	199		18.0	2.0	15.8	△	全面赤彩。ミガキ。	SYR7/6 密 やや少 細	少	0.5	1.0	チ赤ガ II		秋 底 1/7						
	*	P10桂底	200	皿A		15.2	△	内外赤彩。内底、背面 に繊維混入。	2.SYR5/6 明赤褐 粗 やや多 細	多	0.5	1.0	チ赤ガ I	墨迹10YR8/2	歌 底 1/7							
	*	P11	201	杯			△	内外ミガキ。外面下半 済無。	SYR6/6種 密 やや少 細	少	0.5	1.0	チ赤ガ		断片							
	*	P11Ⅱ層	202			10.6	△	底部ナゲり、ハケ。	7.SYR7/6 粗 やや粗 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ		底 1/4							
	*	P8	203	高杯獨		13.4		濃縮ナゲ後、内外ミガ キ。	SYR6/6種 密 やや少 細	密	0.5	1.5	チ赤ガ									
板	*	P4	204	杯A		7.4	△		7.SYR6/10 粗 やや粗 細	密	0.5	1.0	黒長		やや 歌 底 1/5							
	*	P10Ⅰ層 桂底	205	蓋	15.6			外腹、田字ナゲ後、逆 方向の繊維混入。内 面周縁繊維混入。	N7/0灰白 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤		1/12							
	*	P10Ⅱ層	206	蓋					N8/0灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ黒									
	*	P6	207						2.SY7/2 灰黄 密 やや少 細	少	0.5	1.0	チ長		断片							
	*	P10Ⅱ層	208	蓋		10.9			2.SY6/1 灰黄 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ黒	内底に自然積 外底に難観。	底 1/6 弱							
土器部	SB14	P3	209	杯	13.7		△	連続ナゲ後、内外ミガ キ。	10YR8/4 浅黄 粗 やや粗 細	密	0.5	1.0	チガ		1/9							
	*	P5	210	蓋					SYR6/6種 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤	鉢入品。	歌							
	*		211	杯B II		11.2			N7/0灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ黒		底 1/8							
	*	P7	212	蓋					N8/0灰 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ黒		歌							
	*	P3	213	蓋				外面回転ナゲ、内面ナ ゲ共にナゲ。特に内面 中央はナゲ。	N7/0灰白 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ黒		歌							
	*	P6	214	高杯			△		SY7/1灰白 密 やや少 細	少	0.5	1.0	チ長	I	やや 歌							
土器部	SB15	F4上層	215	皿A	15.6	2.2	11.5	底△ 内面及体部外腹ミガキ。	2.SYR5/8 明赤褐 粗 やや多 細	密	0.5	1.0	チ赤		歌 底 1/7							
	*	P1	216	皿A	15.4			口縁部外腹に回転ナゲ 底残る。体部内外ミガ キ。	SYR7/6 粗 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ		底 1/9							
	*	P2上層	217			20.0			10YR7/4 に五稜 粗 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ		1/10							
	*	P3下層	218	杯A		10.0	×		10YR8/4 浅黄 粗 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤		底 1/7							
	*	P3	219	高AN	9.2	3.4	5.7	×	2.SYR5/6 明赤褐 粗 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ	底部解離。	半完							
	*	P3下層	220			15.6		外底△ 内面及び縁部外側ミ ガキ残。	SYR5/6 明赤褐 粗 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ		1/8 弱							
	*	P2中層	221	高杯A		12.3	△	裏面内にシリオリ。	SYR6/6種 密 やや少 細	密	0.5	1.0	チ赤ガ		歌							

種類	出土地点	地図番号	P組	法量(cm)			腐乳	手法の特徴	表面色調	胎土			備考	地層	残存率			
				口径	鉢高	底径				含有鉱物								
				量	鉢高	底径				粒度	普通	最大						
甕	SB15 P2下層	222	皿A	15.4	1.0	12.3	外底ナデ。	10Y6/1灰	やや密	並	細	細	チ		1/10			
	P2下層	223	杯AⅡ	12.7	3.4	8.7		底部のみ蓮座色。	10Y6/4 に、灰青	粗	やや多	0.5	2.0	チホ	底 1/2			
	P6上層	224	杯AⅢ	14.1	3.9	8.6		2.5Y7/2 灰青	並	粗	細	チホ		底 1/4				
	P2上層	225	杯	16.0				外表面擦痕。	5Y7/1灰白	やや粗	多	繊	2.0	チ	1/4 底 1/5			
	P2下層	226	杯D			10.4		立上り外面に擦痕、内 外底ナデ。	5Y7/1灰白	並	粗	細	チホ		底 1/5			
	P3上層	227	杯B			7.6		外底ナデ。外表面擦痕。	3Y4/1灰	並	粗	2.0	長黒	内外発色差。	底 1/4			
	P3上層	228	杯B			11.9		内底ナデ。	7.5Y6/1灰	並	粗	1.0	チホ		底 1/8			
	P3中層	229	杯BⅢ			8.6		外底ナデ。	7.5Y7/1 灰白	並	粗	細	美黒		底 1/2			
豆皿	P1中・下層	230	皿	15.6			天津内外面ナデ。	7.5Y6/1灰	並	粗	0.5	3.0	瓦黒	天津 1/4				
	P8	231	高杯					△	5Y8/2灰白	やや粗	多	0.5	2.0	英長ホ	I			
	P3上層	232	高杯			11.5		内面削りシボリ目。	5Y7/1灰白	やや粗	多	0.5	2.0	チホ	軟			
	P3下層	233				10.2			2.5Y7/2 灰青	粗	多	2.0	6.0	チホ	外表面スケ。			
	P3下層	234	甕	19.6				口縁内面ヨコハタ。	に、灰青	並	多	1.0	3.0	砂チホガ	I			
	P3下層	235	甕	24.5				口縁・腹内面凹凸いハ ケ。	5Y7/2橙	粗	多	1.5	5.0	チホ	I			
	P1上層	236	甕	28.5				辨識不明。	2.5Y5/2 灰青	粗	多	1.0	10.0	チ	軟 1/9 硬			
	P2下層	237	カマド					フバ郡ナデ。内面及 口縁部オキエナデ。	10Y5/2 穢灰	やや粗	多	1.0	3.0	チホガ	I			
土器	SB16 P口2	246	皿AⅠ	20.4	2.4	17.3	△		7.5Y8/6 穢	並	粗	1.0	チホガ		1/6			
	P口1 下層	247					内面放射縮裂文。外底ケ ズリ。	5Y8/6穢	密	並	粗	長	チホ	一定粒度の長 右筋を主に 含む辦入品。	硬 断片			
	Pハ1 柱底	248	杯AⅢ	13.6	3.1	8.6		内底ナデ後、全面窓 いダギ。外底ヘラ切痕 から残る。外底立上 りに接合部。	10Y8/6 黄青	並	粗	2.0	チガ	口縁部赤斑。	完			
	Pハ1 柱底	249	杯AⅢ	13.6	3.4	8.9		内底削りダギ後、全面 窓いダギ。外底ヘラ切 痕から残る。外底立上 りに接合部。	5Y7/6穢	並	やや多	繊	2.0	チホガ	内面重ね擦斑。	完		
	Pハ1 柱底	250	杯AⅣ	14.6	3.3	10.0		全面窓いダギ。内底 窓いダギ。	5Y8/6穢	やや粗	繊	チホガ		外表面下半に重 ね擦斑。	完			
	Pハ1 柱底	251	杯AⅢ	13.6	3.3	8.5		内底ナデ後、全面窓 いダギ。外底ヘラ切痕 ・平行圧痕から残る。	5Y8/6穢	並	粗	繊	チホガ	内面・外底は に、灰青。	完			
	P口2	252	杯	14.6			△	外底ミダガ跡む。内 外底ナデ。	5Y8/6穢	密	やや少	1.0	チホガ		1/6			
	P口2	253	杯B			10.8	△		7.5Y8/6 淡黄青	少	粗	繊	チホ		底 1/10			
器	Pハ2 上層	254	杯B			12.8	△		5Y8/6穢	やや粗	密	1.5	チホガ		底 1/4			
	P口1	255	皿						7.5Y7/6 穢	並	やや少	繊	チホガ					
	P口2	256				14.0		内底ミダガ。	7.5Y8/7/4 に、灰	密	粗	繊	チホガ		1/7			
	Pハ1 上層	257	碗	19.6				内底水印。内底窓い ダギ。外底半断続ケ ズリ。	2.5Y8/6 穢	並	0.5	1.0	チホガ		1/7			
	P口2	258	皿	2.3					7.5Y6/1灰	並	粗	粗	長黒		やや 軟			
	P口1	259	杯B			7.6		内底ナデ。外底ヘラ切 痕残る。	N6/灰	やや粗	並	1.5	長		底 1/2 硬			
	Pハ2 上層	260	杯DⅢ	13.2	3.6	9.6		外底ナデ。	N6/灰	並	0.5	2.0	チホガ		1/4 硬			
	P口2	261	杯DⅢ	13.2	3.8	10.0		内底丁寧なナデ。外底 ヘラ切痕残る。	5Y7/1灰白	密	やや少	0.5	2.5	長黒	外底 やや 硬	1/4		

種類	当土地点	地図番号	器種	法面 (m)		透視	手法的特徴	表面色調	土生有機物			付	腐朽	焼成	保存率		
				口径	高さ				密度	表面	種類						
				底	武底				多	少	大						
	SD16	P1~1	262	杯B	14.1	3.8	11.0	外底ナデ、内底丁寧なナデ。	N7/灰白	重	赤	黒	0.7	長黒		成1/4強	
根	*	P121・上層	253	杯B			12.0	内外底ナデ。	10YR7/4 に近い黄緑	重	多	0.5	2.0	チ黒	内面薄元色。	軟底1/7	
*	P111・上層	264	蓋			15.8		N7/灰白	重	少	0.4	2.5	チ黒		1/9		
茎	*	P1・P5・上層	265	蓋	14.8	3.2		天井外壁の2/3位回転ケズリ、内底、周縁部に回転ナデ後、全面に断続ナデ。	7.5Y7/1 灰白	重	やや多	0.5	3.0	赤長チ	I	1/2強	
部	*	P101	266	蓋				天井外壁回転ケズリ。 内面ナデ。	2.5V7/1 灰白	重	多	細	2.0	長黒			
*	P101・上層柱痕	267	蓋	18.0	2.0		内面ナデ。	10YR6/1 灰白	重	重	細	2.0	長黒チ	外面自然色。	硬1/3		
土部器	SB17	P13	269		22.1		△	外表面回転ナデ後の調整不明。	7.5YR6/4 に近い橙	重	重	細	1.0	チ赤ガ		1/11	
*	P13	270			1.6		△	調整不明。	7.5YR7/6 橙	重	6.5	2.0	チ赤		断片		
*	P1	271				12.2			2.5Y8/3 黄黄	重	細	細	チ		硬底1/5		
根莖器	*	P2	272	高杯			8.2		5Y7/1灰白	重	調	1.0	尖長黒		1/6		
*	P1	273	杯B			10.7		内底縦目の断続ハケ。	SY1/7灰	重	やや多	細	1.0	黄長		底1/7	
土器	*	P14	274	皿A	17.7	2.6	15.0	△		SY8/1灰白	重	纏	2.5	チ		軟底1/7	
*	P1	275	蓋	17.5	1.6			N6/灰	重	密	纏	4.0	チ黒	口縁外壁が幅9mmで緑色。	天津1/7		
*	P6	276	蓋	18.2				SY6/1灰	重	密	纏	2.0	チ黒	外面自然色。	硬1/12		
土器	*	P13	277	蓋	29.2			11縦内面横い擦れ。	7.5YR8/4 に近い橙	重	やや多	1.0	2.0	チ	硬1/14		
*	P14	278	カマド				△	フハ部ナデ。	2.5Y8/2 灰白	重	やや多	0.6	3.2	手跡(円角)			
土器	*	P9	280	皿A II	17.1	2.0	12.0	△	内外ミガキ。	7.5YR2/6 橙	重	重	細	1.0	チ赤ガ		1/4
*	P5	281	杯A II	13.2	3.6	6.8		内外ミガキ。	10YR7/3 に近い黄緑	重	やや多	細	1.0	チ赤ガ		1/5弱度1/4	
*	P12	282	杯A II	14.6	2.8	8.8	△	外表面ミガキ。	7.5YR8/6 淡黄緑	重	やや多	細	赤チ	赤チ赤ガ			
根	*	P5	283	碗A	12.0	3.2	6.3	△	全面ミガキ。立上り外周側底、断続ナスリ。	SYR6/6橙	重	重	細	1.5	チ赤ガ		1/4
茎	*	P4 II・上層	284	皿B-2	23.9	4.2	16.6	△	全面漆形、底部内外ミガキとされる。	10YR8/4 淡黄緑	重	重	細	チガ赤		底1/3	
部	*	P4上層	285	皿A III	16.6	2.0	13.8	外底ナデ。	7.5Y6/1灰	やや粗	多	細	1.5	チ黒		やや軟1/7	
根	*	P3	286	皿A III	15.2	2.2	11.2	△	体部SY8/1 灰白、底部7.5Y6/1	重	やや少	纏	1.0	長黒	秋底1/8		
*	P2	287	皿A	18.6	2.1	13.2	△		2.5Y7/3 淡黄	重	1.0	1.0	赤		軟1/12		
茎	*	P1	288	杯B III			8.4	外底ナデ。	SY7/1灰白	重	重	細	1.5	チ		底1/5弱度1/2弱1/3	
部	*	P8	289	杯B II			8.6	△		7.5Y7/1 灰白	やや粗	多	纏	2.0	チ黒		底1/2弱1/3
根	*	P12	290	杯B II			9.0	内外底ナデ。	N7/灰白	重	重	細	チ黒		硬底1/3		
茎	*	P12	291	蓋			1.4	天井内外ナデ。	N6/灰	重	多	1.0	3.0	チ黒			
部	*	P3	292	蓋	15.4				N7/灰白	重	重	細	チ	外側自然色。	硬1/10		
根	*	P3	293	蓋	15.0				7.5YR6/6 に近い橘	重	多	0.8	2.5	チ	外側半赤。	硬1/8	
土器	*	P5上層	294	盃			△	口縁内面ハケ。	SYR6/6橙	粗	多	1.5	3.0	手跡	I	断片	
土器	SB19	P14 II・上層	295	皿A	1.4		△	調整不明。	SYR6/6橙	重	重	細	0.5	チ赤			
*	P12 II・上層	296	杯A IV			6.4	△	内外ミガキ。	10YR7/4 に近い黄緑	やや密	やや少	纏	1.0	チ赤		底1/4弱度1/6	
*	P14 II・上層	297	皿A	17.0	2.7	12.2	△	全面ミガキ。	SYR6/6橙	重	重	細	2.0	チ赤		1/4	
*	P14 II・上層	298		16.8		11.7	△	全面ミガキ。	SYR6/6橙	重	重	細	1.8	チ赤ガ			
*	P11 I・上層	299	蓋				△	調整不明。	7.5YR7/6 橙	やや粗	やや多	細	6.0	チ赤ガ		軟	

種類	出土地点	標識番号	器種	法量(m)			底耗	手法の特徴	表面色調	地盤				備考	焼成	残存率	
				口径	器高	底径				表地	色度	普通	最大	種類			
灰 器	SB19	P口5 上層	300 杯AⅢ	14.4	2.7	10.8	△		7.5Y7/1 灰白	表 多	0.6	2.5	良黒		やや 軟	1/4	
	*	P口2	301 杯A I	15.6	3.0	12.5	△		5Y6/1灰	密 やや 少	細	1.0	チ黒		やや 軟	1/7	
	*	Pハ3	302 杯B II			10.0	△		2.5Y8/2 灰白	表 多	細	1.5	英チ	I	硬 皮	1/6	
	*	Pハ2 上層	303 盆					内面ナガ。	N6灰	密 やや 少	細	3.0	チ黒		硬		
	*	P口2 上層	304 盆	19.6					外観5Y6/1 灰	表 多	細	1.5	チ黒		内面NS/0 灰白。	硬 1/9	
	*	Pハ1 上層	305 盆			9.8	△	内外回転ナガ。	2.5Y7/1 灰白	表 多	0.5	1.0	チ黒				
點線部	*	P-5 上層	306		7.4			△ 口縁外面フジ取り。内 面直張。	7.5Y8/7/6 灰	表 多	1.0	5.0	泥赤チ (丹+円)				1/8
	*	P-5 上層	308	甕	16.1			口縁部外側ハケ。	7.5Y8/4/6 灰	やや 粗	多	細	1.8	チ黒	搬入品。	硬	1/18
無色 器	SB20	P26 上層	309 杯					内外緻密なミガキ、内 面歯文。	10Y5/3 にい黄緑	密 少	細	細	雪青黒		外面口縁下 15cmまで黒色。	極稀	断片
	*	P12	310 盆A		2.1		△	調整不明。	10Y8/2 にい黄緑	表 多	細	細	チガ		体部外周 5Y4/1灰。		
土	*	P12	311 盆A	17.3	1.2	14.6	△	調整不明。	5Y8/7/6 灰	密 少	細	1.3	チ赤		軟 皮	1/4	
	*	P10	312 盆A			11.2	△		7.5Y8/7/6 灰	表 多	細	細	チ赤		外底に擦痕。	硬	1/4
印	*	P25	313 盆				△	外観回転ナガ。	10Y8/7/3 にい黄緑	表 多	細	1.0	チ		底部が 2.5Y4/1。	硬	断片
	*	P21	314 杯AⅡ	9.6	4.0	5.8	△	回転ナガ後、模様1ガ ホの可認性。	5Y7/8/6 灰	表 多	細	1.0	赤長ガ		軟	1/4	
印	*	P25	315 杯AⅢ	11.5	3.1	7.6	△	回転ナガ後、内外1ガ ホ。	5Y8/6/6 灰	表 底	粗	2.0	チ赤ガ			1/3	端
	*	P16	316 杯AⅢ	12.8	3.1	6.6	△	内外回転ナガ、唇に口 縁外側に強い凹凸ナガ。 その後の調整不明。	5Y7/7/4 灰	やや 粗	表 底	細	チ赤ガ		内底に黒斑。	1/3	
印	*	317	杯AⅣ			6.4	×		5Y7/1灰白	表 底	細	0.9	チ赤			底 皮	1/5
	*	P10	318 杯B			9.4		調整不明。	5Y8/6/6 灰	表 底	やや 少	細	3.0	赤長ガ		底 皮	1/8
	*	P7	319 杯B			9.1	△	調整不明。	7.5Y8/7/8 灰	表 底	やや 少	細	1.0	チ赤		軟 皮	1/7
	*	P20	320 杯B			12.2	△	全面赤茶。内面ミガキ。 底赤。	5Y8/4/5 赤	表 底	細	細	英チ赤	I	表地10YR8/3。	底 皮 1/4 端	
底 器	*	P6	321 盆A	15.4	2.1	14.1		底板は平滑。特に外底 は板厚浮、体部強い凹 凸ナガ。	5Y7/1灰白	極密 少	細	細	墨チ		硬	底 皮	1/13
	*	P22	322 盆A	16.9	1.8	14.2		体部に強めの凹凸ナガ。	5Y7/1灰白	表 底	粗	1.0	チ黒			底 皮 1/6 端	
	*	P23	323 杯A V			4.8	△	外底ヘラ切未調整。	5Y6/1灰	やや 粗	表 底	0.5	0.5	赤長		軟 皮	1/4 端
	*	P26	324 杯AⅢ	12.8	3.5	6.8	△		2.5Y8/2 灰白	やや 粗	底 底	0.5	2.0	チ赤		軟	1/6
	*	P22	325 杯AⅢ	12.2	3.4	7.5	△		2.5Y7/1 灰白	表 やや 多	細	0.5	5.0	黒チ	下半が褐色 (NS/6)	軟	1/6
	*	P12 上層	326 杯AⅢ	13.6	3.4	16.2		内外底ナガ。	N7/灰白	やや 粗	底 底	1.0	英チ赤	I		底 皮 1/2 端	
底 器	*	P9	327 杯BⅢ	12.3	4.0	8.6		内底ナガ。外底ヘラ切 底。	5Y6/1灰	密 やや 少	細	0.8	0.8	黒長		硬	1/6
	*	P13	328 杯B E			10.7			5Y7/1灰白	表 底	底 底	0.8	0.8	チ黒		底 皮	1/8
	*	P12	329 杯	14.5	3.1	10.7	△	内底ハケ。	10Y8/1 灰白	表 底	底 底	1.5	英チ赤	I		軟 皮	2/3
	*	P19	330 盆	14.3				天津外腹面剥離ケズリ。	5Y7/1灰白	表 底	底 底	1.0	チ			やや 軟	1/4
	*	P23 上層	331 盆	10.7	2.0			天津外腹面剥離ケズリ。 底板厚浮、内底、刻縫部 陥れ、泡ナガ。	7.5Y5/1灰 底	表 やや 多	細	3.0	チ赤			充	
底 器	*	P13 頸	332 長縫窓					内底、接合底、ナガ底 あり。	7.5Y5/1灰	表 やや 多	0.6	1.0	チ黒		外底の一側方に 自然施。		

種類	出土地点	辨認番号	器種	法量(cm)			透光	手法の特徴	表面色調	粘土				備考	焼成	残存率					
				口径	脚高	底径				比重	含有鉱物										
											粒度	量測	最大	群							
馬糞器	SB20 上層	333	壺			10.2		内底中央ナデ。	NS/灰白	並	並	0.4	1.5	長チ	やや硬	底 1/1					
		334	壺					内面、複合痕と横ナデ。 耳はアズリ。	NS/灰白	並	並	0.5	0.8	ナラ							
土器類	P12	335	壺					口縁内面組みのハケ。 体部外面横線ハケ。	7.5YR6/4 にぶい穀	並	並	0.8	2.5	チ砂摩	I						
	P19	336	壺						△	△	多	2.0	3.0	チ(?) 砂ガ	I	断片					
	P12	337	壺					口縁上面がP1。	7.5YR6/4 にぶい穀	7.5YR7/4 にぶい穀	やや粗	多	1.0	4.0	長長チ	硬	断片				
		338								△	△	多	1.0	8.0	混赤		1/7				
土器類	P44	350	皿A II	15.0	1.6		△	口縁下、強い凹起ナデ。 外底ハラ切痕。	10YR7/4 にぶい穀	並	多	細	0.7	チホガ	黒度。		1/4				
	P44	351	皿A II	15.8	2.3	12.0	△	企座ミガキ(内面擦耗 か)。体部連續ミガキ。 外底ハラ切痕残る。	SYR6/6強	並	並	粗	0.5	赤チガ		軟	1/4 弱				
	P42	352	杯A I	17.4	3.0	14.6	△		SYR6/8	並	多	0.5	2.0	チ赤		軟	底 1/6				
	P44	353	皿A	18.0			△	口縁連續ナデ、外側ケ リズム。	7.5YR8/6 黄強	やや粗	少	粗	赤チガ	搬入品。	硬	1/8					
	P46	354	皿A				△	口縁連續ナデ、外側下 半ケリズム。	7.5YR7/6 強	少	粗	1.0	赤チガ	搬入品。	硬	断片					
	P23	355		13.7	3.2	7.7	△	凹起ミガキ後、長い連續 ミガキ。内外立上り部に 削れ・凹窓。	7.5YR7/6 強	密	密	粗	チホガ			1/4					
	P44	356	杯A IV			6.2	△	全面ミガキ(外底含む)	10YR8/4 浅黄強	並	並	0.6	6.0	チガ		底 3/10					
	P03	357		14.5	2.7	8.5	△	凹起ミガキ後残す。内外 立上り部に削れ・凹窓。	7.5YR7/6 強	並	少	粗	赤チガ	新面10YR8/4 浅黄強。		1/4					
	P45	358	杯A II	15.0	3.5	9.7	×	削耗、剥離により、調 整不明。	2.5YR6/8 強	密	やや少	粗	0.8	チホガ		1/6					
	P21	359	杯A II	15.0	2.9	9.4	△	外底ハラ切痕。	7.5YR7/6 強	やや密	密	粗	1.0	チホガ		底 1/7 弱					
器	P43	360	杯B			8.2	△	内面ミガキ。	7.5YR7/6 強	やや密	密	粗	チホガ		硬	底 5/6 強					
	P43	361	皿B			1.8	△		SYR6/6強	密	密	粗	赤チガ			断片					
	P05	362	皿B-2	19.1	3.0	12.0	×		SYR7/8強	密	密	粗	1.5	赤チガ		軟	底 1/2				
	P46	363	皿			22.5	△	天井付圓軸ケギリ。 内底ミガキ。	SYR6/6強	密	密	粗	1.0	チホガ		硬	1/9				
	P43	364	皿			28.6	△	外側ケリズム後、分割ミ ガキ。	SYR7/6強	密	密	粗	1.2	チ豊ホガ	搬入品。	硬	底 5/6 強	1/10			
		365	皿A I			19.2	2.0	外底ナデ。	2.5Y7/1 底白	密	密	粗	1.0	チホガ			底 1/9				
	P46	366	杯A II	11.9	3.1	10.0	△	内底中央ナデ。外底ナ デ。平行仔痕。	7.5Y6/1灰 底	密	密	粗	1.2	長チホ	内外火摩。	底 1/3 弱					
	P44	367	杯A II	14.0	3.6	8.7	△	内底刮痕ナデ痕、外底 ハラ切痕。	SYT7/2灰白	密	やや多	粗	1.1	チホガ		軟	底 1/3				
	P44	368	杯A II	14.4	3.2	10.4	△		2.5Y6/3 にぶい黄	密	多	粗	1.0	チホガ		軟	底 1/2 弱				
	P44	369	杯B II			10.0	△	外底ナデ。	NS7/0灰	密	やや多	粗	4.5	長周		底 1/4					
器	P45	370	皿				△	天井付圓軸ケギリ。 内底ナデ。	NT7/0灰白	密	密	0.7	1.2	チホ							
	P45	371	皿			18.6	△		NT7/0灰白	密	密	粗	チホ			1/13					
	P45	372	杯			38.0	△	外側刮痕ナデ目残る。 口縁内面強引凹起ナデ。	2.5YB1/ 灰白	密	多	粗	1.5	チ		軟	底 1/6 強				
	P43	373	皿				△	口縁内面強引模ハケ。	10YR7/4 にぶい黄強	密	多	0.5	1.1	チホ		硬	断片				
	SB22	F9	378	杯A IV	9.6	4.0	5.2	△	内外刮痕ナデ後、ミガ キ。	SYR6/6強	密	多	0.5	1.5	チホガ		硬	1/4			
土器類	F9	379	杯A III	12.8	3.7	10.1	△	× 内外ミガキ。	7.5YR7/6 強	密	多	粗	3.0	チホガ			底 1/5				
	F9	380	杯A II	14.2	3.0	10.1	△		10YR8/4 浅黄強	密	底	0.8	2.0	チホガ			1/6				
	F8	381				14.8			10YR7/3 にぶい黄強	密	多	粗	粗	チホガ	外面と口縁内 面黒変。		1/4				

種類	出土地名	博岡 番号	器種	法量(cm)			唐耗	手法的特徴	表面 色調	粘土			備考	焼成	保存 率		
				口径	身高	底径				高さ	横幅	粗大	細				
土 器	S822	P9	582	高杯A			X	脚部凹取り。	7.5YR7/6 橙	密	やや 少	0.6	1.5	赤			
	*	P12	583	高杯B			△	外底内面ミガキ。	7.5YR6/6 橙	密	多	細	1.2	赤			
	*	P8	384	皿AⅢ	14.9	1.6	10.5	体部凹凸ナデ。外底ナ デ。	10YR7/2 にぶい黄橙	密	走	細	1.0	赤		底 1/6	
	*	P5	385	杯A	13.2	2.5	10.0	X 外底へラ切底。	7.5YR7/6 橙	密	少	細	細	赤		底 1/5	
器 皿	*	P11	386	皿A	15.8	1.8	13.1	体部外面ミガキ。	SYR6/6橙	密	並	細	0.7	赤	内部10YR7/4。	硬 1/10 強	
	*	P9桂瓶	387	風A	19.3		△		SYR7/6橙	密	少	細	細	赤		軟 1/10	
	*	P9	388	皿	17.0	2.4			SYR6/6橙	並	多	0.5	5.0	赤		1/2	
	*	P12	389	皿			X		10YR7/4 にぶい黄橙	密	多	細	細	赤			
須 恵 器	*	P13	390	皿A	17.2	2.2	△		2.5Y7/3 灰青	密	0.5	2.5	2.5	赤		軟 1/12	
	*	P13	391	皿A	17.5			外底ナデ。	7.5Y3/白	並	やや 多	細	0.8	赤		1/8 強	
	*	P12	392	杯BⅢ			9.4	△ 内外底ナデ。	7.5Y5/1 灰白	やや 粗	走	細	1.0	長		底 1/3	
	*	P9	393	皿	14.1	2.1		外底粘土模様。内面は、 周縁部凹凸ナデ。他 はナデにより平ら。	N7.5Y3/白	並	走	細	2.0	真黒	外済縫灰。	完	
土 器	*	P9	394	皿	19.8	1.8		内面部縫合模様。	7.5Y7/1 灰白	並	多	細	5.0	赤		1/2	
	*	P11	395	皿	19.5			外底脚部タタキ。脚部 に細かいハケ。内面 脚部圧痕。口縁へ頭部 細かい模様。	7.5Y7/4 浅黄	密	やや 多	1.0	5.0	泥砂チ (円)ガ	擬熱、外側制 限。	1/6	
	SA4	P7	397	皿A	16.1		X		7.5Y7/6 黄橙	密	並	細	1.1	赤		軟 1/3	
	*	P4	398	皿A	18.2	1.2	15.0	△ 口縁部と内底に凹凸ナ デ。	SYR7/6橙	密	並	細	2.1	赤		底 1/6 弱	
器 皿	*	P4	399	杯A	12.3	2.5	8.2	△ 体部凹凸ナデ。	SYR7/6橙	密	やや 少	細	1.0	赤		底 1/2	
	*	P4	400	杯A	13.6	2.5	8.2	△ 内底へラ切底。	7.5Y8/6 橙	並	やや 多	細	2.0	赤		半完	
	*	P4	401	杯A	12.5	2.5	7.6	△ 体部凹凸ナデ。	SYR7/6橙	密	並	細	細	赤		底 1/5	
	*	P4	402	杯A			8.8	外底ナデ。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	並	細	0.5	赤		底 1/6 弱	
須 恵 器	*	P4	403	皿	16.4		△		10YR8/4 浅黄	並	並	細	0.5	赤		1/8	
	*	P4	404	皿A	16.4	1.7	13.4	△	10YR8/4 浅黄	粗	多	0.6	3.0	赤		軟 1/7	
	*	P4	405	杯	12.0				SYR6/1	並	走	細	細	赤	外側自然物。	1/7	
	*	P7	406	杯	12.4		X		7.5Y7/8/6 浅黄	並	多	細	1.2	長チ赤	底紅はやや濃 色。	軟 1/2	
土 器	*	P4	407	皿	17.4			天井内面ナデ。	N7/灰白	並	多	細	8.0	黄英チ	やや歪み、内 面は口縁部の み濃色。	硬 1/7	
	*	P4桂瓶	408	皿	5.8	7.2	7.0	外縁 △	体部外周部の脚ハケ。 脚部模様ナデ。底部内 面に上方への擦痕。	N7/灰白	並	多	0.5	5.0	長チ黒 チ	内面にも隕灰。	1/2
	*	P4	409	皿	14.4				SYR7/4 にぶい橙	粗	極多	1.0	10.0	泥砂チ	外側変色。	1/7	
	*	P4	410														
須 恵 器	*	P4	411	皿	34.0			口縁部外側に片刃削形 の模様。	N7/灰白	並	細	0.5	長チ			1/15	
	SA9	P3	412	皿	14.8			外縁の1/2強に凹凸ナ デ。内面、周縁部凹 凸模様ナデ。天井部ナデ。	SYT7/1灰白	粗	多	0.5	0.9	英長	I	1/5	
	SA10	P2	413	杯A	15.0	3.7	11.0	△ 内外脚部凹凸ナデ。外 底へラ切底。	7.5Y8/6 橙	密	走	細	1.3	赤		1/2	
	SA11	P7	414	皿A	16.8	2.3	12.1	X 企画ミガキとみられる。	7.5Y8/6 橙	並	やや 多	細	1.0	チガ		1/8	
土 器	*	P6	415	碗A	12.2	3.4	6.7	X 内外脚部凹凸ナデ。ミガキ の可能性。	7.5Y8/6 橙	並	多	細	2.0	チガ赤		1/7	

種 類	出土地点	辨認番号	器種	法 量 (cm)			器形	手法的特徴	表面 色調	物 土				備 考	焼 成	残存 率	
				口径	器高	底径				深さ	容積	壁厚	底 盤 厚	底 盤 幅	種類	群	
土 器	SAJ1	P5	416	杯B	15.4	4.0	11.2	×	内外ミガキ。	5YR7/6盤	密	1.0	子彦ガ				底 1/9
	+	P6	417	杯A	14.4	3.7	9.2	×	全面赤刷。内底指腹压痕。外底平滑。連続ナダ。下方接合部。	2.SYR6/8 盤	粗	0.4	2.0	英長ナ	I	素地10YR7/4a	1/5
	+	P2	418	杯	17.0			△	内外赤刷。ミガキ。外底下部接合部ケリ。	2.SYR5/5 明赤場	密	0.8	英長	I	素地10YR8/3a	硬	1/7
	+	P2	419	杯C	19.0			△	内外赤刷。ミガキ。外底下部接合部ケリ。	5YR6/6盤	密	0.4	1.8	天長ナ ガ	I	素地10YR7/4a、やや 硬	1/13
	+	P2	420	杯C	22.2			△	内外赤刷。ミガキ。外底下部接合部ケリ。	2.SYR5/6 明赤場	密	1.5	英ナ	I	素地10YR8/1a	硬	1/16
	+	P2	421	杯	16.4			△	内外赤刷。ミガキ。	5YR6/6盤	密	1.7	英ナホ	I	素地10YR8/2a	硬	1/12
土 器 器	+	P2	422	皿B-2	22.0	4.2	12.7	×	内外赤刷。杯内部底面ミガキ。杯外部底面ケリ。	10YR7/6 にぶい黄澄	密	0.5	英美ガ	I	素地10YR8/2a	底 1/4 強	
	+	P2	423	高杯				×	全面赤刷(胸内面上方除く)。	2.SYR5/8 明赤場	やや 粗	4.0	英長ナ ガ	I	素地10YR8/2a		
	+	P6	424	皿A	18.4	2.8	14.8	内外赤刷。外底繊維压痕。	7.5YR6/1底	密	1.0	手擦			内面やや酸化 色。全体に斑 み。	底 1/2	
	+	P6	425	杯B		10.3	△		5YR6/1底	やや 粗	1.0	長赤ホ				底 1/7	
	+	F1	426	蓋	21.8			内底外縁部沿軸ケリ。	5YR6/1底	密	粗	手擦			外面白自然釉。	硬	1/7
	SK16	427	杯C	14.8				全面赤刷。内底に放射 輪。	2.SYR4/6 赤澄	やや 粗	0.4	2.0	英美ガ	I	素地10YR8/2a	硬	1/9
土 器 器 器	+	下層	428	皿B-1			15.0	全面赤刷。	2.SYR5/5 明赤場	やや 粗	1.5	英美ガ	I	素地10YR8/2a	硬 底 1/8 弱		
	+	429	高杯A					外壁ケリ底。	10YR7/3 にぶい黄澄	密	1.5	子ナガ					
	+	430	皿A	17.0	2.1	15.0	外底ナダ。	7.5YR6/1底	密	粗	2.0	長赤黒				L/10	
	+	431	杯A N	9.8	3.6	6.2	△		7.5YR6/1底	やや 粗	0.5	6.0	手擦			口縁 1/7 底 1/3	
	+	432	杯B II			9.0		N7/6灰白	粗	0.8	英長黒	I			底 1/4 底 1/8		
	+	433	杯B I	18.4	4.9	13.7	内底模ナダ後、ナダ。 外底ケリ。	5YR2/6白	密	0.5	1.0	手黒					
土 器 器 器 器	+	434	蓋	14.0					10Y5/1灰	粗	0.5	0.5	英長黒		外面白自然釉。	硬	
	+	435	蓋	14.9			△		5YR6/1底	やや 粗	0.5	0.8	子			軟	
	+	436	蓋	15.4	2.6		天津外周2/3間に指軸 ケリ。内底、周縁部 擦痕、瓦井ナダ。	7.5Y7/1 灰白	密	0.5	1.5	英チ	I			1/4	
	+	437	蓋				内面ナダ。	7.SY7/1 灰白	密	0.5	2.0	長黒			硬		
	+	438	蓋				内面ケリ後ハケ。	7.SYR6/4 にぶい黄	粗	1.0	2.0	子		外面白変、ス ヌ。	硬		
	+	439			14.4		△	外底指腹压痕。	10YR7/2 にぶい黄澄	粗	1.5	4.0	泥ナ (内)				1/9
土 器 器 器 器	+	440	蓋				内面、同心円内底をナ ギ羽。	N6/灰	密	粗	5.0	長					
	SK18	444	皿				△ 内外赤刷。	5YR6/6盤	密	0.5	1.0	英ナホ	I	素地 5YR8/2a	断片		
	+	上層	445	杯B			全面赤刷。	5YR6/6盤	密	粗	英ナ	I	素地10YR8/2a	硬	断片		
	+	446	杯			9.8	外底立ち上りに擦痕。 内外底ナダ。	N7/6灰白	密	0.5	1.0	英ナホ	I		やや 底 1/3		
	+	447	杯	12.4				5Y7/1灰白	やや 密	0.5	2.0	子			硬 1/9 強		
	+	448	杯B III			8.4	外底ナダ。	5Y7/1灰白	密	0.5	手黒				底 1/2 弱		
土 器 器 器 器	+	449	杯B II			11.0			2.SY7/1 灰白	やや 粗	2.0	子			底 1/10		
	+	450	杯B I			13.2	外底ナダ。	7.SY6/1灰	密	0.5	0.5	子			硬 底 1/5		1/13
	+	451	蓋	15.2				5Y7/2灰白	やや 粗	1.0	英チ	I					
	+	452	蓋	18.6			△	5Y8/1灰白	密	少	粗	1.0	子			軟	1/16

種類	出土地点	測定番号	部種	法量(cm)			形状	手法の軽重	表面色調	地土				備考	概要	残存率						
				口径	部高	底径				含有物												
										量	粒度	粗大	容									
上層	SK18	453	甕				△		10YR8/3 浅黄	亞	多	粗	4.0	表(女性) 内(内)	I		断片					
	+ 上層	454	甕	23.6			△		10YR7/4 に赤い黄	やや粗	多	1.0	5.0	高子雲	目	搬入品	硬					
	+ 455						△		7.5YR7/6 暗	並	多	1.0	2.0	子砂赤			断片					
	+ 456	甕							外面タク後、一部凹 輪柱付。内面当具痕 をナナ付す。	5Y7/1灰白	やや粗	並	粗	1.0	美長子			破片				
中層	+ 457	甕							外面平行タク後、弱 いナナ。	N6/灰	密	並	細	2.0	長子	硬	破片					
	SK20	458	皿A	19.4	1.9	17.1	△		SYR7/6暗	密	少	粗	1.5	子赤	硬	底	1/1					
	+ 459	杯A			12.7	△	全面ミガキ。	2.5Y8/3 青黄	並	多	粗	粗	子赤		底	1/3						
	+ 460	杯	20.1						2.5Y8/6 暗	並	多	0.5	1.0	子ガ	黒地10YR8/2 灰白。	硬						
	+ I層	461	杯B				△	内面赤跡、ミガキ残る。	SYR5/6 青灰	並	粗	0.8	子	黒地SYR7/6. 軟								
下層	+ II層下	462	蓋	18.0			△	内外赤跡。外面上ミガキ 残る。	2.5Y8/6 暗	並	多	0.5	2.0	子	I 黒地10YR8/2.	1/8						
	+ 463	皿	29.0	2.0			△		5Y8/1灰白	やや密	並	粗	1.0	美子		軟	1/9					
	+ 464	杯A			7.6	△			5Y7/1灰白	密	少	粗	1.0	子黒		軟	1/6					
	+ 465	杯B N			8.2				5Y8/1灰白	やや多	粗	粗	美子	I	やや 底 多	底 1/4 底						
	+ 466	杯B M	12.9	4.0	9.2			外底断続ケズり後、ナ ナ。背部外腹側合巻。	N6/灰	並	密	粗	1.5	美長黒	外腹暗色、光 沢。	硬	1/6					
頂	+ 三層下	467	杯B M		6.7			内外丸ナナ。	7.5Y8/1灰	密	並	細	細	長子	硬	底	1/1					
	+ 468	杯B B			9.0			外底ナナ。	7.5Y8/1灰	密	少	粗	粗	子集	硬	底	1/8					
	+ 469	杯B E	15.6	5.5	10.6	△			SY6/1灰	やや密	並	粗	2.0	赤長美	内面SYR5/4 に赤い素赤		1/4					
	+ 470	杯B E			10.0			後地面に燒跡。庄重。	SY6/1灰	並	薄	粗	1.5	子	硬	底	1/8					
	+ 471	蓋	13.9					天井外腹1/2に凹輪ヶ ズリ、内面、異様な擦 痕、天井部ナナ。	N7/灰白	並	多	0.5	2.0	黒子		硬	1/3					
基盤	+ 472	蓋	14.4				△	内面、瓶詰跡擦痕、天 井部ナナ。	2.5Y7/1 灰白	やや重	多	粗	1.0	美子	I	やや 底 強	1/4 強					
	+ 473	蓋	14.0	3.2				天井外腹輪ヶズリ、 内面ナナ。調整丁寧。	N6/灰	密	並	0.5	1.0	長子		軟	1/5					
	+ 上層	474	蓋	15.0				天井外腹外輪ヶズリ。 カエリは施付。	SY8/1灰白	密	並	0.7	0.7	美長			1/8					
	+ 475	蓋	17.3					内外丁寧な凹輪ヶズ リ上。	N7/灰白	密	並	粗	0.5	美長	硬	1/9						
	+ 476	蓋						内面平滑。	7.5Y7/1 灰白	密	並	粗	1.0	黒長	硬							
器	+ 477	蓋						天井外腹圓輪ヶズリ。 内面凹輪ヶズリ。	7.5Y7/1 灰白	並	やや多	粗	1.0	美子	I							
	+ 下層	478	蓋	20.4				内面内輪ナナ。	N6/灰	並	並	粗	粗	子黒	硬	1/9						
	+ 479	蓋						天井外輪ヶズリ。	2.5Y6/1 灰白	密	少	粗	粗	美長	内外自然堆。	硬	1/4					
	+ 480		24.6				△		SY8/1灰白	並	重	粗	1.5	子赤		軟						
	+ 481	高杯		13.0				横端部に強い凹輪ナナ。 底質。	2.5Y8/3 灰質	世	やや多	粗	1.0	美子	I	底 強	1/7					
器	+ 上層	482	高杯		14.0				5Y7/1灰白	密	多	粗	1.0	美子	I	底 強	1/4					
	+ 483				10.6	△			SY8/1灰白	康	多	0.5	0.5	美	I	やや 底 軟	1/6					
	+ 484							上部部に溝。	N7/灰白	密	少	粗	粗	黒長	周径12.0cm。	硬	1/4					
	+ 485	蓋							N8/灰白	世	並	粗	1.5	子黒	周径18.4cm。							
	+ 486	蓋	16.1					内部とも整然な凹輪ナ ナ。	N7/灰白	並	並	粗	2.5	子黒	周部内面銀色化。 周部接合部に剥離。							
器	+ 487	甕	22.8					上部部外縁部のタ ケ。	2.5Y7/1 灰白	並	重	粗	粗	黒子	全ての上面に 自然堆。							

種 類	出土地点 番号	掉 落 物 番 号	器 種	法 量 (cm)			透 視	手 法 的 特 徴	表 面 色 調	地 土 含有物質				分 類	鑑 定	現 存 率	
				口 径	器 高	底 径				重 量	粒 度	粗 粒	無 粒				
直 筒 部	SK20	488	裏					外面タクタキナダ→透 視標ハケ。内面、底及 底をナガナ。	N7/M白	密	亞	細	4.0	子			
	*	489	裏	23.6				外面タクタキナダ→透 視標ハケ。内面真底→弱い ナダ。	7.5Y6/1灰 7.5Y6/1灰	密	やや 少	細	4.0	子	測定40.2cm	硬 2/3	
腰 部	*	490	下層				△		SYR6/1灰白	密	多	1.0	2.5	砂子		断片	
	SK21	494					△	内面ミガキ。	10YR8/4 改青柾	密	亞	細	細	子ホガ	内面黑色。底 面灰色。		
黑 色	*	495	ⅢA	17.6	2.0	15.0	△	全面ミガキ。	7.5YR7/6 底	密	康	細	細	子赤		底 1/9	
	*	496	ⅢA	19.7	1.3	16.8	△		7.5YR6/6 透視	密	亞	細	細	赤オ		1/11	
	*	497	ⅢA		1.4		△		10YR7/4 明黄柾	密	少	細	細	赤ナガ		軟 断片	
	*	498	ⅢA				△		7.5YR7/7 黄柾	密	少	細	細	赤赤		軟 断片	
	*	499	ⅢA				△		2.5YR6/6 透	密	少	粗	粗	赤チ		軟 断片	
	*	500	杯A	13.4			△	内面ミガキ残。	SYR6/6透	密	亞	細	1.0	子赤		1/12	
	*	501	杯	13.4			△		SYR7/6透	密	亞	細	0.8	子赤	口縁部のみ明 色。	軟 1/9	
	*	502	杯	12.8			△	外面圓軸ナダ。	10YR7/3 にぶい黃柾	密	亞	細	1.0	子赤ガ		1/8 強	
	*	503	杯	15.2				内外丸いミガキ。	10YR7/4 にぶい黃柾	密	亞	細	細	子		1/9	
	*	504	杯A		9.6		△		10YR8/4 改青柾	密	亞	細	細	赤ホガ		底 1/6	
土 器	*	505	杯A		9.8		△		7.5YR8/4 改青柾	密	亞	細	1.0	赤ホガ		底 1/6	
	*	506	杯A		11.5		△	全面ミガキ。	10YR8/3 透視柾	密	亞	細	3.0	子ホガ		底 1/8	
	*	507	杯B			12.4			7.5YR7/6 透	密	亞	細	9.5	子		底 1/8	
	*	508	杯B						7.5YR7/6 透	密	少	細	細	赤ホガ		底 1/5	
	*	509	蓋	16.0			△		2.5YR6/8 透	密	亞	細	1.0	子赤ガ		軟 1/9	
	*	510	ⅢB			13.5	△		10YR8/3 透視柾	密	少	細	細	子赤ガ		底 1/11	
	*	511	壺	9.1			△	外 面 ミ ガ キ。	10YR7/3 にぶい黃柾	密	やや 多	粗	細	チガ	黒斑。	硬 1/9	
	*	512	ⅢA						N6/灰	密	亞	細	0.5	チ黒		硬 断片	
	*	513	ⅢA				△		2.5Y6/2 灰白	密	亞	細	1.0	子赤		軟 断片	
	*	514	皿A	16.5	1.9	14.0			2.5Y7/4 透	密	亞	細	細	子	口縁部が焼 或不良。	1/14	
器 體	*	515	皿A	18.0			△		2.5Y6/2 灰白	やや 粗	亞	細	細	子		軟 1/9	
	*	516	杯A'	10.2	3.6	6.4	△		10YR7/4 にぶい黃柾	密	亞	細	9.0	子赤		特に 上方 軟 1/1	
	*	517	杯	13.7			△		2.5Y7/2 灰黄	密	少	粗	細	子赤		軟 1/11	
	*	518	杯	13.6					N6/灰	密	亞	粗	細	チ黒	口縁のみセピ ア色。	硬 1/9	
	*	519	杯	13.7			△		5Y7/1灰白	密	やや 少	粗	細	チ黒	口縁内部が やや褐色。	軟 1/9	
	*	520	杯	13.0					5Y7/1灰白	密	少	粗	細	チ黒	口縁のみ褐色。	1/11	
	*	521	杯	16.8				口縁部の圓軸ナダが強 い。	10YR7/4 にぶい黃柾	密	少	粗	細	子ホガ	特に 口縁 軟 1/8		
	*	522	杯AⅢ			8.7	△		2.5Y7/1 灰白	密	少	粗	細	子赤		底 1/8	
	*	523	年A			9.2	△		7.5Y6/1灰	密	亞	粗	2.0	チガ		軟 1/4	
	*	524	杯AⅢ			8.2	△	内外底ナダ。	2.5Y7/1 灰白	密	やや 多	0.5	2.0	共子周I		やや 軟 1/7	
	*	525	杯AⅢ			7.0	△	外底ナダ。	N6/灰	密	やや 少	粗	1.0	チ黒	518と同様の 地土、焼成。	硬 底 1/2 弱	

種類	出土地点	標印番号	基盤	法面 (cm)			断続	手法の特徴	表面色調	陶土					備考	焼成	残存率						
				口径	高さ	底径				含有物質			量	粒度	種類								
										量	粒度	種類	群										
須恵器	SK21	526	杯AⅢ		11.0			内外底ナデ。内底平滑。	7.5Y6/1灰	極密	極少	細	粗	長黒		硬	底 1/7						
		527	杯BⅢ		8.7			内外底ナデ。	N6/灰	並	並	粗	2.0	赤		硬	底 1/8						
	+	528	杯B		9.2			内外底ナデ。	N6/灰	並	やや多	0.5	3.0	美手墨	I		底 1/5						
		529	杯BⅢ		8.4			外底ナデ。	10Y6/1灰	やや密	並	粗	4.0	長手		内外底色差あり。	硬 底 1/2 弱						
	+	530	蓋	15.6				天井外面ナデ。内面周縁粗擦痕。	N5/灰白	やや密	粗	細	2.0	黄黒			1/7						
		531	蓋	17.1				天井外面は幅広の回転ケズリ。内面ナデ。	7.5Y7/1 灰白	密	粗	細	4.0	チ			天井 1/9						
土器	+	532	壺					下側の外表面をケズリ。	10Y4/灰	並	やや多	0.7	4.0	チ		硬	底 1/4						
		533	壺					内底、全体外形に粗く強い擦ハケ。	10Y3/4 にぶい黄澄	並	やや多	1.0	3.5	手鎗ガ	I		断片						
	+	534	壺	25.2				口縁内面横ハケ。	10Y8/4 にぶい黄澄	やや粗	多	0.5	1.5	チ	II	硬	断片						
		535							5Y7/1灰白	並	多	1.0	3.0	移手 (円・角)			断片						
須恵器	+	537	壺	10.2				外表面指圧痕、内面比較的平滑。筋土にスサ混入。		粗	多	1.0	2.0	英長チ			1/2						
		538	壺	19.4				外表面平行タキ。内面底周をナゲ出す。	10Y4/1 灰	密	粗	細	5.0	赤	外表面自然點。	硬	1/5						
土器	SK22	539	杯	15.0			△		7.5Y7/6 灰	やや粗	少	粗	1.0	手赤			1/12						
		540	杯B		11.4				7.5Y7/4 にぶい橙	やや密	少	粗	細	手赤		軟	底 1/7						
		541		19.2				内底ミガキ。	5Y8/6橙	やや粗	少	粗	細	手赤			1/13						
	+	542	皿AⅢ	16.5	2.1	12.0	△	10Y6/3 にぶい黄澄	密	やや多	粗	1.0	手赤		軟	1/4							
		543	皿AⅠ	18.7		16.0		5Y7/1灰白	重	粗	細	1.0	チ		軟	1/14							
	+	544	皿AⅠ	19.5		16.3	△	7.5Y8/1 灰白	並	やや多	粗	細	チ黒		軟	1/10							
		545	皿AⅠ			15.6		3.5Y7/2 灰青	やや粗	多	0.5	1.0	英長チ	I	やや軟 底 1/3								
	+	546	皿A			18.3	△	5Y7/1灰白	やや粗	粗	細	4.0	チ黒		軟	底 1/2							
		547	杯A		6.9			5Y6/1灰	重	粗	細	0.6	手黒		軟	底 1/5							
土器	+	548	欠蓋																				
		549	杯A		9.2			外底ヘラ切未調整。	10Y7/1 灰白	並	並	細	細	手黒	底部が円盤状に削制。	底 3/4							
	+	550	杯AⅣ	14.8	4.0	10.8	△	口縁部に強い凹輪ナデ。 外底ナデ。	5Y5/1灰	並	多	粗	2.0	チ	口縫外表面暗。軟	1/4 街							
		551	杯BⅡ	12.8					2.5Y6/2 灰黃	やや粗	少	粗	2.0	英チ	I		1/5						
	+	552	杯BⅡ	14.0			△	内面凹輪ナデ風。	5Y7/1灰白	やや粗	多	0.5	1.5	英長チ	I	底 1/8							
		553	杯B		8.4				2.5Y8/3 灰白	やや粗	少	細	0.5	手黒	I	軟	底 1/5						
	+	554	杯BⅡ		8.8			内外底ナデ。	2.5Y7/1 灰白	重	粗	細	チ黒			底 1/4							
		555	杯BⅢ		8.7			内外底ナデ。低いが堅美な高台。調整丁寧。	N7/灰白	並	粗	細	英黒		歯土はややガラス化。	底 3/4							
	+	556	杯BⅢ		9.0		△	外底弱いナデ。	10Y6/1灰	密	少	細	0.5	手黒		底 1/3 強							
		557	杯BⅢ		9.0				2.5Y8/1 灰白	やや粗	少	粗	1.0	英	I	軟	底 1/7						

種類	出土地点	博物館番号	器種	法量(cm)			磨耗	手法的特徴	表面色調	地上				備考	焼成	保存率				
				口径	容積	底径				含有物			粒度	量	種類					
										粒度	普通	粗大	種類							
鍋	SK22	558	杯BⅢ		9.4			外底回転ケズリ。	7.5Y7/1 灰白	並	多	細	0.5	美少	I					
	+	559	杯B		9.8	△			5Y7/1Bc白	やや 黒	多	0.5	2.0	高長	I		やや 黒			
	+	560	杯BⅡ		10.1	△			2.5Y7/2 灰黄	やや 黒	並	0.5	0.5	子赤	内面生鏽け。	秋	底 1/2			
	+	561	杯BⅡ		10.2	△			5Y7/1灰白	並	並	細	1.0	子赤		秋	底 1/9			
	+	562	杯BⅠ		12.4			△ 内底極めて丁寧なナダにより平滑。	2.5Y8/2 灰白	並	並	細	3.0	子赤		秋	底 1/1			
	+	563	蓋Ⅱ		13.0			△ 天井外縁へラ切後、外縁の1/3強に回転ケズリ。	5Y7/1灰白	並	並	細	3.2	子黒		秋	1/10			
	+	564	蓋Ⅱ		13.0			外縁の4/5に回転ケズリ。	N7/灰白	並	やや 多	0.5	2.0	高少黒	I		1/8			
	+	565	蓋Ⅱ		13.0			内面回転筋に擦痕。	2.5Y7/1 灰白	粗	多	0.5	1.0	美少		硬	1/8			
	+	566	蓋Ⅱ		13.0		×	天井外縁回転ケズリ。	2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	1.0	子		秋	1/5			
	+	567	蓋Ⅱ		13.5	2.5		天井内外面ナダ。	N7/灰白	並	やや 多	0.5	5.0	長黒少		半光				
	+	568	蓋Ⅱ		13.3			外縁の3/4に回転ケズリ。	5Y6/灰	並	並	細	0.5	1.8	子黒		内 のみ 黒	1/5		
	+	569	蓋Ⅱ		13.3	2.6		天井内外筋土粗供。外 縁の1/3に回転ケズリ。	2.5Y6/1灰 灰白	やや 黒	並	0.5	4.0	子黒		半光				
	+	570	蓋Ⅱ		13.4		×		2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	2.0	子赤		粗	1/8			
	+	571	蓋Ⅱ		13.6		△	天井外縁へラ切後、 2/3に回転ケズリ。天 井内面ナダ。	5Y7/1灰白	並	並	細	1.4	子黒		やや 黒	1/7			
	+	572	蓋Ⅱ		13.6		△		2.5Y7/1 灰白	並	並	細	1.2	長子黒			1/8 少			
	+	573	蓋Ⅱ		13.7			天井外縁へラ切後、回 転ケズリ。	2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	1.5	子		秋	1/7			
	+	574	蓋Ⅱ		14.0				2.5Y8/2 灰白	並	並	細	1.4	子	内面中央のみ 内筋に暗色。	秋	1/2			
	+	575	蓋Ⅱ		14.5			外縁1/2及び内面に 回転ケズリ。	N8/灰	並	度	細	0.8	長英灰			1/2			
	+	576	蓋Ⅱ		14.8	1.5		天井外縁へラ切後。	N8/灰	並	並	細	1.5	子黒			1/6			
	+	577	蓋		15.6			外縁の1/2に回転ケズ リ。天井内面ナダ。	N7/灰白	並	並	細	1.2	子黒	内面若干の開 気。		1/4			
	+	578	蓋		15.8		△		2.5Y6/1 灰黄	並	並	細	1.0	子黒		やや 黒	1/9			
	+	579	蓋Ⅱ		16.8			大井筋、外縁回転ケズ リ、内面ナダ。	N7/灰白	やや 黒	並	細	0.6	長英少			1/9			
	+	580	蓋		19.0		△		7.5Y8/1 灰白	粗	多	0.6	1.0	美少黒	I	秋	1/10			
	+	581	蓋Ⅰ		20.9			外縁の2/3に回転ケズ リ。天井内面平滑。	2.5Y7/2 灰黄	並	並	細	1.0	子黒		やや 黒 に 天井 内面	1/9			
	+	582	蓋Ⅰ		21.0			外縁の3/4に回転ケズ リ。	2.5Y8/2 灰白	並	やや 多	細	1.0	子赤		秋	1/5			
	+	583	蓋Ⅰ		21.0		△	外縁の3/4に回転ケズ リ。内面回転筋、中央 筋ナダ。	N8/灰	並	多	0.5	2.1	美長少	I 一部筋土が青 る。		1/9			
	+	584	蓋		23.0			△ 大井外縁回転ケズリ。	5Y7/1Bc白	やや 黒	多	0.5	1.4	美少	I		1/14			
	+	585	蓋		23.6			△ 内面回転筋回転ケズリ。	5Y7/1Bc白	やや 黒	多	0.4	0.8	美子黒	I	やや 黒	1/9			
	+	586	蓋		25.4		×		2.5Y7/2 灰黄	並	やや 多	0.5	2.0	美少		秋	1/9			
	+	587	蓋		28.4		×		5Y7/2灰白	並	多	0.6	3.5	美少	I	秋	1/7			
	+	588	蓋					火外表面回転ケズリ。 内面回転筋、中央 筋ナダ。	2.5Y7/1 灰白	並	多	0.5	1.5	子	外縁若干自然 な變色。	やや 黒				
	+	589	蓋				△	天井、外縁回転ケズリ。 内面ナダにより平ら。	5Y7/1Bc白	並	やや 多	0.6	2.0	美少	I	秋				
	+	590	蓋							天井、外縁回転ケズリ。 内面ナダにより平ら。	2.5Y6/1 灰白	並	やや 多	0.4	1.2	美少	内面中央へラ 化記号。	やや 黒		
	+	591	蓋		13.4											硬	1/10			

種類	出土地点	標目番号	種類	法量(m)			断面	手法的特徴	表面色調	地土						備考	地式	生存率						
				口径	管高	底径				古物			層	初度	普通	重大	種類							
										星	△	少												
須恵器	SK22	592	高杯				△		2,5Y8/3 淡黄	密	やや 少						歌							
	~	593	高杯		11.0	△			2,5Y8/1 灰白	粗	多	0.5	2.1	英子	I		やや 底 1/8							
	~	594	鉢	27.0				内面及び縁部、整美 な仕上げ。	5Y6/1灰	並	並	細	2.0	チ黒				1/8						
	~	595	壺	4.4					N6/灰	並	並	0.5	1.0	長子			頭 2/3							
土師器	~	600	甕	29.2			△	上側部外裏、口縁部内 面に粗いハケ痕。	7,5YR7/4 にぶい焼	並	多	0.7	4.0	チ(内 角)赤 ガ	I'		頭 1/7							
	~	601	甕	27.2			×	上側部、口縁部内面に粗 いハケ痕。	5Y6/4 灰	やや 粗	多	0.5	2.0	チ(角) 赤 ガ	I'	口縁内面赤変。	頭 1/7							
	~	602	甕	22.2				上側部外裏、瓶底内面 に非常に粗いハケ痕。 口縁部内面から頸 部外縁まで横ナリ。	7,5YR5/4 にぶい焼	粗	多	細	1.0	英長子 金雲	II	投入品。	頭 1/7							
	~	603	甕	24.2			△		5Y7/2灰白	並	多	細	1.5	チ			歌 1/15							
須恵器	~	604	甕				△	外腹タタキ、内腹同心 円当具輪を有す。	5Y8/1灰白	並	並	細	0.6	チ黒			歌							
	SK27	605	皿A	17.6					全面達模ミガキ。	BYR6/6橙	密	やや 少	細	0.7	チ赤ガ			1/15						
	~	606	皿B		18.0			内弧、中心からほぼ拡 散射状と馬蹄に沿う新規 ミガキ。	5YR7/6橙	並	並	細	1.1	チ赤ガ		表面10YR7/3a	底 1/5							
	~	607	杯	10.0			△	唇部ナラズ、端部の粗 い連続ミガキ。	7,5YR8/6 黄橙	並	並	細	1.2	チ赤ガ			1/7							
土	上層	608	杯A/N		5.5	△	△	全面ミガキ、体部連續 ミガキ。	7,5YR8/4 黄橙	並	並	細	1.0	チ赤ガ			頭 1/1							
	下層	609		15.8			外腹 △	内弧、唇部ナラズ、粗 い連続ミガキ。	7,5YR8/6 橙	並	粗	細	チ赤ガ				1/9							
	上層	610	杯A		10.5	△		内腹ミガキ認む。	SYR6/4橙	並	粗	細	1.2	チ赤ガ		化粧土か(一 部削離)。基 準10YR5/4a	底 1/5							
	下層	611	杯A		8.4			体部、軽い連続ミガキ、 外底ハラボ底。	7,5YR7/6 黄	並	粗	細	1.3	チ赤ガ			底 1/8							
井	上層	612	甕		6.8	×		外底ハラボ底。外腹擦 痕。	10YR7/4 にぶい黄橙	やや 重	多	粗	1.0	チ赤ガ			底 1/3							
	下層	613	杯B		8.8	△		内底ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	並	粗	細	チ赤ガ				底 1/8							
	下層	614	杯B	17.4				体部外側削除ミガキ、 内底ハラボ底残る。	5YR7/6橙	密	並	粗	1.0	チ全赤 赤		投入品。	1/9							
	上層	615	杯B	20.2	6.9	11.4	×	体部外腹、回転ナラ後 ミガキ。	7,5YR7/6 橙	並	並	細	0.5	2.7	チ赤ガ		底 1/3							
器	下層	616	杯B		13.4			内底削除し押圧痕、 内底盛かにヒビ痕ある。	2,5YR6/6 橙	密	並	細	0.7	チ全赤 赤		投入品。	底 1/6							
	上層	617	甕	17.1			△	内外ミガキ。	2,5YR6/6 橙	並	粗	細	チ赤ガ				1/15							
	上層	618	甕				△		2,5YR6/6 橙	並	粗	細	1.2	チ赤ガ										
	下層	619	高杯	20.2			△	杯部内外幅法の連續ミ ガキ。	7,5YR7/6 橙	並	やや 多	細	1.0	チ赤ガ			1/8							
須	上層	620	高杯		18.3			體部ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	並	細	1.0	チ赤ガ			1/8							
	上層	621	高杯A				△	體部外周剥落り。	10YR7/4 にぶい黄橙	密	並	細	チ赤ガ											
	上層	622	高杯A					體部外周上方へのケズ 内壁ナリ。	10YR7/4 にぶい黄橙	やや 密	並	細	2.5	チ赤ガ										
	上層	623	皿A E	15.9	7.2	15.0		内底剥離ナデ底黒瀬。	SYR6/1灰	密	0.4	4.0	チ黒		口縁外側のみ 焼成良好。	やや 歌	1/3							
須	上層	624	皿A E	16.0				外底ナダ。口縫は一度 剥離して焼く。體部内 面に弱い沈線。	N6/灰	並	粗	1.0	チ黒				1/11							
	上層	625	皿A E	16.7	1.9	14.2	△		9Y7/2灰白	並	やや 多	細	1.0	チ赤			歌	1/8						
	下層	626	杯A II	13.3	3.7	8.4	×	外底ハラ削痕。	5Y8/1灰白	やや 粗	多	細	3.0	チ			半完							
	下層	627	杯A	14.4	3.0	9.5	×		5Y8/1灰白	やや 粗	並	細	1.9	チ黒			底 1/9							
須	上層	628	杯A II		8.2				10YR7/3 にぶい黄橙	密	並	粗	0.4	1.0	チ赤		体部は鈍化色。	底 1/6						
	下層	629	杯B II		10.0	△			10YR6/2灰 黄	粗	多	粗	0.4	1.0	チ赤			底 1/5						
	上層	630	甕					内底、周縁部推張、天 井ナダ。滑らか。	N6/灰	密	少	細	1.1	チ黒		外壁焼灰。	天井 2/3							

種 類	南土地点	標因 番号	器種	法 量(cm)			透光	手法的特徴	表面 色調	地 土 含有物質				考 察	地成 分	残存 率		
				口徑	器高	底径				粒度	容積	透水性	種類					
砂	SK27	上層	631						7.5YR7/6 橙	やや 粗	多	1.0	3.5	粉泥		口跡片		
砂	SK28		633	ⅢA I	18.8		X		5Y7/2灰白 土	粗	多	細	細	少黒		軟	1/9	
砂	*		634	ⅢA I	18.9	2.6	16.2	X	外底へラ切傾。	7.5Y7/1 灰白	やや 粗	粗	1.1	少黒		軟	半完	
砂	*		635	ⅢA II			8.8	X	7.5Y6/1灰 土	粗	多	細	1.0	少赤		軟	1/3	
砂	*		636	ⅢA II	14.6	4.5		X	5Y7/2灰白 土	粗	やや 多	細	1.0	チ	口縁外側のみ 黒化色付。	軟	1/4	
砂	*		637	ⅢB	12.7			X	2.5Y8/2 灰白	粗	粗	0.4	1.5	少赤		軟	1/9	
砂	*		638	ⅢB	13.2			X	2.5Y4/3 灰灰	粗	粗	2.0	少赤		口縁部外側が 黒化色。		1/4	
砂	*		639	ⅢB	15.4			△	5Y8/2灰白 土	粗	やや 多	0.4	1.1	チ		軟	1/4	
砂	*		640	ⅢB IV	10.2	4.0	7.6		内外底ナデ。各調整は 丁寧で、仕上がりは整 美。	N7/4灰白 土	やや 粗	多	細	1.0	少黒	外面の一部に 黒斑。	半完	
砂	*		641	ⅢB I	17.8	5.8	13.0	X		5Y8/2灰白 土	やや 粗	多	細	1.5	少チ黒	I	軟	1/2
砂	*		642	ⅢB II	12.8			△	外面の2/3に凹輪ケズ リ。内底部部板板。	5Y7/1灰白 土	やや 粗	多	細	1.3	英子黒	I	軟	1/5
砂	*		643	ⅢB III	12.0	1.4			外面の2/3に凹輪ケズ リ。内底内面ナダ。滑 らか。	368灰 土	粗	粗	1.0	英子黒		半完		
砂	*		644	ⅢB III	14.3	3.2			内面凹輪ナダ、突井 内底ナダ、内底平滑。	7.5Y6/1灰 土	粗	粗	1.0	少黒			1/2	
砂	*		645	ⅢC	16.0					N7/4灰白 土	粗	多	細	2.0	英子	外底黒斑。	硬	1/8
砂	*		646		7.2				口縁内底压痕。	2.5Y8/2 灰白	やや 粗	多	1.0	3.5	少鈍 (円角)			1/4
砂	*		647		8.0					5Y5/1灰 土	やや 粗	多	0.8	3.0	少鈍 (円角)	外底変色。		1/6
砂	*		648		8.1				内面に厚より16mm下 に凹。	2.5Y7/4 灰白	やや 粗	多	1.5	4.5	少鈍 (円角)			1/5
砂	*		649		8.0				口縁端より16mm以下は 内面平滑。	2.5Y7/2 灰白	粗	多	1.0	4.0	少鈍 (円角)	内底に植物繊 維痕。		1/7
砂	*		650		8.2					7.5Y6/1灰 土	粗	多	1.0	4.0	少鈍 (円角)			1/6
砂	*		651		8.3					10YR8/3 淡黄褐	やや 粗	多	1.0	2.5	少鈍赤	外底スケ。		1/7
砂	*		652		8.1				内面压痕。	10YR7/3 に近い黄 土	やや 粗	多	0.9	3.5	少鈍 (円角)			1/6
砂	*		653		8.4				内底、薄底压痕、口縁 端より16mm以下は平滑。	2.5Y8/2 灰白	粗	多	0.8	4.0	少鈍 (円角)			1/7
砂	*		654		9.2				内面布目。	7.5YR6/4 に近い粗	粗	多	1.0	12.0	少鈍 (円角)	外底変色。		1/4
砂	*		655		9.4				内面压痕、外底織縫痕。	2.5Y7/2 灰白	やや 粗	多	1.2	3.0	少鈍 (円角)			1/5
砂	*		656		9.5				内面布目。	10YR7/3 に近い黄 土	粗	多	0.7	3.5	少鈍 (円角)	外底黒斑。		1/5
砂	*		657		10.5					10YR8/4 淡黄褐	やや 粗	多	1.0	2.5	少鈍 (円角)			1/9
砂	*		658		10.8					10YR8/3 淡黄褐	やや 粗	多	1.2	3.2	少鈍 (円角)	外底一部変色。		1/6
砂	*		659		11.2				内面布目。	10YR8/3 淡黄褐	やや 粗	多	0.5	3.5	少鈍 (円角)	外底変色あり。		1/5
砂	*		660		11.5				内面压痕、口縁端より 16mm以下は平滑。	2.5Y7/3 灰白	粗	多	0.9	4.0	少鈍赤 ガ			1/8
砂	*		661		15.2				接合痕。	10YR7/6 明黄褐	粗	多	0.7	4.0	少鈍 (円角) 赤ガ	外底一部赤斑。		1/8
土	*		662	ⅢC	17.1				内外、粗目のハケ。	7.5YR4/3 褐	やや 粗	多	1.0	7.0	英子	外底、赤変、 一括スケ。内面 糊膜黑色付着物。	硬	1/11

種類	出土地点	標区番号	鉢種	法量(cm)			断続	手法的特徴	表面色調	粘 土				備考	焼成	焼成率		
				口径	容積	底径				底地	高さ	密度	普通	最大	種類			
土器群	SK28	663	裏	22.7				口縁内面施目のハケ。	SYR5/6 刷毛刷	並	多	0.5	1.5	英チナ	II		硬	1/21
	SK29	665	床					内黒。内面ミガキ。	10YR6/3 に2.5YR6/2	やや 密	並	細	細	チナ	子金露 閃赤	微入品	硬	断片
	*	*	666	皿A	16.8	1.8	14.0	△ 内外通焼きガキ。	2.5YR7/6 刷	並	細	細	1.0	赤チ			硬	1/20
	*	*	667	杯				△ 内外同軸ナマ後、内面 通焼きガキ。	10YR6/3 に2.5YR6/2	やや 密	並	細	細	チナ			硬	断片
	*	*	668	皿					7.5YR6/3 に2.5YR6/2	並	やや 少	細	細	長チナ			やや 硬	断片
	*	*	669	杯AⅣ	9.6	3.3	6.5		2.5YR7/4 汎黄	並	やや 多	細	細	長チナ			やや 硬	断片
	*	*	670				10.5	×	2.5YR7/2 汎黄	密	並	細	細	赤チ			軟	1/8
	*	*	671	蓋				△	2.5YR7/3 汎黄	密	やや 少	細	細	赤チ			軟	断片
	*	*	672	蓋	16.9	4.8			SYR7/1灰白	並	並	細	1.0	チナ		外茎底灰。		半完
	SK30	675	皿A	15.8		12.8		全面内面、同心円状真 面をナメ消す、調節部 凹凸を削り、外縁に接 合痕。	2.5YR7/8 明褐色	並	並	細	細	チナ		表地10YR8/4,		1/3
車	*	676	皿A I	18.4	2.1	16.1	△	全面赤茶。回転ナマ。 作型外輪、密な通焼き ガキ。内外同軸ナマ後、 内面通焼きナマ後、外 縁部又は内縁部ナマ後、 ヘア切痕。	2.5YR6/8 刷	密	並	細	1.2	英チナ		一混斑。 表地10YR8/3,		半完
	*	677	皿A II	17.7	2.7	15.1	△	全面ミガキ。体部凹凸 ナマ後、油焼ミガキ。	SYR7/6刷	並	並	細	1.5	チ赤		表地10YR7/4,		半完
	*	678	皿A E	16.8	2.3	14.6	△	全面通焼きガキ。内底 中央突起焼きガキ。	7.5YR7/6 刷	並	細	1.1	チナ		表地2.5YB/3,		完	
	*	679	皿A E	16.7	2.3	14.0	×	全面ミガキ。体部凹凸 ミガキ。外底へ2周底 輪。	7.5YR7/6 刷	やや 密	多	細	2.0	チ赤ガ				1/3
	*	680	皿A E	17.0	3.0	14.7	△	體表は平滑で、ミナ シと思われる。外底へ4周 底輪のうち直面残。	SYR6/8刷	密	並	細	2.0	チ赤ガ		螺旋状の粒土 積合部で削痕。		半完
	*	681	皿A E	18.0	2.3	15.1	×	体部凹凸ナマ後、内面 通焼きミガキ。外底平行往 復。	SYR7/6刷	並	並	細	チガ		表地は外底と 内面化粧。断面 2.5YB/3,		硬	1/4
	*	682	皿A E	17.7	2.9	14.0	△	全面ミガキ。体部凹凸 ナマ後、強い通焼きミ ガキ。外底へ1周、粘土 積合部。	7.5YR7/6 刷	並	多	細	2.0	チ赤ガ				1/3
	*	683	皿A E	17.2	2.7	15.5	△	全面化粧(又は赤移)。 面輪ナマ後、外底へ切 痕、全面ミガキ。	SYR6/6刷	並	並	細	チ赤		表地2.5YB/3. 部分的に外底 上部と内面 の隙間に含 む。			完
	*	684	皿A E	16.9	2.3	14.5	×		2.5YR5/6 明褐色	表	やや 多	細	1.5	チ赤ガ		化粧土(石墨 のついた表面) 積合部が残る。 表地 7.5YR7/6,		半完
部	*	685	杯A II	13.5	3.0	8.8	△	全面ミガキ。	7.5YR7/4 に2.5YR6/2	並	並	細	2.0	チ赤		やや 硬	1/4	
	*	686	杯A II	14.0	3.3	9.0	△	体部内外部、通焼きミ ガキ。	SYR6/6刷	並	並	細	4.0	チガ		器表の模様化 化。		1/3
	*	687	杯A II	15.1	3.7	10.2	△	全面ミガキ。体部ナ マ後、内底通焼きミガキ。 外底僅かヘラ切痕残 す。	SYR6/6刷	並	やや 多	細	1.2	チ赤				完
	*	688	杯A I	17.0	3.6	13.7	△	全面ミガキ。体部、内 底均通焼きミガキ。	SYR6/6刷	表	やや 少	細	0.5	1.6	チ赤			1/11
	*	689	杯A	16.0	3.3	12.2	△	体部凹凸ナマ後、 内底、積合部に詳 ひ。	10YR8/4 に2.5YR6/2	表	やや 少	0.5	3.0	チ赤	赤斑。黒斑。 漆皮。	硬	半完	
	*	690		16.0			△	新部内外、通焼きミガキ。 新部底、切痕。	7.5YR6/4 に2.5YR6/2	並	0.5	2.5	チ赤ガ		新接合部より 剥離。		1/3	
	*	691	高杯B				×	新部内面ミガキ。若干 ナマ目。	7.5YR6/6 刷	表	0.5	4.0	チ赤			やや 軟		
	*	692	蓋	19.0	3.1		×	内底通焼きミガキ。	10YR7/4 に2.5YR6/2	表	並	細	2.9	チ赤	剥離顯著。黑 色、赤色の安 色跡あり。		1/3	
	*	693	高杯B	20.9			△	新部内面ミガキ。脚部 シボリ目。	10YR8/4 汎黄褐	表	並	細	2.5	チ赤ガ			1/10	

種類	調査地点	標高 m	基盤	法量 (cm)		発育 段階	手法的特徴	表面 色調	地表土 含有物				備考	形成 過程	残存率	
				口植	密植				度	量	表面 粗さ	種類	形			
				密植	基底				度	表面 粗さ	表面 粗さ	表面 粗さ	形			
植生	SK30 中層	694	泥AⅢ	13.6	2.0	11.8	内底面切底、外底ナデ、平行压痕。	N6/灰	直	やや 多	0.5	3.0	長チ黒	内外火燐。	硬	1/5
	*	695	泥AⅢ	14.5	2.2	11.2	×	SY8/灰白	直	やや 少	0.6	3.5	チホ		軟	完
	*	696	泥AⅢ	14.6	2.1	12.5	外底ヘラ切底、平行压痕、底面ナデ。	N4/灰	直	少	0.8	長チ	長チ	内外火燐。	硬	半完
	*	697	泥AⅢ	14.7	2.2	12.6	×	7.5Y7/1 灰白	直	直	細	2.0	長チ	底部中塊褐色。	軟	1/2
	*	698	泥AⅢ	14.2	1.9	12.5	体部内面軸横ケハ状痕、内底ナデ。外底ヘラ切底→平行压痕。	N6/灰	直	直	細	1.7	長黒			半完
	*	699	泥AⅡ	16.0	2.0	13.8	外底ヘラ切底。	7.5Y8/1灰	やや 粗	多	0.7	3.5	長チホ		軟	1/2
	*	700	泥AⅡ	15.8	2.1	13.5	△ 内底ナデ。	7.5Y6/1灰	やや 粗	直	細	1.0	長黒	内外火燐。	軟	半完
	*	701	泥AⅡ	15.2	2.5	12.6	外底、ナデ、平行压痕。	N6/灰	直	やや 多	0.5	6.0	長黒			半完
	*	702	泥AⅡ	15.4	2.5	13.0	外底、ヘラ切底、平行压痕、内底ナデ。	N4/灰	直	やや 多	細	2.0	チ	内外火燐。	硬	半完
	*	703	泥AⅡ	16.1	2.5	14.4	内底ナデ。	7.5Y5/1灰	直	やや 多	細	1.2	長チ黒			半完
	*	704	泥AⅡ	16.0	2.0	14.2	×	7.5Y6/1灰	やや 粗	直	細	1.0	長黒	内外火燐。	軟	1/7
	*	705	泥AⅡ	16.2	2.6	14.0	×	SY4/1灰	粗	多	細	1.5	チ	口縁部のみ灰 色。内外火燐。	軟	完
	*	706	泥AⅡ	16.7	2.4	13.5	×	SY7/1灰白	やや 粗	直	細	3.0	チガ	外底火燐。	軟	半完
	*	707	泥AⅢ	17.4	2.7	12.6	×	7.5Y8/1 灰白	粗	やや 多	細	3.0	チ	底部褐色、火 燐帶。	軟	完
	*	708	杯AⅣ	7.9	3.4	4.9	外底ヘラ切後ナデ、平行压痕。	10Y5/1灰	直	多	細	3.0	長チ		硬	半完
	*	709	杯AⅤ	8.6	3.9	5.4	外底中央へラ切木調溝、輪筋ナデが口縁上方向へ凸起する(回転台右回り)。	N6/灰	直	直	細	1.0	子黒	口縁外側のみ 褐色。		1/2
	*	710	杯AⅣ	10.4	3.6	6.6	内底ナデ。	N6/灰	直	やや 少	細	1.2	長チ黒		硬	半完
	*	711	杯AⅣ	10.1	3.5	6.6	内底ナデ、外底中央へラ切木調溝。	V6/灰	直	多	0.5	3.0	長チ	11段外側のみ 褐色。		1/2
	*	712	杯AⅢ	11.6	3.8	8.0	内底ナデ、外底ヘラ切後ナデ。口縁内側に擦合底。	3H6/灰	直	やや 少	細	1.0	黒	口縁周辺外側 のみ褐色。		1/2
	*	713	杯AⅢ	12.2	3.5	8.4	内外底ナデ。	N6/灰	直	少	細	2.5	黒			半完
	*	714	杯AⅢ	12.8	3.8	8.0	×	N6/灰	直	やや 少	細	2.0	黒		下半 のみ 軟	半完
	*	715	杯AⅢ	12.5	4.4	8.5	△ 外底ヘラ切後ナデ。	N6/灰	直	多	細	3.0	長チ黒	口縁外側のみ 褐色。火燐跡。	軟	半完
	*	716	杯AⅢ	12.9	3.6	8.6	底部平坦、外底ヘラ切後丁寧なナデ、平行压痕。	N5/灰	直	多	細	2.0	長チホ	火燐、口縁外 側のみ褐色。	硬	1/3
	*	717	杯AⅢ	12.5	3.5	8.4	△ 外底中央へラ切木調溝。	SY7/1灰白	直	直	細	長黒			軟	半完
	*	718	杯AⅢ	13.0	3.0	8.0	△	7.5Y7/1 灰白	やや 粗	多	細	1.5	子黒		軟	1/1
	*	719	杯AⅢ	12.9	3.4	8.9	△ 外底ヘラ切後ナデ。	SY6/2灰 オリーブ	直	やや 粗	多	0.5	1.1	長チホ	外底火燐。 やや 軟	1/2
	*	720	杯AⅢ	12.6	3.9	8.6	内底ナデ。外底ヘラ切後丁寧なナデ。内底に擦合底。回転ナデが口縁上方に付ける(回転台右回り)。	5Y6/1灰	直	直	直	0.9	黒	口縁のみ褐色。		1/2
	*	721	杯AⅢ	15.6	3.5	9.4	△	7.5Y6/1灰	直	直	0.5	2.0	長黒	母に下半が暗 色。軟質。	軟	1/3
	*	722	杯AⅢ	13.4	4.1	9.0	外底ヘラ切後ナデ。	N6/灰	直	直	直	0.5	長黒	口縁外側のみ 褐色。		1/2
	*	723	杯AⅢ	13.4	3.4	9.0	×	10YR7/3 に近い黄色	やや 多	0.5	2.0	長チホ	下半の濃褐色。	軟	完	
	*	724	杯AⅢ	13.4	3.7	8.0	×	2.5Y7/2 灰黄	直	多	0.5	2.5	チホ	下半はやや濃 光色。	軟	半完
	*	725	杯AⅢ	13.6	3.8	8.5	×	7.5Y7/1 灰白	直	直	0.5	1.0	黒		軟	完
	*	726	杯AⅢ	14.2	3.8	8.8	×	7.5Y6/1灰	直	直	0.5	1.6	黒		軟	半完
	*	727	杯AⅢ	14.2	4.2	7.9	×	10Y6/1灰	直	直	直	1.0	長チホ		軟	半完

種類	出土地点	標目番号	厚積	法 畳 (cm)			腐耗	手筋の特徴	表面色調	地 質			含 有 物			備 考	地成	残存率		
				口径		鉢高				粗	細	粒度	層	量	容積	最大				
		728		杯AⅢ	15.0	8.6	9.7	×		5Y6/1灰	並	並	1.2	黒長チ				軟	1/4	
直 筒 型	*	729	欠番					△		7.5Y6/1灰	粗	多	0.4	5.0	長赤			軟	1/6	
	上層	730	杯	13.0				△									体部上半は生焼け。	軟	1/6	
	*	731	杯BⅤ	10.7	4.5	7.0			NS/灰	密	少	細	1.5	長				やや硬	半完	
	*	732	杯BⅥ				8.8	△	2.5Y7/2 灰黄	並	多	0.6	1.1	チ赤			軟	1/1		
	*	733	杯BⅦ	15.5	7.3	9.2	やや △		5Y6/1灰	やや 粗	多	0.4	2.0	黄茶チ 赤			内面焼け。	半完		
	*	734	杯BⅧ	16.2	6.9	10.4			5Y7/1灰白	やや 粗	多	0.6	3.5	チ黒			特に内面が生焼け。	軟	1/3	
	*	735	杯AⅠ	18.0	4.4	14.6	×		5Y7/1灰	並	少	細	0.9	2.1	灰チ			軟	半完	
	*	736				21.0		×	2.5Y8/2 灰白	並	やや 多	細	1.5	赤茶チ			外側一部剥離。	軟	1/5	
	*	737	蓋目	12.7	2.2				NS/灰白	密	少	細	1.5	黄赤			内面ヘラ記号。	完		
	*	738	蓋三	14.0	2.5				天井外側接合部、ナデ、内面、極めて平滑、墨痕なし、而縫跡凹凸ケズリ。	NS/灰	並	やや 多	0.8	3.0	黒長チ			外側焼け。	半完	
直 筒 器	*	739	蓋	12.4					天井外側ナデ。	7.5Y7/1 灰白	並	幅少	細	細	黒長				1/4	
	*	740	蓋目	14.0					天井外側新しいナデ。内面、周縫跡凹凸ケズリ、他は丁寧なナデ。	NS/灰	密	やや 多	細	2.2	黒子良			内外で是色差。	やや硬	完
	上層	741	蓋三	14.6					内面、周縫跡凹凸ケズリ、他はナデ。	NT/灰白	並	やや 多	0.5	1.7	黒長			外側自然釉。	1/3	
	*	742	蓋三	14.4					外側、ナデ、平行仕削、内面、周縫跡2~3段の凹凸ケズリ、中央部平滑。	10Y5/1灰	並	やや 多	0.4	4.5	長			一部焼化色。	完	
	*	743	蓋目	17.8					天井内面中央は平滑。	NG/灰	密	少	0.5	1.2	長				1/3	
	*	744	蓋三	18.0					7.5Y6/1灰	並	多	細	3.2	長			外側、口縫部5mm以内は明黄色でやや軟質。	やや軟	1/5	
	*	745	高杯	20.0	10.5	12.6	×	脚部内面746と同様か。	2.5Y7/1 灰白	並	やや 多	細	1.2	チ黒				軟	口 1/7 脚充	
	*	746	高杯	21.5	10.1	11.2	×	脚部内面上方横方向ケズリ。	2.5Y7/2 灰黄	並	少	細	1.1	チ赤				軟	半完	
	*	747	躰	23.5	29.2	16.6			外側、下脚部回転ケズリ、底盤、外底新焼けズリ。内底焼け。	5Y5/1灰 灰白	並	多	0.6	4.0	チ			一部軟化。	半完	
	*	748	躰	23.1					口縫、一部内面、胸部外観ハマ、胸部内面、ナデ、接合部。	10Y8/4 にぶい黄橙	粗	多	0.9	6.0	チ黒	1	外側下半、若干干スケ、変形。崩落21.8cm。	やや 硬	1/7	
直 筒 器	*	749		8.6					2.5Y6/2 灰黄	粗	多	0.9	8.0	チ黒			硬	1/7		
	上層	750		9.0				内面布目。	10Y8/4 にぶい黄橙	並	やや 多	1.2	4.5	チ(円) 混			やや 軟	1/6		
	*	751		9.0					10Y8/3 にぶい黄橙	並	少	1.1	7.5	泥砂チ ガ			軟	1/13		
	上層	752		9.0				内面布目。	10Y8/4 にぶい黄橙	粗	多	細	6.5	チ赤			硬	1/6		
	*	753		10.8					10Y8/4 にぶい黄橙	粗	多	1.0	4.0	チ(円) 赤				1/7		
	上層	754		12.0					10Y8/3 にぶい黄橙	粗	多	0.9	3.5	砂チ (円)赤			やや 軟	1/5		
	*	755		12.0					10Y8/2 灰白	粗	多	0.6	6.0	チ赤			硬	1/9		
土 器	*	756		13.2				内面布目。	5Y4/1灰	粗	多	0.7	5.0	赤チ			硬	1/7		
	*	757		13.4					7.5Y8/2/6 縞	やや 粗	多	1.1	10.0	泥チ (円)			口縫外側のみやや磨耗が低く、滑感。	やや 軟	1/5	
	*	759						内面布目、外側、指痕反復。	7.5Y8/4/6 にぶい縞	やや 粗	多	4.5	チ赤泥				硬	断片		

種類	出土地点	埠頭番号	器種	法量(m)		蓄耗	手法的特徴	表面色調	土含有物				参考	測定	残存率			
				口幅	底幅				表面									
				底	底大				粗	細	粗	細						
土器部	SK31	上層	760	杯B		10.0	△		10YR7/3 に似い質相	やや 密	0.5	1.5	チ赤ガ	高台2次熱。	底 1/9			
	SK32	上層	761	甌	22.8			口縁内面粗目地の複数ハケ。 実際外側に、ハケは工具 の先端による規則的 の压痕。	10YR7/4 に似い質相	粗	多	0.7	1.1	チ赤ガ	II	硬	1/16	
土器部	SK33	下層	762	皿A II	16.4	2.8	12.8	×	部外外面にミガキ残る。	7.5YR6/6 粗	やや 密	2.0	チ赤ガ		軟	1/7		
	*	II層	763	杯A I	18.4			×		SYR6/6粗	密	3.0	英長チ 赤ガ		軟	1/8		
土器部	*	上層	764	杯A III	13.6	3.3	9.0	×	部外側にミガキ残る。	2.5YR6/6 粗	密	2.0	チ赤ガ		軟	1/2		
	*		765	杯A III	14.2	3.4	9.0	△	圓軸ナデ。外側に粗い ミガキ残る。	10YR7/4 に似い質相	密	1.5	英チ赤 ガ		底 2/3			
器部	*		766	欠片				△										
	*	主要	767	皿				内外赤系。内面、粗い ミガキ残る。	SYR6/6粗	密	0.6	英チ赤 ガ	I	壇地10YR8/2a	硬 断片			
器部	*		768					圓軸ナデ。粗い連続ミ ガキ。	SYR6/6粗	密	0.9	チ赤ガ		硬	断片			
	*		769	高杯		16.9	×		7.5YR6/6 粗	密	4.0	チ赤ガ 凹		硬	粗 1/3			
器部	*		770	高杯B				△ 背外側連続ナデ。杯底 内面粗目地ミガキ。	SYR6/6粗	密	5.0	長チ赤 ガ						
	*		771	皿A	14.2	1.5	11.5		2.5Y7/1 灰白	密	0.8	長			1/14			
器部	*		772	皿A III	14.4	1.7	11.4		外底ナデ。	N5/灰	多	1.1	長黒			1/4		
	*		773	皿A II	15.4	2.6	11.6	△		SYT/1灰白	密	1.5	長黒		軟	1/3		
器部	*		774	皿A II	15.0	2.4			2.5Y7/1 灰白	密	0.8	英黒チ			1/8			
	*		775	杯A III	12.9	3.4	9.0	△		7.5Y7/1 灰白	密	3.0	長黒	外底火輝。	底 1/4			
器部	*	上層	776	杯A III	13.4	3.3	8.2		内外底ナデ。	SY5/1灰	密	1.0	長黒		底 1/8			
	*		777	杯A III	12.8	4.3	8.0	×		2.5Y7/1 灰白	密	3.0	長	底部のみ暗色。	底 1/4			
器部	*		778	杯	13.6			×	7.5Y7/6 粗	密	1.2	長チ赤		軟	1/9			
	*		779	杯A		8.0		外底ナデ。	N5/灰	多	2.0	長黒	内外火輝。	底 2/3				
器部	*	II層	780	杯A III		8.5	×	内底断続ハケ痕。	10YR8/2 灰白	粗	多	長赤方		軟	底 1/5			
	*		781	杯B III		7.4		内外底ナデ。	N5/灰	密	1.0	長		硬	底 1/3			
器部	*		782	杯B II		10.4		内外底ナデ。	SY5/1灰	密	5.5	長チ		硬	底 1/3			
	*		783	杯B II	16.1	6.3	10.8		体壁回転ナデ底割離、 内底ハケ目をナデす。	2.5Y7/1 灰白	多	0.8	英長黒	外底ナデ記号。	底 1/2			
器部	*	II層	784	甌	14.0				2.5Y7/1 灰白	密	1.2	長英	外底降圧。	やや 軟	1/5			
	*		785	甌	17.6				N5/灰	密	7.0	長チ			1/2			
器部	*		786	甌 B	17.7			外底の凹凸と、内面周 縁部に回転ケツ。	N7/灰白	やや 密	多	7.0			1/5			
	*		787					内面布目。	7.5YR7/4 に似い粗	密	1.0	6.0	英(内) 赤チガ	外底一路スス ケ。	硬 断片			
器部	*		788	甌				外側、大目的平行タク タ。内面、道具底表調 整。	N7/灰白	密	3.0	底	外固自然輪。	硬 被片				
	*		789	甌				内面、同心円凸具撇を ナデす。	N5/灰	密	0.9	長黒		硬 被片				
土器部	*		790	甌			△		10YR8/4 淡黄褐	密	1.5	6.0	チ 砂	I	断片			
	*		791	甌					7.5YR6/6 粗	密	1.5	チ赤ガ		軟	1/9			
土器部	SK34	上層	794	皿A III	13.6	1.4	9.0	×		10YR8/6 密	極少	1.5	チ赤ガ		軟	1/9		
	*	II層	795			8.0	△	全面ミガキ。	10Y7/4 に似い質相	密	0.8	チ赤ガ		底 1/9				
土器部	*	II層	796	杯A	14.8	2.3	11.6		全面暗部の連続ミガキ。	SYR6/6粗	密	0.8	チ赤ガ	底中央が黒 色化。	底 1/5			
	*	II層	797	皿A	18.0	2.3	15.4	×		SYR7/6粗	密	0.6	チ長赤 ガ		軟	1/16		

種類	出土地点	辨認番号	器種	法量(cm)			断続	手法の特徴	表面色調	胎土				備考	焼成	保存率					
				口径	身高	底径				含有的物			量	粒度	容積	種類					
										量	容積	最大									
土器類	SK34	瓦層	798	直A			13.6		内底擦綫、外底擦綫ミガキ。	7.5YR6/6 板	灰	亞	細	類	長子赤ガ	内底牛糞が黒化。	硬	底 1/5			
	+	瓦層	799	直A	19.5	2.3	14.4	×	体部内外、連続ミガキ。	5YR6/6 板	やや 青	並	細	3.0	長子赤ガ				1/8		
	+	上層	800	直A	21.4			△	内外連続ミガキ。	5YR6/6 板	並	細	2.0	チ赤ガ			軟	底 1/9			
	+	瓦層	801					△		5YR6/6 板	やや 青	並	細	0.9	英子赤			硬	断片		
黑色陶器	+	上層	802	杯				×		7.5YR6/4 にぶい積	並	並	細	0.5	白、金 器美長	内面黒色。搬入品。			断片		
	+	瓦層	803	杯AⅡ	8.5	3.6	5.7	×		5YR7/6 板	並	並	細	4.0	チ赤ガ			軟	2/3		
	+	瓦層	804	杯AⅢ			5.7	△		7.5YR6/4 にぶい積	やや 青	並	細	1.0	英助ガ	子	黒斑。	底 2/3			
	+	下層	805	杯A			6.7	×	圓軸ナガ跡有。	7.5YR7/6 板	並	やや 少	細	1.0	チガ			軟	底 1/4 弱		
	+	瓦層	806		11.4			△		7.5YR8/6 板	密	並	細	1.2	チ赤ガ			軟	1/8 強		
	+	807	杯AⅡ	12.8	2.6	8.8	△		圓軸ナダ。ミガキ痕認めず。	10YR7/6 板	密	多	粗	1.5	英長チ ガ			今や 硬	底 1/4		
	+	808	杯AⅢ	14.2	3.3	9.0	×	×	台面くぎ穴。内底擦綫ミガキ。内底中央斜削。	5YR6/6 板	密	やや 少	粗	1.5	英子赤ガ			軟	1/3		
	+	809	杯AⅢ	14.2	3.6	9.2	×	内面ミガキ残。	7.5YR7/6 板	密	並	細	1.2	チ赤ガ			軟	底 1/4			
	+	X層	810	杯AⅢ	14.0			△		10YR7/4 にぶい黄褐	並	並	粗	1.0	チ赤ガ				1/8		
	+	811	杯AⅢ	14.5	3.7	9.0	△	体部内面ミガキ。外側擦綫ミガキ。	10YR8/4 板	並	並	細	チ赤ガ					1/7			
器	+	瓦層	812	杯A		8.5	外側△			5YR7/6 板	やや 青	並	細	1.6	チ赤ガ			底 1/4			
	+	X層	813	杯A		9.5	△			10YR7/4 にぶい黄褐	やや 青	並	細	2.5	チガ			やや 硬	底 1/1		
	+	瓦層	814	杯A		8.5			全面ミガキ。	7.5YR7/4 にぶい積	密	少	細	長子赤ガ			硬	底 1/4			
	+	瓦層	815	杯A		10.4	×			5YR7/6 板	密	並	細	3.0	チ赤ガ			軟	底 1/4		
	+	瓦層	816	杯B		6.5	△			5YR5/6 引赤褐	密	並	細	3.5	チ赤ガ			底 1/8			
	+	瓦層	817	杯B		9.0	×			7.5YR5/6 板	並	並	細	1.2	チ赤ガ			軟	底 1/8		
	+	818	壺				△			7.5YR7/6 板	密	並	細	チ赤ガ				硬			
	+	瓦層	819	壺					内側ミガキ。	10YR7/4 にぶい黄褐	密	並	細	チ赤ガ				断片			
	+	瓦層	820	壺					外側分割ミガキ。内面連続ナダ。	5YR6/6 板	並	並	細	0.9	全・白 露長手赤	搬入品。		硬	断片		
	+	821	壺		17.4			×		7.5YR8/6 板	密	並	細	2.5	美花チ 赤				1/7		
灰	+	822	高杯B					×		5YR6/6 板	密	密	粗	5.0	英子赤ガ						
	+	823	高杯A					×	内面側いシボリ目。	7.5YR6/6 板	密	並	細	1.3	英長チ ガ						
	+	瓦層	824	直AⅢ	13.6	1.9	10.4		内外擦ナダ。外側の一削り取り。	7.5YR1灰	並	多	粗	2.0	長子黒			1/4 強			
	+	瓦層	825	直AⅢ	15.0	1.9	10.2	△		7.5YR6/6 板	やや 多	少	細	2.0	赤長美 チ	漆黒露光色。	軟	牛糞			
	+	瓦層	826	直AⅢ	16.3	1.9	13.2		内面同心凹凸具模。外 擦ナダ。	5YR6/灰	並	やや 少	細	0.6	2.0	長黒			1/11		
	+	瓦層	827	直A	16.1	1.8	12.8			5YR6/6 板	並	やや 少	細	2.0	長黒	内外火拂。口 縁外側が暗色。	硬	1/8			
	+	828	直A	17.3	2.2	13.5	△			5YR6/灰	並	多	細	2.5	長黒			軟	底 1/4		
	+	上層	829	直A	17.3	1.7	14.9	×		5YR1灰白	並	並	細	0.6	長英赤	口縁内面と外 面は暗色化。	軟	底 1/5			
器	+	瓦層	830	直A	19.0			△		5YR5/2灰白	並	並	細	3.0	長英チ 赤			軟	1/13		
	+	831	杯AⅣ			6.0			外底周縁部ナダ。	NE灰 やや 少	細	2.0	長子黒		内外火拂。	硬	底 1/3				
	+	832	杯AⅣ	10.0	3.2	6.6	×			5YR1灰白	並	少	0.4	1.0	長英チ 赤			軟	1/7		
	+	瓦層	833	杯AⅣ	11.9	3.3	7.5		外側に、底部と体部の 接合部。	2.5YR1 黄灰	やや 少	細	2.0	長子赤			やや 軟	1/4			

種類	出土地点	辨別番号	器種	法量(cm)			磨耗	手法的特徴	表面色調	胎土				備考	焼成	保存率						
										含有鉱物												
				口径	肩高	底径				量	鉄質	種類										
灰陶	SX34 須崎	834	杯AⅢ	12.1	5.5	8.6		内外底比較的丁寧なナダ。	オリーブ灰	密	赤	粗	1.0	長黒	透みあり。外底酸化。	2/3						
	*	835	杯AⅢ	12.6	3.6	7.9		外底ナダ。	N6/灰	密	赤	粗	5.0	長子黒	口縁部は暗色。	底 1/2 皮のみ残						
	*	836	杯AⅢ	13.0	3.8	8.5		外底は丁寧なナダ。	7.5Y6/1灰	赤	やや多	0.4	2.0	長子黒	口縁部は暗色。	1/7						
	*	837	杯AⅢ	13.0	3.2	8.8	△		SY7/1灰白	赤	多	細	0.9	長子赤	口縁部は酸化色。	軟 1/4 底						
	*	838	杯AⅡ	13.8	3.5	9.5	×		SY7/1灰白	やや多	多	細	2.0	英長黒		軟 1/2						
	*	839	杯	15.2					SY5/1灰	赤	やや多	細	1.0	長子黒	口縁部のみ暗色。	1/8						
	*	840	杯AⅡ			8.6	×	外底へラ切痕明瞭。	7.5Y6/1灰	赤	やや多	細	4.0	被子黒		軟 底 1/1						
	*	841	杯AⅡ			8.6	×		7.5Y7/1 灰白	赤	少	細	細	長尾ガ	軟 底 1/6							
	*	842	杯AⅡ			8.0		内外底ナダ。外底平行 底鋸。	N6/灰	密	やや少	細	0.6	長尾		底 1/2						
	*	843	杯	15.4			×		7.5Y7/1 灰白	赤	多	細	細	黒長		軟 1/11						
青	*	844	杯BⅢ			8.0			SY7/1灰白	粗	多	細	1.0	英長子	I	底 1/7						
	*	845	杯BⅢ			8.4	△		SY7/1灰白	やや粗	多	細	2.0	英長黒	I	軟 底 1/4 皮						
	*	846	蓋	12.9	2.1			大井内外ナダ。	N7/灰白	やや粗	やや多	纏	4.0	被子赤		1/2						
	*	847	蓋	15.0					N6/灰	赤	粗	細	8.0	長子		1/11						
	*	848	蓋	12.9				天井内面ナダ。	7.5Y5/1灰	赤	少	粗	0.6	長	外縁降伏顯著。 火割れ。	硬 1/2						
	*	849	高杯				△	内面シボリ目。	SY7/1灰白	赤	多	細	細	長子		軟						
	*	850	蓋	7.6					N7/灰白	赤	やや多	粗	1.5	英長黒		1/3						
	*	851	蓋	18.0					7.5Y7/1 灰白	赤	多	0.5	1.0	英長子	外面自然輪。	穢 1/9						
	*	852	裏					外面タクタク、内面同心円 凸凹真面目なナダ。	N5/灰	赤	やや多	細	4.0	子長	内面はやや明 穢片	穢 破片						
	*	853	裏					外蓋タクタク後、端 目のハナ。内面同心円 凸凹真面目調整。	N5/灰	赤	やや多	細	3.0	長子黒	内面はやや明 穢片	穢 破片						
板瓦土器	*	854		14.4				内面布目。	2.5Y8/3 灰黄	赤	やや多	0.7	3.0	被子赤		やや 穢						
	*	855							2.5Y8/3 灰黄	赤	多	1.1	3.0	被子赤 (円)赤	一部灰化に変 色。							
	*	856						外蓋、街頭压痕。	2.5Y8/1 灰白	赤	多	1.0	3.5	被子赤	外面一部灰色。	やや 穢						
	*	857	カマド	(26.3)(8.1)(4.5)				調部は、作縫は赤、粗 めの縫部ナダ。被子 端部は直取り。体部 端部は斜取。	2.5YR7/6 赤	粗	多	6.8	2.0	被子赤 黒	被子、変色あ り。被入品。	穢						
土器	SD26	Ⅳ層上	868	皿A		15.6	△	内外赤彩。丁寧なミガキ。 立ち上り外縁は棱をなして直曲。	2.5YR5/3 赤赤	密	赤	粗	2.5	被子赤	Ⅱ 被子 7.5YR5/4a	やや 軟 1/9						
	*	869	杯A	16.0				内外ミガキ。	SYR7/6 赤	やや粗	赤	粗	英長子 赤		穢 底 1/9							
	*	870				12.2			7.5YR7/4 に赤い縫	密	やや少	纏	1.0	赤英長		穢 底 1/12						
	*	871				14.2	△	全面赤彩。内蓋ミガキ。	SYR7/6 赤	密	少	纏	1.6	子(円・赤)	被子10YR8/3a 穢	底 1/7						
	*	872				11.6	×		10YR8/6 赤	被	多	纏	0.6	英子		底 1/8						
	*	873		16.0			△	内外赤彩。内蓋ミガキ。 赤赤	2.5YR5/6 赤赤	密	やや多	纏	0.9	英長子 赤	被子10YR8/2/ 赤穢より被子 の赤鉄鉱突出。	穢 1/18						
	*	874	皿	20.2			△	外面ミガキ残る。	SYR7/6 赤	密	やや少	纏	0.7	赤子	Ⅱ	やや 軟						
	*	875	高杯			9.6			2.5YR8/6 赤	密	やや多	纏	1.5	英子赤 ガ	被子10YR8/3 穢	穢 1/7						
	*	876	高杯			14.0	△	外面ミガキ残る。	SYR7/6 赤	密	やや少	纏	赤子	Ⅱ	やや 軟							
	*	877	蓋	13.0			×	内外赤彩。	2.5YR8/5 赤赤	密	赤	粗	0.5	赤子赤 ガ	Ⅱ 被子 7.5YR7/6a 赤台形脚。	やや 軟 1/6 強						
	*	878					△	外縁タケ方向ミガキ。 内面上方指頭压痕。	SYR5/6 赤	密	多	0.5	1.0	英子赤 ガ	穢							

種類	出土地点	標目 青サ	器種	法量(cm)		底質	手法的特徴	表面色調	胎土				備考	焼成	残存率		
				口径	高さ 基部 底径				量	内含物	形状	算定 量	普通 量	最大	種類		
固 惠 器	SD26	新層上	879	杯C	12.0	4.5		内面体部下半回転ハケ、内底「壁」なナヂ。	N7/灰白	亞	亞	0.4	3.0	長長チ		1/2	
	+	新層上	880	杯C	13.4	4.2	8.6	内外底ナヂ、外底平行圧痕。	N7/灰白	並	やや少	0.4	1.0	英長黒		1/3	
	+	881	杯	14.6			△	2.5Y8/2 灰白	やや 堆	並	細	1.0	英子黒	I		1/8	
	+	新層	882			10.2		内面下方回転ナヂ。内底「壁」。	N7/灰白	並	細	0.6	英長黒			底 1/3	
	+	Ⅱ層	883	杯	15.6			丁寧な回転ナヂ。外底 接合度。	N7/灰白	やや 堆	細	0.4	黒チ			1/6	
	+	Ⅱ層	884	杯BⅢ		7.2		内底底ナヂ。調整丁寧。	N7/灰白	密	少	細	0.4	黒チ		底 1/3	
	+	Ⅲ層	885	杯BⅢ		10.4	△	外面下部回転ケズリ。	SY7/灰白	粗	多	0.4	2.2	英比黒	I	やや 軟	
	+	Ⅳ層	886	杯BⅢ		12.8		内底周縁部は低い所 堆ナヂ。外底ナヂ。調 整丁寧。	N7/灰白	密	極少	細	細	黒長		底 1/8	
	+	Ⅴ層上	887	杯B		11.0		内底、底部の断面ナヂ。 中央は一定方向ナヂ。 外底底ミガキ。	N7/灰白	密	やや少	0.5	4.0	英長黒		1/2	
	+	I・Ⅳ層	888	杯BⅢ	16.7	3.7	11.5	体部内面、回転ヨリハ ケナ。回転ナヂ。内底 周縁に低い所の断面ナヂ。 中央は一定方向ナヂ。 外底底ミガキ(ロク ロ右引り)。調整丁寧。	N7/灰白	密	極少	細	0.9	黒長		外蓋の一辺に 自然釉。外底 ヘラ記。	半光
	+	新層上	889	壺			×		SY8/1灰白	やや 堆	多	細	1.0	英長黒	I	軟	
	+	I層	890	壺	13.6		△		N6/灰	粗	多	細	1.2	英長黒	I		1/7
	+	Ⅳ層上	891	壺	16.5	2.5		外面の2/3に回転ケズ リ。口縁内面回転版ナ ヂ。	10Y8E/1 灰灰	並	やや 多	0.4	2.2	チ	内面 7.5Y8E/2。		1/2
	+	Ⅳ層	892	壺	14.7			天井内外面ナヂ。	7.5V7/1 灰灰	非	細	3.5	黒長黒		天井 1/4		
	+	Ⅳ層上	893		17.4				N7/灰白	並	少	細	細	黒英		1/15	
	+	Ⅳ層上	894		27.6		×		SY8/1灰白	免	やや 多	0.4	0.9	英長黒		軟 1/4	
	+	Ⅳ層上	895						SY8/1灰白	密	並	細	2.0	長黒		履 1/6	
	+	Ⅳ層	896	壺		7.3		外面下部回転ケズリ。 内底、壁ナヂ。	SY5/1灰	密	やや 多	細	1.5	英黒長	内面2.5Y7/1。	硬 底 1/3	
	+	I・Ⅳ層	897	壺		9.0		外底回転ケズリ、内底 ナヂ。	SY8/1灰白	並	並	細	1.0	黒長英 チ		底 1/4	
	+	I・II・ IV層	898	壺	26.0	46.2	△	外底タグ後、底面の 回転横ハケ。内底具 表を剥ぐナヂ消す。	2.5Y6/1灰	非	並	細	1.1	英子黒	直径49.0cm。		
土 器	+	Ⅳ層	899	壺		13.8		口縁一部頸、底面のハ ケ。	SY8/1 に長い棒	並	多	0.5	1.5	英長赤	内面、黒色付 着物。	硬 1/6	
	SD40	901	皿AⅢ	15.5	1.9	12.3	×	内面、ミガキ残る。	SY8/6檻	やや 粗	並	細	2.5	チ赤		軟 半光	
	+	902	皿AⅢ	16.4	2.3	12.3	△	体部連続ミガキ。	2.5YR7/6 檻	並	細	1.0	英チ赤 ガ		1/2		
	+	903	皿AⅢ	16.6	2.3	12.5	△	底部連続ミガキ。 連続上少。	SYR8/6檻	やや 粗	並	細	1.0	チ赤ガ		1/4	
	+	904		17.0	1.8		外底 ×	内面密な連続ミガキ。	2.5YR6/8 檻	並	やや 多	細	1.0	チ赤		硬 1/14	
	+	905	皿AⅢ	17.0	2.5	13.0	×	内外連続ミガキ。	SYR6/6檻	並	並	0.5	1.5	英チ赤 ガ		口・ 底 1/2 強	
	+	906	皿AⅢ	17.6	2.0	13.4	×	内底ミガキ残る。	SYR7/6檻	並	並	細	1.0	英チ赤 ガ		1/4	
	+	907	杯AⅢ	9.8	3.6	5.6	△	回転ナヂ、外底に長い 連続ミガキ残る。	SYR6/6檻	立	やや 多	細	4.5	英チ赤 ガ		半光 底 1/1	
	+	908	杯AⅢ	10.2	3.7	7.0	△	回転カゲ後、ミガキ。 外底ハリツ、平行圧痕。	10Y8/4 灰黄檻	やや 粗	並	細	3.0	英チガ	内底暗色。	やや 硬 底 1/1	
	+	909	杯AⅢ	13.6	3.9	9.0	△	全面ミガキ。外底平行 圧痕→ミガキ。	SYR6/6檻	並	並	細	2.5	チ赤ガ		半光	
	+	910	杯AⅢ	14.2	3.7	9.2	×	全面ミガキ。外底ハラ 切痕残す。								半光	

種類	出土地点	辨別番号	器種	法量 (m)			軽耗	手法的特徴	表面色調	胎土 含有物質			備考	洗成	残存率			
				口径	身高	底径				素地	焼	青銅	鐵					
土器	SD40	911	杯	15.6			△	内外ミガキ。	7.5YR7/6 橙	圭	やや 多	鐵	2.0	白苔 チホガ	混合部で削除。 削入品。	やや 硬	1/6	
	*	912	杯A		7.6	×			7.5YR7/6 橙	圭	圭	0.7	1.1	チホガ		底	1/6	
	*	913			10.0	△	内面圓輪ナデ。立上り 部外周に土はみ出す。 外底ノギ。	7YR6/6橙	圭	圭	圭	2.5	英チホ			底	1/5	
骨器	*	914	筒A	11.6	4.0	5.7	△	内面圓輪ナデ。立上り 部外周に土はみ出す。 外底ノギ。	7.5YR7/4 にぶい橙	圭	圭	圭	1.5	チホガ			半完	
	*	915	筒A	11.8	3.3	5.6	×	内外ミガキ。	7YR5/8 赤褐色	圭	圭	0.5	2.0	英チホ 赤ホ		半完		
	*	916	杯B	13.4	3.8	8.0		体部外周、立上りケズ リ後、5分割ミガキ。 内面ハケ痕をナデす。	7.5YR7/6橙	圭	圭	圭	1.9	英チホ 赤ホ 白苔	削入品。	硬	半完	
	*	917	杯A V	9.0	3.4	6.0		外底弱いナデ。	5YR6/1灰	圭	やや 多	1.0	2.5	長黒子		近軟	完	
板	*	918	皿A II	15.4	2.2	12.5	△		5YR6/1灰	圭	やや 多	0.5	2.0	長赤	内外火煙。	一部 を採取	完	
	*	919	皿A II	15.8	2.3	12.0	△		5YR6/1灰	圭	やや 多	2.5	長黒			一部 を採取	半完	
	*	920	皿A II	15.0	2.6			内底ナデ。外底ナデ。 平行火煙。	5YR6/1灰	圭	圭	2.0	長チ黒		外底火煙。	硬	完	
	*	921	乍A 目	13.0	3.8	8.5	△		7.5Y7/1 灰白	圭	やや 多	0.5	2.0	夷長黒	摩手。	軟	完	
器	*	922	乍A III	13.3	3.6	8.2	△		N5/灰白	やや 多	多	3.0	3.0	長チ黒		軟	半完	
	*	923	杯A III	13.0	3.8	9.0	×		5Y4/1灰	かわ 世	やや 多	1.1	1.0	赤ナガ	口縁部のみ Z.5Y7/5a	软	1/3	
	*	924	杯A III		8.5	×			2.5Y7/4 深黄	圭	多	3.0	3.0	長チ赤	内面暗色。	软	底 1/1	
	*	925	杯B III	12.9	4.2	7.5	△	外底ハ切來調整。	5Y8/2灰白	やや 世	圭	0.4	3.5	夷長ナ 赤		软	底 1/1	
土器	*	926	杯B		11.6			内底ナデ。	N5/灰	圭	圭	1.1	1.0	長チ赤	内底、一条の 溝。	硬	底	
	*	927	高杯A					心椎形成。外面、上方 へのケズリ、裏面は平 滑。	5YR7/6橙	衛	少	1.0	1.0	白金黄 赤ホ	削入品。	極硬		
	*	928			8.6			内面磨目。	10YR8/6 浅黄褐	やや 青	多	0.8	3.5	チ(内) 英赤ホ		硬	1/6	
土器	*	929			9.2			内面粗重。	10YR8/3 浅黄褐	やや 青	多	1.0	3.5	混赤英 チ(内)	外面一部スス ケ。	硬	1/5	
	*	930			10.2				10YR7/4 にぶい黄	衛	多	1.0	2.2	チ(内) 混赤ホ			1/6	
	*	931			10.6				10YR7/4 にぶい黄	やや 青	多	4.5	混赤長 赤ホ		硬	1/6		
	*	932			11.7				7.5YR7/6 橙	衛	多	1.0	5.0	混赤チ ホ		硬	1/6	
器	*	933							2.5Y7/3 浅黄	圭	圭	1.0	5.5	粉赤チ ホ		断片		
	*	934							10YR7/4 にぶい黄	衛	多	1.1	2.5	チ(内) 粉赤チ ホ		软	断片	
	*	935						内面磨目。	5Y7/1灰白	圭	圭	1.1	3.0	粉赤		断片		
	*	936						内面粗重。	7.5YR6/6橙	圭	多	1.5	10.0	粉赤 英赤ホ	外面一部スス ケ。	断片		
土器	SX2	939	皿A	17.0	1.7	14.4	△	全面剥離。ミガキ無。 外底剥離ミガキ後、不 定方向ミガキ。	2.5YR5/8 明赤褐	やや 青	多	0.4	1.3	英チホ	I 素地10YR8/2, 塵風、より微量 の赤鉄鉱後出。		1/4	
	*	940	皿	22.0			×	内外剥離。外底剥離ミ ガキ。	2.5YR6/8 明赤褐	やや 青	多	0.9	9.9	英チホ	I 素地2.5YR8/2,	1/8 弱		
	*	941	皿	22.9			×	内外剥離。外底剥離ミ ガキ。	2.5YR5/8 明赤褐	圭	多	0.9	1.0	英チホ	I 素地2.5YR8/2,	1/8		
	*	942	皿					内面剥離。	5YR6/6橙	衛	圭	2.0	1.1	英チホ	削入品。	硬	断片	
器	*	943	欠臺						全面剥離。ミガキ無。 外底剥離ミガキ後、丁 寧なミガキ。	2.5YR4/8 赤褐	粗	多	1.0	長ナガ	I 素地10YR8/2,	やや 硬	1/10	
	*	944	杯A	16.3	2.7	11.3				7.5YR7/6 橙	粗	多	1.0	長ナガ	I 素地10YR8/2,	やや 硬	底 1/5	
	*	945	高杯	20.5			△	内外剥離。杯部内面、 放射状裂紋(断続)。	2.5YR5/8 明赤褐	やや 青	多	0.4	1.1	英チホ	I 素地10YR8/2,	硬	1/12	

種類	出土地点	辨別番号	器種	法量(cm)		重地	手法の特徴	陶土							備考	焼成	残存率	
				口径	底面			含有物質			部							
								量	粒度	種類								
土	SX2	中・上層	947	高杯	20.2		×	内外赤茶。	2.5YR5/6 明赤茶	粗 多	0.6 1.1	英チガ	I	高地10YR8/2a, 底焼より微量の赤鉄鉱突出。		1/19		
	*	中・上層	948	高杯	22.5		△	内外赤茶。鉢部内面、 放射状鉻化(縦縞)。	2.5YR5/6 明赤茶	粗 多	1.0	英チ	I	高地10YR8/2a,		1/8		
	*		949	高杯	24.8		×	内外赤茶。内側放射状 鉻化(縦縞)、外側ミガ 年。	10YR8/3 浅黄青	やや 粗	1.0	英チ	I	盆地10YR8/2a, 底焼より微量の赤鉄鉱突出。		1/6		
	*		950		22.4		×	内面ミガキ。外側下半 部。	5YR5/6 明赤茶	粗 並	粗	英チガ			焼	1/19		
	*		951		26.6		△	外側 杯部、内外ミガキ。外 下半部鉻化ケズリ。	5YR5/6 明赤茶	粗 並	0.9	英チガ			焼	1/18		
	*		952	皿B-1	20.4	3.7	15.6	×	全面赤茶。内面及び 底部ミガキ。下半部鉻 化ケズリ。	2.5YR4/6 暗褐色	立 やや 多	0.4 2.5	チ(角) 門)英 赤		盆地II群。 盆地10YR8/3a, 底焼より微量の赤鉄鉱突出。		1/5	
器	*	中・上層	953	皿B-1			20.1	×	全面赤茶。外底鉻化ケ ズリ。内側輪轍と體部 縫合に3条の溝を認む。	2.5YR5/6 明赤茶	並 粗	0.5 1.5	チ免 チガ	I	盆地10YR8/2a, 外底赤鉄熱、 赤茶。	底	1/10	
	*		954	蓋				×	赤茶。	10YR8/3 明赤茶	やや 粗	0.6 1.5	英チ	I	盆地10YR8/2a,			
	*		955	蓋				×	赤茶。	2.5YR5/8 明赤茶	並 粗	0.5 0.7	英チガ	I	盆地2.5YR8/2a,			
	*		956	円面鏡	17.0	5.7	19.6		隆部と海綿部の端で屈曲。 上端は丸く、内側は平 滑。外側と内側の各 縫合は凹面をなす。	5YR6/1灰 白	審 やや 少	粗	1.0	英赤茶		側部以外の上 面に薄赤。隆 部の裏に赤 色付帯。		1/6
	*	中・上層	957	杯C				×	体部外側下方回転ケズ リ。外側底、丁寧なナ ナ。	5Y7/11灰白	並 多	粗	0.6	英チ	I		底	1/5
	*		958	杯C				×	5Y7/11灰白	並 やや 多	0.4	1.3	英長チ 茶		軟	底	1/5	
壺	*	959	杯	14.0	3.2	9.0	×		N6/灰	並 やや 粗	0.5	1.5	チガ		軟	1/10		
	*	中・上層	960	杯C	14.2			×		2.5Y7/1 灰白	やや 多	粗	1.0	チ		軟	1/5	
	*		961	杯A	14.6	3.1	9.8	×		2.5Y7/3 浅黄	粗 多	0.5	1.1	英チガ		軟	底	1/6
	*		962	杯	16.1			外底ナフ。調整丁寧。	5Y7/6/1白	審 やや 少	粗	0.5	民黑			1/8		
	*		963	杯B	13.5	3.4	10.5	△	調整ナフ。	5Y6/1灰 白	並 やや 多	粗	0.8	長赤英 チ		特に外底、内 面は酸化色。		1/7
	*		964	杯B	-		9.2	外底、底部及び体部下 方擦痕。内外底ナフ。 各縫合丁寧。	5Y7/6/1灰 白	審 並	粗	1.5	英		やや 硬	底	1/4	
器	*		965	蓋	14.6			外面の1/2強に回転ケ ズリ。	7.5Y7/1灰 白	審 少	粗	0.5	民黑			1/9		
	*		966	蓋	13.8	1.6		内面ナフ。	5Y4/1灰 白	審 少	粗	0.9	黒チ		外底降灰、内 面明色。		1/2	
	*		967	蓋	15.8			内面ナフ。	5Y6/1灰 白	並 粗	粗	3.5	長黒英 チ		外底自燃熱。 火附れ。	やや 硬	1/8	
	*		968	蓋	15.2	2.3		外底、回転ケズり後、 圓錐ナフ。内面、周 縫合痕、縫合以外ナフ。 調整ナフ。	5Y5/1灰 白	やや 多	粗	1.3	民長英 チ			1/2		
	*		969	蓋	16.0			外底の1/3と内面回転 錐形記号。内面天井 井干す。	7.5Y5/6/3 にぶい鶴	並 多	粗	3.0	英長チ	I	断面灰色。		1/2	
	*		970	蓋	15.5			内面中央縫合は極めて平 滑。	5Y5/1灰 白	やや 粗	粗	0.5	子長			1/7		
土器	*		971	蓋				調整丁寧。内面中央部 は極めて平滑。	N7/灰白	施磨 やや 少	粗	0.6	英黑		砂上がガラス化。	硬		
	*		972	蓋				内面中央縫合は極めて平 滑。	N7/灰白	やや 粗	粗	1.1	英チガ	I	外底降灰。			
	*		973	蓋	17.5	2.2		外底の1/4に回転ケ ズリ。内面、周縫合に擦 痕、火附焼ナフ。各 縫合丁寧。	N8/灰白	審 並	粗	1.0	英長チ			半光		
	*		974	高杯				四方に長方形の造かし。 内面ナフ。	5Y6/1灰 白	並 多	粗	1.8	英長チ					
	*		975	把手付 鍋	32.2			全面ナフ。	2.5YR5/6 明赤茶	やや 粗	多	0.4	1.5	英チガ	I	盆地10YR8/2a、 やや 粗2次被熱、 赤茶。	底	1/3
	*	中・上層	976	蓋	28.0		×	U縫合と体部外間に 堆積のハケ。	10YR8/2 灰白	並 多	粗	4.0	英チガ (内 縫)	I			1/14	

種類	出土地点	辨別 番号	器種	法量 (m)			磨耗	手法的特徴	表面 色調	胎 土 含有物質					備 考	焼成	保存率					
				口径	高さ	底径				粒度			量	普通	極大	種類						
										主	多	細	英テ砂 (円)	チ								
土器部	SX2	977	カマド				×	鋸部にナギ、押花、縦外側に強い粗目ハケ。	10Y27/2 にぶい黄褐	主	多	細	2.5 英テ砂 (円)	チ	I 刻離した鋸部。							
須	中・上層	978	甕	18.2				肩部外側面輪コロコロ内丸、当具板をナギ消す。	N7/灰白	密	やや 少	細	0.8	熟成	上面自然釉、内面灰白色。	硬	1/8					
		979	甕					外腹、タガキ底切弱い粗目ハケ、内腹、当具板を弱く削す。	N7/灰白	主	やや 多	細	細	チ		硬	断片					
		980	甕					外腹、タガキ底切弱い粗目ハケ、内腹、当具板を弱く削す。	7.5Y6/1灰 淡黄褐	主	主	細	チ	外腹若干の自然釉。	硬	断片						
土		981							10YR8/4 淡黄褐	重	多	1.0	5.0	チ			断片					
	P14	983	皿 A	12.5	1.1	8.8	△	内外同軸ナゲテ。	10YR7/4 にぶい黄褐	やや 粗	多	0.5	2.0	チホ			完					
	P15	984	皿 A	13.4	1.2	9.5	△	口縁回転ナゲ、屈曲外反させる。	7.5YR7/6 粗	粗	やや 多	細	1.0	チホ		1/4 破						
	P14	985	皿 A	13.8	1.4	10.2	△		10YR8/3 淡黄褐	やや 粗	多	細	2.5	チホ		やや 破						
	*	986	皿 A	14.6	1.2	9.2	△	外底へ切削。	7.5YR7/6 粗	やや 粗	多	細	1.2	チホガ		1/9						
	*	987	皿 A	13.1	1.7	10.0	△	外底へ切削、ナゲ。	7.5YR7/4 にぶい黄褐	やや 粗	多	粗	1.0	チホガ		半完						
	*	988				7.9	△	外底へ切削。	10YR7/3 にぶい黄褐	重	多	粗	チ	チホ		底 1/6						
	*	989	皿 A	16.0			△	全体回転ナゲテ。	7.5YR7/4 にぶい黄褐	粗	やや 多	細	1.2	チ		やや 破	1/10					
	P15	990	杯 A	12.8	3.1	7.2	△	外底へ切削。	7.5YR7/6 粗	重	主	細	チ	チガホ		1/8						
	P14	991	杯 A	12.6	2.9	8.0	△	全体回転ナゲテ。	10YR8/4 淡黄褐	重	やや 多	細	2.5	チホ		底 1/3						
器		992	杯 A			8.6	△	内底回転ナゲ、外底へ切削ナゲ。	7.5YR6/4 にぶい黄褐	重	やや 多	細	2.0	チホ	複合部より剥離。	底 1/1						
	*	993	杯 A	12.6	2.8	8.3	×	外底へ切削。	7.5YR7/6 粗	やや 粗	多	粗	2.0	チホ	多個一部が黒化。	半完						
	P15	994	杯 A	13.3	3.1	9.1	△	全体回転ナゲテ。外底へ切削ナゲ。	10YR7/3 にぶい黄褐	重	主	細	チ	チホガ		半完						
器	*	995	杯 A	13.2	3.0	8.6	△	全体回転ナゲテ。外底へ切削ナゲ。	7.5YR6/6 粗	やや 粗	主	細	2.0	チホ		1/4						
	P14	996	杯 A	14.0	2.4	8.6	△	内底、回転ナゲ板。	10YR8/4 淡黄褐	重	やや 多	細	0.6	チホ		底 1/3 強						
	*	997	杯 A	13.6	3.2	8.0	×	外底へ切削。	2.5YR/4 淡黄褐	粗	やや 多	細	1.3	チガ		やや 半完						
器	*	998	杯 A	14.2	2.6	9.5	△	全体回転ナゲテ。特に口縁部に2段の強い回転ナゲテ。外底ナゲ。	10YR8/6粗 淡黄褐	重	やや 多	細	0.5	チホガ		やや 破	1/8					
	*	999	杯 B	15.0	6.4	9.2	×		7.5YR7/6 粗	やや 粗	やや 多	細	0.5	チガ		缺	1/7					
	P15	1000	杯	14.4			△		SYR6/6粗	重	主	細	1.5	チ	底部は接合部で封緘。	缺	1/5					
器	*	1001	杯	15.2			△	全体外底回転ナゲテ。	7.5YR7/4 にぶい黄褐	重	多	細	1.1	チホ	外腹黒褐色。		1/4					
	*	1002	甕				△	内面ミガキ。	7.5YR8/4 にぶい黄褐	密	重	細	1.8	チホガ								
	*	1003	杯 A			8.5	×		SYR8/2灰白	重	主	細	0.5	チホ		底 1/6						
土器部	*	1004	杯 B			10.2	×		SYT7/1灰白	粗	やや 多	細	1.2	チ		やや 破	1/10					
	P14	1005	甕	23.8				胸窓外側、内凹口縁へ切削粗目ハケ。口縁部横ナゲ。	10YR5/2 灰黄褐	重	多	0.6	3.5	チ	測定19.3cm。	硬	1/6					
土器部	*	1006	甕				△	外面下半格子タガキ。内面下半深酒紅。	10YR7/2 にぶい黄褐	やや 粗	やや 多	1.5	4.0	チ	I 外腹上半悉焼、底部スケル。粗目17.6cm。							
	P16	1017				9.0		内面、繊密な横粒のミガキと見られる。	10YR8/2 にぶい黄褐	重	重	細	1.5	チホ		底 1/1						
無土器	P17	1018	杯	18.0									0.8	全裏黄 長	施入品。	粗硬	1/14					

種類	出土地点	辨団番号	器種	法量(cm)			透光	手法的特徴	表面色調	粘土				備考	焼成	保存率		
				全長	金幅	金厚				量	粒度	普通	最大	種類				
土器	SF1	1019	杯AⅢ	13.4	3.6	9.0	△	内外面透視ミガキ。外底ハラカ→丁寧なナゾトゲ・網目ミガキ。	SYR7/6橙	透 透 透	やや 多	細	粗	7.0	子赤ガ	やや 硬	半光	
	*	1020	杯AⅢ	13.7	3.3	9.4		全面ミガキ。外底、粗い網目ミガキ、ハラカ、粘土鉛灰質。	SYR7/6橙	透 透 透	やや 少	粗	細	1.0	子赤ガ	底部と側部は接合部で剥離。	やや 硬	完
	*	1021	杯AⅢ	14.0	3.7	9.5	△	内外面透視ミガキ。外底、粗い網目ミガキ、ハラカ、粘土鉛灰質。	SYR7/6橙	透 透 透	透 透 透	細	粗	1.0	子赤ガ	全体を2分して下方が粗、上方が浅黄褐色。	硬	完
土器	丸古 署	1022	皿A	21.8			△	全面赤茶。外底断続ケ ズリ、側部外縁ミガキ。	2.5YRS/8 明黄褐色	透 透 透	透 透 透	細	粗	英長ガ 赤	I	基盤10YR8/2 明黄褐色	やや 硬	1/3
	*	2.8	高杯B	21.7				杯部内外ミガキ。	5YR6/6橙	透 透 透	透 透 透	細	粗	1.5	英ナ赤			1/5
	*	A28	皿B-3	24.9	5.6	13.0	△	内面ミガキ。口縁部外 斜面被覆ナゾテ。外底外 斜面合板。透視ミガキ。	SYR6/6橙	透 透 透	透 透 透	細	粗	3.0	赤茶ナ			1/2
土器	*	B7 N-1層	1025	壺	13.8			外面と口縁内に赤茶 ミガキ。	2.5YRS/6 稍赤褐色	透 透 透	透 透 透	0.5	3.0	子赤ガ		素地10YR8/2 赤茶	やや 硬	1/9
	*	北 祇園区	1026	壺	13.6	3.6		内面凹凸。	5Y7/3灰白	透 透 透	透 透 透	細	粗	0.9	英米黒	外面白自然釉。		2/3
	*	北 祇園区 N-1層	1027	壺	15.9	5.0		天井外表面全面網目ケ リ。天井内面ナゾテ。	7.5Y6/1灰	透 透 透	透 透 透	細	粗	5.0	民窯チ			1/2
土器	*	北 祇園区 N-1層	1028				×	縦位の輪郭痕。	10YR8/2 灰白	透 透 透	透 透 透	0.7	3.0	泥炭モ 赤	底部。		断片	
	北 祇園区 Z16 毫1	1029	大壺	58.4				肩部、外表面格子タキ 内面同心円凸具模索圓 刻。口縁部被覆ナゾテ。 内面、断面に接合痕。	NS/灰	透 透 透	透 透 透	細	粗	3.0	子長	底部塊化不良。 腹部は接合部に窓孔 有り。内面有り。	底 底	1/2
	北 祇園区 Z15 毫2	1030	大壺					外表面タキ。内面同心 円凸具模索圓刻。	N4/灰	透 透 透	透 透 透	細	粗	2.5	子長	底部は焼造時 に窓孔内に塑性片 投射部分が凹み、 人字形窓孔に付 14~17cmの不 規則形の割離 が見らる。断面 セピア色。	硬	底 1/1

遺物観察表(土錠)

出土地点	標示 番号	器種	法量(cm)			透光	手法的特徴	表面色調	粘土	粘土				備考	焼成	保存率		
			全长	金幅	金厚					量	粒度	普通	最大	種類				
SB15	P8	管状 土錠	5.8	2.2	0.7	23.0	△	10YR7/3 にいわゆる 透視面。	10YR7/6 橙	透 透 透	子赤ガ 少	細	細	久	透			
*	P3下層	239	管状 土錠	4.3	2.0	0.7	12.9	△		7.5YR7/6 橙	透 透 透	子赤ガ	多	細	1.0			完
*	P3下層	240	管状 土錠	5.8	1.9	0.6	17.4	△		7.5YR7/6 橙	透 透 透	子赤ガ	多	紙	紙			完
*	P5	241	管状 土錠	4.6	2.9	0.9	36.4	△	透視面取。	10YR7/6 にいわゆる 透視面。	透 透 透	子赤ガ	正	纖		大底斑。		完
*	P3下層	242	管状 土錠	4.6	2.9	1.0	33.2	△	透視面取。	10YR6/2 灰青	透 透 透	子赤ガ	少	細	紙			透
*	P5	243	管状 土錠	4.4	2.8	0.9	39.1	△	透視面取。	2.5Y3/1 無釉	透 透 透	子ガ	少	細	紙			完
*	P5	244	管状 土錠	4.2	2.7	0.9	32.8	△	透視面取。	2.5Y6/1 青灰	透 透 透	子赤ガ	少	細	紙	約2/3が黒色。	硬	完
*	P9上層	245	管状 土錠	4.6	3.1	0.9	41.0	△	透視面取、柔 軟。	10YR5/2 灰青	透 透 透	長 方	少	細	紙		透	完
SB16	P02	268	管状 土錠	5.2	2.0	0.6	18.7	△	透視面取。	7.5YR5/6 橙	透 透 透	子赤ガ	多	纖	0.5			
SB17	P1	279	管状 土錠	6.5	2.1	0.8	26.1	△		2.5Y3/3 透 透	透 透 透	子赤ガ	多	細	4.0			完
SB20	P26	359	管状 土錠				2.3	466.0	ハケ状模索線の 透視面取。	5YR5/6 透	透 透 透	英ナ赤	多	0.4	3.0	輸入品。		約 1/3
*	P25	340	管状 土錠	4.3	2.0	0.6	13.3	△	透視面取。	2.5YH6/4 にいわゆる	透 透 透	子赤ガ	透	細	1.5			半光

出土地点	排回 番号	器種	法 量 (m)				燃耗	手法の特徴	表面 色調	地 土 含有物質				確 認	焼成	残存 率		
			全長	全幅	全厚	孔径				層類	粒度	粒度	深さ	評定				
SB20	P23	341	管状土器	4.9	2.0		0.6	14.4	△	両端面取り。	7.5YR7/0 淡黄褐色	赤	チホリ	赤	細	1.1	完	
+	P13	342	管状土器	7.3	2.2		0.9	34.6	△	両端面取り。 腹部付近挖削 やエ。	10YR6/4 淡黄褐色	やや 粗	チホリ	多	細	4.5	目欠け。	完
+	P27	343	管状土器					37.0	-	始土中に痕跡	10YR8/5 淡黄褐色	チホリ	少	赤	細	2.0	硬	約 1/4
+	P23	344	有縫土器	6.5	4.2	3.4		97.0	△		10YR8/3 淡黄褐色	亞	美ナ赤	並	細	2.0	粗研削。	硬 完
+	P23	345	有縫土器	8.0	4.6	4.0		141.7	△		2.5YR7/3 淡黄褐色	亞	美ナ赤	並	細	3.0	若干欠け。	硬 完
+	346		有縫土器	8.3	4.2	3.2		92.3	△	3方に溝。	7.5YR7/6 淡黄褐色	亞	チホリ	少	0.5	5.0	若干欠け。	準完
SK21	P口1	374	管状土器	4.7	1.7		0.6	9.0	△		7.5YR6/6 淡黄褐色	密	チホリ	少	細	0.6	I	軟 完
+	P口2	375	有縫土器	7.4	3.1	2.8		57.9	△		7.5YR7/4 にぶい黄褐色	粗	チホリ	多	0.5	8.0	若干欠け。	準完
+	Pイ2	376	有縫土器	8.1	5.0	4.2		159.9	△		2.5YR4/1 黄灰	赤	美ナ赤	やや 粗	0.4	2.0	若干欠け。	硬 完
SK20	494		有縫土器						△		10YR7/4 にぶい黄褐色	赤	チホリ	多	0.5	2.5	欠け。	
SK21	536		有縫土器					3.5			10YR6/4 にぶい黄褐色	やや 粗	チホリ	多	1.0	5.0	欠け。	
SK22	566	管状土器	7.1	3.2		0.9	62.7	△	両端面取。	10YR4/1 淡黄褐色	密	チ	少	細	0.6	一端、若干欠 け。	完	
+	597	管状土器		3.1			1.0		△		2.5YR8/3 淡黄褐色	密	チ	少	細	1.0	硬	約 1/4
SK27	上層	632	有縫土器					3.4			7.5YR7/4 にぶい黄褐色	粗	チホリ (内凹)	多	1.0	5.0		
SK30	上層	758	有縫土器	7.5	4.2	3.7		110.3		一端にシリゴ 目。	2.5YR8/2 淡白	やや 粗	チホリ	多	0.6	4.2	若干欠け。黒 斑。	硬 準完
SK33	上層	788	管状土器	4.9	2.1		0.5	20.3		両端面取。	10YR8/2 淡白	やや 粗	美ナ赤	やや 粗	細			硬 完
SK34	下層	856	管状土器	3.0	1.2		0.5	2.8	△		2.5Y7/3 淡黄褐色	粗	チホリ	並	細	3.0	欠損。	
+	VII層	859	管状土器	6.1	2.3		0.8	23.9			2.5Y7/4 淡黄褐色	密	美ナ赤	並	細	1.0		やや 硬
+	860		有縫土器	7.3	3.3	2.8		(66.0)	△		7.5YR6/6 淡黄褐色	密	チホリ	多	0.5	1.5		硬 3/4
+	861		有縫土器	6.6		3.3		(66.0)	△		10YR6/3 にぶい黄褐色	密	チホリ	並	0.5	2.0	1/3は欠損。	硬 約 2/3
+	X層 底上	862	有縫土器	7.8	5.4	3.2		142.4	△	一端にシリゴ 目、大きな指 痕底。	2.5Y6/3 にぶい黄褐色	粗	ガホリ 砂	並	0.5	2.0		硬 完
SD40	937	管状土器	5.7	2.2		0.5	19.7		両端面取。	10YR7/3 にぶい黄褐色	やや 密	美ナ赤	並	細	2.0		硬 完	
+	938	管状土器	5.3	2.2		0.6	19.0		両端面取。	SY2/1黑	やや 密	長ナガ	並	細		一端、若干の 欠け。	硬 完	
P15	1007	管状土器	2.7	1.9		0.4	4.1	△		7.5YR8/6 淡黄褐色	密	チホリ	少	細			完	
+	1008	管状土器	3.9	1.3		0.5	5.4	△		7.5YR8/6 淡黄褐色	密	チホリ	やや 粗	細	1.5	欠損。	やや 硬	
+	1009	管状土器	4.3	1.2		0.3	4.3	△		2.5Y7/3 淡黄褐色	粗	チホリ	多	細	1.8	欠損。黒斑。		
+	1010	管状土器	3.5	1.8		0.6	8.5	△		7.5YR8/6 淡黄褐色	密	美ナ赤 (内凹)	並	細	2.0	欠け。黒斑。	やや 硬 半完	
P14	1011	管状土器	4.2	1.7		0.4	9.4			SYR7/6	密	チホリ	並	細	0.5	一端、若干欠 け。	準完	
+	1012	管状土器	4.8	1.7		0.7	10.0	△		SYR6/6	密	チホリ	やや 少	細	1.4		軟 完	
P15	1013	管状土器	5.3	1.6		0.5	12.4	△		7.5YR7/6 淡黄褐色	やや 密	チホリ	並	細		端部、若干の 欠け。	やや 硬 完	
+	1014	管状土器	7.2	3.0		1.3	65.3	△		2.5Y7/3 淡黄褐色	粗	チホリ	多	0.5	4.0	集結。	完	
+	1015	有縫土器	6.1	4.0			(53.9)	△		7.5YR7/6 淡黄褐色	密	チホリ	やや 少	細	0.6	7.0	欠け。	1/2 強 完
P14	1016	有縫土器	7.6	4.7	4.7		154.3		3方に傷。	10YR6/2 淡黄褐色	密	チホリ	やや 少	細	0.4	1.1	若干の欠損、 平面は暗色。	硬 完

遺物観察表（金属製品・石器）

出土地点	辨認番号	器種	法量(cm)				特徴	
			全長	全幅	全厚	重量(g)		
SB 10	P 1	185	鉄釘	5.7	1.2	0.6	9.7	断面矩形。
SB 19	P 14	307	鉄釘	8.8	2.3	0.4	16.3	
SB 20	P 12	347	鉄斧	5.2	4.8	1.2	101.9	
+	P 20	348	鉄斧	5.3	6.7	3.6	121.1	
+		349	青銅鏡	(11.4)		1.0	(102.7)	約1/3。
SB 21	P 44	377	鉄斧	6.0	11.2	3.6	222.4	
SB 22	P 9	396	小型攝石	10.4	3.1	2.0	99.6	粘土岩。全面使用。両主面、両側面は平滑、縦かい堆積あり。両主面には斜方向の切込み状使用痕。両側面にも切込み状使用痕。
SK 16		442	磁石	9.4	9.5	8.1	750.0	砂岩。磨耗あり。使用面は3面で、平滑。微かな凹凸状の使用痕も見られる。
+		443	台石	41.0	25.4	19.6	35.0kg	チャートの川原石。打減部が赤茶。
SK 20		492	磁石	19.5	12.1	9.9	3.0kg	砂岩。一主面に平滑な使用痕、黒一赤褐色に変色。各端部に敲打痕。両主面と側面に切込み状使用痕。大きく欠損。
+		493	台石	19.2	12.1	8.8	2.5kg	砂岩。一面に敲打痕。3ヶ所欠損。
SK 22		538	鉄釘	1.2	1.1			欠損。
+		599	鉄斧	6.8	6.4	3.8	148.0	
SK 28		664	鉄斧	3.6	4.6	2.6	32.2	底部に炉盤又は器内的一部分が付着。
SK 29	床	674	鉄斧	3.2	2.4	2.1	8.5	
SK 33		791	鉄釘	(6.3)	0.8	0.7	(19.8)	やや曲がる。欠損。
+		792	鉄斧	4.1	3.0	2.6	29.4	
SK 34	瓦器	863	鉄製品	9.1	6.5	4.2	262.8	
+	X 磁	864	鉄製品	4.8	0.9	0.6	3.2	
+		865	台石	19.9	13.0	6.0	1.5kg	
+		866	台石	25.1	18.0	12.5	6.0kg	
+		867	台石	17.2	13.0	13.3	4.2kg	砂岩。使用面は打減、剝離。四方を打削。
SD 26		900	鉄製品	13.6	3.5	0.4	66.5	

遺物観察表（瓦）

出土地点	辨認番号	器種	磨耗	特徴	表面色調	胎土				残存率
						素地	含有鉱物	粒度	塊成	
SK 2	中層	982	瓦	ややみ	厚さ1.9cm、凸面に溝月、凹面は平滑、擦痕ケズリ。	N7/灰白	やや粗	黑高長 子	細 相	1.5 やす軟 断片

遺物観察表（羽口）

出土地点	辨認番号	法量(cm)			特徴	色調	胎土				残存率
		外径	孔径	残存長			素地	含有鉱物	粒度	塊成	
SK 16		441	(7.6)	(3.3)	3.1	胎土中に粘土斑、新規SYR6/6。	2.5Y7/3	にぶい黄塵	业 英子肺	多 細	4.0 断片
SK 29	床	673	(7.2)		3.2	先端は溶融或いは欠損して いると思われるが、被覆、 付着物の状態から見て、先 端付近、素地SYR6/6。	2.5Y6/1	黄灰 子	少 細	0.5 3.2	断片

4. J区

(1) 調査区の概要と基本層準

① 調査区の概要 (Fig. 103)

J区は、調査対象地の中央南寄りで南から3本目の調査区である。東西方向に長い調査区で延長約116m、幅4~4.3m、面積552m²を測り、長軸の方向はN-258°1'27"である。現地表面の標高は東端で12.2m、西端で11.9m前後を測る。調査にあたっては、東端から4m毎にJ1、J2、J3とJ30までグリッドを設定し、遺物の取り上げや層準観察の目安とした。ただしJ1、J2は溝の中であり後のK区の調査区に組み入れた。J区からは堅穴住居1棟を中心に、溝、土坑、ピット等弥生時代後期に属する遺構を検出した。また少數ではあるが古代の遺構も検出することができた。

② 基本層準 (Fig. 104)

J2~J8

I層：現在の耕作土である。

II層：旧耕作土と考えられる。

III層：灰赤色(2.5 YR 6/2)に極暗赤褐色(5 YR 2/4)粒を含む粘土質シルト層。層厚10~26cmを測る。西方に寄るにしたがいにぶい黄褐色(10 YR 4/3)に近くなる。中央付近でIV層、西方ではIV層に相当するもので、J区に普遍的に存在する層。少量の土器片を含む。

IV層：暗褐色(10 YR 3/3)粘土質シルト層。層厚8~20cmを測る。

V層：褐灰色(10 YR 5/1)と褐色(7.5 YR 4/4)が混ざる。層厚0~17cmを測る。ST 11の上方にのみ認められる。

VI層：褐灰色(10 YR 4/1)に褐色(7.5 YR 4/6)粘土質シルトに砂と数mm~数cm大の礫を多量に含む。層厚0~26cmを測る。K区のSRの最上層に相当するものでSRの末期的な層であると考えられる。J2付近にしか見られない。

VII層：灰色砂礫層。

VIII層：にぶい黄褐色(10 YR 4/3)粘土質シルトに砂礫を多量に含む。層厚0~16cmを測る。

IX層：砂礫に黒褐色(10 YR 2/2)粘土質シルトを含む。層厚0~6cmを測る。ST 11の上で浅い落ちこみとして検出される。

J13~J16

I層：耕作土。

II層：旧耕作土。

III層：にぶい黄褐色(10 YR 4/3)に褐色(10 YR 4/6)が混ざり黒褐色(7.5 YR 2/2)粒を若干含む粘土質シルト層。層厚7~36cmを測る。J区を貫く層で、西のIV層、東のIII層に相当するものである。

IV層：暗褐色(10 YR 3/4)に灰色を含む粘土質シルト層。層厚0~34cmを測る。中央トレンチ固有で、東西にはない。褐灰色粘土質。

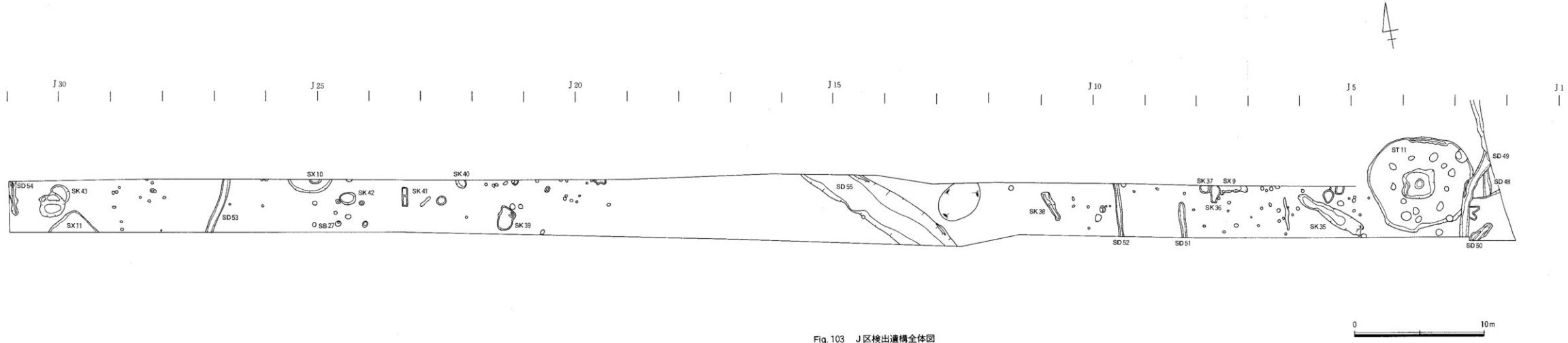


Fig. 103 J区検出遺構全体図

J 24～J 26

I層：耕作土。

II層：旧耕作土。下層に床土がある。

III層：黒褐色（2.5 Y 3/2）粘土質シルト層。層厚4～10cmを測る。IV層とともに旧耕作土か。

IV層：オリーブ褐色（2.5 Y 4/6）粘土質シルト層。層厚4～8cmを測る。

V層：暗褐色（10 YR 3/4）に黒褐色（7.5 YR 2/2）が小さくブロック状に含まれる粘土質シルト層。

層厚6～14cmを測る。

J 29～調査区終点

I層：耕作土。

II層：旧耕作土。

III層：オリーブ褐色（2.5 Y 4/6）粘土質シルト層。

IV層：にぶい黄褐色（10 YR 5/4）に黒褐色（7.5 YR 2/2）粒を含む粘土質シルト層。

V層：にぶい黄褐色（10 YR 4/3）と少量の褐色（10 YR 4/6）が混ざり黒褐色（7.5 YR 2/2）粒を含む粘土質シルト層。東方のIII層に相当する。

VI層：にぶい黄褐色（10 YR 4/3）に多量の褐色（10 YR 4/6）を含む粘土質シルトに若干の黒褐色（7.5 YR 2/2）粒を含む粘土質シルト層。J 27付近で消滅している。

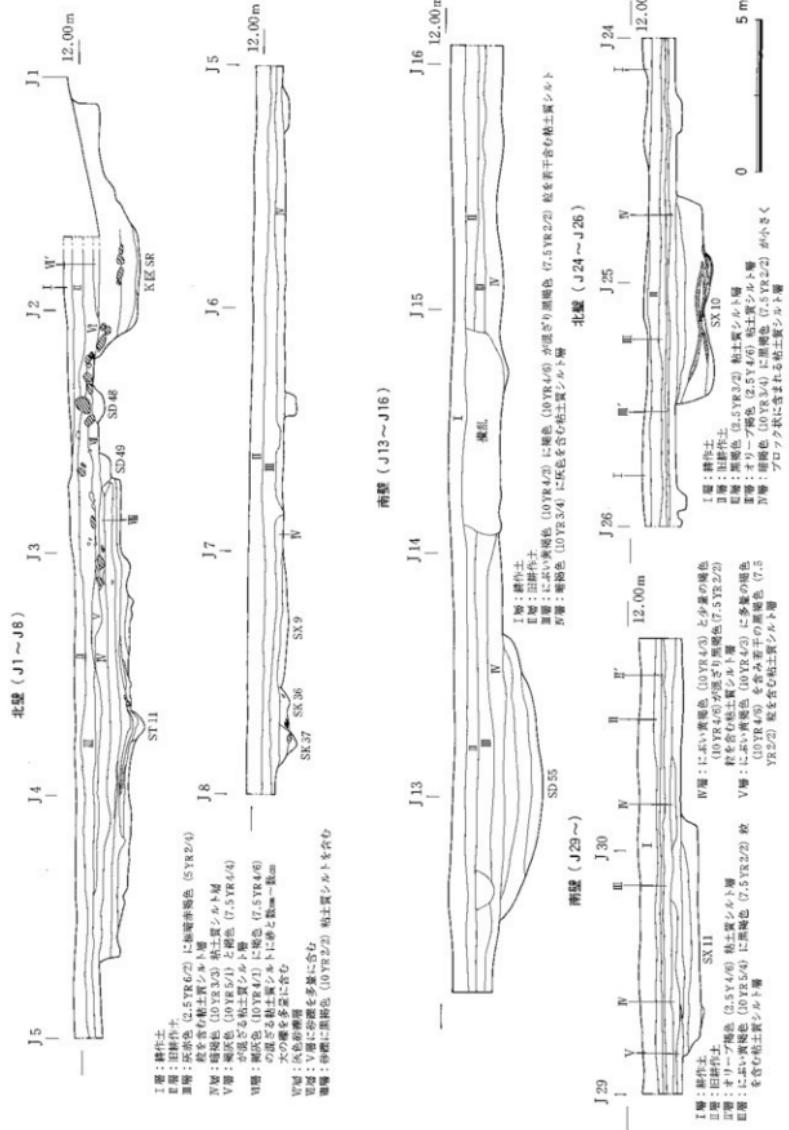


Fig. 104 J 区北壁及び南壁基本断面

(2) 検出遺構と遺物

① 竪穴住居

ST 11 (Fig. 105~108)

調査区東端に位置している。住居の東部は SD 49に切られている。遺構は基本層準のIV層を除去したところで検出した。

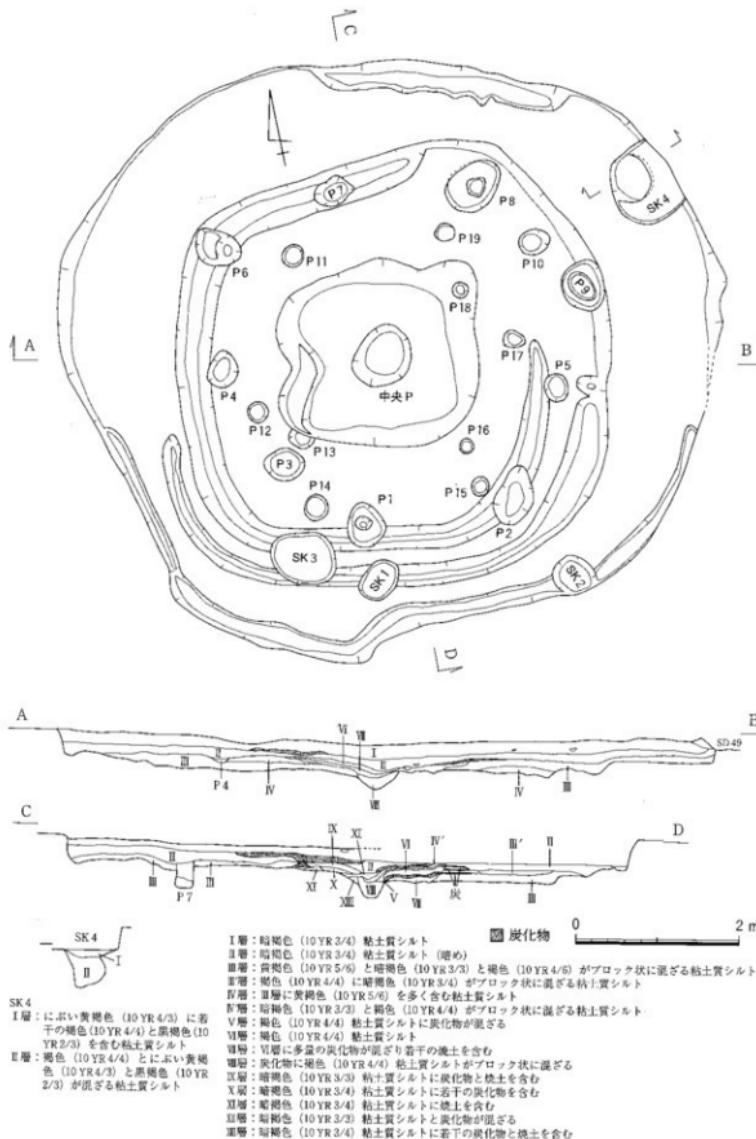
この住居は、2度以上建てかえられたものであると思われ、II層及びIII'層を除去すると古い柱穴を確認することができた。その古い住居から述べると、新しい住居跡の検出面から約40cmの深さで検出できた。東西約5.4m、南北約5.3mを測る不整な円形の竪穴住居である。1回目と2回目の住居のレベルはほぼ同じであったと思われ、それぞれのプランは明確には出なかったが、2つの住居の壁溝が重なるような形で、渦巻状に検出された。埋土はIII層で地山土が多く含まれ、新しい住居の床面となっている。床面はほぼ水平であったと思われ、中央ビットは新しい住居の中央ビットに破壊されている。

柱穴はP 11~P 19の9個が確認でき、最も古い住居の主柱穴がP 13、P 16、P 18で、柱間距離はP 13~P 16が2.04m、P 16~P 18が1.9mである。その他の柱穴は2回目の住居の主柱穴で、その柱間距離はP 11~P 12が1.96m、P 12~P 14が1.36m、P 14~P 15が2.04m、P 15~P 17が1.84m、P 17~P 19が1.44m、P 19~P 11が1.88mである。(後の住居の建て換え時の削平によるものか) 遺物はほとんど認められなかった。

一番新しい住居は、短軸が南北7m、長軸は確認できるところで東西7.8mを測るが、その東端をSD 49に切られていることを考慮すると8mを超えるものと思われる。南南西には40cmの張出しがあり、その部分を含める南半分弱と、北北東に壁溝の跡がある。埋土はI、II'層の暗褐色(10 YR 3/4) 粘土質シルトが主であり、中央北西部は炭化物が多く含まれていた。床面はほぼ水平で、中央ビット周辺には炭が広がり、その炭の上に朱が認められる範囲があった。(Fig. 105・106) 中央ビットは住居のはば中央に配され、ビットの内部には一段のテラス状の落ち込みが認められる。東西約2.4m、南北2.28mの隅丸方形で床面からの深さ82cm前後を測り、炭化物がテラス状上部から中央部に落ち込むように堆積している。ビットはP 1~P 10とSK 1~SK 4までが確認できた。主柱穴はP 1、P 2、P 9、P 8、P 7、P 6、P 4であると考えられ、P 5、P 10、P 3は補助柱と思われる。また、SK 4は貯蔵穴で、一段のテラス状になっており、その南部には10cmと15~20cm大の石が置かれており蓋をしていた可能性がある。柱間距離はP 1~P 2が1.88m、P 2~P 9が2.76m、P 9~P 8が1.8m、P 8~P 7が1.72m、P 7~P 6が1.5m、P 6~P 4が1.48m、P 4~P 1が2.56mである。

遺物は、埋土及び床面より壺(1~13、15、16)、甕(14、17~25)、高杯(26~42)、鉢(43、44)、石鎌(54~56)、鐵鎌(58-a)、鉢(57)、鐵斧(59)、銅鏡の基部(58-b)、ガラス小玉である。口縁部の出土点数は壺52、甕59、高杯15、鉢3である。ガラス小玉は80点出土しており、その分布状況(Fig. 106)に示すように床面より不規則に出土している。ただし3点古い住居より出土している。

ST 11は後期II期に属する。



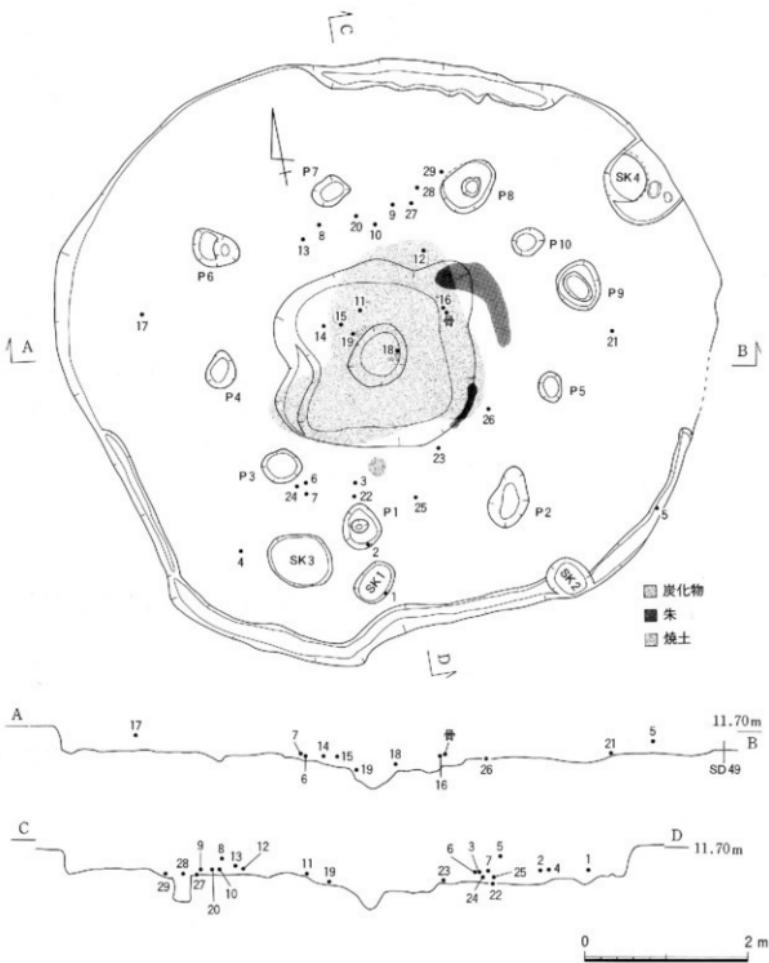


Fig. 106 ST 11平面・エレベーション図及びガラス小玉・朱・炭・焼土出土状況図